

平成29年度

三重大学教員免許状更新講習 事業報告書

—現職教員の資質向上を目指して—



三重大学教員免許状
更新講習実施委員会



平成29年度 三重大学 教員免許状 更新講習 事業報告書 目 次

■サブタイトル： 現職教員の資質向上をめざして

はじめに-----	1
-----------	---

I 事業の流れ

1 平成29年度の更新講習への取り組みとその概要-----	2
2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録-----	4

II 平成29年度の講習

1 講習の概要と当日のスケジュール-----	7
2 開設講習-----	9
3 受講者評価書-----	14
4 受講者評価書・自由記述-----	23
5 2014年度から2017年度における受講者の詳細-----	40
6 講師によるふりかえり-----	43
7 特別な配慮を有する受講者への対応について-----	112
8 講習風景-----	114
9 三重県教員免許状更新講習連絡協議会について-----	116

III 成果と課題

1 企画部会委員の立場から-----	128
2 運営部会委員の立場から-----	131
3 講習担当講師の立場から-----	138
4 受講生の立場から-----	140
5 講習補助員の立場から-----	145
6 事務の立場から-----	149

おわりにー今後に向けて-----	150
------------------	-----

はじめに

三重大学教員免許状更新講習実施委員会委員長

富 樫 健 二

全学体制で行われた平成 29 年度の教員免許状更新講習も 10 月 1 日の講習をもって、大きなトラブルなくすべて無事に終了することができました。関係各位に心よりお礼申し上げます。今年度の講習の内訳は 3 名の講師で行う必修講習(定員各 165 名)が 3 講習、講師 1 名で行う必修講習(定員各 50 名)が 7 講習、選択必修講習が 24 講習(総定員 850 名)、選択講習 105 講習(総定員 2,464 名)、全定員で 4,159 名という規模での計画でしたが、最終的な受講者数の状況をみると、必修講習は 624 名(定員充足率 73.8%)、選択必修講習は 628 名(73.9%)、選択講習は 1,850 名(75.1%)という結果となりました(総受講者数 3,102 名、充足率 74.6%)。必修講習について、定員数は昨年度と同等であったものの充足率については 7.7%低くなり、e-learning で免許状更新講習を行う大学が増えてきていることから受講者数の予想をすることが難しくなっています。

免許状更新講習は、各講習について受講者から事後評価を受け、「I. 講習の内容・方法についての総合的な評価」、「II. 最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価」、「III. 講習の運営面についての評価」の結果について文科省に報告することが義務付けられています。「I. 総合的な評価」については、「よい・だいたいよい」とする評価が必修で 97.3%、選択必修で 97.7%、選択で 98.0%であり例年とほぼ同等でしたが、「よい」のみに限ると必修では 41.6%から 54.7%へ、選択では 64.8%から 70.3%へと増加しており、昨年度落ち込んだものの、今年度は満足度が向上した傾向がうかがえます。しかしながら全国値と本学の比較では、「よい」の評価が下回っている部分もあることから今後講習方法・内容、運営面の改善に取り組む必要があると思われます。

いよいよ平成 30 年度から第 10 グループの受講が始まります。このグループは第 9 グループまでに比べ修了確認期限の幅が広いため、従来より 2 倍程度の受講者が見込まれています。本学ではこれまでの充足率なども考慮し、平成 29 年度の定員の約 1.4 倍、5,870 名の規模で講習を開設する予定です。受講定員や講習数を増やしていただいた先生方に感謝申し上げますとともに、受講者数や開催日程が増えることに伴うトラブルも予想されますので十分な準備をお願いいたします。さらに平成 30 年度からは東紀州サテライトを活用した教員免許状更新講習も計画されています。必修、選択必修、選択講習を全て配置し、東紀州に居ながらにして教員免許の更新が行えますので本学における地域貢献事業の一つにもなります。

平成 29 年度は特別な支援の必要な受講生の方もいらっしゃいましたが、事前相談により希望を伺い、教材の準備、手話通訳者の配置など合理的な配慮を行い当日も問題なく受講を終えていただきました。障害者差別解消法も施行されていることから、本学として今後も十分な対応を続けていきたいと思えます。

平成 31 年には受講生が一回りし、一度講習を受けた先生方が再度受講するようになります。10 年前に聞いた話をまた聞いたということにならないよう、日頃から自身の講習のブラッシュアップに努め最新の知識、技能の提供が期待されます。また、e-learning の免許状更新講習が増えてきている時代において、三重大学は対面講習を重視し、教員－受講生、受講生－受講生間のディスカッションを有益と考えています。e-learning よりも是非三重大学で受講したいといった現職教員が増えるよう皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

Ⅰ 事業の流れ

1 平成 29 年度の更新講習への取り組みとその概要

2007 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により、2009 年 4 月 1 日より、教員免許更新制が導入された。文部科学省（2008）は、教員免許更新制について、「その時々で教員として必要な資質・能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自身と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」と説明している。また、教員免許状更新講習を開設できる者は、①大学、②指定教員養成機関（専修学校などで、文部科学大臣の指定を受けているもの）、③都道府県・指定都市等教育委員会などとなっている（文部科学省 2008）。

三重県では、三重大学、皇學館大学、放送大学、三重短期大学、鈴鹿短期大学、高田短期大学等に加え、三重県教育委員会や各校種の教員の代表等が参加する連絡協議会を設け、三重県内の教員が県内で講習を受けることができる体制を協力して構築してきた。2010 年度には障害を有する受講希望者があり、連絡協議会において「視覚障害や聴覚障害など、特別な支援を要する講習受講希望者については、三重大学に受け入れを委託する」旨が確認された。講習開設期間の長さ、開講する講習の数（年間 140 講習前後）、特別な支援を要する受講者の受け入れなど、三重県の教員が県内で講習を受講することができる体制を維持する上で、本学は重責を担ってきている。

本年度は、昨年度に引き続き、必修講習（1 人講師体制と 3 人講師体制）に加えて選択必修講習が開設され、それが次第に定着しつつあることが大きな特色である。

これまでに、15 名（視覚障害者 9 名、聴覚障害者 6 名）が受講を修了した。今年度は、聴覚障害者 1 名、視覚障害者 1 名、車椅子使用の受講生 2 名が受講した。受講に際して希望する配慮と本学が対応できる内容について連絡を取り合い、担当講師のご協力のもと講習を行った。募集要項には「身体に障がい等のある方の事前相談」の項目を記載し、事前相談窓口を設けている。また、何らかの疾患（糖尿病等）で配慮を必要とする場合があることを想定し、「更新講習受講に際してのお知らせ」で体調不良等がある場合の相談を呼びかけている。

本学では県内だけでなく県外からの受講希望者も受け入れている。本年度の県外からの実受講者数は 73 名（全体の 9.1%）であり、昨年度（約 10.9%）より減少した。県外からの受講者は愛知県と関西圏が多く、愛知県、京都府、大阪府からは 10 名以上の受講者があった。

本年度は、必修講習が 10 講習（定員総計 845 名）、選択必修講習が 24 講習（連絡協議会主催講習分 2 講習を含む。定員総計 850 名）、選択講習が 105 講習（定員総計 2464 名）開講された。必修講習は 1 講習あたり定員 50～165 名（開講形式や複数教員による分担あり）、選択必修講習は定員 20～50 名、選択講習は、講習内容の特性の点から定員 6 名から 100 名まであり、適正規模での定員数に配慮した。開設数は、各講習分野において昨年度とほぼ同数だった。延べ受講者は、必修講習で 624 名（定員充足率^{（注）} 74.3%）、選択必修講習で 628 名（定員充足率 74.7%）、選択講習で 1850 名（定員充足率 75.5%）であり、全体では 3102 名が受講し、定員充足率は 75.1%だった。

必修講習は主に本学教育学部教員が分担し、実質の受講人数が 50 名程度になるように工夫して割り振りをした（教員により担当回数は異なる）。選択必修講習も本学教育学部教員が中心となり、実質の受講人数が 30～40 名程度になるよう割り振りに工夫した。昨年度から連絡協議会主催の講習は選択必修講習に位置づけられ、本大学が取りまとめ役となり、高田短期大学、鈴鹿短期大学、皇學館大学とともに 2 講習を開設した（1 講習定員 40 名で同日開催。平成 30 年度も開設予定）。選択講習は、例年通り、本学教育学部の全教員と、医学部、工学部、生物資源学部、人文学部、教養教育機構などの教員にも開講を依頼した。

本学は、受講者が必修講習で一つ、選択必修講習で一つ、選択講習で 3 つを受講できる体制を整えており、また、総合大学として、本事業に対する全学的な協力体制は本学の誇るべき特徴の一つであり、その結果、受講者のニーズに応じた多様なテーマの講習の提供が可能となっている。

本年度の講習のうち、定員充足率が 80% 超える講習は 83 講習（59.7%）あり、昨年度（52.8%）と較べて高くなった。同時に、定員充足率が 30% 以下の講習が 15 講習（10.7%）あったが、昨年度（11.2%）と比べると減少した。その理由としてわかりやすい講習名を意識してつけたことや、講習内容の点から適正規模の定員を設定したことが大きいと考えられる。本年度も必修講習の専門領域（本学教育学部の学校教育講座、教職実践総合センター、幼児教育講座、特別支援教育講座などの教員が担当）に対する受講者のニーズが高かったが、定員充足率は 74.3% で、昨年度（82.1%）比で 10% 弱下がった。それに変わって、選択必修講習の充足率が昨年度の 68% から 74.7% と大幅に高くなった。選択必修講習を加えることで、教育に関わる全般的な内容をベースにした受講者の多様なニーズに答える選択が可能となった結果であろう。平成 30 年度は受講者の大幅増加が予測され、東紀州地域で新たに開設される講習も含めて、必修では 17 講習、選択必修では 32 講習（連絡協議会主催の選択必修講習 2 講習を含む）、選択講習では 136 講習が予定されている。

受講者による評価を見ると、本年度の「本講習の内容・方法についての総合的な評価」は、必修講習全体で [よい] 55%、[だいたいよい] 42%、合わせて 97%、選択必修講習全体で [よい] 65%、[だいたいよい] 33%、合わせて 98%、選択講習全体では [よい] 70%、[だいたいよい] 28%、合わせて 98% と、昨年度よりも高い値を示した。また、「最新の知識・技能の習得の成果」に関しては、必修講習全体で [よい] 53%、[だいたいよい] 44%、合わせて 97%、選択必修講習全体で [よい] 61%、[だいたいよい] 36%、合わせて 97%、選択講習全体では [よい] 63%、[だいたいよい] 34%、合わせて 97% と、これも昨年度よりも高い値となった。本学開催の免許状更新講習は、内容や成果に関して、受講者から高い評価を受けていることがわかる。全体として、受講のニーズが高い必修講習よりも選択必修講習や選択講習の評価が高くなっている。

「講習の運営面」に関しては、必修講習全体で [よい] 58%、[だいたいよい] 39%、合わせて 97%、選択必修講習全体で [よい] 57%、[だいたいよい] 39%、合わせて 96%、選択講習全体では [よい] 63%、[だいたいよい] 34%、合わせて 97% と高い値を示した。昨年度（99%）に比べると若干低下したが、全体としては高い評価を受けており、受講者からの意見を取り入れた改善の成果が現れていると言えるだろう。

（注）定員充足率は定員に対する受講申込者の割合で示した。

2 教員免許状更新講習実施委員会・運営部会・企画部会活動の記録

【教員免許状更新講習実施委員会】

- ・ 第1回 平成30年1月11日（木）
議題
 - ・ 平成29年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成30年度三重大学教員免許状更新講習開設計画（案）について

【教員免許状更新講習運営部会】

- ・ 第1回 平成29年4月7日（金）
議題
 - ・ 平成29年度業務内容について
 - ・ 平成29年度委員会開催日について
 - ・ 平成29年度役割分担について
 - ・ 平成29年度運営方法について
 - ・ 平成29年度講習開催日・開催計画について
 - ・ 講習運営スタッフの割り振りについて
 - ・ 平成29年度講習補助員計画について（運営補助スタッフ募集）
 - ・ 平成28年度事業報告書等の配布について
 - ・ 振り返り票、受講者評価書について
 - ・ 平成30年度の受講対象者について
- ・ 第2回 平成29年5月17日（水）
議題
 - ・ 当日運営スタッフ業務について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習開設計画（案）について
- ・ 第3回 平成29年7月19日（水）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習開設状況について
(6/10, 6/11, 6/18, 6/24, 6/25, 7/1, 7/8, 7/16)
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習6月開設講習履修判定について
- ・ 第4回 平成29年8月24日（木）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習開設状況について(7/23, 7/30, 8/9, 8/18, 8/23)
 - ・ 履修認定試験の成績開示について
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習7月開設講習履修判定について
- ・ 第5回 平成29年9月20日（水）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習開設状況について(8/29)
 - ・ 履修認定試験の成績開示について
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習8月開設講習履修判定について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
 - ・ 平成29年度講師選出依頼について
- ・ 第6回 平成29年10月18日（水）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習開設状況について(10/1)
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習10月開設講習履修判定について
 - ・ 平成28年度事後評価結果について
 - ・ 平成30年度東紀州地域での教員免許状更新講習について

- ・ 第7回 平成29年11月15日（水）
議題
 - ・ 東紀州の更新講習の状況について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
- ・ 第8回 平成29年12月20日（水）
議題
 - ・ 平成29年度三重大学教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成29年度第3四半期報告について
 - ・ 教員免許状更新講習非常勤講師について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習実施計画（案）について
- ・ 第9回 平成30年1月17日（水）
議題
 - ・ 予算振替について
 - ・ 東紀州免許状更新講習について
- ・ 第10回 平成30年3月7日（水）
議題
 - ・ 平成29年度教員免許状更新講習実施報告について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習実施計画について

【教員免許状更新講習企画部会】

- ・ 第1回 平成29年4月7日（金）
運営部会と合同開催
- ・ 第2回 平成29年4月19日（水）
議題
 - ・ 講習開設準備状況について
 - ・ 事業評価について
 - ・ 附属学校園教員の受講申請について
 - ・ 特別な配慮の必要な受講者対応について
 - ・ 講習運営スタッフの割り振りについて
 - ・ 講習申し込み状況について
- ・ 第3回 平成29年5月17日（水）
議題
 - ・ 附属学校園教員の受講申請について
 - ・ さつき保育園に勤務する職員の受講申請について
 - ・ 教材費について
 - ・ 講習申し込み状況について
 - ・ 平成30年度教員免許状更新講習開設計画案について
- ・ 第4回 平成29年6月21日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還等について
 - ・ 平成29年度事業報告書の作成について
 - ・ 講習申し込み状況について
- ・ 第5回 平成29年7月19日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 事業報告書について
 - ・ 平成30年度講習実施計画について

- ・ 第 6 回 平成 2 9 年 8 月 2 4 日（木）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 附属学校園教員の受講申請について（変更）
 - ・ 平成 3 0 年度講習実施計画（枠組み）について

- ・ 第 7 回 平成 2 9 年 9 月 2 0 日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 平成 3 0 年度講習実施計画（枠組み）について
 - ・ 事後評価について

- ・ 第 8 回 平成 2 9 年 1 0 月 1 8 日（水）
議題
 - ・ 講習キャンセル・受講料返還について
 - ・ 事業報告書・募集要項の表紙デザインについて
 - ・ 平成 3 0 年度における免許状更新講習の開設予定調査について

- ・ 第 9 回 平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日（水）
議題
 - ・ 教員免許状更新講習非常勤講師について
 - ・ 受講申込時の提出書類の変更について
 - ・ 平成 3 0 年度講習計画について
 - ・ 事業報告書の進捗状況について

- ・ 第 1 0 回 平成 2 9 年 1 2 月 2 0 日（水）
議題
 - ・ 平成 3 0 年度募集要項（案）について

- ・ 第 1 1 回 平成 3 0 年 1 月 1 7 日（水）
休会

- ・ 第 1 2 回 平成 3 0 年 3 月 7 日（水）
運営部会と合同開催

Ⅱ 平成２９年度の講習

１ 講習の概要と当日のスケジュール

（１）必修領域

必修領域の内容は、文部科学省の指定する４項目を実施した。

- A 国の教育施策や世界の教育の動向
- B 教員としての子ども観、教育観等についての省察
- C 子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）
- D 子どもの生活の変化を踏まえた課題

（２）選択必修領域

選択必修領域は、文部科学省の指定する以下の１２領域を実施した。

- ①学校を巡る近年の状況の変化
- ②学習指導要領の改訂の動向等
- ③様々な問題に対する組織的対応の必要性
- ④学校における危機管理上の課題
- ⑤教科横断的な視点からの教育活動の改善を支える教育課程の編成、実施、評価及び改善の一連の取組
- ⑥学習指導要領等に基づき育成すべき資質及び能力を育むための習得、活用及び探求の学習過程を見通した指導法の工夫及び改善
- ⑦教育相談（いじめ及び不登校への対応を含む。）
- ⑧進路指導及びキャリア教育
- ⑨学校、家庭及び地域の連携及び協働
- ⑩英語教育
- ⑪国際理解及び異文化理解教育
- ⑫教育の情報化（情報通信技術を利用した指導及び情報教育（情報モラルを含む。）等）

（３）選択領域

選択領域の内容は、文部科学省の指定する以下の内容で実施した。

幼児、児童又は生徒に対する強化指導及び生徒指導上の課題

（４）当日のスケジュール

必修領域、選択必修領域、選択領域各々のスケジュールは、次のようなものであった。

①必修領域（３人体制）

受講者を３クラスに分け、上述の４項目を３名の講師で分担し実施。１日の講習の日程を示す。

時間内容

9:00～10:50 講習Ａ

11:05～12:00 講習Ｂ

12:00～13:00 昼食

13:00～13:50 講習Ｂ

14:05～15:55 講習Ｃ

16:05～16:50 履修認定試験

16:50～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

※講習（項目）の順番はクラスによって異なる

②必修領域（１人体制）、選択必修領域、選択領域

多くの講義は６時間を１名の教員が担当するものであったが、一部は複数名で分担する講義もあった。１日の講習の日程を示す。（講習によっては、異なるスケジュールとなる場合もあった。）

時間内容（必修講習（３人体制）など一部を除く）

9:00～11:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）

11:50～13:00 昼休み

13:00～15:50 講習（途中１０分の小休憩を含む）

15:50～16:00 休憩

16:00～16:40 履修認定試験（実技試験の場合は１６：４０まで講習）

16:40～ 受講者評価書記入

※小休憩等は講師の指示による

2 開設講習

（１）開設講習数

平成２９年度は必修領域（６時間）を１０講習、選択必修領域（６時間）を２２講習、選択領域（６時間）を１０５講習計画した。また、三重県連絡協議会主催の選択必修領域（６時間）を２講習各定員４０人規模で計画した。

（２）担当講師

必修講習は、教育学部教員、一部学外からの非常勤講師も依頼し計１０講習を計画した。

選択必修講習は、教育学部を中心に一部学外からの非常勤講師も依頼し、計２４講習を計画した。

選択講習は、教育学部を中心に、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部、教養教育機構の教員、一部学外からの非常勤講師も依頼し、計１０５講習を計画した。

（３）開講時期

平成２９年度は、６月１０日から１０月１日までの週末および夏期休暇中心に開設した。

（４）講習会場

三重大学上浜キャンパスで開設した。

（５）講習が休講となった場合の取り扱いについて

平成２９年度は、休講措置をとった場合の予備日を設定しなかった。

選択講習については、４講習受講申込み者が無かったため開講しなかった。

（６）受講申込者が極めて少数の講習の取り扱いについて

平成２８年度に引き続き、受講申込みが極めて少数という講習があったが、受講者の要望に応えるものとして、開講した。

（７）開設講習一覧

次頁に開設講習の一覧を実際の履修認定者数等の情報も加えて掲載する。

平成29年度三重大学教員免許状更新講習受講状況

開校日	講習 (72分) 数	区分	講習名	学 部	講師名	定員	研修時 込人数	受講 者数	認定 者数	関係認定 対象職種	主な受講対象者	試験の 方法	備考
6月10日 土	10	選	中国語会話入門	人	荒井 茂夫	30	25	25	25	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記	
			日本語教育学入門 一年少者への指導を中心に	教	服部 明子	20	17	17	17	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記	
			図形と数の話	教	新田 貴士	45	12	12	12	教諭	小学校・中学校・高等学校の算数・数学科担当教諭	筆記	
			鑑賞教育(美術)	教	山口 泰弘	9	9	9	9	教諭	小学校・高等学校の美術科担当教諭	筆記	
			学校教育におけるゴルフの取り上げ方と活動の工夫	教	鶴原 清志	30	28	28	28	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育担当教諭	実技	
			電気おもしろものづくり	教	松岡 守・加藤 進	15	15	15	15	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記	
			重症心身障害児の療育	教	堀石近 歩	20	19	19	19	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			幼稚園・保育園等による保育相談の現状とその対応について	教	須永 進	15	15	15	15	教諭	幼稚園教諭	筆記	
			インプロ(即興演劇)を学ぶ	教	園部 友里恵	30	23	23	23	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			「生物多様性」総ざらえ～概念・保全から外来生物問題まで～	生	淀 太我	20	17	17	17	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・水産科担当教諭	筆記	
6月11日 日	3 必(3)	選	教育の最新事情1	教	須賀野 仁志 大日方 真史	165	151	149	149	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	
			学校における危機管理について	教	松浦 均	40	40	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	
			教育の最新事情2	教	菊池 紀彦	50	37	37	37	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	
			三重県の特別支援教育の課題	教	堀石近 歩	20	19	19	19	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	2回
			参加型アクティブラーニングのためのICT学習利用	教	須賀野 仁志	40	38	37	37	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	2回
			政治教育の諸問題	教	馬原 満二	8	4	4	4	教諭	中学校・高等学校の社会科学科担当教諭	その他	
			川向 洋之・堀田野 久二 解新学を楽しむー藝歌、酒分の広がりー	教	男	10	4	4	4	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記	2回
			小中学校における生命教育	教	後藤 太一郎	16	6	6	6	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記	
			道形表現法の探求(対価としての表現・重ね刷り版印刷作)	教	山田 康彦	20	21	21	21	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の園工・美術科担当教諭	実技	
			「体づくり運動」について	教	後藤 洋子	20	20	20	20	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育科担当教諭	実技	
6月24日 土	10	選	理科実験ー物質の熱的性質(還元からゆで卵まで)	生	田中 晶香	20	11	11	11	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	その他	
			風文化間コミュニケーションのギャップ	人	藤本 久司	25	24	24	24	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記	
			清和の統治構造と現代中国	教	大坪 慶之	15	14	14	14	教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科、地理歴史科・公民科担当教諭	筆記	
			魅惑の数「黄金比と円周率」	教	玉城 政和・菊山 貴之	12	9	9	9	教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記	2回
			教員のための物理の基礎実験	教	牧原 義一	10	4	4	4	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記	
			子どもの学びにそくした理科の授業づくり	教	平賀 伸夫	16	15	15	15	教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記	
			園工・美術教育のための素材演習/アクリル表現のバリエーション	教	関 俊一	10	10	10	10	教諭	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校の園工・美術科担当教諭	その他	
			消費者慣用を中心とする消費者教育に自覚をもつために	教	兼本 秀樹	15	6	6	6	教諭	中学校・高等学校の家庭科担当教諭(他教科担当者可)	筆記	
			学習モチベーションの心理学	教	中西 良文	30	27	27	27	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記	
			3次元CADによるものづくり体験実習	生	山下 光司	20	9	9	9	教諭	中学校・高等学校の教諭	その他	
6月25日 日	3 必(3)	選	子どもの運動と健康	教	高橋 健二	20	20	20	20	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			教育の最新事情3	教	森脇 健夫 伊藤 敏子 富田 昌平	165	128	126	126	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	
			多文化共生を視野に入れた異文化理解学習	教	永田 成文	30	28	28	28	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	2回
			学校・家庭・地域の望ましい関係を探る	教	大日方 真史	40	40	40	40	教諭・養護教諭・栄養教諭 及び栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記	

7月1日 土	1 必(1)	教育の最新事情4	教 荒川 哲郎	50	43	43	43	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	3 選必	三重県の特別支援教育の課題	教 郷石近 歩	20	21	21	21	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記 2回
		学習指導要領はどう変わっていくのか	教 佐藤 年明	40	29	29	29	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
		参加型アクティブラーニングのためのICT学習利用	教 須野 仁志	40	20	19	19	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記 2回
	7 選	解析学を楽しむ ― 級数、微分の広がり ―	川向 洋之・肥田野 久二 教 男	10	2	2	2	教諭 中学校・高等学校の数学科担当教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記 2回
		三重県の岩石と地層	教 栗原 行人	18	8	8	8	教諭 小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	小学校・中学校・高等学校の理科担当教諭	実技
		ものづくりコンテストを取り入れた協同学習の構築	教 魚住 明生	10	2	2	2	教諭 小中学校の生活科・園芸・工作科担当教諭、中学校の技術・家庭科(技術分野)担当教諭	小中学校の生活科・園芸・工作科担当教諭、中学校の技術・家庭科(技術分野)担当教諭	筆記
		美術教育のための素材演習/石膏レリーフ制作	教 奥田 真澄	7	5	5	5	教諭 中学校の美術科担当教諭	中学校の美術科担当教諭	その他
		Hyper-Vを使ってみよう	教 丁 亜希	10	1	1	1	教諭 中学校・高等学校の教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記
		子どものコミュニケーション能力を育てる	教 松浦 均・中西 良文	60	60	60	60	教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
7月8日 土		抗体や抗原上の情報について	工 水谷 隆治	15	0	0	0	教諭 中学校・高等学校の理科(生物、化学、物理)担当教諭	中学校・高等学校の理科(生物、化学、物理)担当教諭	筆記
	1 必(1)	教育の最新事情5	教 松浦 直己	50	27	26	26	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	2 選必	作文を通して考える異文化理解	教 原田 三千代	40	9	9	9	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
		不登校の理解と対応	教 養瀬 戸 美奈子	40	39	39	39	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
	9 選	中学・高校の現代文定番教材を読みなおす	教 和田 崇	28	12	12	12	教諭 中学校・高等学校の国語科担当教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	その他
		歌唱・発声教育	教 弓場 敬	100	98	98	98	教諭 幼児園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭、歌声法及び発声機能を学びたい教諭	幼児園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭、歌声法及び発声機能を学びたい教諭	筆記
		映像メディア表現(園工・美術)	教 上山 浩	12	9	9	9	教諭 小学校・中学校・高等学校の園芸・工作・美術科担当教諭	小学校・中学校・高等学校の園芸・工作・美術科担当教諭	実技
		バレーボールの指導法について	教 大隈 節子	24	16	16	16	教諭 小学校・中学校の保健体育科担当教諭	小学校・中学校の保健体育科担当教諭	実技
		中学校英語教科書を英語学の立場から検討する	教 西村 秀夫	20	16	16	16	教諭 中学校・高等学校の英語科担当教諭	中学校・高等学校の英語科担当教諭	筆記
		学校・学級・家族の思い出をまとめるフォトストーリーの制作	教 須野 仁志	50	50	50	50	教諭・養護教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	その他
7月16日 日		演劇的手法を活用した授業づくり	教 園部 友里恵	30	14	14	14	教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	筆記
		何果すると1になるか？何回繰り返すと元に戻るか？	教 菱 古岡 春雄	6	4	4	4	教諭 中学校・高等学校の数学科担当教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記
		学校でのストレス・マネジメント	医 望木 郁代	50	50	50	50	教諭・養護教諭 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記
	2 選必	様々な問題に対する継続的対応	教 瀬戸 健一	40	38	38	38	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記
		多文化共生を視野に入れた異文化理解学習	教 永田 成文	30	19	19	19	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	筆記 2回
	7 選	枚算子を読む	教 松本 昭彦	30	23	23	23	教諭 中学校・高等学校の国語科担当教諭	中学校・高等学校の国語科担当教諭	筆記
		徳意の教「真金比と円周率」	教 玉城 政和・満山 真之	12	0	0	0	教諭 中学校・高等学校の数学科担当教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記 2回
		人文地理学・地誌学に関する近年の動向	教 瀬野 巧	10	10	9	9	教諭 小学校・中学校・高等学校の社会科系担当教諭	小学校・中学校・高等学校の社会科系担当教諭	筆記
		自然災害と日本の風土	教 荻原 彰	30	24	22	22	教諭 小学校・中学校・高等学校の理科・社会科系担当教諭	小学校・中学校・高等学校の理科・社会科系担当教諭	筆記
		はじめてのゲーミング	教 南 学	35	19	19	19	教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
7月23日 日		携帯タブレット端末を利用した音声付きスライドショーの作成	教 須野 仁志	25	24	24	24	教諭・養護教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	その他
	1 必(1)	教育の諸相と児童・生徒理解	非 益川 慶子	20	19	20	20	教諭 小学校・中学校・高等学校の教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭	筆記
		教育の最新事情6	教 須野 仁志	50	50	49	49	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記
	1 選必	新目でキャリアをデザインする方法	学 長谷川 岳雄	40	19	19	19	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	幼児園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記 2回
	9 選	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点について	教 余 肇	30	20	20	20	教諭・養護教諭 幼児園教諭、小学校・中学校・特別支援学校の教諭、養護教諭	幼児園教諭、小学校・中学校・特別支援学校の教諭、養護教諭	筆記
		自然地理学の基礎	教 宮岡 邦任	12	11	11	11	教諭 小学校教諭、中学校・高等学校の社会科地理担当教諭(地理が苦手な方)	小学校教諭、中学校・高等学校の社会科地理担当教諭(地理が苦手な方)	筆記
		豊教と無限小教	教 露崎 茂明	12	3	3	3	教諭 中学校・高等学校の数学科担当教諭	中学校・高等学校の数学科担当教諭	筆記

開校日	講習 (の人数)	区分	講習名	学 部	講師名	定員	希望 申込者数	希望 者数	認定 者数	関係認定 対象機関	主な受講対象者	記録の 方法	備考
7月30日	2 選 抜 必 要	7 選	履修教育の魅力 ～ペーターヴェン・文響曲第5番「運命」を一例に～ シンボルマークデザイン/コンピュータを使用したデザイン表現	教	兼重 直文	20	19	19	19	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	筆記	
			運動意欲を高める行動科学の手法	教	重松 良祐	30	18	18	18	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校の図工・美術科担当教諭	実技	
			統計学入門	教	奥村 晴彦	40	8	8	8	教諭	小学校・中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			学校における食育の推進	教	磯部 由香	30	30	30	30	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	その他	
			乳幼児期の社会性の発達とその支援	教	吉田 真理子	35	35	35	35	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	
			命を向ける社会的「まなざし」・子どもと教職員の生命を守るための課題	非	齊来 敬章・川又 俊剛	40	18	18	18	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	
			アクティブラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用	教	下村 勉・野馬 敬	40	40	37	37	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	
			これからの読解力を育てる小学校国語科の授業	教	守田 庸一	30	31	31	31	教諭	小学校教諭	筆記	
			算数の素養	教	中西 正治	30	18	18	18	教諭	小学校教諭	筆記	
			デジタル・アナログを使った天文教育	教	伊藤 信成	15	9	9	9	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	その他	
8月9日 水	3 必(3)	2 選 抜 必 要	小学校音楽科の授業づくり	教	川村 有美	20	20	20	20	教諭	小学校教諭	筆記	
			学校保健	医	三谷 善志・青 香・長尾 みづほ・山川 紀子	50	48	47	47	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			コンピュータのしくみ	工	山村 直紀・高瀬 治彦	20	0	0	0	教諭	中学校・高等学校の教諭	筆記	
			学校・学級における生徒指導一級指導員問題を巡る教師の役割再考一	非	野馬 直美・鈴木 聡	30	26	26	26	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			教育の最新事情7	教	須賀野 仁志	165	93	93	93	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	
			学校におけるキャリア教育と職業教育	教	東田 季佳	40	16	16	16	教諭・養護教諭・栄養教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	その他	
			教育相談～学校のチーム支援～	非	加藤 裕子	40	39	39	39	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	2回
			音声の「見える化」を取り入れた英語学習	人	服部 範子	15	14	13	13	教諭	小学校の英語担当教諭、中学校・高等学校の英語科担当教諭	その他	
			書き指導の内部と実技	教	林 翔子	32	32	32	32	教諭	小学校の国語科担当教諭	筆記	
			パソコンを使った経済データ学習入門	教	内田 秀昭	12	4	4	4	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	筆記	
8月18日 金	1 必(1)	9 選	理科の授業に役立つコンピュータ・デジタルコミュニケーション	教	園仲 寛人	7	4	4	4	教諭	小学校・中学校の理科担当教諭	筆記	
			幼児・児童の体力・運動能力の向上と発達発達	教	八木 規夫	24	24	23	23	教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	実技	
			コンピュータ・ハードウェアの基礎	教	山守 一徳	25	23	23	23	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			家庭科における消費生活と環境に関する教材研究	教	吉本 敏子	30	10	10	10	教諭	小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭	筆記	
			性(sexuality)を学ぶとは何をすることか？～小学校を中心に～	教	佐藤 年明	20	10	9	9	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記	
			小学校における英語教育の方法と実践	非	エスクデロ ロベルト カ ルロス	20	17	17	17	教諭	小学校・中学校の教諭	口頭	
			教育の最新事情8	教	東田 季佳	50	51	51	51	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	
			科目でキャリアをデザインする方法	学	長谷川 岳雄	40	18	18	18	教諭・養護教諭・栄養教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び養護教諭	筆記	2回
			財政の役割について	人	森 俊一	10	10	10	10	教諭	中学校・高等学校の社会科担当教諭	筆記	
			中学校数学科教材研究	教	田中 伸明	30	10	10	10	教諭	中学校の数学科担当教諭	筆記	
8月18日 金	1 必(1)	9 選	生きたリズムのしくみ	教	小畑 真梨子	14	14	14	14	教諭	小学校・中学校・高等学校の音楽科担当教諭	実技	
			最速設計を取り入れたものづくり教材	教	松本 金矢	20	6	6	6	教諭	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の生活・総合・図工・技術・理科・工業科担当教諭	筆記	
			アクティブラーニングにつながるプレゼンテーションの技	教	須賀野 仁志	50	26	25	25	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭および養護教諭	筆記	
			熱中症・溺水・救急発生・望塵・インフルエンザ	医	丸山 一男	100	99	99	99	教諭・養護教諭	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	筆記	
			流れのシミュレーションとその応用	工	辻本 公一	10	1	1	1	教諭	中学校・高等学校の理科担当教諭	筆記	
			環境教育のための森林、木材の監	生	石川 知明	20	19	19	19	教諭	小学校・中学校の教諭	筆記	
			アクティブラーニング TBL(Team-Based Learning)体験	教養	大城 康良	24	10	10	10	教諭・養護教諭	小学校・中学校・高等学校の英語科・数学科・国語科・理科・社会科担当教諭及び養護教諭	その他	

8月23日 水	1 必(1)	教育の最新事情9	教 松浦 直己	50	36	36	36	36	教諭・養護教諭・栄養教諭 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
	3 選必	ユニバーサルデザインの考え方を活かした学級づくり・授業づくり	教 天野 智裕	30	30	30	30	30	教諭・養護教諭・栄養教諭 小学校・中学校の教諭	養記
		教育相談～学校のチーム支援～	非 加藤 裕子	40	40	39	39	39	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記 2回
		必要に応じて英語の授業を英語で行う技法	教 早瀬 光秋	20	9	9	9	9	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
	8 選	論理トレーニング	教 秋元 ひろと	15	7	6	6	6	小学校・中学校・高等学校の教諭	養記
		社会科・公民科の授業における新聞活用(NIE)	教 山根 栄次	20	18	17	17	17	小学校・中学校・高等学校の社会科・公民科・地理科担当教諭	その他
		身近な植物観察と学校におけるその実践方法	教 平山 大輔	20	19	19	19	19	小学校・中学校の理科担当教諭	養記
		音楽のしくみと表現	教 森川 孝太郎	24	24	24	24	24	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の音楽科担当教諭	その他
		3次元構築シミュレーションによる衣服設計と選択	教 増田 智恵	10	2	2	2	2	小学校教諭、中学校・高等学校の家庭科担当教諭	養記
		美国ルネサンス期の恋愛詩	教 宮地 恒弘	15	0	0	0	0	高等学校の英語科担当教諭	養記
8月29日 火		ディベート入門	教 佐藤 年明	12	12	12	12	12	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	養記
		楽しく思考力・表現力を養うスクラッチプログラミング	教 下村 勉	20	20	20	20	20	小学校・中学校・高等学校の教諭	養記
		アクティブ・ラーニング クリッカー&ブラカード体験	教 兼太 康良	24	9	9	9	9	小学校・中学校・高等学校の英語科・数学科・理科・社会科担当教諭及び養護教諭	その他
	2 選必	学習心理學から考える協同的アクティブラーニング	教 中西 良文	30	30	30	30	30	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
		教員のためのインストラクショナルデザインとカリキュラムマネジメント	教 須野 仁志	40	23	23	23	23	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
	8 選	小中学校の化学実験	教 市川 俊輔	20	19	19	19	19	小学校・中学校の理科担当教諭	実技
		「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン	教 岡野 昇	30	29	29	29	29	幼稚園・小学校の教諭	養記
		ものづくりにおける設計学習の現状とこれから	教 中西 康雅	8	4	4	4	4	中学校・高等学校の技術科・工業科担当教諭	養記
		VBAIによるプログラミング入門	教 萩原 克幸	20	17	17	17	17	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	養記
		英語学習者の情意的要因を考える	教 荒尾 浩子	10	10	8	8	8	中学校の英語科担当教諭	養記
10月1日 日		国語と算数の問題づくりを選じた授業づくり	教 飛岡 美穂	20	20	20	20	20	小学校の教諭	養記
		メンタルヘルス問題をもつ子どもの理解と対応	医 西出 りつ子・児玉 豊彦	30	30	30	30	30	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	養記
	1 必(1)	ビジュアル言語で始めるはじめてのプログラミング	工 石黒 光茂	20	7	7	7	6	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	実技
		教育の最新事情10	教 荒川 智郎	50	14	14	14	14	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
	1 選必	「チームとしての学校」を実現するための基礎講座	教 織田 泰幸	30	12	12	12	12	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭、養護教諭及び栄養教諭	養記
	5 選	戦国時代から江戸時代への移り変わりをどのように教えるのか	教 藤田 達生	30	25	25	25	25	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭	養記
		子どもが夢中になる小学校体育授業	教 加納 岳拓	40	29	29	29	29	幼稚園・小学校の教諭	養記
		おいしく食べるとは？	教 平島 円	30	30	30	30	30	幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び養護教諭	養記
		家庭科教育の理論と実践	教 林 未和子	15	8	8	8	8	小学校・中学校・高等学校の家庭科担当教諭	養記
		世界の教育事情	教養 下村 智子	40	36	36	36	36	小学校・中学校・高等学校の教諭	養記
必修 履修 回数	10			845	628	624	624	624	受講申込率 74.3%	
	24	選択必修講習 内、選択必修 履修回数		850	635	628	628	628	74.7%	
	(2)			(80)	(57)	(55)	(0)		71.3%	
	105	選択講習 履修回数		2,464	1861	1850	1848		75.5%	
	139	合計		4,159	3,124	3,102	3,100		75.1%	

3 受講者評価書

教育学部 中西 康雅

1. はじめに

教員免許状更新講習では、本年度もこれまで（平成21～28年度）と同様に講習受講後に受講者による受講者評価書（図1）への記入が行われた。本稿では、その評価項目への回答について分析した結果を報告する。また、過去7年間の評価との比較を行った結果についてもあわせて報告する。

2. 方法

更新講習終了時に全受講者に対し受講者評価書（図1）を配布し、記入を依頼した。評価者の延べ人数は3,070名だった。内訳は必修講習受講者612名、選択必修講習受講者632名、選択講習受講者1,826名だった。今年度受講者数は、受講者が大幅に減った昨年度とほぼ変わらない人数であった。また、勤務校別の内訳は保育所・幼稚園勤務者477名、小学校勤務者940名、中学校勤務者598名、高等学校勤務者569名、特別支援学校勤務者150名、その他（教員経験者・教員採用予定者・教育委員会など行政での勤務者・無記入者など）334名であった。さらに職種別の内訳は教諭1,827名、講師412名、実習助手32名、養護教諭・養護助教諭117名、栄養教諭10名、保育士334名、その他（寄宿舍指導員、無記名者など）336名であった（いずれも延べ人数）。

評価項目数は「Ⅰ 本講習の内容・方法について」が6項目、「Ⅱ 本講習の成果について」が5項目、「Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）について」は1項目の計12項目と、設問数に変化はないものの質問内容に大幅な変更があった（図1参照）。これらの項目について、「4：よい（十分満足した・十分成果を得られた）」、「3：だいたいよい（満足した・成果を得られた）」、「2：あまり十分でない（あまり満足しなかった・あまり成果を得られなかった）」、「1：不十分（満足しなかった・成果を得られなかった）」の基準から該当するものを受講者に選択回答してもらった。また、評価については評価基準を段階で示し、わかりやすくなるように評価書を工夫した。評価は「4：よい」を4点、「3：だいたいよい」を3点、「2：あまり十分でない」を2点、「1：不十分」を1点として項目ごとに平均値と標準偏差を求めた。さらに、評価項目ⅠとⅡについては、平成22年度から今年度まで同じ質問内容の項目について受講者評価の平均値の経年変化についても検討した。各評価項目の評価の差については χ^2 検定により有意差検定を行った。有意水準は5%未満とした。

3. 結果

3-1. 必修講習、選択必修講習および選択講習における受講者評価の平均値と点数の分布

表1に本年度の受講者全体、必修講習受講者、選択必修講習受講者および選択講習受講者による評価項目Ⅰ-1からⅢ-1までの全12項目（図1参照）の平均値と標準偏差を示す。それぞれの受講者による平均値は全評価項目の合計で約3.58点、各項目別においても3.44点以上で（表1）、評価点は良かった。標準偏差の値は0.53～0.64程度であり（表1）、評価にほとんどばらつきはなかった。

教員免許状更新講習受講者評価書

開設者	国立大学法人三重大学	受講日	
講習名			
講 師			

本評価は今後の免許状更新講習の改善と受講者への情報提供のために行われるものであり、あなたの履修認定に係る評価には一切影響を与えません。

◎ あなたの所属する学校種・職名について記入してください。

学校種等 ※○印を付けてください。	幼・小・中・高・特別支援 教育委員会など行政機関・保育園（所） 教員採用内定（見込み）者・教員勤務経験者 その他	職 名	
----------------------	---	-----	--

◎ 以下のⅠ～Ⅲの評価項目について、下の評価基準に即して該当する番号に○印をつけてください。

4	3	2	1
よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
〔十分満足した 十分成果を得られた〕	〔満足した 成果を得られた〕	〔あまり満足しなかった あまり成果を得られなかった〕	〔満足しなかった 成果を得られなかった〕

Ⅰ 本講習の内容・方法について

I-1	学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた。	4	3	2	1
I-2	講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった。	4	3	2	1
I-3	受講生の学習意欲がわくような工夫をしていた。	4	3	2	1
I-4	適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明が分かりやすかった。	4	3	2	1
I-5	配付資料等使用した教材は適切であった。	4	3	2	1
I-6	本講習の内容・方法についての（上記の1～5の視点を踏まえた）総合的な評価	4	3	2	1

Ⅱ 本講習の成果について

Ⅱ-1	教職生活を振り返るとともに、教職への意欲の再喚起、新たな気持ちでの取り組みへの契機となった。	4	3	2	1
Ⅱ-2	教育を巡る様々な状況、幅広い視野、全国的な動向等を修得することができた。	4	3	2	1
Ⅱ-3	各教育活動に係る学問分野の最新の研究動向、これまでの研修等では得られなかった理論・考え方・指導法や技術等を学ぶことができ、今後の教職生活の中での活用や自らの研修での継続した学習が見込まれる。	4	3	2	1
Ⅱ-4	受講前よりも講習内容への興味が深まり、教員としての知識技能の厚みや多様さを増す一助となった。	4	3	2	1
Ⅱ-5	本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての（上記の1～4の視点を踏まえた）総合的な評価	4	3	2	1

Ⅲ 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価

Ⅲ-1	本講習の運営面（受講者数・会場・連絡等）についての評価	4	3	2	1
-----	-----------------------------	---	---	---	---

（裏面もあります）

図 1 教員免許状更新講習受講者評価書

表 1 受講者全体，必修講習受講者，選択必修講習受講者および選択講習受講者の受講者評価における各評価項目の平均値，標準偏差および評価人数

	全体		必修		選択必修		選択	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識の反映	3.516 (0.608)	3,067	3.478 (0.590)	611	3.582 (0.563)	632	3.505 (0.628)	1,824
I-2 講習のねらいや到達目標が明確さ、講習内容	3.631 (0.543)	3,067	3.511 (0.568)	611	3.614 (0.548)	632	3.677 (0.525)	1,824
I-3 受講生の学習意欲がわくような工夫	3.607 (0.587)	3,066	3.452 (0.645)	610	3.601 (0.600)	632	3.660 (0.552)	1,824
I-4 適切な要約やポイントの指摘等、説明の分かりやすさ	3.591 (0.592)	3,065	3.435 (0.628)	611	3.565 (0.613)	632	3.651 (0.561)	1,822
I-5 配付資料等使用した教材の適切さ	3.597 (0.561)	3,064	3.512 (0.579)	611	3.569 (0.576)	631	3.635 (0.546)	1,822
I-6 本講習の内容・方法について総合的な評価	3.638 (0.527)	2,995	3.518 (0.557)	598	3.628 (0.529)	618	3.682 (0.510)	1,779
II-1 教職生活を振り返りと意欲の再喚起	3.590 (0.578)	3,067	3.532 (0.601)	611	3.604 (0.565)	632	3.604 (0.574)	1,824
II-2 教育を巡る様々な状況や動向の修得	3.441 (0.643)	3,064	3.557 (0.577)	610	3.459 (0.610)	632	3.395 (0.670)	1,822
II-3 各教育活動に係る最新の研究動向、理論・考え方・指導法や技術等	3.530 (0.585)	3,065	3.440 (0.596)	611	3.502 (0.598)	632	3.570 (0.573)	1,822
II-4 教員としての知識技能の厚みや多様さ	3.623 (0.546)	3,067	3.502 (0.588)	611	3.593 (0.564)	632	3.674 (0.518)	1,824
II-5 最新の知識・技能の習得の成果	3.579 (0.551)	3,047	3.500 (0.560)	606	3.577 (0.561)	629	3.606 (0.542)	1,812
III-1 本講習の運営面における総合的な評価	3.581 (0.554)	3,037	3.552 (0.555)	603	3.533 (0.582)	630	3.607 (0.543)	1,804
全項目	3.577 (0.573)		3.499 (0.587)		3.569 (0.576)		3.606 (0.562)	

受講者が選択したそれぞれの評価の割合についてみると（図2），ほとんどの受講者が「4：よい（4点）」または「3：だいたいよい（3点）」を選択したことがわかった。「2：あまり十分でない（2点）」と評価した受講者は多くても6%以下であり，5%程度が多かった。また，「1：不十分（1点）」という回答はごくわずかだった（図2）ことから評価の平均値は高いものだったと考えられる。

次に，必修講習，選択必修講習と選択講習の受講者の評価点のつけ方を比較すると，12 評価項目すべてにおいて，1～4 点の評価をした人数の分布について講習別による差がみられた。「I-1 学校現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた」においては選択必修講習受講者の評価点が有意に高い結果だった（ $p<0.001$ ）。評価の平均点をもっとも高く（表1，太字下線），受講者の満足度は高かったと思われる。この項目は前々回までは必修講習受講者の評価が高かったが，今年度は必修講習よりも選択必修講習受講者のニーズと内容が一致した結果となった。一方，「II-2 教育をめぐる様々な状況，幅広い視野，全国的な動向などを習得することができた」においては必

修講習受講者の評価点が有意に高い結果だった ($p<0.001$)。評価の平均点ももっとも高く (表 1, 太字下線), 受講者の満足度は高かったと思われる。ただ, I-1 と II-2 を除く 10 評価項目中の 9 評価項目において選択講習受講者が有意に高い点数を付けた (図 2)。そのため, 平均点は 3 種の講習のなかでもっとも高かった (表 1, 太字下線)。

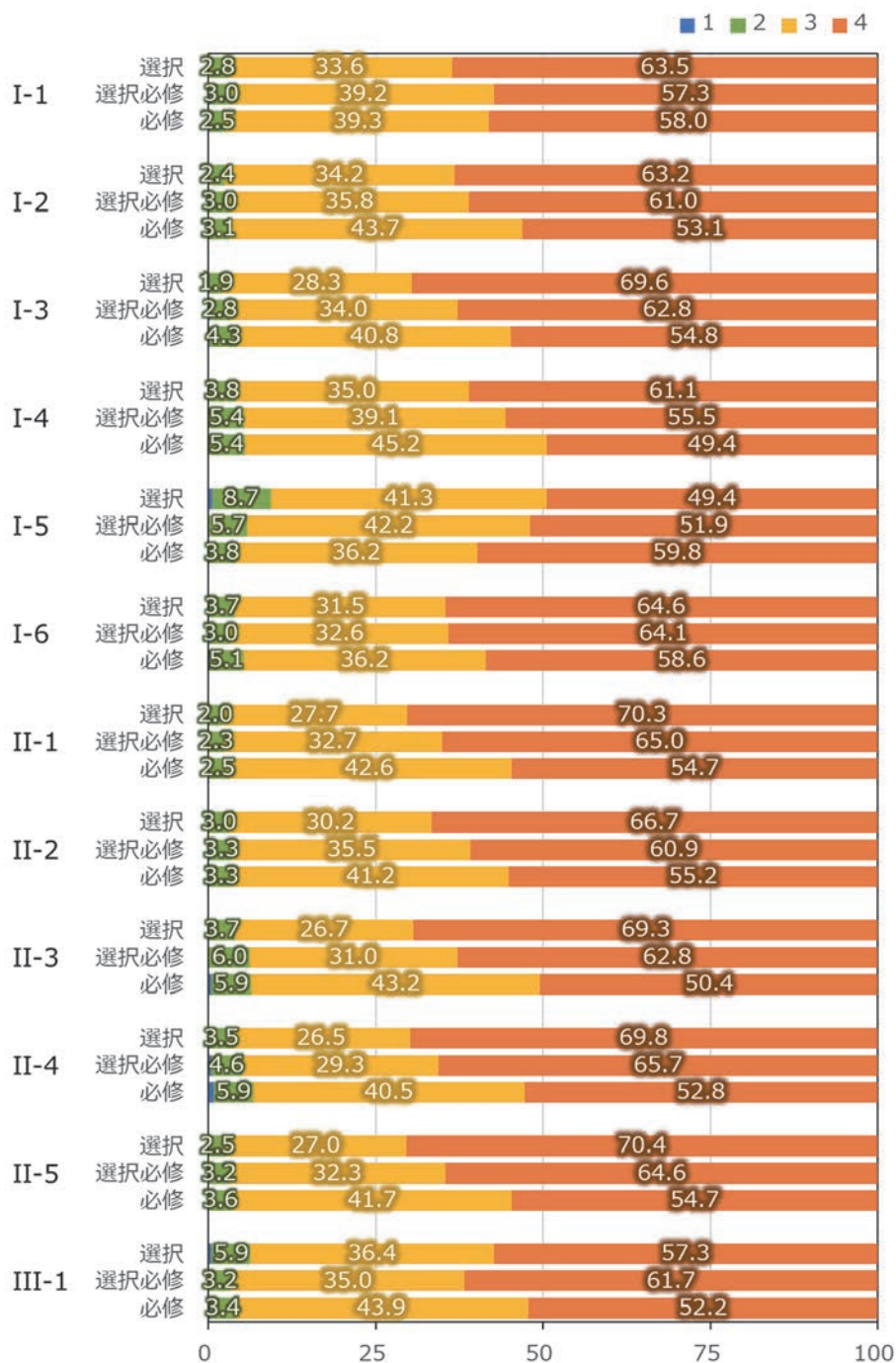


図 2 必修講習 (上段), 選択必修講習 (中) および選択講習 (下段) 受講者の受講者評価の各評価項目における 1 ~ 4 点の評価人数の割合

** : $p<0.01$, *** : $p<0.001$

この傾向は過去の結果と同様であり、選択講習では専門教科ごとに細分化されており、受講者の興味のある講習やニーズに合う講習が選ばれたことが反映されていると考えられる。すなわち、受講者にとって興味のある、または専門と合致する講習が今後の教育活動に必要とされるため、平均値が高く、満足度が高かったと考えられる。

3-2. 受講者の勤務校別の受講者評価の平均値と点数の分布

保育所・幼稚園（477名）、小学校（940名）、中学校（598名）、高等学校（569名）、特別支援学校（150名）およびその他（334名）を勤務校とする受講者による各評価項目と全項目の平均値と標準偏差を表2に示す。なお、表2中の橙色塗りつぶしは各設問での勤務校種の中で最も平均値が高いもの、水色塗りつぶしは各設問での勤務校種の中で最も平均値が低いものを示す。

表2に示す平均値からは高等学校勤務者とその他の勤務者が比較的高い点を付けたことがわかった。昨年度は高等学校勤務者やその他の勤務者の平均点が最高となる項目は無く、昨年度と異なる結果となった。

表2 勤務校別（保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校およびその他）の受講者評価における各評価項目の平均値および標準偏差

	保育所・幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		その他	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
I-1	3.455 (0.598)	477	3.544 (0.595)	940	3.529 (0.588)	598	3.523 (0.592)	569	3.499 (0.562)	222	3.535 (0.563)	333
I-2	3.545 (0.538)	477	3.599 (0.543)	940	3.608 (0.562)	598	3.613 (0.559)	569	3.616 (0.489)	222	3.629 (0.531)	333
I-3	3.522 (0.584)	477	3.555 (0.617)	939	3.529 (0.629)	598	3.635 (0.581)	569	3.632 (0.504)	222	3.621 (0.571)	333
I-4	3.486 (0.612)	476	3.534 (0.595)	939	3.508 (0.640)	598	3.607 (0.579)	569	3.566 (0.562)	222	3.639 (0.568)	333
I-5	3.528 (0.554)	476	3.570 (0.556)	940	3.545 (0.586)	597	3.622 (0.573)	568	3.555 (0.572)	222	3.586 (0.557)	333
I-6	3.562 (0.541)	468	3.586 (0.535)	910	3.604 (0.556)	588	3.648 (0.510)	558	3.628 (0.496)	217	3.648 (0.513)	326
II-1	3.565 (0.591)	477	3.585 (0.577)	940	3.546 (0.590)	598	3.583 (0.584)	569	3.608 (0.542)	222	3.629 (0.542)	333
II-2	3.481 (0.596)	476	3.455 (0.634)	940	3.439 (0.634)	597	3.480 (0.617)	568	3.471 (0.614)	222	3.546 (0.571)	333
II-3	3.472 (0.592)	477	3.489 (0.596)	940	3.470 (0.590)	597	3.580 (0.566)	569	3.547 (0.598)	221	3.529 (0.574)	333
II-4	3.541 (0.587)	477	3.565 (0.560)	940	3.599 (0.532)	598	3.649 (0.526)	569	3.567 (0.573)	222	3.610 (0.582)	333
II-5	3.514 (0.565)	472	3.540 (0.557)	935	3.557 (0.548)	595	3.602 (0.551)	565	3.566 (0.559)	219	3.609 (0.535)	332
III-1	3.525 (0.555)	474	3.558 (0.554)	928	3.546 (0.588)	592	3.603 (0.535)	565	3.585 (0.528)	218	3.571 (0.591)	332
全項目	3.516 (0.576)		3.546 (0.583)		3.531 (0.597)		3.588 (0.573)		3.569 (0.549)		3.596 (0.555)	

次に、勤務校別の各評価項目に対する 1～4 の評価を選択した人数の割合を図 3 に示す。設問Ⅰの本講習の内容・方法については「Ⅰ-3」と「Ⅰ-4」（ともに $p<0.01$ ）、「Ⅰ-5」（ $p<0.05$ ）において勤務校による点数のつけ方に差がみられた。「Ⅰ-3」「Ⅰ-4」「Ⅰ-5」ともに高等学校およびその他の勤務者の多くが「4：よい」の評価をつけ、保育所・幼稚園の勤務者が「4：よい」をつけた割合は低かった。「Ⅰ-3」「Ⅰ-4」「Ⅰ-5」は講習の方法に関する設問であり、高等学校の勤務者に適した方法であったと考えられる。

設問Ⅱの本講習の成果については、「Ⅱ-2」と「Ⅱ-3」（ともに $p<0.05$ ）、「Ⅱ-5」（ $p<0.01$ ）において勤務校による差がみられた。「Ⅱ-2」と「Ⅱ-3」においてはその他の勤務者が「4：よい」評価を多くつけ、「Ⅱ-5」については高等学校とその他の勤務者が「4：よい」評価を多くつけた。したがって、教員免許状更新講習では高等学校勤務者およびその他に属する受講者の授業で役立つ内容が多かったのではないかと推察される。

一方、設問Ⅲの本講習の運営面についての評価については勤務校により差はみられなかった。事務の仕事では勤務校により差をつけるわけではないので、当然の結果ではあるが、いずれの受講者も他の設問と比較すると、良い評価をしていた。

3－3．受講者評価の経年変化

平成 22～29 年度の評価についての平均点、標準偏差および評価人数を表 3 に、評価点のつけ方についての経年変化を図 4 に示す。なお、今年度より設問が大きく変更されたため、平成 22 年度から変更のない設問のみを比較対象とした。

いずれの評価項目においても平均値は年を経るごとに高くなり、平成 28 年度は低下したが、今年度は比較した 4 項目中 3 項目で最高値となった。特に、「Ⅰ-6」および「Ⅱ-5」という講習の内容・方法および成果についての総合的な評価で過去最高値となったことは、教員免許状更新講習講師の継続的な改善の成果であると評価できる。

なお、各評価項目の得点割合の経年変化をみると（図 4）、すべての評価項目において平成 27 年度までは年を経るごとに「4：よい」と評価した受講者の割合が高くなり、「3：だいたいよい」、「2：あまり十分でない」と評価した受講者の割合が低くなったが、平成 28 年度では「4：よい」と評価した受講者の割合が低くなっていたが、これは特異な値であると考えられる。

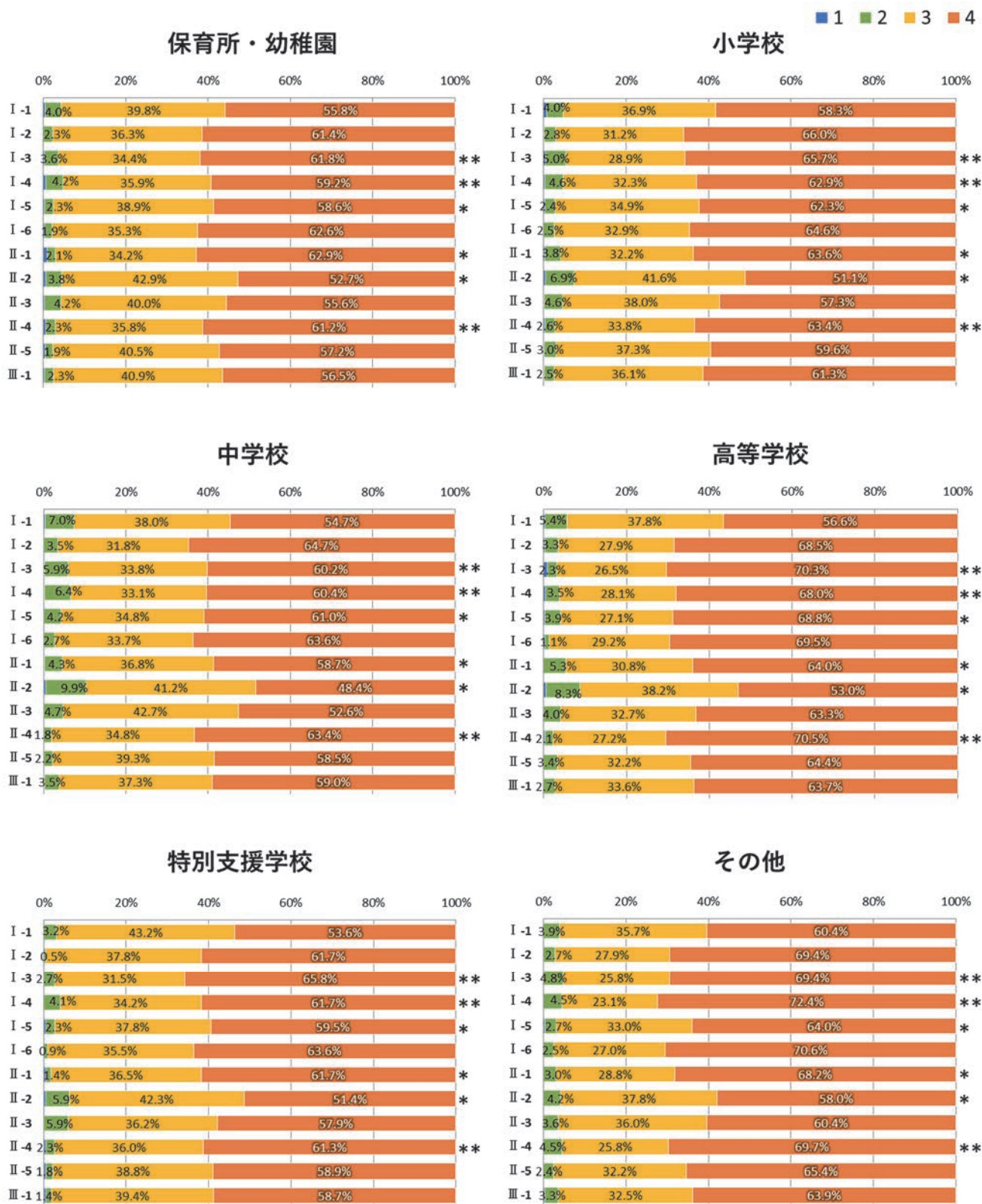


図3 勤務校別受講者（保育所・幼稚園，左上；小学校，右上；中学校，左中；高等学校，右中；特別支援学校，左下；その他，右下）の受講者評価の各評価項目における1～4点の評価人数の割合

χ^2 検定：*： $p < 0.05$ ，**： $p < 0.01$ ，***： $p < 0.001$

表3 平成22年度から平成29年度の受講者評価におけるⅠとⅡの評価問項目の平均値および標準偏差

	H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数	平均値 (標準偏差)	人数
Ⅰ-1	3.394 (0.656)	5744	3.391 (0.674)	6015	3.449 (0.637)	5945	3.518 (0.609)	5460	3.520 (0.613)	5482	3.538 (0.602)	5,050	3.446 (0.631)	3,371	3.516 (0.608)	3,067
Ⅰ-2	3.503 (0.614)	5745	3.518 (0.614)	6021	3.543 (0.593)	5946	3.577 (0.595)	5466	3.585 (0.605)	5486	3.610 (0.572)	5,049	3.572 (0.582)	3,371	3.631 (0.543)	3,067
Ⅰ-6	3.444 (0.680)	5762	3.461 (0.676)	6026	3.510 (0.635)	5948	3.546 (0.638)	5468	3.570 (0.601)	5461	3.603 (0.566)	5,021	3.551 (0.581)	3,371	3.638 (0.527)	2,995
Ⅱ-5	3.366 (0.662)	5762	3.387 (0.646)	6026	3.441 (0.614)	5948	3.466 (0.617)	5468	3.496 (0.611)	5484	3.512 (0.592)	5,046	3.483 (0.602)	3,373	3.579 (0.551)	3,047

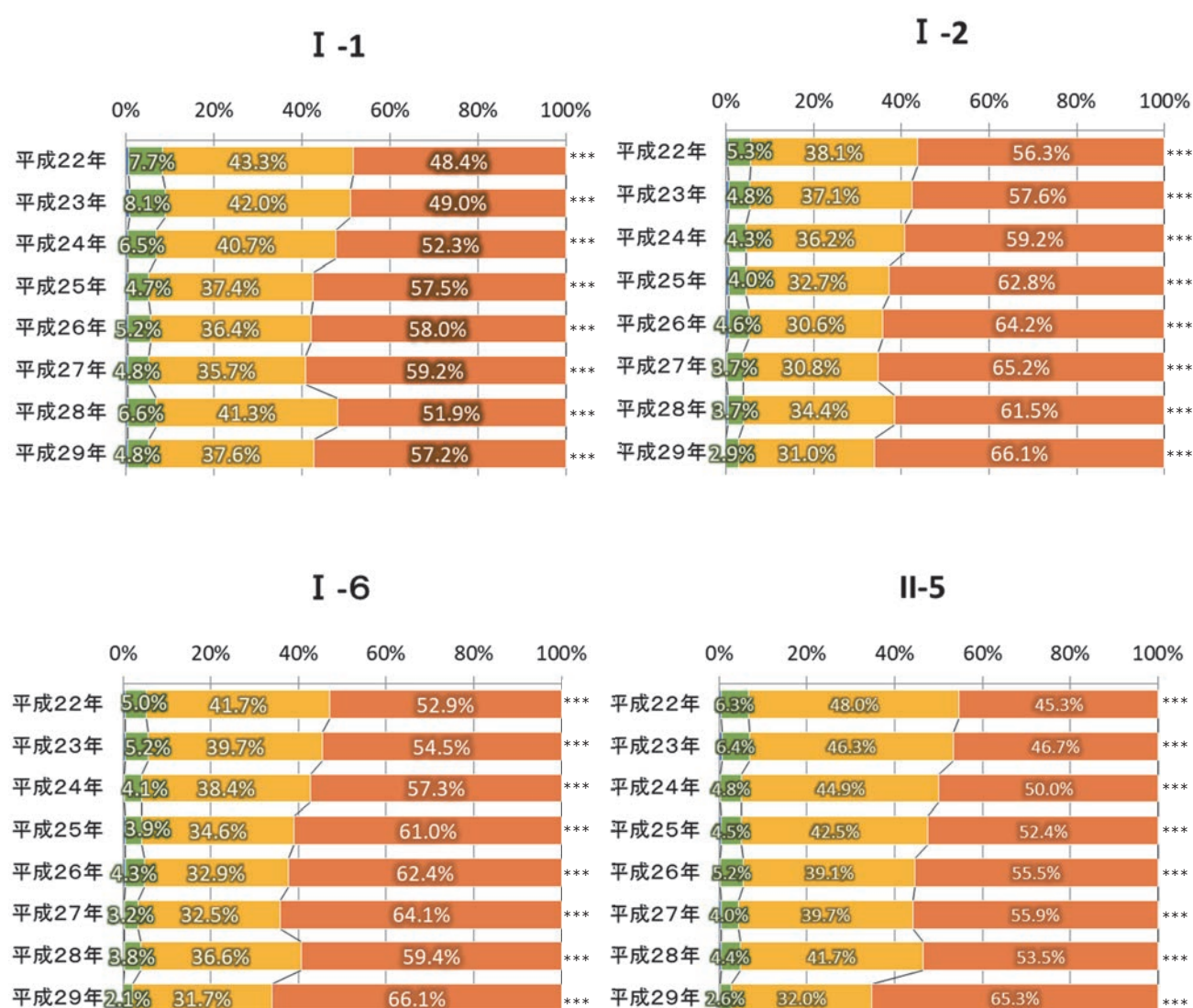


図4 平成22～27年度の受講者評価における評価項目ⅠとⅢの1～4点の評価人数の割合

χ^2 検定 *** : $p<0.001$

4. まとめ

受講者評価を分析して以下のことが明らかになった。

- ① 講習内容・方法，講習で得られる成果，講習の運営に関して，全体的に受講者からよい評価が得られていることがわかった。
- ② 必修講習，選択必修講習と選択講習別の受講者評価では 12 評価項目中「Ⅰ-1」「Ⅱ-2」以外の 10 項目では選択講習で評価が高かった。選択講習では受講者の興味のある講習やニーズに合う講習が選ばれている傾向があるとわかった。
- ③ 勤務校別に比較すると，高等学校勤務者とその他に属する受講者の平均点が高く，これらの満足度が高かったと推測される。
- ④ 平成 29 年度の受講者評価は，前年度までと比べて講習内容，成果において比較した 4 項目中 3 項目で最も高い評価が得られており，昨年度と比較しても大きな改善がなされたと考える。

4 受講者評価書・自由記述

教育学部 小畑 真梨子

毎年、免許状更新講習では受講者全員に受講した講習と講習全般について、自由記述欄を含む受講評価書に記入をお願いしている。寄せられた意見・要望等は、次年度以降の講習をより充実したものにしていくため活用させて頂いている。ここでは受講評価書の自由記述欄の記入内容をもとに平成 29 年度の更新講習を振り返る。講習については必修講習、選択必修講習、選択講習の 3 種類に分けて検討し、運営面については全体の意見をまとめたものを掲載する。なお自由記述のデータは必修講習 600 件以上、選択必修講習 600 件以上、選択講習 1800 件以上、に及んでいるため以下の内容はその一部である。コメント中の個人情報や、講習が特定されるようなものに関しては、一部表現を変更していることをご了承いただきたい。

I 「必修講習内容・方法」についてのコメント

《全体的なコメント》

- ・他の先生方と教師としてという考えを聞かせて頂き、刺激を頂きました。あしたからの栄養になりました。
- ・大変興味深いお話でした。自分の教育観を改めて考えるよい機会となりました。
- ・パワーポイントに興味を引くよく工夫されており受講しやすかった。
- ・普段関わることのない校種の方と話をし、勉強となりました。
初めての受講です。予想していたよりずっと実り多い講習でした。ありがとうございました。
- ・教育の現状を知ることができたり、教員として大切な部分を確認することができたり、これから自分が取り組んでいきたいことが明確になりました。ありがとうございました。
- ・どれももっともっと学びたいと思えるものでした。これから自分で学びを進めていく「種」をたくさん、講師の先生方からも、講習をともにした方々からもいただきました。感謝しております。ありがとうございました。
- ・何げなくすごしていた時間に考える工夫する事への自覚のなさを痛感する時間でした。目を向けていても自分の物としてとらえられていなかった事を考えなおす良い時間でした。
- ・どの講習もグループ学習やペア学習が取り入れられており有意義でした。
- ・3つの講座はどれも意味深く、内容の濃いものであった。それゆえ、1日で3講座を受講したため自分自身が、十分に内容を自分のものにできなかったようにも思える。今日の講座で小中の先生と意見と交せたのも大変よかった。
- ・自分と違う校種の方と話ができて新鮮でした。来る前は気が重かったけれど、受講して良かったです。講師の先生方もおもしろくて良かったです。
- ・校種がちがう方といっしょのグループで活動できたので、情報交換ができて良かったです。
- ・グループワークなどがあり、飽きることなく講習に参加できた 写真、映像のスライドがあっ

て楽しくわかりやすく聞くことができた

- ・ 学生になったようでたくさん考え事ができて良かったです。
- ・ 少し難しい内容のところがあったけれど考える時間や交流する時間があり、勉強になりました。
- ・ 1日の講習だったが、3つとも違う内容だったので、あっという間に終わった感じがした。
- ・ 教員を10年やっていると、慣れや校種の常識にそまってしまうので他校種との交流は新鮮でよかった。
- ・ グループワークでは、他の業種の方とかかわることで、様々な現状を知ったり、いろいろな意見を聞き、刺激になった。講習が今の仕事に返し、生かしていけるのでおもしろかったし大きな学びになった。
- ・ 勤務校以外の学校教育の様子は知らないもので、障害者の問題などいろいろな問題があると知ることが出来、良かった。
- ・ どの講義もグループトークがあつて良かったです。幼～高校まで色々な先生方とお話ができ参考になりました。
- ・ 生徒と接する上で、何を身につけさせたいかが、今回の講習の中で知ることができたので、今後の指導に生かしたいと思いました。
- ・ 3つの講義ともに興味深く、また思考をゆさぶられる内容であった。長時間で濃い内容であったため大変疲れたが充実したものであった。
- ・ 各先生方が趣向を凝らしており楽しく拝聴致しました。ありがとうございました。
- ・ 保育現場で働いているものとしてはわからないことも多かったですが、現状を何となくでも知ることができで良かったです。
- ・ 現在の教育の考え方が知れました。勉強になりました。グループでの話し合いで違う職種の方の話をきけて良かったです。
- ・ 日々の生活をふりかえり、立ちどまって考えるきっかけになりました。専門的でわかりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・ 講師の先生方の説明は、たいへんわかりやすく、現在の教育情勢を知るにあたり、たいへん参考になった。諸外国と日本との比較や、子ども支援、また三重県の学調（学力問題）とかかわって、今やらねばならないことについて考えることができた。
- ・ 多方面からの三重県における教育事情で大変勉強になりました。各
- ・ 幼児教育は専門外と思っていたが、話もおもしろく大変参考になりました。現場でも使える実践だと思いました。
- ・ 「書く」の意味についての指導案は小学1年生がイメージできないので、すごく難しかったが、参考になりました。
- ・ 高校の教員なので、幼児、小学生の内容が多く実践には向かなかったが、発達段階の特徴がわかって良かった。
- ・ 講師の圧倒的な知識に感服しました。有意義な一日を過ごせました。
- ・ 話を聞きながら、子どもの姿が思い浮かんでくるような講座でした。また、断片的な情報だけで、科学的・系統的に知らなかったことが知れて、わかりやすく、とても良かったです。ありがとうございました。

- ・ 普段の校内・校区の研修会では、学ぶことのできない分野でしたので、非常に楽しく受講できました。子どもの発達について、脳について、本を読もうと思いました。
- ・ 語尾が聞きとりにくい。うしろの方の単語は文脈で判断していた。
- ・ 日ごろから自分で調べたり本を読むなどして対応することしかできなかった内容だったので、話が聞けてよかったと思う。
- ・ 教育現場に欠けている知見、視点ばかりで目からうろこでした。とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ とてもわかりやすかったです。知らないことが多くあり、とても勉強になりました。

《要望・提案を含むコメント》

- ・ 「教育観」などは教師によって様々だろうし、概念（抽象）っぽくて、わかりづらい部分、つかみづらい部分があり、試験でも回答に苦慮した。
- ・ 現在の教育現場でよくとり出されている諸問題（校種別に沢山あると思う）について、もう少し客観的に教えていただけるとよりわかりやすく学べるように思います。
- ・ グループの活動・交流があると、いろいろな先生、職種の方の話が聞けておもしろい。
- ・ 内容はとても良かったと思います。グループで話し合う時間が少なかったので、改善してほしいと思いました。
- ・ グループワークをどの講義にもしたが、そのワーク自体はたのしかったが、それをふまえて考える時間がなく、あまり活かせず、残念な気がした。時間配分の検討を。
- ・ 試験時間が1時間でも（本時）よかったのではと思う。
- ・ ひとつひとつが興味深い内容でしたが時間が短くもっと話しがききたく思いました。一日と言う長い時間とも思うのですが、せっかくの機会なのにもったいなく思いました。
- ・ 興味深い内容であった。・ レジユメが多すぎる（時間内にすべて学習できない）
- ・ パワーポイントでの説明に文章が多すぎるとちょっと理解が難しかった。
- ・ 全体的に楽しく講習を受けることができました。ただはじまりがわかりにくく、何か事務的なことがある場合ははじめに説明していただくとありがたいです。実際には休憩時間にしていたので。
- ・ 3人の講師の先生が入れ替わるスタイルは、飽きがこず、よかった。パワーポイントの画面は電気を消して頂くと見やすいです。
- ・ 時計を持ってこなかったのでテストの時間困ってしまった。部屋の見える所にほしかった。
- ・ 試験課題が3つそれぞれ15分で書くには内容が多いので少し試験時間を長くして下さい。
- ・ 試験内容に重複される回答があったため答案用紙を一枚にまとめてみてはどうか？
- ・ 3人というスケジュールがたいへんそうだったので2人に絞った方がよいと思う。
- ・ 3講座を1日で行う内容であったが、1つ1つの講義がせわしく、もっと時間にゆとりがあればより深く学ぶことができたと思う。内容的にはどの講義も教員として活動する上で大切なことで、受講してよかったと思う。

- ・人数、会場の広さもよく、資料を準備してくださったうえで、スライドと黒板を使っでの説明、とてもわかりやすくてよかったです。身近で具体的な例も多くあげて話していただけて良かったです。
- ・「教育の最新事情」のタイトルで来るまで何の話かわからなかった。事前に概要だけでも知ることができたらよかった。
- ・試験問題等、明るい中でパワーポイントを映されても後方は見え辛かったです。（前方だけでも電気を消して欲しかった）

Ⅱ「選択必修講習内容・方法」についてのコメント

《全体的なコメント》

- ・危機管理の重要性、不測の事態（予測できないこと）を予測して備えること、安全教育で本当に教えていかなければいけないことなど学ぶことができました。いつも危機的な事態が起きた時に自分は、的確に動けるのか、何をしたらいいのか、不安でいっぱいです。池田小学校の訓練の様子を見せていただいて、訓練ですら自分だったらあんなにテキパキと動けないと不安になりました。訓練が実践に生かせるためにどうしていくとよいか、また、全員が意識を高めて取り組むにはどうすると良いか当も学びたいと思いました。ありがとうございました。
- ・このような内容の講習は、ほとんど受けたことがなかったが、毎日子ども達と生活する中で、子ども達また自分や他の教員の命を守るためにももっと考えていかなくてはいけない内容だなと思った。もう一度、今の職場でできる危機管理について考え直し全職員で話し合っていきたい。
- ・池田小学校の事件、詳しく知り、胸が痛かったです。訓練の様子など、先生方の力の入り方もすごかったですが、当時の子ども達のことを思い涙が出ました。
- ・防犯や防災に関して、日ごろあまり気に留めずに生活していることが多く、あらためて重要であることがわかった。今後に生かしていきたい。
- ・忘れることのできない池田小事件の詳細内容、また、その後の学校の対応と取り組みは、ぜひ園に戻って職員に伝えていきたいと思います。大切な子供達を預かる園（学校）としてやらなくてはいけないことが、たくさんあると感じました。子供たち一人一人がのびのびと生活が出来る様、これからも幼児教育の現場でがんばりたいと思いました。とても勉強になりました。
- ・池田小の事件がおきた時は高校生だったと思います。詳細を知る機会がなかったので、今日詳しく知ることができてたくさんの気づきがありました。その中でも教員の意識一つで対応が異なり、結果も異なったのではという思いが大きいです。自分ももちろんですが、組織として教員一人ひとりが危機発生時にどう動くかを想定できる分だけでもしておくことで、想定外をのりきる力もつくのかなと思いました。午後の人間の行動特性もあまり知らないことだったので、勉強になりました。
- ・池田小の DVD を見るだけでも、受講した価値があった。また、心理学の知見から、学校安全や危機管理について示唆を得られた点もよかった。危機管理については柔軟な対応と、状況依存的に判断する力をつけていくことが子どもも教職員も必要であることを学んだ。

- ・子どもを守るということを再確認できた。
- ・危機管理ということで、実際にさすまたなどの使い方についても教えていただき、学ぶことのおおい 1 日となりました。いつおこるか分からないので、日々の訓練がいかに大切か分かりました。ありがとうございました。
- ・危機管理対応について改めて自分自身見直すことができ、良い機会でした。
- ・とてもわかりやすく理解をしやすい内容だった。講習内容も興味を持てる内容で、楽しく聞くことが出来た。
- ・他の先生方と交流しお話することができてよかったです。自閉症の方の特性やどのような手立てや接し方をしたらよいのか具体的に声掛け等を教えて頂き、今までの自分のかかわりをふりかえることができました。今後教えて頂いたことをいかして生徒と接していきたいと思いました。
- ・特別支援教育に対して、解らない事ばかりでしたが、今日お話して頂いて現状を初めて少しだろうけれど知ることができて勉強になりました。日々の生活の中で、こうやって改めて専門の先生からお話を聞く機会はほとんどないのでどの話もすごく新鮮でした。ありがとうございました。
- ・要点がまとめられたパワーポイントや映像や具体的な説明の講義で分かりやすく、勉強になりました。グループ討義が午前・午後ともあったので、色々な教育現場の話を聞くことができ参考になりました。ありがとうございました。
- ・わかりやすい内容の講義にしてくださり、ありがとうございました。明日からの、教育活動に生かしていきたいと思います。
- ・特別支援教育の奥深さ、重要性を痛感しました。あまり知識も意欲も持たずに講習に臨んだ自分が恥ずかしいです。ありがとうございました。
- ・講義に合わせて視覚教材もあり、わかりやすい内容でした。グループで話すことにより、様々な経験をされている方々と話す機会ができ、よかったです。三重県の課題を客観的に知ることができ、改めて考えさせられる内容でした。ありがとうございました。
- ・事前アンケートに記入したことを取り上げていただきありがとうございました。
- ・三重県の特別支援教育の現状、課題や他県との違いなどを知る事が出来、良かったという思いと、課題に対して自分が何が出来るのか、など考えることができた。知らない事が多くあった。自分の出来ることは少しかもしれないが、やっていこうと思う。この研修を受けることが出来て良かったです。ありがとうございました。
- ・特別支援教育の基本的な部分について説明をしていただけて良かったです。自閉症について少しですが、詳しく分かりました。支援をするに当たり、大事なことが少し分かりました。課題について、これまで考えもしなかったこと気付きもしなかったことを教えて頂けて良かったです。
- ・とてもわかりやすく、かみくだいて説明してくださったので、教育活動に活かせる部分がたくさんありました。
- ・得意分野ではなかったのですが、受講して良かったと思いました。ついていくのに精一杯でしたが、一人で学んでいては得られないたくさんのことを学ぶことができました。困っていることを察して助けていただける温かさもあって、本当にありがたかったです

- ・パソコンが苦手なので、不安があったのですが、わかりやすい内容で色んな方法を学ぶことができよかったです。
- ・初めは ICT なんてできるかなと不安だったけど、分かり安くて楽しい講習でした。
- ・パソコンだったので大丈夫かと心配しましたが先生がわかりやすく説明して頂いたので良かったです。とても楽しい講習でした。ありがとうございました。
- ・今日の講習で ICT をいかに魅力的に使えるかを考えさせられました。たくさんの共有の方法あったり ICT のどのように使っていけるかが分かりやすかったです。これからのことにいかしていきたいです。
- ・ICT 学習利用の講習で、演習中心の、自分自身にとって今後活用できる内容であり、有意義であった。パソコンを苦手をしているものにとっては、このような講習がありうれしい。
- ・教員になってから、PC の普及があったので、知識のついていけないことが多くあり、ICT 機器について具体的に話をきけてとてもおもしろかったです。
- ・免許講習 1 日目、また、苦手な ICT という事で本当に緊張して来ました。しかし、内容はとてもわかりやすく受けることができました。
- ・ICT の活用の意義を学ぶことができました。ICT を活用して、子どもたちが主体的に学べる環境をつくれるよう、日々の教材研究に励んでいきたいです。
- ・参加型の講習で充実した講習でした。
- ・グループで異文化について考える活動があり、様々な意見を聞くことができ また、視覚的に異文化を体験でき大変有意義であった。また他の国々における異文化にも触れてみたいと意欲が沸いてきた。本日はどうもありがとうございました。
- ・『写真やビデオなど、たくさんみせてもらい、はじめて知ったことがたくさんありました。担任している子ども達にも伝えたいと思うこともたくさんありました とてもよかったです。今から何をするのか、まとめとして大切なことも、短的にまとめてくださり、わかりやすかったです。テストの“構想を考える”という方法はとてもよかったです。
- ・受講申し込みをした時には、難しいかもしれないと感じていましたが、先生の話がとてもわかりやすく、またグループでの話し合いも、いろいろな話がきけてとても勉強になりました。保育園にも様々な国籍の方がみえるので、それぞれの文化を理解し合えるような機会を、ぜひ設けていきたいと感じました。
- ・少々むずかしい内容でしたが、先生の実体験もあり、楽しく受けさせてもらいました。スピードが早かったのももう少しゆっくりだと良かったです。
- ・興味があって選択した講習でしたが、初めて知ることが本当に多かったです。 在宅の病弱児たちが、教育のブラックボックスになっている とか それより前に 登校を拒否されたという現状。 行政は、当事者の苦しみ悩みは 実感としてわからない。 当事者にだけにしか わからない ことがあり やはり 当事者が集まり声をあげるところから始めなければならないのかなと思いました。 無理なことが 可能になる 希望をすてずに。
- ・スライドや資料をたくさん用意して頂いたので学習指導要領がどう変わっていくかがよく理解できました。ありがとうございました。
- ・学習指導要領の変遷についてはよく分かった。社会の流れや状況に応じて変化するものによも

よく分かった。ただ、次期学習指導要領についてもう少し詳しく知りたかった。

- ・次期学習指導要領改訂に関して、どのような内容なのかまた、今までの改定の変遷や現行の生きる力について勉強になった
- ・ICTについて分かりやすく講義いただきました。ありがとうございました。
- ・長時間の講習でしたが、実習なども含まれており、楽しくすごせました。そして何より先生のお声がけが手厚くやさしく、あたたかかったです。ありがとうございました。
- ・持ち物や当日の講習の課題等丁寧にお知らせいただき、ありがたかったです。3S カード学校でも使ってみようと思いました。自分でもやってみるということを今日たくさん経験させていただき、子どもの気持ちも体験させてもらったように思います。どうもありがとうございました。
- ・ムービーメーカーの使い方がよくわかりました。Moodle がとても楽しかったです。
- ・実習が含まれていて、すぐに実践にうつせることを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・1日という限られた時間の中で、できるだけ多くの演習を体験することができ、今後の参考になりました。知識だけでなく実践を通して学ぶことができました。
- ・理論だけでなく、演習を混じえての講習で、機器が苦手な私でしたが、親切に教えていただき本当にありがとうございました。
- ・新学習指導要領の目玉であるアクティブラーニングですが、私たちがずっと以前から目指していたもの(あたりまえのようにしがっていたこと)ですが、様々な理由でできなかった(しなかった)ことです。それを先生がご教示いただいた教育工夫学によって、多くのものがやろう、やってみようという気になると思います。先生の講座を聞いてよかったです。
- ・アクティブラーニングという言葉は聞いて知っていたものの、具体的なイメージがつかまえていませんでした。今回の講習で、より明確なイメージがつかめたように思います。今後の自分が担当する授業の中でも生かせるよう、工夫していきたいと思います。
- ・教育的な生徒、保護者に対する対応の仕方について再度確認することができました。事例と対応の具体的な話をもっと聞きたかったので次回、機会があればよろしくお願いします。
- ・とてもわかりやすい内容で、楽しく受講することができました。学んだ事を明日から生かして生きたいと思いました。ありがとうございました。
- ・活動の場面があったので受講時間が短く感じられて良かった。
- ・カウンセリングの手法など今まで自分では生徒対応の場合で、はっきりと確立したものがなかったので今後の指導に役立てることができると思いました。も一度勉強しようと思います。
- ・講義を聴くだけでなく実際に動いて演習をしていたので楽しかったし勉強になりました。
- ・日頃の自分を見直すことができました。人の話に耳を傾けているつもりでいたのに思い込みや誘導やアドバイスなどが多くなっていることに気づきました。又、日々忙しい時間をすごしていると「早く解決したい」という気持ちになり、ゆっくりと相手の話を聴けないなと思いました。今日はそれらに気づくことができありがとうございました。
- ・「不登校」や「問題行動のある子の保護者への対応」など、具体的な事例を本にロールプレイングなどを通して勉強できたので良かったです。保護者対応などは難しく、苦手分野でもあるので勉強させていただき良かったです。

- ・「思い込み」はわかってはいたが改めて痛感させられた。物事を一方向からではなくいろいろな角度から見るができるよう努力していきたい。
- ・多方面からの組織的対応を考える機会になりとても良かったと感じました。少し内容の理解の部分でしきれないものがあり自分の勉強不足を感じました。
- ・教材が多様なものが準備されていて飽きない、疲れない工夫が随所に見られました。ありがとうございました。
- ・少人数でのグループ討議で意見交換しやすく、また他のグループの意見も多く聞くことができ、いろんな感じ方、考え方を知ることができました。先生のクイズも面白く楽しい1日でした。生徒指導という立場ではありませんが今日学んだことを少しでも職場で生かせるようにしたいと思います。ありがとうございました。
- ・思い込みがこれまでの困難をかかえる子ども達への対応の中でなかったかを反省させられこれからは今まであまり考えてこなかったアセスメントもしてみることを強く考えさせていただいた講習内容でした。私たちが30年前に受けた講義とちがい自分が考えたり話し合ったりして気付けるスタイルで私も大学院で学んでみたいと思いました。
- ・自分にとってはタイムリーな内容であり、いろいろな人の体験談も聞くことができ、とても有意義でした。映像等もよくわかり、ポイントをしっかりおさえられる内容でした。ご自分の体験をもとに話していただき、よくわかりましたし、こういうふうにすればいいんだというヒントももらえました。
- ・多分化共生を視野に入れた異文化理解学習について、明日からの授業に生かせる実践的内容であり、とても参考になった。様々な角度から幅広い視点でのお話を聞いたり、他の先生方と交流することができ有意義だった。
- ・今まで考えていたキャリアデザインをより深くまで考えることができた。人数も適切で、他校の先生方との交流もでき、有意義であった。ありがとうございました。
- ・とても理解しやすい内容で、キャリア教育というと難しいのかなという不安を消していただき、気おくれせず聞くことができました。スライドの資料が最初からあると内容に集中できたと思うので初めに配っていただけるとうれしかったです。
- ・生徒の将来を考える上で、どのように指導していくとよいのかを考える、大変良い時間となり
- ・先生方にわかりやすく説明していただい、とても良かったです。ゲストスピーカーの先生からは情報モラルの問題を提案され、日々の積み重ねの指導と共に保護者への啓発の大切さを資料で示していただけて良かったです。
- ・経験豊かな講師から新しい知識と技術を学ぶことができました。私に使いこなせるだろうか、ついていけるだろうかと不安でしたが、本講座の目的が作品づくりだけではないという言葉をいただき安心して取り組むことができました。新しいことを学ぶことは本当に楽しいです。ありがとうございました。
- ・スマホの所持率や、ネットを見始める時期など年々早くなっていることがわかり、有効な部分と留意する点を子どもたちを含め保護者にも早い時期から知らせなくてはならないことがわかってよかった。
- ・ゲストスピーカーの方のお話もわかりやすかったし、実習の中でわかりにくい時にも聞くこと

ができたので、とてもよかったです。

- ・ ゲストスピーカーの方の講義は、より今現在の三重の状況が明確であり、また、わたしたちが知らない若者の情報も提供してもらえ、勉強になった。
- ・ 三重県情報を伝えてもらえると具体木にもっとこうしなければならない（保護者とのパイプづくりの強化）（インターネットモラルを何度も何度も子どもや保護者に伝えるべき）ということがよく伝わった。
- ・ 情報モラルについてのお話がよかった。入学時、卒業時に保護者へのサポートをしていきたい。
- ・ 最新のデータや、問題点を知ることができました。ありがとうございました。教師と保護者とが連絡を密にすべき意義を認識いたしました。
- ・ 起業家の視点に立つことはあまり意識して授業をしてこなかったもので、今後はキャリア教育について意識した取り組みに積極的になりたいです。
- ・ 普段話すことのない高校の先生や保育所または他県の先生方と意見の交換ができとても勉強になりました。また、先生の実際の現場での実践をお聞きし、考えることはとても勉強になりました。理論も必要でしょうが、こういう実践をもとにした講座はとても興味深く、明日からの実践にすぐに生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 市の研修などではあまり扱われないテーマで新鮮だった。企業経験者の方の話の方が個人的には好きである。
- ・ あいまいだった「キャリア教育」を分かりやすく教えていただいた。
- ・ 学校の教育活動の中で「人とつながる」ということはとても大切であり、その大きな部分をしめていると考えています。そして、人とつながるために必要な対話、対話の中での聴く姿勢、聴こうとするまなざし、表情、口調、相手を受けいれようとする気持ちと大切なものを阻害することは許されないという姿勢、など様々な事を講師先生のお話をされる様子からもうかがえ、教えてもらったような気がします。そして、それらの根拠となる理論を教えていただきとても学びの大きい一日でした。ありがとうございました。
- ・ 講師の先生が受講者のことをしっかり考えてくださり、受ける側としては気持ちよく自分のペースで学ぶことができました。・ 空調のことなど、一つ一つ小さなことから気くばりできるのも教育相談をする上では大切なことだと思います。・ 事例が話しやすい内容として整理されていること、話し合う視点がわかりやすかったです。話し合いが楽しかったです。ありがとうございました
- ・ 理論を実践に生かしていくことが体験的に学べました。事例の検討では、実際にあった現実的な事柄から具体的な対策や、子どもを中心に考えて考えることが実践できその後の話も理解しやすかったです。話を聴くスキルのワークは、繰り返しを行うには難しい話題だった気がしました。
- ・ 様々な職種の先生方と話す機会が持ててよかったです。皆さんそれなりに経験も積んでみえるので、体験談など全ていい勉強になりました。グループ討議も皆が実体験に基づいたしっかりとした考えを持っているので、よかったです。やっぱり、初任研や 5 年前とはちがうと思いました。
- ・ 教育相談研修をいろいろ受けましたが心理士さんの話が多かったので、今日はちがう方向から

事例検討ができてよかったです。現場にちかい事例はとても役立ちました。聴いてるときはPDSAもよくわかっていたのに改めてテストになるとうまく説明できませんでした。また本、よんでみます。ありがとうございました。

- ・試験を受けることで、本日の振り返りを自分自身が出来ました。PDSA サイクルは教師としてとても大切だと意識しています。ただ、生徒たちにとって「S」がとても難しく感じる子がいました。自分を見つめ直すことは反省することにもなるため、それを受け入れられない生徒を2名担任したことがあります。その2名は今20代前半となり、大変苦勞し、警察が入る問題になっています。どのようにして教育活動ができたのか、もっとできたことはないのか、悔やむことがあります。
- ・これからの学校教育のあり方について考えることができてよかった。これからは若い世代の教員が増えてくるので、今日聞いたような内容を十分に意識した学校運営が望まれると思う。一人ひとりの力量をつけることが多忙化 解消につながるという妹男さん??のまとめがよかった。
- ・受講者側の様子をみて講習内容に付加していただいてくわしく勉強できました。ありがとうございました。「チーム学校」をより考えやすくなりました。

Ⅲ「選択講習内容・方法」についてのコメント

《全体的なコメント》

- ・長時間の講習で集中力が持つか不安でしたが、興味のある内容であり、また教材（内容）も工夫して頂いてあり、とても充実した一日でした。現場で活用していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・授業で扱う内容であったので（高校生物）興味深く生徒にいろいろ伝えたいと思いながら受講させていただきました。カダヤシがずいぶん増えていて、メダカが減っているのは驚きました。近所の水路もみてみたいと思います。
- ・小学校の教員であるが、総合的な学習で環境をテーマに学習していて、生物多様性、外来生物など関連し、今後の指導に役立てることができ、有意義であった。
- ・構内の川にカダヤシとメダカを見つけに行き、そこで説明を受け、水槽のある研究室も見させていただいた点が良かったです。助手をされていた4年生の学生の方も、終始いきいきとされていて、とてもステキでした。ありがとうございました。
- ・認定試験への自記筆メモの持ち込み可は大変ありがたく、とても長い講義なので必要不可欠であると思う。午後からの内容→テストが間がほぼなく、まとめるのは難しかった。
高校で学習する生物多様性、外来生物、生態系サービスの内容としっかりリンクしていて大変勉強になった。実例が多くてわかりやすく、知識が増えた。また、受講生の目を見て話し、話し方もゆっくりで丁寧で好感がもてた。アシスタントもしっかりしており、外へ出て、実際にカダヤシをとって観察する体験も気分の切り換えとなり、また実際に生息する場所を見れて良かった。あり

がとうございました。最後に教員への投げかけもありよかったです。

- ・ 生物多様性については教科書や資料集等でそれなりに知識はあったが教科書では最終章のあたりであり、授業で最後に大急ぎで終わらせてしまうことも多かったがあらためて全体を学びなおすことで、生物多様性の重要性がよりわかった。
- ・ 生物多様性の全体的な知識などは理解できました。もう少し、後半のような具体的な内容、体験的な話題を知りたいを思いました。また、野外実習等実物を見たりする時間を増やしてもらいたいと思います。
- ・ 多様性のもつあいまいさが整理できたと思いました。広い視点から遺伝子レベルまで、幅広く考えることができました。生物教材の面白さと扱いの重要さを改めて知ることができました。カダヤシとりは一緒にやってみたかったです。体を動かす時間があったのはとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・ 途中にフィールドワークが組み込まれており、全て講義の講座とは異なる充足感があった。生き物が好きで、子どもたちと身近な生き物を捕ったり飼ったりすることを今までしてきた（今もしている）ので、考えさせられることが多かったです。もっと学びたい、と思ったし、子どもたちにも伝えたい、と思いました。魚などを捕ったり飼ったりしながら地球規模で生態系を考える研究は興味深く、もっと知りたい！と思いました。次回があれば、長くつをはいて一緒に魚をとりたいです。
- ・ 実践的な内容で、具体的で分かりやすく、1日があつという間でした。楽しかったです。初対面の人と話すのは苦手なのですが、ゲームを通して、やりとりが円滑になった気がします。大変楽しかったです。金までにつかれていた土曜日 1 日ということで心配していましたが、そんなつかれも忘れるぐらいでした。月からの実践に直結しそうです。自分の心も開くことができた気がします。小学校内でも十分活用できそうです。さっそく、失敗を楽しむ活動から入っていきたいです。
- ・ 受講者が積極的に参加し、活動する内容になっていたのも他の受講者と接する機会も多く、講師の先生と受講者が一体となって行われた。充実した講習でした。
- ・ 楽しく参加することができました。初対面の人たちの中で授業を受けましたが、ゲームをすることで一体感のようなものを味わったり、かたい雰囲気ではなくなごやかな雰囲気の中受講することが出来ました。また、仕事の中でも活用できそうな内容だったので今後活かそうです。
- ・ 様々なゲームを紹介頂き大変勉強になりました。現場で、「演じなければいけない場面」は多々あるので、今日の講習を次にいかしていきたいと思います。準備、当日の講演、本当にありがとうございました。インプロのことも学べて良かったです。
- ・ とても興味があったので受講した。内容が、とても楽しくまた、即教育現場で実践できる内容であり、勉強になった。長時間の講習であるが、時間を気にせず楽しめた。
明日から子どもたちと一緒にできる楽しい内容ばかりでとてもよかったです。コミュニケーション能力の育成といわれるけれど、子どもたち一人ひとりの心の粹をとり払うことが大切だと改めて感じた。それを心の問題としてだけでなく、具体的な方法もまじえて教えていただき、大変よかったです。ありがとうございました。
- ・ 受講生の方は初対面の方がほとんどでしたが、さまざまな教材を提示していただいて、それを皆

で実践することが楽しい雰囲気の中で受講することができました。

インプロについて実習を交えた講習は初めてだったので、今まで意識していなかった視点を知ることができ、よかった。

- ・インプロという初めて耳にする言葉の研修でしたが、思っていた以上に勉強になりました。
- ・本日の実技は私にとって初めての経験でしたが、ポイント的な指導で楽しむことができた。
- ・楽しく受講できました。学校現場でスナックゴルフをとり入れていくには、教職員にスキルを身につけなければいけません。その点においては今回の講習はとても良かったです。
- ・ゴルフが好きなので、一番に申し込みました。初めてスナックゴルフをしましたが、ゴルフよりはやりやすく、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・スイング理論による打球方向の角度が決められてという所が大変勉強になり、午前中の室内練習がとても良い内容で、後半のラウンドで楽しく、集中してプレーすることができました。
- ・町の歴史、時代背景などがよくわかり、知識を深めることができた。描かれているものの背景にある事柄を考えるのが楽しく、絵画の観賞において、作者の遊び心や研究心に触れることもよりよく理解できる方法とわかり、トラとヒョウの話などとても興味深く聞くことができました。ナゾ解きという感覚がおもしろかったです。
- ・ミネルバの梟の実物を見て、三重県師範学校時代とのつながりを聞くことで印象に残り理解も深まった。また藩校や現存する、校舎とのつながり、建築設計者が同一であることを知れて興味深かった。「絵を感じる」とは今までやってきたが「絵を読む」とは今まであまりしていなかったので、実物を見せながら「絵を読む」ような授業ができればと思った。
- ・持物によって、絵を読み解くことが出来る様になると、鑑賞が楽しくなると感じた。又、歴史的背景を学ぶ事が出来る為、学校教育で取り入れていくとよりよいと感じた。美術、日本史、文学など全てにリンクすると生徒も楽しんで学ぶことが出来る。西洋美術史版もやってほしい。
- ・基本的な内容と、丁寧な発音指導をして頂けて、とても分かりやすかったです。また第2外国語の必要性を踏まえた『自分自身を豊かにすること』を今後、生徒にも伝えていきたいです。私自身も、もっともっと勉強したいと思いました。
- ・受講者のレベルが様々と考えられる中、色々工夫してくださったと思います。発音練習を聞いていると入門レベルではない人も結構いるのではと感じました。全くの入門レベルの人にとっては、難しかった所もあると思いますが、全体的にはとてもよかったと思います。
- ・今まで中国人の先生から中国語を学んできたが、文法のルールなどあいまいで説明してもらえなかった。しっかりと文法を教えていただいたのがよかった。語学は、現地の様子や現地の人との関わりで中味を深められるとあらためて感じた。生徒に是非とも教えたい点だった。
- ・ものづくりは普段やれていないことを紹介してもらえ、実技中心にしてもらえて楽しく出来た。最後、40分で指導案を考えるのがちょっと厳しかったです・・・。
- ・専門用語に少々まどいもありましたが、実習内容が小学生や特支籍生徒(中学)でも取り組めるものであったので、今後の授業の参考になりました。よい雰囲気を先生方がつくって下さり、リラックスしてのぞめました。
- ・日本語教育と国語教育の違いや、日本語学習者が困る場面など、具体的な事例を示しながらの講義で大変参考になりました。

- ・全国的な動向、三重県での動向は知る必要はそんなになんて思っていたが、三重県での外国につながる児童生徒が多い全国でも多いと聞いて、日本語教育の必要性をあらためて感じた。
- ・各先生方の保育相談の内容が聞けてとても勉強になった。同じような内容なのかと思ったが、それぞれに違う内容でまた自分との相談とも違っていたので時間が許されるなら全員分聞きたかったと思う。理由や結果、課題など考えたこともなかったので気になる相談があれば実践してみたいと思った。
- ・相談に関しては、現場で多く出会うことであるので、その対応の仕方であったり、他園の事例等を知ることが出来て、良かった。自園でも行われている、所内研修等でも相談に対する対応の仕方等を研修内容として上げていってもいいのではないかと感じた。
- ・保育相談を受けることが少し苦手だったが、具体的にどのように話しを聞いたらいいのか等の事例も多く、わかりやすかったので今後の保育相談に生かせたら良いと思いました。
- ・先生のお話の中で、「自分の精神的な柱をもち、保護者と接すること」「技術ではなく心」「保護者は一緒に子育てをしていく仲間なんだ」という言葉が印象的で心に残りました。相手の立場になって考え、よりそう事、日々の忙しさに忘れてしまいがちですが、愛情をいつももって大きな心でつつんでいけるそんな保育者になりたいと思いました。良いお話をありがとうございました。
- ・具体的な事例検討もできてよかった。・資料の方も具体的な事例があり、わかりやすかった。初期対応の重要性を再認識した。人と人とのかわり、雰囲気が多様化する相談に対応していくには、大切であることを感じた。社会全体、関係機関、地域と様々なところでつながり子育て支援をしていくことの重要性を学ぶことが出来た。
- ・重ね刷り版画は、初めてでした。貴重な実技ができました。私自身、重ね刷り版画についての知識を、講習前にもっともっているとよかったと思います。いろいろな教具を、かしていただいてありがとうございました。
- ・大変楽しい時間を過ごさせていただきました。講習であることを忘れるほど創作意欲を刺激され、自分も生徒にそんな思いをさせられるよう、一層工夫しないといけないと感じました。今後活かされる講習だったと思います。ありがとうございました。
- ・グループでの活動（対話としての表現）をはじめさせていただきました。一人ひとりの活動をうけてグループで一つの作品をつくる達成感を味わうことができ、嬉しかったです。版画では、下描きをかくのに悩みました。図工の下描きをかくときに悩んでいる子どもの気持ちがよくわかりました。色づけのときにも補色であっても色の出方が全然違うことがわかりました。これからの授業に生かせる貴重な経験でした。ありがとうございました。
- ・久しぶりの化学実験で楽しかったです。ただ、理科の先生以外にも受講されている先生が多く見えたので、最後の講義（タンパク質の変性）の部分は、理解されたのかな・・・という感じです。あらかじめテキストを送付して頂いたので、実験の内容を予習することができたので良かったです。人数も１０人程度で丁度よかったのではないのでしょうか。
- ・異文化間で起こる様々なコミュニケーションギャップについて、身近に起こりそうな例を挙げて説明していただけたので、とても参考になりました。
- ・文化により異なることがあることは知っていたが、自分が思う以上にあるなと思った。保護者や、子どもとの関わり方を、いっそう気をつけよう、伝わっていないかもしれない！と気をつけよう

と思った。

- ・異文化によるギャップの多さに対する意識は多く得られたように感じました。より現場で感じるものに対してのアンサー的なものが少しあると、実感することができたのではないかと思います。
 - ・様々な文化の捉え方によってコミュニケーションギャップがおきていることが改めて理解できた。
 - ・バレーボールでの「間」について考える、いい機会になりました。小学校の授業で行うなかで、今日の講習を思い出し実践できればいいかと思います。
 - ・様々なストレスを抱えた生徒が毎日、保健室に来室しますが、すぐに実践できる方法やヒントをたくさん学べました。来週から実践していきたいです。認知行動療法の名称は何度も聞いていて、漠然と理解していた気になっていましたが、今回受講させていただき、全く知らない自分に気づくとともに学びたいと思いました。ありがとうございました。
 - ・マイナスの感情はあっていい!!という言葉が腑に落ちました。最近『悲しみの効用』など本を読んでいたところなので。自分がまず心身共に健康でありたいと強く思いました。受講内容は早速、日々の授業で使っていこうと思います。有難うございました。
 - ・全て英語だったので最初は理解するのに心配だったが分かりやすく話してくれていたのが良かった。(少し日本語があると分かりやすかったかも)
 - ・興味を持って受講することができた。具体的なスキルをたくさんおしえていただけて良かった。少人数ということもあったのかもしれません。先生がしっかりと目を届かせてくれて、難しい
 - ・経済理論をととてもわかりやすく教えて頂いたと思います。フリーライダーなど心の問題と数値を考える経済学の奥の深さに興味を持てました。
 - ・「ものづくり」を学ぶことの大切さを再認識し、今後の授業の中で、活かしていけるような意義深い内容だったと思う。・体験を通して学ぶことによって、生活と結びついた知識や技能を得ることができ、真の学力・生きる力をつけることができるのではないかという希望が持てる内容だった。・小学校の他の先生方にも、ぜひ伝えていきたいと思った。
 - ・クスノキひとつとっても木としての知識だけではなく、他の生物とのかかわりや人の生活とのかかわり、生物としてのストーリーが加わることでまるで物語を聞いているようなおもしろさにあふれた授業でした。外はあつかったですが、もっと色々な植物の話を聞きたかったです。
- 写真よりも現物、見るより触れることが子どもたちの大きな学びになることを思い出しました。自然かんさつ会は好きでよくやりますが、ウォークラリーも野草カードも標本もどれもチャレンジしようと思います。

Ⅲ「運営面」についてのコメント

- ・冷房がききすぎていたので寒そうにしている方が何人かみえた。
- ・申し込み期間が短く大変でした。新学期の一番慌ただしい時期で困りました。講習内容だけでも事前に分かると準備がしやすいのでお願いします。
- ・大学の教室環境もきれいで、機材の充実もあり、良いと思いました。駅からはいい運動になりました。ありがとうございました。

- ・県南部（尾鷲市）から来ていますが、公共交通機関で来ることは難しいので地理的な条件も考慮してもらえれば助かります。
- ・教室を連絡するメールが5通来ていました。必要なものだけを送ればよいと思います。
- ・受講申し込み（4/10～）の際免許状の確認のところで、高校二種社会がなくて大学に問い合わせの電話をしたが、混み合っていてなかなかつながらず困った。現在は高校二種地理歴史あるいは倫理社会?なのかもしれないが高校二種社会の免許の者もいるので項目を作っておいてほしい。
- ・当日の昼会、店の開店等まで事前に情報を送っていただき、ていねいな対応でした。
- ・受講システムの「審査待ち」とは一体何でしょうか、これのためにプリントアウト困りました。
- ・休みが良く入れてあり、とても過ごしやすい環境でした。
- ・パソコンでの入力が新年度でとても難しくて時間を要した。3月初めぐらいからなら、まだ勤務にも余裕があったが急な異動・・・等でかなり大変であった。紙ベース又は3月の入力が良いと思いました。
- ・IDを覚えやすいものにしてほしかったです。
- ・エアコンがさむいです。クールビズですね？
- ・久しぶりに出身の大学に来て校舎の美しさにびっくりしました。次回もっと散策したいなと思います。
- ・学食があいていたらもっといいなと思いました。
- ・日曜なので、仕方ないのかもしれませんが、学食を開いていただけると助かります。
- ・試験会場が分かりにくかったので、もう少し分かりやすくしてほしい。
- ・聞くだけでなく、実技的な内容の講習もあって良い。
- ・久しぶりに三重大にきましたが施設などが新しくきれいになっていた事におどろきました。
- ・運営の方も道案内などとても親切でした。ありがとうございました。
- ・連絡等、丁寧にありがとうございました。
- ・他大学に比べて長い期間にわたって多くの種類の講習が設定されているのでとても助かります。
- ・講習時間が長く、手続きも勤務中なので難しい時があった。受講料も高い。
- ・登録して講座をとるまでの流れがわかりにくかった。
- ・行政にいる立場での申請で何度も連絡をいただきご迷惑をおかけしましたが、これからの方のために明確にしていいただければと思います。（わかりやすく）
- ・学内も清潔で、気持ちよく講習を受講できた。運営もスムーズだった
- ・メールでくわしいことを事前にお知らせいただいたので安心して受講できました。
- ・駅から大学まで遠いため、有料であっても駐車場への入構を希望します。
- ・三重県南部からくるとなると、JRでは日帰りできないので、車での入構をみとめてほしいです。
- ・三重県教員採用選考試験の日程と重ならないなどの配慮をお願いしたいです。
- ・食堂が利用できれば助かります。
- ・申し込み方法をもう少し簡単にしてほしい。PM4:00～から申し込みは現場的には時間を取りにくい現状があるので工夫して頂きたい。スタート時間の変更。
- ・システムへの入場がスムーズでないことがある。（学校のパソコンから入れない、フィルタリン

グにかかる)

- ・講習前にメールが6通きてそのうち5通は必要なものではなかった。
- ・メール等による案内はわかりやすいものでした。このような講習自体土・日等活用し自由に受講できると嬉しいです。
- ・部屋の温度を何度か気にかけてもらって心づかいが嬉しかったです。
- ・休憩5分の間に3Fまでのトイレの移動が大変だった。教室内の机も多く廊下側でなかったので大変だった。
- ・希望する講習を受けることができないことがあるので希望講習はうけられるというシステムにしてもらえるとありがたい。
- ・講習を申し込む際、キャンセル待ちで対応していただいたのですが担当の方がとてもいい対応していただきました。ありがとうございます
- ・申し込みのスタート時間平日16:00は、勤務をしているものにとっては非常にむずかしい。
- ・前回と違って会場がとてもわかりやすく案内されていたので良かったです。
- ・受講申し込み等の手続きがパソコン環境の悪い職場で非常に苦労したので、他の手段でも行えるとありがたい。
- ・シャトルバス（津駅往復で300円ぐらい）はどうか？開始と終了の時刻が決まっているので。
- ・はじめての学校であったので少し校内で道に迷いました。もう少し係の人をふやしていただけるとありがたかったです。
- ・今回の教室は（1121）は机が多くちょっとした出入りがくるしかったです。
- ・申し込み時にもっとゆとりを持って申し込めるようになればありがたい。16:00を待っての競争は、業務との両立が難しい。
- ・冷房がききすぎて少々さむかったです。（雨のため）
- ・家のPCが古いため、講習などに必要な書類をネットカフェに行かないと印刷できなかった。
- ・予約する時間は勤務時間内のため、変更をしてほしい。
- ・事前メールと一緒に、校舎配置図があるとありがたかったです。
- ・正門を入ってから案内板がもう少しわかりやすいとありがたいです。（初めての者にとっては）
- ・遠方からなので時間調整がむずかしいので駐車場を使わせていただくと有難いです。ガソリン代、及び自動車道料金と近くの方とはちがい負担が大きいです。駐車場800円も加算されるのは不公平感もあります。
- ・途中でホワイトボードを用意してくださいましたがマーカーがほとんどインク切れでした。
- ・机の列がみだれていたのも、整えておいてもらえるとときもちよく受講できると思います。試験の時計ありがたかったです。
- ・全体的に講習が沢山あり、運営が大変だと思いますが、申込の〆切日が4月20日では早いと思います。4月は年度初めなので、忙しい人が多く、気が付いたら〆切が過ぎていて受講したくても出来ない事になります。希望では、5月末ぐらいにはならないかなと思います。
- ・パソコンだけでなく電話での申し込みができるとうれしいなと思う。
- ・申し込み時のアンケートは難しい。講習の予約に気が急いで適当になる。後日ゆっくりととりくみたい。

- ・ 自動車で来られるようになると本当にたすかります。あと、講習のある日のお昼だけでも学食使えるとうれしいです。
- ・ 受講前にメールしていただけるのはありがたいですが、何月何日の何というタイトルの講習についてかの記述がないので、土日に2連続受講するときなど、何についてのメールかが分かりにくく困りました。対応をおねがいします。
- ・ 申込みの期間が、新学期初めの学校が忙しい時期と重なっており、うっかりしていたら定員オーバーで×切られでしまうので、困ってしまう。パソコンの指示通りに進もうとしても、なかなかうまくいかずに何度も電話をして、手続きのやり方を教えてもらった。ID（でしたか）を取得していないと講習をとれないとか、手続きがややこしい。電話で対応してくれた方は、とても親切で、それは有難かった。
- ・ 空調設備をもう少し整えていただきたい。
- ・ 時間が決められているのなら、守っていただきたい。隣の会場の人たちが、こちらの受講中（テスト中）にざわついたり、部屋を間違えて入ってきたりと少し集中が途切れしました。係の方は、廊下でもいいと思います。
- ・ 授乳中の子どもがいるので、自動車での入構は無理でも昼休みだけ駐車OK（授乳のため）などの配慮をしてもらえるとありがたい。
- ・ 写真票は必要がないと思う。申し込み時に写真の提出が求められているのだからそれで照合すれば済むことである。少しでも現職教員の経費負担を減らしてもらいたい。
- ・ 今年度、スマートフォンから講習システムのページにアクセスできず、講習申し込みが遅れ、元々希望していた講座が定員に達してしまっていた。システムの問題ではないかもしれないが、少し不便に感じた。
- ・ ホームページでの講習受講手続きが非常にわかりにくい。システムに問題があるのではないかな？ 写真票印刷画面がなかなかさがしだせなかった。講習内容を見るのも非常に見つけにくい。一覧表の中からさがせるようにしたり、免許の種類別に一覧表にしたりしてほしい。良い講座で受講しようと思っても、自分が対象の免許でなかったりするので、改善よろしくお願いします。
- ・ 学食を使えるかどうか知らせて下さると助かります。
- ・ ホームページに使用しにくいところがありました。
- ・ 今回初めてくつをぬいで教室内に入ることに少しとまどいました。夏であり、素足の方もいたの
- ・ 昼から空調がきいてなかったように思います。とても暑くあせもかき、のどもとてもかわき、水分補給をしないと頭がくらくらするよう感じました。他の方が誰も言わなかったのも悪いですがおそらくあのまま空調がきいていなければ脱水症状になる方もいたと思います。講義よりも受講者の状況をもっと見て気づいてほしかったと思いました。
- ・ やっぱり駐車場ですね。津駅にとめて、バスで来ると1日2000円ほどかかるので800円なら駐車したいです。
- ・ 受講受付、問い合わせへの対応も丁寧でよかったです。休日の日の対応も丁寧でよかったです。休日の日の対応もありがたかったです。

5 2014 年度から 2017 年度における受講者の詳細

教育学部 宮地 信弘

(1) のべ受講者について

ここでは、2014 年度～2017 年度におけるのべ受講者について概観する。過去 4 年間ににおける年度ごとの必修講習、選択必修講習（2016 年度から実施）および選択講習におけるのべ受講者数の推移を表 1 に示す。2016 年度は、選択必修講習の開設によって全体の受講者が前年度より 500 名ほどの増加し、3347 名となったが、2017 年度は 300 名ほど減少し、3102 名となった。

受講年度ごとの各受講対象区分におけるのべ受講者数（表 2）では、2017 年度は小学校に勤務している者が 947 名（31%）と最も多い。区分間の受講者比率は各年度を通して大きな変化は見られない。

年齢別ののべ受講者数（表 3）を見ると、各年齢間の受講者数の比率は、2017 年度は 30 代が 35%、40 代が 30%、50 代が 34%で、30 代の若年層が 50 代と拮抗する割合になった。

連絡先都道府県別ののべ受講者数（表 4）では、2017 年度における三重県の受講者が 2984 名と最も多いが、前年度比で約 150 名減であった。近隣の県では愛知県からの受講者が比較的多いが、それでも 2016 年度と比べると約半分以下に減った。次いで、大阪府、兵庫県、京都府など関西圏からの受講者が多いが、奈良県、滋賀県、兵庫県からの受講者は増減を繰り返している。東京都や埼玉県といった遠方からの受講者もあるが、特定の県からのコンスタントな受講傾向は見られない。

(2) 実受講者について

続いて、2014 年度から 2017 年度における実受講者について概観する。受講年度ごとの実受講者数（表 5）が示すように、2014 年度以降減少傾向にあり、2014 年度は 1000 名をわずかに超えていたが、2017 年度は 800 名を下回った。

受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数（表 6）では、2014 年度以降、小学校・中学校・特別支援学校教員はいずれも減少傾向が続いている。高等学校教員のみ 2014 年度以降増加傾向で 20%を超えていたが、2017 年度は全体の 18%と減少した。幼稚園教員は横ばいであるが、保育士の受講者が昨年度よりわずかに増えてきている。各区分の受講者数の比率に関しては、各年度を通じてあまり変わっていない。

受講年度ごとの受講年齢別実受講者数（表 7）では、30 代・40 代・50 代のすべての年齢層で減少しているが、2017 年度は 30 代若年層の割合がそれまで多かった 40 代や 50 代よりも増加した。

連絡先都道府県別の実受講者数（表 8）を見ると、2014 年度から三重県内と近隣県からの受講者は減少傾向にあり、2017 年度はそれまで多かった愛知県から受講者が大きく減り、京都府からの受講者が増えた。

表 9 は必修講習・選択必修講習・選択講習をどのような組み合わせで受講したかという「受講スタイル」の変化を年度ごとに示したものである。2015 年度までは免許更新に必要な「必修＋選択 3 講習」が最も多かったが、2016 年度以降は「必修＋選択必修＋選択 3 講習」が最も多くなっている。必修講習のみの受講が大きく減少したが、同年度に選択必修講習が導入された結果であろう。今後は「必修＋選択必修＋選択 3 講習」の受講スタイルが最も優勢になっていくものと思われる。

表1 受講年度ごとの受講のべ数

受講年度	必修	選択必修	選択	合計
2014年度	802	—	2,257	3,059
2015年度	734	—	2,122	2,856
2016年度	701	664	1,982	3,347
2017年度	624	628	1,850	3,102

註：連絡協議会主催で開催した講習は、2015年度までは必修講習にを含んでおり、2016年度からは選択必修講習に含んでいる。

表2 受講年度ごとの各受講対象者区分における受講のべ数

受講年度		幼稚園に勤務している者	小学校に勤務している者	中学校に勤務している者	高等学校に勤務している者	特別支援学校に勤務している者	中等教育学校に勤務している者	教員勤務経験者	教員として任命又は雇用される（見込みのある）者	教員採用内定者	保育士（認定こども園及び認可保育所等に勤務している者）	その他
2014年度	必修	41	285	141	147	45	1	16	29	79		18
	選択	96	863	467	403	142	5	34	63	134		50
	計	137	1148	608	550	187	6	50	92	213		68
	割合	4%	38%	20%	18%	6%	0%	2%	3%	7%		2%
2015年度	必修	41	243	122	138	41	4	26	20	56		43
	選択	122	722	371	433	133	10	57	50	154		70
	計	163	965	493	571	174	14	83	70	210		113
	割合	6%	34%	17%	20%	6%	0%	3%	2%	7%		4%
2016年度	必修	29	237	123	146	27	0	12		45	69	13
	選択必修	25	226	118	137	28	0	12		38	68	12
	選択	72	676	359	407	85	0	30		120	185	48
	計	126	1139	600	690	140	0	54		203	322	73
	割合	4%	34%	18%	21%	4%	0%	2%		6%	10%	2%
2017年度	必修	33	194	122	108	28	0	17		101	71	18
	選択必修	32	196	127	114	30	0	15		29	67	18
	選択	86	557	393	316	92	0	44		33	207	54
	計	151	947	642	538	150	0	76		163	345	90
	割合	5%	31%	21%	17%	5%	0%	2%		5%	11%	3%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表3 各受講年度ごとにおける受講年齢別受講のべ数

		30代	40代	50代	その他
2014年度	選択	659	790	808	0
	必修	249	278	275	0
	計	908	1068	1083	0
	割合	30%	35%	35%	0%
2015年度	選択	654	719	749	0
	必修	241	245	248	0
	計	895	964	997	0
	割合	31%	34%	35%	0%
2016年度	選択	608	619	755	0
	選択必修	204	219	240	1
	必修	212	233	255	1
	計	1024	1071	1250	2
	割合	31%	32%	37%	0%
2017年度	選択	657	550	635	8
	選択必修	214	194	218	2
	必修	220	197	205	2
	計	1091	941	1058	12
	割合	35%	30%	34%	0%

表4 連絡先都道府県別の受講者のべ数

		三重県	愛知県	奈良県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	神奈川県
2014年度	必修	765	17	2	1	4	4	2	2	0
	選択	2158	39	10	4	13	13	11	3	2
	計	2923	56	12	5	17	17	13	5	2
2015年度	必修	711	11	0	1	0	5	4	1	
	選択	2052	23	10	6	10	9	5	0	
	計	2763	34	10	7	10	14	9	1	
2016年度	必修	663	17	3	3	5	4	1	3	0
	選択必修	625	17	3	2	5	4	4	1	0
	選択	1845	48	9	13	17	19	13	1	2
	計	3133	82	15	18	27	27	18	5	2
2017年度	必修	600	7	0	5	8	1	0	2	
	選択必修	607	8	0	4	5	1	3	0	
	選択	1777	17	1	19	14	6	11	1	
	計	2984	32	1	28	27	8	14	3	

		東京都	福井県	和歌山県	静岡県	埼玉県	その他
2014年度	必修	1	1				3
	選択	1	1				2
	計	2	2				5
2015年度	必修			1			0
	選択			3			3
	計			4			3
2016年度	必修	1			2	1	0
	選択必修	1			1	1	0
	選択	4			1	3	5
	計	6			4	5	5
2017年度	必修	1		0		0	0
	選択必修	0		0		0	0
	選択	0		1		1	2
	計	1		1		1	2

表5 受講年度ごとの実受講者数

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
実受講者数	1,008	920	890	789

註：2年度、3年度にわたって受講している受講者についてもそれぞれの年度でカウントされている。

表6 受講年度ごとの各受講対象者区分における実受講者数

受講年度		幼稚園に勤務している者 (保育教諭含む)	小学校に勤務している者	中学校に勤務している者	高等学校に勤務している者	特別支援学校に勤務している者	中等教育学校に勤務している者	教員勤務経験者	教員として任命又は雇用される (見込みのある)者	教員採用内定者	保育士 (認定こども園及び認可保育所等に勤務している者)	その他
2014年度		45	328	206	206	60	2	17	35	90		19
	割合	4%	33%	20%	20%	6%	0%	2%	3%	9%		2%
2015年度		48	280	167	191	57	5	31	24	71		46
	割合	5%	30%	18%	21%	6%	1%	3%	3%	8%		5%
2016年度		33	276	164	201	42	0	15		56	81	22
	割合	4%	31%	18%	23%	5%	0%	2%		6%	9%	2%
2017年度		38	233	151	160	35	0	22		62	90	20
	割合	4%	26%	17%	18%	4%	0%	2%		7%	10%	2%

註：システム改修に伴い2016年度より集計の区分を一部変更。

①「教員として任命又は雇用される（見込みのある）者」と「教員採用内定者」を合わせた区分に変更。②保育士の区分を追加。（それより以前はそれぞれ該当する区分に含む。）

表7 各受講年度における受講年齢別実受講者数

		30代	40代	50代	その他
2014年度		312	361	335	0
	割合	31%	36%	33%	0%
2015年度		302	308	310	0
	割合	33%	33%	34%	0%
2016年度		275	292	322	1
	割合	31%	33%	36%	0%
2017年度		275	247	263	4
	割合	35%	31%	33%	1%

表8 連絡先都道府県別の実受講者数

	三重県	愛知県	京都府	大阪府	滋賀県	兵庫県	岐阜県	福井県	静岡県	神奈川県	その他
2014年度	928	28	4	13	11	6	2	2	1	1	4
2015年度	852	24	5	8	9	8	1	0	0	1	4
2016年度	793	29	10	17	8	13	1	0	3	2	5
2017年度	726	13	15	14	4	9	2	0	0	0	6

註：各年度実受講者1名しかいなかった都道府県は「その他」にまとめた。なお、該当する都道府県は2013年度は愛媛県、山口県、石川県、福島県。2014年度は沖縄県、広島県、山口県、千葉県。2015年度は宮城県、長野県、和歌山県、岡山県。2016年度は長崎県、千葉県、石川県、富山県、和歌山県。2017年度は奈良県、埼玉県、東京都、広島県、千葉県、和歌山県である。

表9 各年度における受講スタイルごとの実受講者数（下段は各年度の受講者数を100とした際の割合）

	必修のみ	必修・選択×1	必修・選択×2	必修・選択×3	選択×1	選択×2	選択×3
2014年度	141	43	37	584	88	46	69
	13.99%	4.27%	3.67%	57.94%	8.73%	4.56%	6.85%
2015年度	115	29	39	551	75	47	64
	12.50%	3.15%	4.24%	59.89%	8.15%	5.11%	6.96%

註：選択講習を3講習以上受講していたものも、「選択×3」とした。また、必修講習を2講習以上受講していたものは、選択講習受講数にあわせて集計した。

	必修のみ	選択必修のみ	必修・選択必修	必修・選択必修・選択×3	選択×1	選択×2	選択×3	その他 (左記以外の組合せ)
2016年度	41	13	61	504	81	36	45	109
	5.20%	1.65%	7.73%	63.88%	10.27%	4.56%	5.70%	13.81%
2017年度	21	14	43	483	49	39	25	115
	2.66%	1.77%	5.45%	61.22%	6.21%	4.94%	3.17%	14.58%

6 講師によるふりかえり

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	大日方 真史	記入年月日	2017 年 6 月 22 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：149	講習会場 (教室等)	教養教育 3 号館
講習名	教育の最新事情 1		
講習の目標	対話を通じて、子ども観、教育観等の「観」を確かめ合い、多様な視点から、教員にとつての観の意義を共同的に探究する。 自身の観を省察し、教員としての自覚と展望をより確かなものにする。		
授業概要 (大まかな流れ)	【前半 55 分間】 解説① 【後半 50 分間】 解説② 観の省察と対話		
活用した資料・データ等	自作パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 昨年の反省を生かした修正によって、改善されたと考えている。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 行き届いていた。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 6 月 23 日
講習の区分	O必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種 (幼・小・中・高校・特別支援等) 教員 151 人 (教室等)	講習会場 (教室等)	三重大学教養教育校舎 3 号館
講習名	教育の最新事情 1 世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題		
講習の目標	世界の学校から学ぶ ・我が国の学校教育のよき・課題を考える ・授業・学習活動のとり組みを見直す ・ICT (情報コミュニケーション技術) を上手に使うヒントを知る 発信活動・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの現状や課題を知る 担当する 1 時間 45 分の流れ		
授業概要 (大まかな流れ)	前半 ドイツの幼稚園、小学校での授業から学ぶ → アメリカの小学校、中学校、高校での授業から学ぶ → 情報化時代の学び (第三の波から)、学習理論の変遷、多重的性論 後半 教育実践を進める上での我が国の教育の現状と課題、教育政策 → アジア (中国・韓国・インドネシア) の学校から学ぶ → アフリカ (ギニア) の学校から学ぶ → 授業実践を改善するヒントとまとめ		
活用した資料・データ等	以上の講習を 1 日 3 回行った後、45 分の履修認定試験 ・須曾野が、ドイツ、米国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニプレゼンテーション用「3 S カード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・昨年 6 月に、ドイツ・フライブルクで訪問した幼稚園や小学校の様子を画像で紹介できよかったです。 ・アフリカ・ギニアや中国から三重大学で学んでいる留学生から現地の教育事情や学校の様子を話していただきました。受講参加者にとって、アフリカの教育事情を聞くのは始めてで貴重な話となったようです。英語での話でしたが、ギニアの学校建設等インフラ整備で日本の政府や機関が多額のお金を援助しているという話が印象に残りました。 ・教育政策の動向や現場での教育課題について、ミニプレゼン用の 3 s カードを使って、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習者と話ができるので好評でした。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・受講者からの感想として「特にスリーエスカードが大変よかったです。」「須曾野先生の講義では、具体的な写真や経歴を交えながら、受講できたのでとてもわかりやすかったです。」「私たちの知りたい所を話していただきありがとうございました。」という感想が多く、私としてもやりがいがありました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・教養教育機械校舎 3 号館の教室は、教育学部より広い教室なので、グループ活動を進める上で、やりやすいです。 3) その他 ・3 人体制での必修講習は、時間的な余裕がなく、受講者からも「3 つの講習をもっとじっくり聴きたかった」「45 分で 3 校の試験にとり組むのが大変」という声が聞かれたのが課題である。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2017 年 6 月 11 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2017 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：151 名	講習会場 (教室等)	教養教育 3 号館 1121、1131、1221
講習名	教育の最新事情 1 障害の重い子どもたちの理解と支援		
講習の目標	特別支援教育に関する最新の動向について触れた上で、近年、増加が指摘されている重度・重複障害児について概説する。特に、医療的ケアを必要とする子どもたちの特徴と評価のあり方について、事例検討を通して教育支援のあり方について理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	重度・重複障害児の概説をした上で、事例検討のための動画を視聴した。その後、受講者 5～6 名を 1 つのグループとし、教育支援のあり方についてのグループワークを実施した。		
活用した資料・データ等	スライドショー (パワーポイント) スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 事例検討のための動画		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 1 日に 3 回講習を実施した。1 回目の講習については、時間配分がうまくいかなかった。そのため、2 回目、3 回目の講習では、視聴する動画を短いものに変更し時間調整を行った。講習では、グループワークを取り入れるようにした。異校種の先生方の意見交換、討論ができたことは良かったと思う。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 受講生の受付、機材のセッティング等、講習を行うにあたり事務職員の皆様には大変お世話になりました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菊池 紀彦	記入年月日	2017 年 6 月 18 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：37 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 201 教室
講習名	教育の最新事情 2 特別支援教育に関する我が国の動向と子ども理解		
講習の目標	平成 28 年 4 月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に基づいて、特別支援教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説する。併せて、障害の重い子どもたちについて概説するとともに、彼らの発達の特徴と心理学的評価について、事例検討を通して教育支援のあり方について理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 障害者差別解消法について、インクルーシブ教育との関連や、合理的配慮のあり方について概説した。 2. 重症心身障害児の概説を行い、事例検討のための動画を視聴した。その後、受講者 5～6 名を 1 つのグループとし、教育支援のあり方についてのグループワークを実施した。		
活用した資料・データ等	スライドショー (パワーポイント) スライドショーから一部資料を抜粋して受講生に配布 事例検討のための動画		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者の大半は、特別支援教育に関心をもつ方々だったと思います。グループワークを行いました。校種の異なる先生方同士で情報交換をすることができたのは刺激になったとの声が聞かれました。今回、必修講習を 2 回 (1 人講師体制、3 人講師体制) 担当しましたが、講習の内容を深めることができるという点において、1 人講師体制の方が良いように感じました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 受講生の受付、機材のセッティング等、講習を行うにあたり事務職員の皆様には大変お世話になりました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	森脇健夫	記入年月日	2017 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教員 人数：126 人	講習会場 (教室等)	教養校舎 3 号館
講習名	教育の最新事情 3		
講習の目標	教育政策の動向を知る 三重県の実情を知る 授業のユニバーサルデザイン化と活用型学習について知り、簡単な指導案をつくる ことができる。		
授業概要 (大まかな流れ)	中教審答申、新学習指導要領についてそのポイントを解説。 全国学力学習状況調査から見える三重県の実情を明らかにした。 今後求められる授業として授業のユニバーサルデザイン化と活用型学習について、 具体的に事例を示し、活動をつくってもらった。		
活用した資料・データ等	中教審答申 全国学力学習状況調査		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) リポート3回は、以前のリポート2回に比べてかなり内容の圧縮が免れず、受講者の消化不良を引き起こしています。講師側の体力消耗も厳しいので、次年度からはリポート3回の必修講習は辞退させていただきます。選択必修、あるいは選択講習にまわらせていただきます。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) とくに問題は感じません。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	伊藤敏子	記入年月日	2017 年 6 月 27 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2017 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	全教諭 人数：126 名	講習会場 (教室等)	三重大学教養教育校舎 3 号館 1121 教室・1131 教室、1221 教室
講習名	教育の最新事情 ―諸外国の事情との比較から―		
講習の目標	1. 学力の向上 ・ 学ぶ力に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・ その対応としてどのような事例があるかを知る。 2. 心の教育の推進 ・ 自己肯定感に関して何に留意が必要であるか、統計等から分析する。 ・ その対応としてどのような事例があるかを知り、自らが何を行えるか考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00 - 10:50 第1グループ：学力の向上・心の教育の推進 11:05 - 13:50 第2グループ：学力の向上・心の教育の推進 14:05 - 15:55 第3グループ：学力の向上・心の教育の推進 16:05 - 16:50 試験 16:50 - 受講者評価		
活用した資料・データ等	・ PISA ・ TIMSS ・ 全国学力・学習状況調査 ・ 日本語教育が必要な外国人児童・生徒の受け入れ状況に関する調査 ・ TALIS		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・ 校種の相違、職務の相違、年齢の相違を超えて興味をもってもらえる (理解して試験に臨んでもらえる) 内容を選定することはやはり難しいと感じます。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・ すべて丁寧にサポートしていただきました。ありがとうございます。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	富田昌平	記入年月日	2017 年 6 月 2 7 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 2 5 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：保幼小中高特支 人数：126 人	講習会場 (教室等)	1121, 1131, 1221
講習名	教育の最新事情3 ～発達を見る目と子ども理解～		
講習の目標	1. 子ども・子育てを取り巻く現状について理解する。 2. 幼児教育の実践と世界的な動向について理解する。 3. 子どもの発達を支え促す上で大切にすべき事項について理解を深める。 4. 新要領・指針をふまえた新しい教育の在り方についての理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:50 1 回目 (子ども・子育ての危機の時代、今、幼児教育は注目されている、乳幼児期の教育で大切にしたい3つのこと、新しい教育の在り方に向けて) 11:05-12:00 2 回目前半 (※1 回目と同じ) 12:00-13:00 昼休憩 13:00-13:50 2 回目後半 (※1 回目と同じ) 14:05-15:55 3 回目 (※1 回目と同じ) 16: 05-16: 50 テスト 16:50- 受講者評価書記入		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料 ・子どものビデオ映像		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 乳幼児期の教育・保育に特化した話であったが、生涯発達における乳幼児期の大切さや、子どもの発達を支え促し、子どもを学ぶ意欲を持った主体へと育てていく上で何が必要かについて、思った以上にしっかりと聞いてくれ、理解してくれたように思う。ただ、必修講習で求められているものの重みを考えると、やはり3人での分担であるとはいいえ、2 時間弱では短すぎると感じた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) こちらが用意した PC が起動しないというアクシデントがあり、かなり焦ったが、本部の皆さんに迅速に対応していただき、大変助かった。自分で用意する場合でも、念のため用意しておいてもらった方がよいかなと感じた。次回に活かしたい。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒川哲郎	記入年月日	2017 年 7 月 6 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教員 人数：43 人	講習会場 (教室等)	教育学部 201 教室
講習名	最新の教育事情		
講習の目標	様々な支援を必要とする子どもたちとまわりの子どもたちの関係の在り方を具体的なコミュニケーションの視点から、とらえて、教育活動をどのように考えるのかを議論する。		
授業概要 (大まかな流れ)	現在、様々な支援を要する子どもたちへの合理的な配慮をすることが求められています。特に、障がいのある人たちから合理的な配慮が求められると応じる義務があります。そこで、合理的配慮の基本的な概念を学んでもらい、その配慮がなぜ必要なのかを理解してもらうことを議論した。さらに障がいのある子どもたちが特別な扱いにならないための学校の在り方について、討議しました。		
活用した資料・データ等	NHKが制作した「障がいのある人たちの権利」について解説している「世界の障害者権利条約」についての映像をみて、合理的配慮を理解してもらうこととした。また、東井護士が書いた「なぜ合理的配慮が障がいのある人たちの権利なのか」の文献を参加者と読み込み、討論しました。さらに北欧諸国の配慮についての考え、イタリアの精神医療の思想などを紹介して、配慮が特別扱いにつながらないための教育について考察した。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 参加者のグループ学習を丁寧にして、配慮について考えてもらう機会わつくつたので、参加者の理解は進んだ。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 暑い日であったが、空調設備がうまく活用されて、体調の管理はうまく進められた。活用機材も上手く活用された。会場も空間の余裕があり、気持ちも楽に過ごせたと思われた。 3) その他 他県からの受講生もあり、講義の雰囲気づくりに気を使ったが、参加型学習で自己紹介から始め、各グループの運営もみんなが対等に参加できるように配慮して、かなり討論も活発にされた。学校の具体的な事例をうまく提案できるように問題提起も大切なことと認識しました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦直己	記入年月日	2017 年 7 月 11 日
講習の区分	○必修講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：26 人	講習会場 (教室等)	1 号館 301
講習名	必修講習「教育の最新情報」		
講習の目標	子どもの発達について、最新の認知神経科学の知見、および脳画像研究の成果を踏まえて理解する。特に発達の遅れがある子どもたち、問題行動を派生させる子どもたちの発達特性について、最新の精神医学の知見を踏まえて理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	日本の学校教育の特性、特に学級経営の意味合いについて概説する。その後、脳の成熟から見た子どもの発達と、第二次性徴期の問題行動について説明した。午後は、ADHD (注意欠如多動症) および学習障害 (眼性学習障害や発達性ディスレキシア) について詳説した。		
活用した資料・データ等	認知神経科学分野の論文、画像データなど。 文部科学省の校内暴力や不登校のデータなど。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 全員熱心に講義に参加してくれた。質問の時間をとったが、それでは足りないくらいであった。次回はもう少し質問の時間を確保すべきであった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 準備、会場、補助員とも問題ありません。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2016 年 7 月 30 日
講習の区分	○必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種 (幼・小・中・高校・特別支援等) 教員 50 名	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 1 号館 201 室
講習名	教育の最新事情——教員として学び続け、教育実践を改善する		
講習の目標	1. 教育実践の改善のヒントをつかむ 世界の学校から学ぶ 我が国の学校教育のよさ・課題を考える ICT (情報コミュニケーション技術) を上手にえば、学習・授業が変わる 心理学などの知見から 2. 教職生活のふり返し、教員として学び続けることがわかる 教員としてアクティブラーニング 発信活動・言語活動の充実世界の学校から学ぶ		
授業概要 (大まかな流れ)	- 世界の学校と教育課題 ドイツ、アメリカ、中国、韓国、インドネシア、ギニアの学校授業 情報化時代の学び (第三の波から) 我が国の教育の良さ、教育課題、教育政策 教育実践を改善するヒント ICT の学習利用 - 心理学、教育学、情報科学などの最新の知見 学習理論の変遷、多重知性論、発達の最近節領域 - 教職のふり返し、教員としての学び 反省的実践者としての教員 3 s カードを使つてのふりかえり 学び続ける教員とアクティブラーニング デジタルストーリーテリングでのふり返し		
活用した資料・データ等	- 須曾野が、ドイツ、米国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 - ミニプレゼンテーション用「3 S カード」 - 県内特別支援学校高等学校生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須賀野 仁志	記入年月日	2017 年 8 月 23 日
講習の区分	O必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 93 人	講習会場（教室等）	三重大学教養教育校舎 3 号館
講習名	教育の最新事情 7 世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題		
講習の目標	世界の学校から学ぶ ・我が国の学校教育のよさ・課題を考える ・授業・学習活動のとり組みを見直す ・ICT（情報コミュニケーション技術）を上手に使うヒントを知る 発信活動・言語活動の充実 ・アクティブラーニングの現状や課題を知る		
授業概要（大まかな流れ）	担当する1時間45分の流れ 前半 ドイツの幼稚園、小学校での授業から学ぶ → アメリカの小学校、中学校、高校での授業から学ぶ → 情報化時代の学び（第三の波から）、学習理論の変遷、多重知性論 後半 教育実践を進める上での我が国の教育の現状と課題、教育政策 → アジア（中国・韓国・インドネシア）の学校から学ぶ → アフリカ（ギニア）の学校から学ぶ → 授業実践を改善するヒントとまとめ		
活用した資料・データ等	以上の講習を1日3回行った後、45分の履修認定試験 ・須賀野が、ドイツ、米国、ドイツ、インドネシア、韓国の学校で撮影した授業や学校施設を撮影した写真、中国留学生からの中国教育事情、ギニア教員留学生よりアフリカの教育事情 ・ミニプレゼンテーション用「3Sカード」 ・県内特別支援学校高等部生徒が制作したデジタルストーリーテリング作品、作品		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・昨年6月に、ドイツ・フライブルクで訪問した幼稚園や小学校の様子を画像で紹介できよかったです。 ・アフリカ・ギニアから三重大学で学んでいる留学生から現地の教育事情や学校の様子を話していただきました。受講参加者にとって、アフリカの教育事情を聞くのは始めてで貴重な話となったようです。英語での話でしたが、ギニアの学校建設等インフラ整備で日本の政府や機関が多額のお金を援助しているという話が印象に残りました。 ・教育政策の動向や現場での教育課題について、ミニプレゼン用の3Sカードを使って、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習者と話ができるので好評でした。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・受講者からの感想として「世界の学校をすべてとても興味深かったです。自分も行ってみたいと思います。」「ユーモアも交えて楽しい講習でした。」「教育の大切な視点「不易と流行」について改めて考えさせられました。」「軽快な話し口でわかりやすかった」という感想があり、私としてもやりがいがった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教養教育機構校舎3号館の教室は、教育学部より広い教室なので、グループ活動を進める上で、やりやすいです。 3) その他 ・3人体制での必修講習は、時間的な余裕がなく、受講者からも「3つの講習があり、45分間の試験で3つの論述は時間的に大変きいです。」「それぞれの講習ごとにテストという形にしていただけだった。」という声が聞かれたのが課題である。		

講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・必修講習6月担当分は3人体制のものでしたが、今回の講習は1人で担当する講習だったので、時間的にゆとりと話ができよかったです。 ・世界の学校の様子を6ヶ国取り上げましたが、今回も教員留学で三重大学に学んでいるシッセさんにアフリカ・ギニアの学校教育のことを話してもらったり、中国人留学生（大学院生）に中国の学校事情について話題提供してもらいましたが、現地のこととをよく知る人からの話は大変興味深く、受講者からの反応もよいものがありました。 ・外国の学校の様子を画像で紹介し、外国の学校から学ぶことだけでなく、日本の学校や教育について見直すことができました。 ・ミニプレゼン用の3Sカードを午前午後それぞれ1回ずつ使いましたが、立ち歩いたり、周りの人と交流してもらいましたが、これは受講者にとって様々な必修講習参加者と話ができるので好評でした。 ・受講者からの感想として「現場では普段なかなか学びにくいことを学べました。また、改めて子どもたちの前に立つ教師としての自覚、責任、やりがい、熱意に気づく機会を与えていただきました。ありがとうございました。」「話術がすばらしく、迫屈することなく1日を終えました。先生の身近な体験が聞けて本当に良かったです。」「先生の人柄が良かった。外国で授業の形態が違ふことを知ることができてよかった。」という感想があり、私としてもやりがいの大きい講習となりました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教育学部専門校舎1号館のやや大きな教室でしたが、手狭でした。教育学部専門校舎1号館の教室は広いので、50人以上の講習ではそちらで担当したいです。グループ活動も広い方がやりやすいです。 ・今年も、昨年と同様、数日前に、持ち物や留意事項を連絡するメールを一斉送信しました。それが講師と受講者の距離を縮めることも大事であると思います。 3) その他 ・必修講習が1日となり、前回の3人体制での講習担当での反省をいろいろ生かすことができました。
----------	---

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	南 学	記入年月日	2017 年 8 月 23 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：93 人	講習会場 (教室等)	教養教育 3 号館
講習名	教育の最新事情 一学校を巡る現状把握のためのデータリデラシー――		
講習の目標	現在学校を取り巻く環境は大きく急速に変化してきている。そうした中で状況を適切に把握するためには、個人の経験だけでは間に合わず、さまざまなデータから読み取る必要がある。本講では、現状を把握するための多様な観点からの実際のデータを提示し、そこから現状をどのように読み取ればよいのかについて受講者とともに考えていく。		
授業概要 (大まかな流れ)	1) 児童・生徒の学習・学力 2) 教育改革についての教師の意識 3) 教師と保護者の意識のずれ		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・それぞれのトピックに関して、実態の概要を説明した後、小グループに分かれて意見交換や議論をおこなった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・資料が多く、事前の準備はたいへんであったが、当日は適切にサポートしてもらい、助かった。 3) その他 ・今回の内容をぜひ現場で活用してもらえるところならうれしいです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦直己	記入年月日	2017 年 8 月 28 日
講習の区分	必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：36	講習会場 (教室等)	教養棟 3 号館
講習名	【必修】教育の最新事情 9		
講習の目標	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	最近の脳科学は、MRI 等の機器の進歩と相まって大きく発展している。この状況は、引きこもり、不登校、キレル子、精神不安定な状況を克服する手立てや学習意欲の喚起等の指導に示唆を与えている。本講習では、脳科学や心理学の知見を探究し、教育に活かすことができることを目指す。特別な支援を必要とする子どもは、約 10%程度であることと、近年の研究が明らかにしています。このような子どもたちを支援する上で必要なのは、認知特性や行動特性、心理的特性を理解することです。また脳科学的知見を吸収することで、子どもたちの発達をより科学的に捉えることができます。本講義では、脳科学的な知見をできるだけわかりやすく伝える。		
活用した資料・データ等	・脳画像研究の資料 ・校内暴力の推移の資料 ・不登校の児童生徒の推移の資料 ・実際の脳の模型		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 筆記試験の状況や、評価表を読む限り、満足していただけだと思う 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 指定された教室のエアコンが壊れており、事前にわかっていたとのことであった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒川哲郎	記入年月日	2017 年 10 月 3 日
講習の区分	〇必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教員等 人数：14 人	講習会場 (教室等)	教育学部一号館 303
講習名	最新の教育事情		
講習の目標	障がいのある人たちと共にいきっていくための社会の在り方を考える。 障がいのある人たちが地域の通常の学校で学ぶための教育制度の改革について、 具体的に考える。特に、障がいのある人たちの法的な権利、合理的配慮を進める ことで、インクルーシブな教育の実現の可能性に挑戦する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 障がいのある人たちと関係づくりをしていく基本的な配慮事項を把握する。 2. 合理的配慮の概念を習得するために、国連の障害者権利条約について学ぶ。 3. 日本の社会づくりの基本的な配慮における障がいのある人たちへの差別について考察する。 4. 基本的な配慮の教育における具体例を紹介する。		
活用した資料・データ等	障害者白書 2016 障がいのある人たちの権利について資料。 福祉ネットワーク 世界が定めた障害者の権利 NHK 寝たきり老人のいる国いない国 大熊由紀子 ぶどう社		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 参加者が興味を持ち、講義を聴けるように具体的な学校の課題に沿って 問題を作り、参加者と一緒に考えた。 試験についても、具体的な教育の課題を設定して、具体的な回答ができるように 工夫をした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) DVD などの映像を活用して、世界の様々な国における教育の支援を参加者へ 見せて、具体的な意見を話してもらった工夫をした。 会場は人数がすくないために、ゆったりと余裕のあるスペースを確保して 講習を進められた。 3) その他 参加型の学習として、グループを作り、話し合いをして、課題について、討論を してもらった。討論により、問題の解決も様々な角度から考えることができた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦 均	記入年月日	2017 年 6 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 11 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：40	講習会場 (教室等)	教養教育 1201
講習名	学校における危機管理について		
講習の目標	学校における危機管理について、学校安全、安全教育の観点から様々な事例をも とに考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-10:30 学校安全と安全教育 (附属池田小学校事件を中心に) 10:40-11:50 同上 (安全教育における課題とリスク評価について) 午後 13:00-14:30 リスクに関する人間の行動特性 14:40-15:50 グループ課題セッション (マネージャーゲーム) 16:00-16:40 試験		
活用した資料・データ等	プロジェクタ、KeyNote 資料 附属池田小学校の防犯訓練の DVD さすまた 防災訓練事例の短い映像 マネージャーゲーム		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ■防犯意識についての再認識ができた／附属池田小の事件の詳細を聞き風化させ てはいけないと感じた／現場に必要なことであり、もう一度考えたい／子どもたち を守らねばという意識が高くなった／さすまたの使い方を知った／職場の危機管 理意識を考えた／資料も説明もわかりやすかった／自分の危機管理について考え た／他 ■リスクの考え方がわかった／人間の行動特性を心理学の観点で説明されてよく わかった／学校全体でリスクの基準をもう一度見直したい／他 ■マネージャーゲームを初めて経験した。やってみてよかった／大変興味深いゲー ムだった／情報を正確に伝達することの難しさを感じた／情報がわからないこと にこんなに不安を感じるとは思わなかった／立場によってもの見方が変わるこ とがよくわかった／職場研修でも取り入れてみたい／他 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) とくになし 3) その他 とくになし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2017 年 6 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：19	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	三重県の特別支援教育の課題		
講習の目標	2007 年から、全国で特別支援教育が始まり、学校をめぐる近年の状況はめまぐるしく変化している。三重県においても、特別支援学校の新設や再編など、改革が進められているものの、今なお課題も多い。幼稚園・小学校・中学校・高等学校でも、特別支援教育に関わる様々な課題が存在する。県内の状況を紹介しつつ、今後の方向性を探る。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 特別支援教育について (概説) 三重県の特別支援教育の現状と課題について 障害のある児童生徒とのかわりについて (発達障害を例として) まとめ		
活用した資料・データ等	三重県特別支援教育推進基本計画 PDF 発達障害について DVD 感覚と内面について DVD		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 特別支援教育に携わってきた教員を対象として想定していたが、これから初めて携わるという教員や、基本的なことを教えてほしいという受講者が殆どだった。そのため、キャリアがある教員にはむしろ伝える側となって頂き、グループワーク等を取り入れることで、学び合いの場を築くことを心がけた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 日頃から使用している教室であったため、スムーズな運営が可能であった。補助員からも適切な支援を受けた。 3) その他 次の通り、アンケートの記述からもある程度の満足が得られたものと思われた。「とても分かりやすいやくみ砕いて説明して下さったので教育活動に活かせる部分が多々あった」「特別支援教育の基本的な部分について説明をして頂けて良かった」「知らないことが多くあった」「三重県の特別支援教育の状況について全く知らない私にもわかりやすく説明して頂き、本当に良い時間となった」「長時間の講習でしたが興味深くわかりやすく最初から最後まで意欲的に受講できた自分に驚いていた」「もっともっと勉強したいと思った」「本当に教われた一日だった」。 ただし、本来は特別支援教育に携わる教員のための専門的な内容の講習であり、「正直に申しますと、もっと専門的な知識が深められれると思っていました。しかし、特別支援教育の現状については知ることができ、また、講義も受講者に合わせて内容等が工夫された良いものだったと思います。」という御意見もあった。頂いた貴重なご指摘を踏まえ、今後とも、授業の充実にも努めて行きたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 6 月 30 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種 (幼・小・中・高校・特別支援等) 教員 38 人 (教室等)	講習会場 (教室等)	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	参加型アクティブラーニングのための ICT 学習利用		
講習の目標	・アクティブラーニングとは何か、その進め方や留意点を理解する。 ・アクティブラーニングでの ICT 学習利用の方法を知る。		
授業概要 (大まかな流れ)	・学級授業「教育の方法と技術」の内容の紹介、以前との違い ・教育工学は、教育工 (夫) 学。 ・30 年近く前の公立中学校での実践「芭蕉データベース」 ・本日の演習 1. 「1 枚の写真を大勢の人に見せるには」 2. 「Moodle を使ったコミュニケーション」 3. 「紙の 3 s カードを使って」 博物館のこと 4. 「ペイント」を使った「デジタル五七五」 5. 「Web 3 s カードを使って」 6. 「ムービーメーカーを使ったスライドショー試作」 ・まとめ アクティブラーニングでのポイントと ICT の利用		
活用した資料・データ等	・本講習用に制作したパワーポイントスライド、 ・デジタルストーリーテリング制作用マニュアル 須曾野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・昨年から導入された選択必修講習であるが、必修と選択講習の間に位置するものである。必修講習では、講義での ICT 学習利用の紹介となるが、選択必修では具体的に参加者にコンピュータを使っている演習を取り入れたのがよかった。 ・6 種類の演習を取り入れたが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、および特別支援学校の教員にとって、実際の現場で役立つものを体験してもらいうことができた。興味があるものは選択講習で 1 日じっくり取り組んでいきたい。 ・講習参加者のアンケート感想に「内容は ICT にあまり通じていない自分にとって新鮮なものでした。」「得意分野ではなかったのですが、受講してよかったと思いました。ついていくのに精一杯でしたが、一人で学んでいては得られなかったようなことを学ぶことができました。」というものから「ICT をいかに魅力的に使えるかを考えさせられました。たくさんの方の共有の方法であったり、ICT のどのような使っているかがわかりやすかったです。」「参加型の講習で素晴らしい講習でした。」という感想まで様々であった。今回の講習では、演習が盛りだくさんであったが、まずまずの評価や感想が得られた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・初めての選択必修講習の担当であったが、会場準備など、スタッフの皆さんのおかげで、受講者の方々に満足いく講習になりました。 ・補助者が 1 人であったが、マイクの準備や全体のサポートをよく頑張ってくれました。 3) その他 ・ほぼ定員の参加者があり、やりがいがあった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	永田 成文	記入年月日	2017 年 7 月 2 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・高特別支援の教員 人数：28	講習会場 (教室等)	教養教育 1 号館 101 教室
講習名	多文化共生を視野に入れた異文化理解学習		
講習の目標	学校教育における様々な国・地域における異文化体験を活用した異文化理解学習の特色やその授業構成をつかみ、それぞれの校種・教科等における異文化理解学習を構想できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	○異文化理解学習の学校教育における必要性をとらえる。 ○写真を活用した異文化理解学習を考える。 ○異文化体験を活用した異文化理解学習を考える。 ○異文化理解に着眼した異文化理解学習を考える。 ○異文化対応に着目した異文化理解学習を考える。 ○学校教育の校種・教科等を踏まえた異文化理解学習を構想する。		
活用した資料・データ等	○異文化の背景を考える写真 ○異文化体験の活用を考える VTR ○異文化の具体例 (中国の箸) ○異文化理解を深める優れた授業実践の分析 ○開発単元で使ったワークシート		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 選択必修講習を意識して、幼稚園から高等学校までの発達段階に応じた異文化理解学習をカバーできるように努力しました。やはり、核となる教科等で説明する必要があると感じました。普段、単元計画を意識していない先生方もおられますが、講習を基にして授業や活動を計画してもらいたいです。 事前課題をグループで発表してもらい、先生方自身が異文化体験で交流し合うことは効果があると思いました。 試験の時に、説明を加えて集中できない受講生がいいたようなので気をつけたいと思います。試験時間は様子を見て延長するつもりでしたので、初めから伝えることはしませんでした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 機材はきちんと設定して頂き助かりました。パソコンで複製ではなく拡張の設定であるとパワーポイントやビデオ等が映らない場合があるので、そのことを講師の先生方に伝えておくとういと思います。 3) その他 受講生の授業時の雰囲気はよかったですと思います。しかし、アンケートですべて低評下の方がおりました。講習内容をきちんと把握して受講して頂きたいです。現場の教育課題として異文化理解学習をどう意識してきたかの差だと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	大日方 真史	記入年月日	2017 年 7 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：	講習会場 (教室等)	教養教育 3 号館 1201 教室
講習名	学校・家庭・地域の望ましい関係を探る		
講習の目標	学校・家庭・地域の間の関係形成が今日いかに重要課題であるか確認しつつ、望ましい関係がいかなるものであり、いかに形成されるかを共同的に探究する。 学校・家庭・地域の望ましい関係を形成するための教師の役割を自覚し、実践の展望をより確かなものにする。		
授業概要 (大まかな流れ)	自己紹介 (課題意識の紹介を含む) 映像視聴 映像をめぐる議論 解説 (政策的背景、施策動向、社会的背景、問題と展望) グループワーク		
活用した資料・データ等	映像資料 スライド資料 (配布)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 家庭・保護者との関係に関心のある受講者と地域との関係に関心のある受講者の間で、議論が十分に噛みあいきれなかったことが反省点。 事前の要望で具体例の紹介を求める声が目立ったためそのように対応したが、そのことに対しては肯定的な感想に加え、不満の声もあった。一方、講師からの解説を長いと感じたという声もあり、多様な要望に応える難しさを感じた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 機材面で、事前準備の段階からたいへん助けられた。 3) その他 特になし。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2017 年 7 月 5 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：21	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	三重県の特別支援教育の課題		
講習の目標	2007年から、全国で特別支援教育が始まり、学校をめぐる近年の状況はめまぐるしく変化している。三重県においても、特別支援学校の新設や再編など、改革が進められているものの、今なお課題も多い。幼稚園・小学校・中学校・高等学校でも、特別支援教育に関わる様々な課題が存在する。県内の状況を紹介しつつ、今後の方向性を探る。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 特別支援教育について (概説) 三重県の特別支援教育の現状と課題について 障害のある児童生徒とのかかわりについて (肢体不自由・病弱を例として) まとめ		
活用した資料・データ等	三重県特別支援教育推進基本計画 PDF 肢体不自由について DVD 医療的な支援が必要な児童・生徒について DVD		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 特別支援教育に携わってきた教員を対象として想定していたが、前回(6月18日の同講習)ほど極端ではなかったものの、一般の学校の先生方の割合が高かった。そのため、特別支援に関するキャリアがある教員にはむしろ伝える側となつて頂き、グループワーク等を取り入れることで学び合いの場を築くことを心がけた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 日頃から使用している教室であったため、スムーズな運営が可能であった。補助員からも適切な支援を受けた。 3) その他 次の通り、アンケートの記述からも一定の満足が得られたものと思われた。 「自身のあまり知らない部分の話をして頂き、とても参考になった」(特支) 「専門性のなさ、また、知識も不十分であることを痛感した」(特支) 「講習タイトルにふさわしい内容で、選択必修として適切だった」(特支) 「要点が明確にされていてよかった」(特支) 「期待を裏切らない講演内容であったと思う」(特支) 6月18日(初心者が大半)の講習と同様の教材を用いて、キャリアのある先生方(特別支援学校の教諭)から上述のようなご評価が頂けたことは励みとなった。頂いた貴重なご指摘を踏まえ、今後とも授業の充実に向けて行きたい。 ただし、2回の選択必修講習を通して、多くの受講者が校種とは関係なく受講して頂いていたため、今後の開設のあり方を再検討したいと考えている。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2017 年 7 月 10 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・高・特支・教委 人数：29名	講習会場 (教室等)	302
講習名	学習指導要領はどう変わっていくのか		
講習の目標	進行しつつある学習指導要領改訂について、小学校を中心に批判的に検討する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 学習課程について考える際の私の拠り所 2. 学習指導要領の変遷 (概要) 3. 一事例から見る学習指導要領改訂～私の授業づくり体験から～ 4. 教育課程行政の根源的問題としての「法的拘束力」 5. 午前前半の講義内容に対する質疑応答・意見交換 6. 現行＝第8期(小・中)・第9期(高) 学習指導要領の実施状況と学習指導要領改訂スケジュール 7. 「ゆとり教育」とは何で、いったいどうなったのか? 8. 「生きる力」路線の継承? 9. 改正(改悪)教育基本法との関係 10. 全教科・領域の「道徳化」? 11. 次期学習指導要領に関する動向 12. まとめ		
活用した資料・データ等	新学習指導要領の理論的基盤である中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2016.12.21)他。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 学習指導要領について改めて検討する必要があるという意識を持っていただけようである。新学習指導要領についてもっと情報がほしかったとの不満意見もあった。はっきり言って他力本願である。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 一昨年までの必修講習と異なり、より少人数でじっくりと学習することができた。多人数講習は今後もやりたくない。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 7 月 9 日
講習の区分	必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 20 人（教室等）	講習会場	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	参加型アクティブラーニングのための ICT 学習利用		
講習の目標	・アクティブラーニングとは何か、その進め方や留意点を理解する。 ・アクティブラーニングでの ICT 学習利用の方法を知る。		
授業概要 （大まかな流れ）	・学部授業「教育の方法と技術」の内容の紹介、以前との違い ・教育工学は、教育工（失）学。 ・80 年近く前での公立中学校での実践「芭蕉データベース」 ・本日の演習 1. 「1 枚の写真を大勢の人に見せるには」 2. 「Moodle を使ったコミュニケーション」 3. 「紙の 3 s カードを使って」 博物館のこと 4. 「ペイント」を使った「デジタル五七五」 5. 「Web 3 s カードを使って」 6. 「ムービーメーカーを使ったスライドショー試作」 ・まとめ アクティブラーニングでのポイントと ICT の利用		
活用した資料・データ等	・本講習用に制作したパワーポイントスライド、 ・デジタルストーリーテリング制作用マニュアル 須曾野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含） ・昨年から導入された選択必修講習であるが、必修と選択講習の間に位置するものである。必修講習では、講義での ICT 学習利用の紹介となるが、選択必修では具体的に参加者にコンピュータを使っての演習を取り入れられたのがよかった。 ・6 種類の演習を取り入れたが、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、および特別支援学校の教員にとって、実際の現場で役立つものを体験してもらったことができた。興味があるものは選択講習で 1 日じっくり取り組んでいきたい。 ・講習参加者のアンケート感想に「長時間の講習でしたが、実習などが含まれており楽しく過ごせました。そして、なにより先生のお声かけが手厚くやさしくあたったことです。」「3 S カード、学校でも使ってみようと思いました。自分でもやってみるということを今日たくさん経験させていただき、子どもの気持ちも体験させてもらったように思います。」「講習内容も分かりやすく、実践が多くてとても勉強になりました。何より楽しい一日でした。こんな講習を増やしてほしいです。」というものがあつた。今回の講習では、演習が盛りだくさんであったが、まずまずの評価や感想が得られた。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・初めての選択必修講習の担当であったが、会場準備など、スタッフの皆さんのおかげで、受講者の方々に満足いく講習になりました。 3) その他 ・定員の半分の参加者しか集まらず、やや残念であった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	原田三千代	記入年月日	2017 年 7 月 12 日
講習の区分	必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：40 人 人数：9	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 402
講習名	作文を通して考える異文化理解教育		
講習の目標	今回の講習では、問題提起学習や作文を通じてグループ活動によって、対話的相互作用を深め、異文化理解や多文化共生を目指す教育を考える機会を持つことを目標とした。		
授業概要 （大まかな流れ）	日本のグローバル化の現状を述べ、まず、母語話者と非母語話者の接触場面を想定し、「やさしい日本語」による対話を試みる。次に、作文に対するフィードバックの在り方を考え、物語の創作を通して、協働的なフィードバックを実践してみる。受講者だけでなく留学生や補助員も参加し、異文化コミュニケーションを体験する。最後に、異文化理解教育についてのまとめを行う。		
活用した資料・データ等	法務省「在留外国人統計」「日本語指導を必要とする児童・生徒数」(2016) 庵功雄 (2016)『やさしい日本語』岩波新書 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣 (編) (2013)『やさしい日本語』は何を指すか』コロン出版 佐藤祥衛(2010)『異文化間教育—文化間移動と子どもの教育』明石書店 西山教行・細川英雄・大木充 (編) (2015)『異文化間教育とは何か』くろしお出版 ハム京子・町憲理子・小池浩子・吉田友子(2009)『異文化トレーニング』三修社 八木浩光(2017)『熊本地震での外国人被災者支援活動』春季日本語教育学会予稿集		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 昨年に比べ今年は少人数だったもので、受講者の発言や活動の様子から内容や進行などを考えながら取り組めた。 受講者の方々は積極的活動に参加してくださり、試験の解答も講座の内容がよく理解されていた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 普段使い慣れた教室で、自分の部屋からも近く、資料などすぐ取りに行けるので、大変やりやすかった。 昨年の人数から考えて、今年は補助員を 2 人にしたが、参加者が少人数だったので、参加人数がもう少し早く把握できればと思った。しかし、参加を予定していた留学生のうち、体調を崩し来られなかった学生がいたので、補助員に活動に参加してもらった。補助員にとっても受講者の方々が学ぶところが多かったようだ。資料配布や設営、片付けなど、とてもスムーズに作業が運んだ。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	瀬戸 美奈子	記入年月日	2017 年 7 月 11 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・中・高教諭 人数：39 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 201
講習名	不登校の理解と対応		
講習の目標	カウンセリングの基礎スキルの習得 事例のアセスメントと援助を考えるプロセスの理解		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00～11：50 午前中：カウンセリングに基礎スキルの実習 13：00～15：50 事例検討（不登校）をグループで行い、発表 16：00～16：40 試験（持ち込み可）		
活用した資料・データ等	講習レジュメ DVD「フーテンの寅さん」 瀬戸が実際に関わった事例を改変した事例資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・演習をベアワーク、DVD 視聴、ペーパーシミュレーション、グループワーク、マシユマロチャレンジと様々な形式で実施した。受講生は飽きずに取り組んだ。 ・事前アンケートで不登校のアセスメントと実際的な対応をのぞむ意見が多かったので、演習内容を精選し、解説を丁寧に行った。 ・試験は演習内容の振り返りを中心とし、持ち込み可にした。受講生は熱心に記述してくれ、演習で行なったことの振り返りによって知識と実践が関連づけられたと思う。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 補助員が臨床への理解があり、演習をスムーズに行うことができた。 3) その他 幼稚園教諭の方の受講も可として実施したが、やはり問題意識や経験のうえで、小・中・高の教員とは違いが大きく、受講評価書からも幼稚園教諭の方のニーズに応えることは難しいことがわかった。次年度、同様のテーマで開講する場合には、幼稚園教諭は対象外としたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	永田 成文	記入年月日	2017 年 7 月 20 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・高特別支援の教員 人数：28	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 302 教室
講習名	多文化共生を視野に入れた異文化理解学習		
講習の目標	学校教育における様々な国・地域における異文化体験を活用した異文化理解学習の特色やその授業構成をつかみ、それぞれの校種・教科等における異文化理解学習を構想できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	○異文化理解学習の学校教育における必要性をとらえる。 ○写真を活用した異文化理解学習を考える。 ○異文化体験を活用した異文化理解学習を考える。 ○異文化理解に着目した異文化理解学習を考える。 ○異文化対応に着目した異文化理解学習を考える。 ○学校教育の校種・教科等を踏まえた異文化理解学習を構想する。		
活用した資料・データ等	○異文化の背景を考える写真 ○異文化体験記の活用を考える資料 ○異文化の具体例（中国の箸） ○異文化理解を深める優れた授業実践の分析 ○開発單元で使用したワークシート		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 選択必修講習を意識して、幼稚園（保育園）から高等学校までの発達段階に応じた異文化理解学習をカバーできるように努力しました。多文化共生を目指すためには「文化を尊重する」「人と仲良くなる」がキーワードであると思います。講習を基に、多文化共生を視野に入れた授業や活動を計画してもらいたいです。 事前課題をグループで発表してもらい、先生方自身が異文化体験で交流し合うことは効果があると思います。今回、受講生 19 名全員に全体で発表してもらいました。中身も濃い内容であったため時間をとってしまいました。グループ内で発表、代表者が全体に伝える方法であれば、時間も節約できたと思います。時間がおした分、その後の内容が駆け足となったことを反省しております。 試験の前に、説明を加え、試験中は集中してもらえようになりました。試験は講習の内容を反映した解答を期待しております。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 機材は普段から使用している教室であるので落ち着いて対応できました。今回は、パソコンの拡張の設定にも対応できました。 3) その他 受講生の授業時の雰囲気はさらによかったと思います。アンケートも適切に評価していただき、来年度もさらに工夫してのぞみたいと思います。 県外から受講していただき、ありがとうございます。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	長谷川 岳雄	記入年月日	2017 年 8 月 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：19 名	講習会場 (教室等)	教育学部多目的ホール
講習名	節目でキャリアをデザインする方法		
講習の目標	1. 社会から求められている能力・スキルを理解する 2. 節目でキャリアをデザインする際に役立つ3つの理論を理解する 3. 節目でキャリアをデザインする具体的方法を理解する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 社会(企業)から求められている能力・スキル 10:30-11:50 これだけは知っておきたい3つのキャリア開発理論 13:00-14:20 節目でキャリアをデザインする方法① 14:30-15:50 節目でキャリアをデザインする方法②		
活用した資料・データ等	・金井壽宏『働く人のキャリアデザイン』PHP新書, 2002 ・J・クランボルト『その幸運は偶然ではないんです！』ダイヤモンド社, 2005 ・E・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房, 1991 ・W・プリッツ『トランジション』創元社, 1994 ・D・レビンソン『ライフサイクルの心理学上・下』講談社学術文庫, 1992 ・渡辺三枝子編著『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版, 2007 ・池谷裕二『脳は何かと言い訳する』新潮文庫, 2010 ・フィリップ・ジンバルド『迷いの晴れる時間術』ポプラ社, 2009 ・キャロル・ドゥエック『やればできる！の研究』草思社, 2008 ・ウォルター・ミシェル『マシマロ・テスト』早川書房, 2015 他		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 受講者の立場が大きく異なる中で、特別支援学級から小・中・高の教員の方に対して、どこをメインターゲットにどのテーマを話したらよいのかも悩みます。昨年度もそうでしたが、 とはいえ、小中高の実情もわかっておりませんで、実務家教員として、ビジネスでの体験、エピソード、及び、大学での教育経験を織り交ぜながら話しました。あとは、受講された先生方の「自分だったら、生徒にこう話す」「うちの高校に置き換えたら、こういうことだ」という現実へ置き換える力にお任せしました。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 「鳥」型にしていたので、議論しやすいように思います。 3) その他 一日の話を聞くのはつらいですし、せっかく先生方が集まっていますので、1コマ(90分)に一回、ディスカッションする時間をとりました。このことは良かったのではないかと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2017 年 8 月 11 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：16	講習会場 (教室等)	教養教育 PBL 演習室 1
講習名	学校におけるキャリア教育と起業家教育		
講習の目標	学校におけるキャリア教育の意味、学校においてキャリア教育が要請されるようになった社会的・経済的背景と若者の職業意識の変化、学校におけるキャリア教育の具体的な方法がわかる。起業家教育の意味と方法が分かり、具体的な事業計画書が作成できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	受講者によるキャリア教育に関する著書の内容紹介。講師によるキャリア教育についての講義。講師による起業家教育についての講義。受講者が事業計画書を作成する。授業者が事業計画書を発表し、評価を受ける。		
活用した資料・データ等	講師作成の「学校におけるキャリア教育と起業家教育」というパワーポイントスライドおよびそれを印刷したもの。 京都リサーチパーク著『集まれ起業家の卵』。 講師所有の起業家教育の事例に関するパワーポイントスライド。		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ほぼ、予定していた内容を講義できた。また、予定していた作業学習をさせることができた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 使用を予定していた iPad のパワーポイントを使用することができず、紙に事業計画書を書かせた。会場は使いやすかった。補助員は、事態の変更によく対応してくれた。 3) その他 事前課題を認識しておらずに、著書についての報告ができなかった受講者が複数いた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加藤裕子	記入年月日	2017年8月11日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年8月9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：39人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎1号館1F01 講義室
講習名	教育相談～学校のチーム支援～		
講習の目標	① 事例検討や異なる校種や業種で働く参加者相互の交流により、自身の実践(経験)を振り返り、今後の方向を見出す。 ② 教育相談の機能を日々の業務に活かし、人と人とのつながりの中で教育活動に取り組もうとする態度を身に付ける。 ③ 未然防止・早期発見・早期対応の予防的な視点を持つ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～10:35 これまでの経験を振り返る。 10:35～13:30 事例検討 A 君の事例 (不登校) (途中1時間休憩) 13:30～14:50 事例検討 B 君の事例 (いじめ予防) 14:50～15:50 教育相談に生かす理論と技法、教師のメンタルヘルス 16:00～16:40 試験 (ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	- 講習全体を通じた資料となるパワーポイント資料 - 経験を振り返り、聴き合うワークのためのプリント - 不登校になったA 君の事例 プリント資料 - いじめを予防したB 君の事例 プリント資料 - 傾聴のスキルを意識して話を聴き合うワークのためのプリント		
講習に関する感想	1) 内容 (経験等を含む) - 本講習は、教育相談の理論や技法については基礎的・入門的な内容であることを募集時と講習開始時に明らかにしたこと、講習参加者の意識を内容に集中させることができました。 - 本講習では新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業」を意識して講習過程を構成しました。参加者に経験的に学んでほしいと考えたからです。グループ討議やペアでのワークを通して、講習参加者の「主体的・対話的で深い学び」が実現していたように考えられました。講習開始時に、新学習指導要領のねらいと関わらせて、参加者に紹介をするとよかったです。 - 事例についてのグループ討議やペアでのワークの時、参加者はまるで学校のケース会議のように真剣に熱心に話し合っていました。このとき、参加者相互の学び合いが実現していたと考えられました。 - 講習前に予定していた内容の順番を、時間の都合で前後を変更して実施しましたが、その方がすっきりとして分かりやすくなったように思います。しかし、時間の配分など事前の検討が必要でした。 - 講習で用いた語彙を説明するとき、具体例がすぐに言葉にならない場面がありました。事前の準備のときに具体例まで考えておきたいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) - 会場の広さは適切でした。参加人数の規模も良かったと考えられます。 - 昨年度の反省を踏まえて、空調など教室環境への配慮が少しずつできるようなりました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	長谷川 岳雄	記入年月日	2017年8月24日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年8月18日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：18名	講習会場 (教室等)	教養教育1号館3F08 演習室
講習名	節目でキャリアをデザインする方法		
講習の目標	1. 社会から求められている能力・スキルを理解する 2. 節目でキャリアをデザインする際に役立つ3つの理論を理解する 3. 節目でキャリアをデザインする具体的方法を理解する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-10:20 社会(企業)から求められている能力・スキル 10:30-11:50 これだけは知っておきたい3つのキャリア開発理論 13:00-14:20 節目でキャリアをデザインする方法① 14:30-15:50 節目でキャリアをデザインする方法② ・金井壽宏『働く人のキャリアデザイン』PHP新書 2002 ・J・クランボルト『その幸運は偶然ではないんです！』ダイヤモンド社 2005 ・E・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房 1991 ・W・プリッツ『トランジション』創元社 1994 ・D・レビンソン『ライフサイクルの心理学上・下』講談社学術文庫 1992 ・渡辺三枝子編著『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版 2007 ・池谷裕二『脳は何かと言いつつ迷う』新潮文庫 2010 ・フィリップ・ジンバルド『迷いの暗れる時間術』ポプラ社 2009 ・キャロル・ドゥエック『やればできる！の研究』草思社 2008 ・ウォルター・ミシェル『マシム・テスト』早川書房 2015 他		
講習に関する感想	1) 内容 (経験等を含む) 受講者の立場が大きく異なる中で、特別支援学級から小・中・高の教員の方に対して、どこをメインターゲットにどのテーマを話したらよいかとても悩みます。昨年度もそうでしたが。 とはいえ、小中高の実情もわかっておりませんで、実務家教員として、ビジネスでの体験、エピソード、及び、大学での教育経験を織り交ぜながら話しました。あとは、受講された先生方の「自分だったら、生徒にこう話す」「うちの高校に置き換えたなら、こういうことだ」という現実には置き換える力にお任せしました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 「鳥」型にしていたので、議論しやすかったように思います。 - 投影資料の抜粋を最後に配りましたが、事前にいただきたいとのコメントがありました。最初に配布して手元ばかり見られても困るので、来年度は最初に簡単なシジメを、最後に投影資料抜粋を配るようにしようと思う。 3) その他 一日人の話を聞くのはつらいです、せつかく先生方が集まっていますので、1コマ(90分)に一回、ディスカッションする時間をとりました。このことは良かったのではないかと思います。		

担当講師	早瀬 光秋	記入年月日	2017 年 8 月 25 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高校教員 人数：9 人	講習会場 (教室等)	三重大学
講習名	必要に応じて英語の授業を英語で行う技法		
講習の目標	1. 英語の授業を英語で行うこと(TETE)の必要性とその効果について理解すること。 2. TETE を行うための具体的な手法及び英語運用能力の伸長の仕方について理解し、自分の英語能力伸長法について振り返り対策を考えること。 3. 言語切り替え (code-switching) を含む第二言語習得理論を理解すること。 4. 増えているが英語で授業を行わない理由を分析し理解すること。 5. グループに分かれ授業の全体的課題についての意見交換の後、具体的な英語での授業について指導案を使って検討すること。 6. 自己の英語力伸長の訓練を実際に行い、今後も持続する決意を持つこと。		
授業概要 (大まかな流れ)	1 コマ目(9:00-10:20)：現状分析、理論的背景 2 コマ目(10:30-11:50)：TETE の実演、具体例 3 コマ目(13:00-14:20)：2 つの具体例と自己の英語力伸長訓練 4 コマ目(14:30-15:50)：授業課題及び英語使用についての意見交換 試験(16:00-16:40)：ノート・資料・辞書持ち込み可 評価表書き込み：16:40-16:50		
活用した資料・データ等	＊文科省、平成 17 年度「英語教育改善実施状況調査、平成 18 年度・19 年度小学校英語活動実施状況調査及び英語教育改善実施状況調査 (中学校・高等学校)」「平成 22 年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査 (B 票)」の結果について、平成 25 年度「中学校における英語教育の現状と今後の方向性」、平成 25 年度「高等学校における英語教育の現状と今後の方向性」、 卯城祐司編著 (2014)、「英語で教える英文法：場面で導入・活動で理解」研究社、NHK (2015) 首都圏ニュース(2015.6.1 検索)http://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20150526/5025171.html、MEXT (2016a)「平成 27 年度英語教育実施状況調査 (中学校) の結果概要」、MEXT (2016b)「平成 27 年度英語教育実施状況調査 (高等学校) の結果概要」他。 ＊第二言語習得に関する最新の研究結果。 ＊英語力伸長のための各種ハンドアウト。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) TETE の現状、理論的背景、是非、実行方法、課題について受講生からの積極的な活動参加や質問・コメントを含めながら講義を行った。今回は小学校の教員 4 人が参加されたので、講義もできる範囲で易しい表現を使ったり、言い換え等を行った。結果として、試験回答や評価によれば、困難を感じた人もいたようであった。来年度は「講義言語は英語」と当初から明記したい。一方、中高の先生方の中には、英語が大変流暢な方もおられ、試験回答を英語でされた人もいた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 全体として各種連絡も含め大変順調な運営であり、資料等を印刷していただき感謝です。また、電話での問い合わせに対して丁順に教えていただきました。大學生のアシスタントも進んで補助をしてくれた。 3) その他 大変お世話になりました。		

担当講師	天野 智裕	記入年月日	2017 年 8 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教員 人数：30 名	講習会場 (教室等)	教養教育 1 号館 205 教室
講習名	ユニバーサルデザインの考え方を活かした学級づくり・授業づくり		
講習の目標	ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、学級のすべての子どもにとって快適な空間 (学級・授業・教室環境等) を整備するという「授業のバーサルデザイン」の考え方や具体的な方法等について理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	①教育におけるUD概論 (講義) ②教室環境のUD化 (講義) ③人的環境のUD化 (講義) ④授業のUD化 (講義) ⑤国語における授業のUD化 (演習) ⑥算数における授業のUD化 (演習)		
活用した資料・データ等	●自作パワーポイント (参考資料 「児童心理 2016 年 1 月号別冊『通常学級のユニバーサルデザインと合理的配慮』金子書房」、「小貫・桂 (2014)『授業のユニバーサルデザイン入門』東洋館出版」、「桂聖 (2011)『国語授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版」、「伊藤幹哲 (2015)『授業のUD Books 算数授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版」 ●光村図書二年国語下『お手紙』 ●光村図書六年国語『感情』 ●東京書籍算数二年下『かけ算』 ●学校図書算数六年『速さ』		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・今回は、2 学期以降の授業ですぐに使える具体的な事例を取り入れるようにした。 ・受講者の反応は概ね良好だと感じた。 ・午前中がほとんど講義形式の授業であったので、午前中からグループワークを取り入れた授業を行うべきだった。 ・内容が盛りだくさんで、講習のねらいや到達目標がやや実感しにくくなってしまったのではないかと反省している。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・運営や機材の準備、補助員の援助等、とても良かった。ありがたございました。 3) その他 ・本講義の案内に、「主として小学校の事例をもとに」と記述したが、参加された中学校の先生のお一人が、そのことを知らなかったということを聞いた。講座のタイトルにも記述すべきだったと感じた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加藤裕子	記入年月日	2017 年 8 月 30 日
講習の区分	必修講習・ 選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：39 人	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1 号館 1F101 講義室
講習名	教育相談～学校のチーム支援～		
講習の目標	① 事例検討や異なる校種や業種で働く参加者相互の交流により、自身の実践（経験）を振り返り、今後の方向を見出す。 ② 教育相談の機能を日々の業務に活かし、人と人とのつながりの中で教育活動に取り組もうとする態度を身に付ける。 ③ 未然防止・早期発見・早期対応の予防的な視点を持つ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00～10：35 これまでの経験を振り返る。 10：35～13：30 事例検討 A 君の事例（不登校）（途中 1 時間休憩） 13：30～14：50 事例検討 B 君の事例（いじめ予防） 14：50～15：50 教育相談に生かす理論と技法、教師のメンタルヘルス 16：00～16：40 試験（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	- 講習全体を通した資料となるパワーポイント資料 - 経験を振り返り、聴き合うワークのためのプリント - 不登校になった A 君の事例 プリント資料 - いじめを予防した B 君の事例 プリント資料 - 傾聴のスキルを意識して話を聴き合うワークのためのプリント		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） - 本講習は、教育相談の理論や技法については基礎的・入門的な内容であることを募集時と講習開始時に明らかにしたこと、講習参加者の意識を内容に集中させることができたように思います。 - 本講習では新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業」を意識して講習過程を構成しました。今回の講習では、講習開始時に、新学習指導要領のねらいと関わらせて紹介をしましたので、それを意識した参加者もいたようです。 - 事例についてのグループ協議やペアでのワークの時、参加者はまるで学校のケース会議のように真剣に熱心に話し合っていました。このとき、参加者相互の学び合いが実現していたと考えられました。また、実際の事例を扱ったことで、関心を持って協議に参加できたとの声が受講者評価書に多くありました。 8 月 9 日の講習を踏まえて、講習内容の順序を入れ替えました。最初にそのことを講習参加者に説明したことで、スムーズに講習を進めることができました。 - グループ協議などアウトプットすることが多く、インプットが少なかったとの声もありました。また、事例検討のグループ協議が二つあったことで、活動が単調になってしまった感があります。本講習の課題だと考えます。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） - 会場の広さは適切でした。参加人数の規模も良かったと考えられます。 - 昨年度の反省を踏まえて、空調など教室環境への配慮が少しずつできるようなりました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	中西良文	記入年月日	2017 年 9 月 13 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高特支教諭 人数：30 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 201
講習名	学習心理学から考える協同的アクティブラーニング		
講習の目標	次期学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」、すなわち「アクティブラーニング」が取り上げられているが、この理解を深めるための学習心理学的な知識について学ぶ。また、具体的な方法として重要となる、「協同学習」の技法についても学ぶ。		
授業概要 (大まかな流れ)	グループ：担当学年別・アイスブレーキング 主体的・対話的な学びの重要性を実験などを利用して体感する アクティブラーニングの基礎となる学習心理学の基礎知識について理解する ワーキングメモリが弱い子どもの特徴と支援 ビデオをみて、熟達化と記憶システムの関連について理解 (この中で協同学習の複数の技法についても学ぶ)		
活用した資料・データ等	複数の協同課題 協同学習の技法の一覧 記憶メカニズムの全体像 ワーキングメモリが弱い子どもの特徴についての資料 将棋の熟達者のビデオ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 今回、初めて選択必修講習として、アクティブラーニングを扱った講習を開催したが、現場の先生方の興味の高さをとても感じた。 今回の講習はこれまで行ってきた学習心理学の講習を元にして、派生させたものであったが、アクティブラーニングの内容を加えたために、分量としてかなりたくさんものになった。そのため、今後、内容の整理を行いたい。 これらの知見については、学校現場でどのようにこれらの知見を取り入れるかについて共有の時間を十分取れなかったため、今後どのようにすればよいか工夫を考えたい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 初めての選択必修ということ、慣れないところも多かったが、補助員の人にサポートをいただいた、スムーズに講習を進められ、大変助かった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 9 月 8 日
講習の区分	必修講習 選択講習 ・〇選択必修講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 23 人 （教室等）	講習会場	教育学部専門校舎 1 号館 301 室 （教室等）
講習名	教員のためのインストラクショナルデザインとカリキュラムマネジメント		
講習の目標	・インストラクショナルデザインとは何か、その進め方や留意点を理解する。 ・カリキュラムマネジメントの重要性を知る。 ・三重県内にある地域素材を教材化し、グループでカリキュラムを試作できる		
授業概要 （大まかな流れ）	・教育と学習、デザインとマネジメント、用語にこだわってみると ・教育・授業にもデザイナーが必要 ・TPACK ・授業設計（ID）の目的、プロセス ・「魅力」をデザインする ID 理論 ARCS モデル ・カリキュラムマネジメントとは ・「三重県内にある地域素材から授業等を作ってみよう」 演習		
活用した資料・データ等	・本講習用に制作したパワーポイントスライド、		
講習に関する感想	1) 内容（体験等を含む） ・今年度、国から示された選択必修講習の項目が 2 つ増え、それに対応するために今年度開設した講習であるが、担当者自身がインストラクショナルデザインとカリキュラムマネジメントについて整理するよい機会となった。 ・午前は講義中心で、午後は演習とし、最後にグループでのプレゼンテーションを取り入れたことがよかった。 ・講習参加者のアンケート感想に「今後の教育活動においてとても貴重な情報となった。」「グループワークなど工夫した授業内容で、充実した一日でした。また、ID の学習を続けて、毎日の授業に生かしていきたいです。」「参加型の授業が大好きもしくは、ドキドキするが楽しい。自分の意見だけでなく、たくさんの人達の良いところを知り、新しい発見があり、とても充実した内容である。」「小・中高校の先生方の授業を実際に受けたような気持ちになって楽しかったし、興味深かった。ありがたうカードで他の方からの感想がとてもうれしかった。」というものがあつた。今回の講習では、演習に工夫を凝らしたが、まずまずの評価や感想が得られた。 2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・初めての選択必修講習であったが、会場準備など、スタッフの皆さんのおかげで、受講者の方々にご満足いく講習になりました。 3) その他 ・次回以降、カタカナでの講習名を改善したい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	織田 泰幸	記入年月日	2017 年 10 月 12 日
講習の区分	必修講習 選択講習 ・選択必修講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：12 人 人数：12 人 （教室等）	講習会場	302 （教室等）
講習名	「チームとしての学校」を実現するための基礎講座		
講習の目標	「チームとしての学校」を実現するために重要な基礎的な理論について理解し、実践的な取り組みへとつながる考え方を深めること。		
授業概要 （大まかな流れ）	前半：「チーム」に関する基礎理論、学校の組織マネジメント（80 分） 「チームとは何か」、ビジョン・ミッション・目標、 後半：（80 分）学校の品質管理論、教師の同僚性・協働性 三重県型学校経営品質、QC サークル、教師文化、日本の学校の強み		
活用した資料・データ等	中央教育審議会答申『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について』平成 27 年 12 月 21 日 エドモンドソン『チームが機能するとはどういうことか』英治出版 2014 年。 齋藤孝『人はチームで磨かれる』日本経済新聞出版社 2013 年。 P. レンシオーニ著『あなたのチームは機能していますか？』翔泳社、2003 年。 P. F. ドラッカー著『マネジメント：務め、責任、実践Ⅲ』日 BP 社、2008 年。 W. エドワーズデズミンガ『新経営システム論』NTT 出版、1996 年。		
講習に関する感想	1) 内容（体験等を含む） ・普段の学部の授業で扱っている内容や教育委員会での研修で扱っている内容を、今回のテーマに即して現職の教員向けに再構成した。日頃の授業で行っている教材研究の真価が問われたが、おおむね好感触であったと思う。 ・授業では、講義を主体として、一部でグループ学習や演習問題を取り入れた。講師側の一方的な講義に終始するよりは、受講生同士での意見の交流ができる機会をつくることが重要であると感じた。 ・現職の先生方からは実践的な内容が求められるが、実践的な側面において大学教員が現職の先生方に勝るものはほとんどない。そこで、教育経営学の理論を、教育経営の実践と即した形で紹介することを大切にしたい。 ・講師側の準備不足の危険性を痛感した。授業者の講義内容に対する真の理解や授業の構成の仕方（流し方）が非常に重要であるが、事前の入念な準備を怠ったことが一番の問題であった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・パワーポイントで資料を作成し、授業の途中では具体的なイメージを喚起させるために、写真や画像を多用し、今回は映像をふんだんに取り入れた。 3) その他 ・日頃の授業や教育委員会での研修で扱ってきた内容が、今回の講習に応用できたので、これからも日頃の研究と修養を怠らないことが大切だと感じている。 ・受講者のみなさんの熱心でひたむきな姿勢に感心しました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	エスグデロ・ロベルト・カルロス	記入年月日	2017年 8月 19日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017年 8月 9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校の教員 人数：17人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館3階 PBL演習室
講習名	小学校における英語教育の方法と実践		
講習の目標	小学生は、いかにして外国語を学ぶか及び日本の小中学校教師などのようにして外国語を教えるより良い方法を見出したらよいのかについての理論的・実践的概観を提供する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50 ・日本における早期英語教育 ・英語に対する教師の感覚 ・言語発達・快適ゾーン・子供中心の教室 ・学習スタイル・教授テクニク・教材 13:00-16:00 ・フォニックス・活動とゲーム・教室英語・教科書 16:00-16:40 ・ホームルーム教師とALT・授業計画の理論・グループディスカッション		
活用した資料・データ等	OHP・カメラ・スクリーン・パソコン・教科書と CD-Rom・補助教材・実物教材・フラッシュカード・ボードゲーム・歌・地図・活動用プリント・インタラクティブゲーム		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生は、基礎的な言語教授の技術と理論を学び、同時に教室での活動と基礎的な授業作りの練習を行うことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室はきれいで教えるのに適していた。カメラと OHP も準備されていた。補助員は、出席をとったり、必要なときに手伝ってくれたりして、最初から最後までとても助けになった。 3) その他 パソコンとプロジェクターを接続する HDMI ケーブルが見つからなかったことがセットアップのときに唯一困った。私自身のケーブルを持っていたので講習はうまくいった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	下村 智子	記入年月日	2017 年 10 月 13 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中・高） 人数：36 名	講習会場 (教室等)	
講習名	世界の教育事情		
講習の目標	以下の 3 点を獲得・深化させ、わが国の教育に対する理解を深めること： ・学校教育を捉える多様な視点 ・世界の教育の動向に関する理解 ・教育に関する国際的な動向に対する理解		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～10:20 世界の学校の日常風景 10:30～11:50 諸外国の義務教育制度 13:00～14:20 教育の歴史的・社会的・文化的背景 14:30～15:50 資質・能力を高めるための教育に関する国際的な動向 16:00～16:40 履修認定試験（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	・ 沖原豊著『心の教育』学陽書房、1986 年。 ・ 二宮皓編著『こんなに面白い！世界の校則』メディアファクトリー、2011 年。 ・ 二宮皓編著『新版 世界の学校』学事出版、2014 年。 ・ OECD「図表で見る教育」（2014 年版） ・ 外務省ホームページ（世界の学校を見てみよう！） ・ カナダアルバータ州教育省作成のインクルージョン教育に関する紹介ビデオ（Diversity in Alberta Schools- A Journey to Inclusion） ・ 下村がカナダやベトナムでの学校訪問時に撮影した写真		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） ・ 講義形式を中心としながらも、ビデオや写真などの資料を活用したり、グループでの意見交換の時間帯を設け、グループ内での意見共有やそれら教室全体でも共有することにより、単なる一方通行の授業にはならないよう、工夫を行いました。 ・ グループの活動においては、4～5 人のグループ編成を行い、画用紙を付箋を用いたアイデアの発想と整理を行いました。できあがった画用紙は、教室の壁に貼って休憩中に閲覧できるようにしたり、講習の中で意見を取り上げたりして、全体での共有する工夫を行いました。 ・ 近年話題になっている内容をできるだけ取り上げました。具体的な実践事例の紹介を中心に行いましたが、一方で、多様な数値的データを示すことができた、より充実した内容にすることができると思いました。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） ・ プロジェクタを使用させていただきました。会場の準備等、ありがとうございます。 3）その他 ・ 学期中にもかかわらず、とても熱心に講習に参加していただき、また、豊富な教育経験から積極的に意見を出していただき、とても有難く思いました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加納 岳拓	記入年月日	2017 年 10 月 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校教諭 人数：29	講習会場 (教室等)	第一体育館
講習名	子どもが夢中になる小学校体育授業		
講習の目標	子どもの体力低下や運動の二極化などの課題が散在している現在、体育授業の役割は大きい。課題に対して、対処療法的な方法（指導方法の改善・トレーニング）によって解決に向かおうとするのではなく、体育の内容を「学び」の視点から問い直し、子どもが夢中になって参加できる体育授業について考える。また、学習の基盤としての体育の在り方について考える		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-10:20 対人における関係づくり 10:30-11:50 対集団における関係づくり 午後：13:00-14:20 対モノにおける関係づくり 14:30-15:50 対身体における関係づくり 16:00-16:40 認定試験		
活用した資料・データ等	実技を中心としながら、実技の意味の講話を補助員が板書し、体育館壁面に掲示した。掲示は認定試験の資料とした。		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者の身体的な負担を考え、静的な運動領域・内容と動的な運動領域・内容を午前と午後にはバランスよく割り振ったことによって、全ての内容について、実技を伴った身体による学びと講話による意味づけをできた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 実技に伴って、用具の準備や片付け、また講話の板書等を行うために、補助員 1 名がいたことでスムーズに運営することができた。試験については簡易でもの机・椅子を準備して実施するようにしたい 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	上山 浩	記入年月日	2017 年 7 月 13 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高・特設教員 人数：9	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 S201 教室
講習名	映像メディア表現 (図工・美術科)		
講習の目標	映像メディア表現の特徴的な教材としての 3DCG の基本概念を理解し、実際に基本的な表現技術を獲得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	09:00 ガイダンス 10 分 09:10 基礎理論の講義 20 分 ・3DCG の基本理解 (資料映像) ・学生作品・生徒作品の鑑賞 09:30 基本実習 1 (立体配置と動画の概念) 50 分 ・モデリングウインドウの理解 ・基本形オブジェクトの配置・移動・回転 10:20 基本実習 2 (立体配置と動画概念) 60 分 練習課題【色ガラス回転】 ・オブジェクト配置 ・アニメーション設定の基本、レンダリング設定 11:20 休憩 10 分 11:30 基本実習 3 (立体形成) 30 分 ・平面と押出・旋回 ・球体等からの変形 (拡大・縮小、自由変形) ・幾何学形体の組み合わせ (積み木、演算) 12:00 昼食 60 分 13:00 基本実習 4 60 分 練習課題【歩く金属体】 ・間移動動作の設定 (回転・原点移動、オブジェクトリンク) ・アニメーションパレット操作 14:00 休憩 10 分 14:10 自由制作 120 分 16:10 休憩 10 分 16:20 鑑賞会 20 分 16:40 受講者事後評価		
活用した資料・データ等	3DCG アプリケーションソフトウェア (フリー)、オリジナル資料、3DCG マニュアル		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 特になし 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 建物入り口の解錠が速かった。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	織田 泰幸	記入年月日	2017 年 10 月 12 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：12 人数：12	講習会場 (教室等)	302
講習名	「チームとしての学校」を実現するための基礎講座		
講習の目標	「チームとしての学校」を実現するために重要となる基礎的な理論について理解し、実践的な取り組みへとつながる考え方を深めること。		
授業概要 (大まかな流れ)	前半：「チーム」に関する基礎理論、学校の組織マネジメント (80 分) 「チームとは何か」、ビジョン・ミッション・目標、 後半：(80 分) 学校の品質管理論、教師の同僚性・協働性 三重県型学校経営品質、QC サークル、教師文化、日本の学校の強み		
活用した資料・データ等	中央教育審議会答申『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について』平成 27 年 12 月 21 日 エドモンドソン『チームが機能するとはどういうことか』英治出版、2014 年。 齋藤孝『人はチームで磨かれる』日本経済新聞出版社 2013 年。 P. レンシオーニ著『あなたのチームは機能していますか？』翔泳社、2003 年。 P. F. ドラッカー著『マネジメント：務め、責任、実践Ⅲ』日 BP 社、2008 年。 W. エドワーズデミング『新経営システム論』NTT 出版、1996 年。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・普段の学部の授業で扱っている内容や教育委員会での研修で扱っている内容を、今回のテーマに即して現職の教員向けに再構成した。日頃の授業で行っている教材研究の真価が問われたが、おおむね好感触であったと思う。 ・授業では、講義を主体として、一部でグループ学習や演習問題を取り入れた。講師側の一方的な講義に終始するよりは、受講生同士での意見の交流ができる機会をつくることが重要であると感じた。 ・現職の先生方からは実践的な内容が求められるが、実践的な側面において大学教員が現職の先生方に勝るものはほとんどない。そこで、教育経営学の理論を、教育経営の実践に即した形で紹介することを大切にした。 ・講師側の準備不足の危険性を痛感した。授業者の講義内容に対する真の理解や授業の構成の仕方 (流し方) が非常に重要であるが、事前の入念な準備を怠ったことが一番の問題であった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) パワーポイントで資料を作成し、授業の途中では具体的なイメージを喚起させるために、写真や画像を多用し、今回は映像をふんだんに取り入れた。 3) その他 ・日頃の授業や教育委員会での研修で扱ってきた内容が、今回の講習に活用できたので、これからも日頃の研究と修養を怠らないことが大切だと感じている。 ・受講者のみなさんの熱心でひたむきな姿勢に感心しました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	平島 円	記入年月日	2017 年 10 月 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：養護、幼、小、中、高 人数：30人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部1号館 (304教室、家政教育実験室)
講習名	おいしく食べるとは？		
講習の目標	1. 普段何気なく食べている食べ物の「おいしさ」とは何かを考える。 2. おいしさに関わる要因について分析する。 3. 調理することの意義やおいしさを作り出す方法について考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-9:45 おいしさとはなにがグループディスカッション 9:45-10:35 味と味覚について 10:45-12:00 おいしさに影響する物理的要因や食べる環境について 午後 13:10-14:20 食品の色に関する実験 14:30-15:10 実験のまとめと理論 15:10-15:50 おいしさに影響する情報 16:00-16:40 試験(ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	おいしさに影響する要因についてのパワーポイント資料 おいしさに影響する要因、味の価値、味覚検査に関する資料 厚生労働省の食文化理解に関する資料 フードフアディズムに関する資料 その他関連図書		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 食べるということはすべての人が行う行為であり、内容的にも非常に身近な題材であったことやこの講習も数回行っているため受講生の反応を見ながら改善したというところから、さまざまな校種の受講者がいた。保育園・幼稚園の教諭から高等学校の教諭まで幅広い校種の受講生がいたため、これからの学校での指導に役立つ教材や授業案を直接的には提供できないが、それぞれの受講者が今後の授業に生かすことができるような題材を扱い、それぞれの授業について考えられるような講習にした。試験の解答からも講義や実験内容がきちんと理解されたことがうかがえた。しかし、一部の受講生からは校種が広すぎるため、ポイントがわからないというような指摘もあつて残念だった。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 担当者もこの講習に慣れてきたことから、非常に授業がやりやすかった。配布物や試食などの試料の配付もスムーズにできた。 本講習では3名の補助員を付けたため、講習の準備、本番、後片付けすべてスムーズに進んだ。 3) その他 特に問題はなかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荒井茂夫	記入年月日	2017年 6 月 16 日
講習の区分	必修講習・O選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：25	講習会場 (教室等)	教育学部
講習名	中国語会話入門		
講習の目標	1. 第二外国語教育における中国語の役割と、英語以外の言語学習の積極的取り組みの意義と必要性について考える。 2. 中国語会話の基礎を学び、入門過程での教授法を学ぶ。 3. 中国語会話の発展を学ぶ。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-10:20 第二外国語の社会的ニーズについて、検定資格の意義など、学習の動機づけと、教授方法について講義し、発音の基礎を学ぶ。 10:30-11:50 発音の体系を学習し、基礎会話を学び、同時に教授法を学習。 午後：12:50-14:30 引き続き会話基礎を学ぶと同時に映像を使った教授法を学ぶ。 14:30-15:50 会話学習の基礎から発展へと進め、自学自習の方法を教授。 16:00-16:40 テスト		
活用した資料・データ等	「パイロットテキスト中国語Ⅰ演習」を受講者に提供。 「旅する中国語」のCDを使用。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者すべてが熱心に学び、手ごたえがあった。また、試験は平均 90 点で、平期の通りの結果でした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) プロジェクター、パソコンの準備など問題なく、会場運営もスムーズだった。補助員もてきばきと対応していた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	服部 明子	記入年月日	2017年 6 月 14 日
講習の区分	O選択講習	講習開設日	2017年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：20 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 401 教室
講習名	日本語教育学入門一年少者への指導を中心に		
講習の目標	日本語指導が必要な児童生徒の背景、日本語指導における現状と課題を理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 1. 日本語教育の基礎知識 (講義) 2. 日本語教育の視点から小学校国語教材を分析する 午後 3. 学校教育における日本語支援および多文化共生の在り方について話題提示 「年少者日本語教育の現状と課題」一全体議論 4. Ipad を利用した日本語授業 (年少者対象) の実践体験 14:10-15:50 ・ 講習の PowerPoint およびそれを印刷した資料の配布 ・ 学校教育における JSL カリキュラムに関する行政のデータ (文化庁、文部科学省、内閣府) ・ ホームページ「多文化教員の広場」「こどもの日本語ライブラリ」動画、教案 (iPad 使用)		
活用した資料・データ等	1) 内容 (試験等を含む) 昨年度までの講習内容を改善し、さらに受講対象者のニーズに合致した内容が提供できたと思います。受講者アンケートや講習中の受講者の反応もよく、理解度も高かったです。 特に、昨年度の課題であった、受講者の理解度の差については、今年度、講習内容を見直し、基礎的な内容を丁寧に取り上げることによって解決することができました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・ iPad が使用できてとてもよかったです。 ・ 補助員には事前に資料を与え、具体的に指示したこと、より円滑な運営ができたと思います。 3) その他 1 名の受講者の方からは、理論的・発展的な内容に関する講義時間を増やしてほしいという要望がありましたが、そもそも「入門」内容であり、講習名でもその旨示しているため、こうしたニーズへの対応は困難ですが、今後、日本語教育に関する基礎的な知識がある方が増えていけば、さらに専門的な内容の講習にすることも検討する必要があると思われます。		
講習に関する感想			

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	新田貴士	記入年月日	2017年 6月16日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2017年 6月10日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小、中、高校、数学 人数：12	講習会場 (教室等)	403
講習名	図形と数の話		
講習の目標	図形と数の関係について講習する。		
授業概要 (大まかな流れ)	図形と数の関係について講習した。		
活用した資料・データ等	なし。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 良かった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) とても良かった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山口 泰弘	記入年月日	2017年 6月15日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017年 6月10日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中高教諭 人数：9人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部専門校舎2号館 美術史演習室
講習名	鑑賞教育 (美術)		
講習の目標	学習指導要領の改訂によって、中学校・高等学校の美術教育における鑑賞教育の重要性が以前にも増して高まってきた。そこで、この講習では、日本美術を対象として取り上げ、美術作品の鑑賞および教育の方法について検討するとともに、日本の美術や伝統と文化に対する理解を深め、美術を通じた国際理解を深める方法についても考察する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：1コマ 9:00-10:20 学内の登録有形文化財見学 2コマ 10:30-11:50 上記に関する講義 午後：1コマ 13:00-14:30 鑑賞教育への美術史的方法の導入1 2コマ：14:40-15:50 鑑賞教育への美術史的方法の導入2 試験：16:00-16:40		
活用した資料・データ等	学習指導要領 (中学2年) 海外の美術館博物館で収集した鑑賞教育関連資料 絵画・彫刻等の美術資料の画像データ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者人数が適正であり、対話型の授業に適した人数で授業が実施できた。 鑑賞教育には、実物の観察が不可欠であり、学内の登録有形文化財 (レーモンド・ホール、三翠会館) を有効に使うことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室を受講者数に合わせて小規模な演習室を使用したことで、インタラクティブな授業展開が可能となった。 3) その他 例年同様、受講生に美術に関心のある他科目の教諭が多く、様々な視点からの発言があり、有意義であった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	鶴原 清志	記入年月日	2017 年 6 月 23 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高 人数：26	講習会場 (教室等)	教室・体育館・グラウンド
講習名	学校教育におけるゴルフの取り上げ方と活動の工夫		
講習の目標	「どこでも・だれとでも」、また「やさしく」をねらいに工夫されたスナッグゴルフを手掛かりに、学校教育におけるゴルフの学習の意義を考えるとともに指導法を理解する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. マナー、エチケット、スナッグゴルフの解説、飛球法則 2. スナッグゴルフの基礎と基本 3. コースセッティング、ゲームの仕方、ルール・マナー・エチケットの実践		
活用した資料・データ等	「スナッグゴルフの解説ビデオ」スナッグゴルフ日本事務局 「SNAG GOLF スナッグゴルフ講習テキスト」スナッグゴルフ日本事務局 「ゴルフスイング論」NGF JAPAN		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・ゴルフ未経験者は数名程度であったが、基本的な事項についての理解はスムーズであった。 ・スナッパー等の練習用具が興味を高めたと思われる。 ・ゲームの仕方を通して、ゴルフのマナーやエチケットの涵養を図れた。 ・グラウンドでのゲームは、十分、ゴルフのラウンドの理解、方法を体験するとともに、ゴルフの楽しさを感じるものであった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・用具の取り扱いは、簡単であった。 ・学生補助の存在は、運営をスムーズにさせ、効率を高めることになった。また、後片付けについても非常に手助けとなった。 3) その他 ・「楽しい」、「授業やクラブ活動で導入したい」、「小学校の低学年でも教材として価値あるものである」、「ゴルフの導入の段階で取り入れたい」、といった意見が多く出された。しかし、道具が高価なのが難点であるといった意見も多いものであった。また、コース設定は、時間がかかり、1 時間で実施することは難しいとの意見もあった。昨年度より、時期を早めたが、急に暑くなり、体が慣れない状況での開催であったため、熱中症が心配であった。また、雨天の心配があり、対応が必要である。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松岡 守、加藤 進	記入年月日	2017 年 6 月 15 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：15	講習会場 (教室等)	教 技術棟 2F 電気実習室
講習名	電気おもしろものづくり		
講習の目標	主に小学校中・高学年で取り扱える簡単なおもしろい電気関係のものづくりを実際に製作することを通じて、理系の教科やものづくりを得意としない教師の方も含め、科学への興味とものづくりの楽しさ子どもたちに伝えられるようにする		
授業概要 (大まかな流れ)	9 : 00 ~ 9 : 10 概要説明 9 : 10 ~ ・ 100V で LED を点ける回路の紹介 ・ 1.5V で LED を点ける省エネ回路 12 : 00 ~ 13 : 00 昼休み 13 : 00 ~ 15 : 50 ・ アンテナ一体型ゲルマラジオ ・ 質疑応答 16 : 00 ~ 16 : 40 試験 16 : 40 ~ 17 : 00 受講者評価		
活用した資料・データ等	・ 各ものづくりについてのオリジナルの説明資料 (背景、原理、製作の手順、注意事項などをまとめたパワーポイント) 各ものづくり用の材料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 電気に関する興味・知識・ものづくりは受講者により大きな開きがあり、説明が人に苦労した部分があったが、最終的には全員がものづくりを完成、おもしろ教材として持ち返っていただくことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 普段は受講者数が 10 名以下で使用している大学の電気工学実験実習に使っている部屋をそのまま利用したため、定員 15 名とした本講習では一杯で、ものづくりにはややスペース不足ではあったが、受講生の希望に応じ機材をすぐに準備できてスムーズに講習を進めることができた。 3) その他 参加者の 1 名より、早速提示した教材を使用した実践をし、好評だったとの連絡を受けた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	郷右近 歩	記入年月日	2017 年 6 月 14 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：19	講習会場 (教室等)	特別支援教育実習室
講習名	重症心身障害児の療育		
講習の目標	重症心身障害児の療育について概説する。医療の高度化に伴い、学齢に達する重症心身障害児は増加傾向にある。一方で、受けとめる側の教育現場は、重症心身障害児に対する適切な対応が可能な状況とは言えない。本講習では、重症心身障害児を教育現場で受け止めるための心構えや基本的な知識・技能の修得を目的とする。		
授業概要 (大まかな流れ)	イントロダクション 重症心身障害児の療育について (概説) 医療的ケアについて (教材使用) 生命と尊厳について まとめ		
活用した資料・データ等	重症心身障害児の生活場面 (就学前) DVD 重症心身障害児の生活場面 (就学後) DVD 就学に至るまでの社会的状況について DVD		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 重症心身障害児の療育について、全く携わった経験のない教員から、20年以上のキャリアがある教員まで、お互いに満足できる講習内容を目指し、グループワーク等を取り入れることで、学び合いの場を築くことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 日頃から使用している教室であったため、スムーズな運営が可能であった。補助員からも適切な支援を受けた。受講者の中に、弱視の先生と、肢体不自由の先生がおられたが、本部の先生方にも適切なご支援を頂いた。 3) その他 下記の通り、アンケートの記述からも一定の満足が得られたものと思われた。 「教育に携わる者として、改めて気持ちを正すことが出来た。」 「教育者としての原点に戻って、普段の教育活動を振り返るよい機会となった。」 「今の自分には受けとめきれないはずもなく、これからの課題に気付かされた。」 「特別支援学校の教員であるという意識を高めることができた。」 「現場の教員に必要な視点を明確に講義して頂き、有意義だった。」 「命の尊さを改めて感じる事ができた内容だった。」 今後とも、授業の充実に努めて行きたい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	國部友里恵	記入年月日	2017 年 6 月 14 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：23 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館、地域連携 B 室
講習名	インプロ (即興演劇) を学ぶ		
講習の目標	インプロ (即興演劇) のゲームやワークを体験することを通して、「コミュニケーション」「創造性」「協働」「身体」という観点から、自らの教育活動についてふりかえる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50 インプロ体験と省察 (「失敗」をいかに扱うか、「身体」によるコミュニケーションとコミュニケーション、「相手に良い時間を与えること」) 13:00-15:50 インプロ体験と省察 (インプロの教育現場での活用、「ひらめき」と「検閲」、ストーリーテリングと「想像」) 16:00-16:40 履修認定試験 (ノート・資料持込不可) ・高尾隆・中原淳 (2012)『インプロする組織』三省堂 ・小林由利子ほか (2010)『ドラマ教育入門』図書文化社 ・高尾隆 (2006)『インプロ教育』フィルムアート社 ・カレン・ブライア (1998)『うまくやるための強化の原理』二瓶社		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・本講習は全体的に身体活動・言語活動を伴うグループ活動で構成されていますが、受講者の皆様に積極的に参加いただき、体験を通じた振り返りについても全体で共有しながら深めていくことができました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・会場に椅子がないことが直前に判明し、当日の朝スタッフの皆様に迷惑をおかけしてしまいました。すみませんでした。 ・グループ活動中は椅子を使わず自ら床に座る受講者の方も多くみられましたが、40 分間のテスト前にお尋ねしたところ、テストの際には椅子があったほうが良いとのことでした。ご準備いただきたいいへん助かりました。 3) その他 ・終了後、4 名の方が、現場での研修にインプロを活用したいと申し出てくださり、今後具体的に研修計画を進めていくことになりました。今後三重県の現場にも広がっていきそうです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	淀 太我	記入年月日	2017 年 6 月 22 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 10 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小～高校教諭 人数：17 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 302 室
講習名	生物多様性総ざらえ～概念・保全から外来生物問題まで～		
講習の目標	抽象的で難解な「生物多様性」について理解を深める。また誤解の多い保全についても正しい認識を持つことにより、当該項目に関する教育能力を向上させる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:10～10:30 生物多様性の概念 10:40～11:50 生物多様性の現状 13:00～14:00 外来生物 14:00～14:50 大学構内での外来魚採集・観察 15:00～15:50 生物多様性の保全 16:00～16:40 テスト（ノートのみ持ち込み可。資料持ち込み不可） パワーポイント資料		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・昨年度の経験を活かして講義内容を調整し、時間内にうまくまとめることが出来た。 ・やはり、進学校の高校生物担当教諭～小学校教諭や実習助手まで受講者が幅広く、事前の知識量やモチベーションに大きな差があり、受講者間で講義の効果を均質にはできなかった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教室に机の数が多すぎた。特に教卓直前まで机があり、また投影スクリーンがかなり前の壁から出っ張って設置されていたため、講義時に無理な姿勢をとり続ける必要があり、その後数日間を含め身体的にキツかった。通常の大学の講義 90 分と異なり教員免許更新講習は 6 時間その環境におかれるため、会場の環境が受講者や講師に及ぼす影響は非常に大きいと思われる。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	川向 洋之 肥田野 久二男	記入年月日	2017 年 6 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高（数学担当）教諭 人数：4	講習会場 (教室等)	PBL 42 教室
講習名	解析学を楽しむ——級数、積分のひろがり——		
講習の目標	級数、積分といったテーマを通じて解析学の基礎に触れ、自らの解析学の知識を振り返り・再構成するとともに数学の新しい発見を目指す。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～12:00 無限級数のほなし。（有限和では起こり得ない現象を紹介した）テスト 13:00～16:40 リーマン積分の定義の説明、リーマン積分不可能な関数の例 大きなさが分からない集合、望ましい「測量器」とルベーグ式の積分の定義、テスト		
活用した資料・データ等	講習用プリント、プロジェクター、コンピュータ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 専門性へのみ陥らないように配慮しながら、2名の講師によって、解析学の問題・現象を様々な角度から考察し、なほかつ、丁寧に説明するよう留意した。更に、中学・高等学校の通常の数学の授業ではなされないであろうアプローチの方法も紹介するなど新しい発見がなされるよう工夫した。また、豊富に例を取り上げる・コンピュータを適宜活用するなど工夫したため、退屈にならない講習にできた。試験問題も講習内容に即した適当な問題を作成することができた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 出欠の管理などで補助者が手際よく動いてくれたため、すべて円滑に運営できた。 3) その他 2名の講師が、各々3時間ずつ、異なる話題を提供するというスタイルは、受講者からいろいろな課題に触れ興味も広がる等の点で評価が高かった。また、受講者が学生時代に学んだ内容であるが、新しく異なる視点から数学に触れ楽しむことができて有意義であったとか、数学の面白さを再発見した、もっと数学を知りたくなった、等の良い評価も得られた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	後藤 太一郎	記入年月日	2017 年 6 月 21 日
講習の区分	必修講習 ・ ○選択講習	講習開設日	2016 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 小中学校教員 人数： 6	講習会場 (教室等)	生物学学生実験室
講習名	小中学校における生命教育		
講習の目標	生命観育成の中で、学童期に体のしくみや動物の誕生について正しくすることが重要である。いくつかの教材を紹介しながら、生命観育成のための教育的価値のあるものは何かを受講者に考えてもらおう。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 児童の発達段階と生きものへの関わり 2. 「動物の誕生」の学習 3. メダカ胚の観察 4. ドジョウの血流観察、透明金魚の体内観察 5. ザリガニの生殖 6. ニワトリ胚の観察 7. ヒトの誕生の学習 8. まとめ 9. 試験		
活用した資料・データ等	自作の資料 各種生物教材 プラスチックモデル教材 教材ビデオ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 大学の授業や教員研修でも評判の高いものを選んで実施した。特に、メダカ胚の観察技術は小学校で、ニワトリ胚の観察は中学校現場での実践もあり役立つものがあることを確認している。これらは生命を実感する優れた教材であることを示した。また、ヒトの雌雄生殖器官の模型をビデオ教材とともに使用することで、ヒトの生殖に関して科学的に捉える視点を強調した。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 普段使っている実験室なので、まったく不自由はなかった。TAとして大学院生1名が協力してくれたため、スムーズに実施できた。 3) その他 受講者の事前アンケートにあった要望に対してすべて満たすようにした。本年度の受講者も極めて熱心であり、全員が関心をもって意欲的に取り組んでいた。6名の参加者であったために受講者の興味に応じて時間配分を調整した。聴覚障がいのある受講者がいたことから、板書を多くするように心がけたが、適切であったかどうかになっている。手話通訳のボランティアの方が合計で6名いたことから、たいへん助かった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山田康彦	記入年月日	2017 年 8 月 25 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 幼・小・中・高 人数： 21	講習会場 (教室等)	S-201
講習名	造形表現法の探求 (対話としての表現・重ね刷り版画制作)		
講習の目標	・ 受講生が子どもたちの感覚・感性を率直に表す造形表現法を実践的に体験する ・ 特に①墨を画材にしたグループでの対話による描画表現と、②簡便なゴム版を使用した版の面を重ねて印刷する重ね刷り版画の制作を楽しむことができる。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 導入・講習の内容と計画 2. アイスブレイキング 3. 墨を画材にしたグループでの対話による描画表現 4. 簡便なゴム版を使用した版の面を重ねて印刷する重ね刷り版画の制作		
活用した資料・データ等	それぞれの制作の参考作品 講師が作成した版画印刷マニュアル 色相環の図		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生評価によれば、講習内容・方法の総合評価の平均が3.85であり、受講生21人中4「よい」の評価が18人となっており、満足度の高い講習ができた。 しかし課題としては、幼稚園教諭と保育士が受講生の3分の1を占めるので、より幼児にも対応できる教材が求められる。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 会場は、版画を行うには狭かったため、急遽別の部屋も用意して、問題なくスムーズにできた。来年度は当初から広い会場を準備しておく必要がある。 その他は、補助員も含めて、特に問題はなかった。 自動車での入港を求める受講生が、21名中13名おり、改善が必要である。 3) その他 10年間理論の講習を行ってきたが、今初めて実技の講習を行った。すると初めて委員を超えて、感想も大変よかった。美術には実技の講習を皆さん求めていることを痛感した。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	後藤 洋子	記入年月日	2017 年 6 月 30 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小、中学校、高校教諭（保体）人数 20 名（教室等）	講習会場	屋内トレーニング場
講習名	体づくり運動について		
講習の目標	学習指導要領における「体づくり運動」の取り扱い、ねらい、内容、評価の観点について理解するとともに、教材として取り上げられる各種運動の実習を通して「体づくり運動」の特性や工夫の観点を理解することを目標とした。		
授業概要（大まかな流れ）	オリエンテーション：本講習の流れ、内容と時間配当、講習本部からの諸連絡などを伝えた。 講習 1：学習指導要領における「体づくり運動」のねらい、内容、取り扱い等について、発達の特性に基づいていることを解説した。 講習 2：各種ねらいに応じた運動を実習するとともに、運動を具体的に工夫例、身近な用具の活用例、運動を誘発する用具の活用例などを紹介したり、実践したりした。 講習 3：数人のグループに分かれて、実習した運動、テーマの設定を参考に、ねらいに応じた運動を組み合わせて構成し、発表した（実技試験）。参加者の相互評価により、評価の観点等を確認した。		
活用した資料・データ等	小学校、中学校、高等学校学習指導要領解説（体育編、保健体育編）、学校体育実技指導資料第 7 集（文部科学省）、健康づくりのための運動指針 2006（運動所要量・運動指針の策定委員会）、「多様な動きをつくる運動（遊び）」パンフレット（文部科学省）、中学校・高等学校「体づくり運動」リーフレット（文部科学省）、その他		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） この領域は学校体育で扱われる内容であるが、幼稚園教諭、保育士が参加者の大半を占めていたことに不安があったが、「仲間との協力」を協調することで、講習全体を通して、参加者同士がお互いに教え合い、学び合う姿勢が見られ、違和感なく良い雰囲気での講習を進めることが出来た。参加者の感想によると、運動の楽しさを理解したというものが多く、本講習のねらいは概ね達成されたと思われる。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 会場が本部と離れていたため、多少不便を感じたり、講習補助員が（留学生だったためか？）手続きをよく理解していなかった事があったが、最終的には事なきを得た。会場は高温多湿であったので、大型扇風機を使用した。若干緩和されたが、大型扇風機は大きな騒音が発生するため、説明時などは止めざるをえなかった。 3) その他 実技講習なので、参加者は着替え、シューズ等持参する荷物が多い。また交通の不便な遠方からの参加者もいるので、自家用車の乗り入れについて考慮する必要があると思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	田中晶善	記入年月日	2017 年 6 月 18 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2017 年 6 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高教諭 人数：11 名（教室等）	講習会場	教養教育棟化学実験室
講習名	理科実験—物質の熱的性質（硬貨からゆで卵まで）		
講習の目標	1. 理科実験の基本操作に慣れる 2. 実験手法としての「熱測定」に親しむ 熱量、比熱、モル比熱などの関連概念に慣れ、理解する デュロン・プティの法則など物質の熱的性質に関する知見を得、理解する 3. 実験を楽しむ		
授業概要（大まかな流れ）	9:00-9:30 講習の説明（実験内容、ねらい、日程）、実験操作説明 9:30-12:00 実験（中和熱の測定）、および実験講義 13:00-15:00 実験（金属の比熱の測定）、および実験講義 15:00-15:30 講義 15:30-16:40 課題レポート作成（実験データ処理、考察等）資料持ち込み可。（時刻は概略）		
活用した資料・データ等	実験テキスト（10 ページ、事前配布）、参考資料（4 ページ） パワーポイント		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 主要テーマとして「熱」、「比熱」を取り上げた背景としては、それが日常生活において身近で重要な概念・現象であり、にもかかわらず、学校教育では重視されていない（比熱は、中学理科の範囲としては 2002 年度以来削除対象）ということがある。比熱が理解できなければ、熱と温度の関係も適切に理解できない。 本講習では、マクロな現象である「比熱」をミクロな視点から理解する、ということ、身近な素材・簡単な実験（装置）を用いて理解することを一つの目標とした。受講者からは「難しすぎる」という感想もあり、また実験は久しぶり、という方も少なくなかったが、実験データや計算結果はいずれも妥当なものであり、全体としては適切に行われたと判断している。 受講生の知識、関心、技量の程度とその多様性が事前に不明であり、実験内容に照らして実験時間の配分が短すぎないか・長すぎないか心配したが、結果としてはほぼ適切であった。 「ゆで卵」の問題については、巻き戻りの原理や背景の説明に時間をとられて、それ自身についてほとんど言及できなかった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 会場近くでの「案内係」は、担当講師としても大いに助かった。 事前に実験テキストを送付したことを何人かの受講者から評価された。 その他 二十数年前、および三十数年前に、私が担当した「小事理科」の講義を受講された方が受講者の中に数名おられ、退職間近な身としては感慨が深かった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	玉城政和、森山貴之	記入年月日	2017 年 6 月 27 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2017 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高の数学科担当教員 人数：9	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 2 号館 1 階 18 教室
講習名	魅惑の数「黄金比と円周率」		
講習の目標	彫刻や絵画だけでなく身の回りにおける図形や自然現象などにも現れる黄金比について、単なる比率ではないそれが持つ様々な数的事象を説明し、その魅力に触れ理解する。 整数演算に現れる規則性を発見しそれを応用した数ゲームの仕組みを理解する。 円周率 π を数学的な立場からだけでなく、そこに現れる文字の乱雑さ・出現率の稀測、誕生日の発見といった体験を通して楽しむ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00 - 11:30 「黄金比」の魅力 11:40 - 12:00 午前試験 13:00 - 13:50 整数演算の規則性 14:00 - 16:10 「円周率」の魅力 16:20 - 16:40 午後試験		
活用した資料・データ等	・「黄金比」に関する講習ノート ・「円周率」に関する講習ノート ・プレゼンテーション資料 ・誕生日検索プログラム		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 十分な準備を行い、楽しみながら新しい発見のできる講習にしたつもりです。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 講習スタッフ・補助員の皆さんには、機材のセッティング、机・椅子の移動、資料の配布、アンケートの回収確認などの的確に対応して頂き大変助かりました。 3) その他 受講者の皆さんには、結構な長い時間でしたが、最後まで集中力を絶やさず話を聞いて頂き、大変有意義な講習になりました。 ・授業の中で生徒の興味を持たせせる教材にもなり大変役立つ講習であった。 ・数の規則性を学び、授業でもすごく興味がわく内容だと感じることができた。 ・中学数学の内容につながる部分もあり、実践に生かせる内容だった。 ・興味を持たせていただけの内容でよかったです。 等の意見・感想を頂き、時間をかけ試行錯誤を繰り返しながら資料の収集とノート作成、プログラム開発にあたった甲斐がありました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	牧原義一	記入年月日	2017 年 6 月 27 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 (選択講習)	講習開設日	2016 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高教諭 人数：4 名	講習会場 (教室等)	物理学第 1 実験室
講習名	教員のための物理の基礎実験		
講習の目標	小・中・高校で取り扱う物理分野の内容に関連した実験を行って、基礎的な実験操作、新たな実験教材、実験の進め方、実験結果の取り扱い方について学ぶ。本講習では、磁気分野の実験に関する最新の実験方法を習得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	具体的内容としては「磁石の性質」および「電流が作る磁界」に関する実験を行う。 基礎的な実験に加えて、方位磁針を用いて磁力線を描画する実験や、S-キューブルと呼ばれる器具を用いて電流による磁気効果を明確に観測する実験を行う。 その後グループ単位で使用教材を用いて新たな実験テーマ (内容) を開発して、その内容の発表し、全体での検討を行う。		
活用した資料・データ等	講習内容説明用パワーポイント資料 (自作)、講習実験用指導書 (自作)、小中高校の教科書、ウェブ上の理科教材等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・受講者数が適切な人数であり、講習の実施において丁寧な指導を行うことができ良かった。受講者も満足されていたようである。 ・中・高の教員には、学校現場ですぐに実施できそうな簡単な実験が多く紹介されていると好評であった。 ・昨年から、グループでの検討作業を入れたところ、講習へのより積極的な取り組みが見られた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・昨年からガイダンス、実験場所、試験会場を同じ部屋で実施したところ、移動等の必要が無く便利であった。 ・補助員の事務作業及び実験中の補助業務は適切であった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	平賀 伸夫	記入年月日	2017 年 6 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高校教諭 人数：15 名 (教室等)	講習会場	三重大学教育学部 1 号館 3 階 遠隔授業室
講習名	子どもの学びにそくした理科の授業づくり		
講習の目標	1. 「新しい科学論」にもとづき、「科学とは何か」についての考えを深める。 2. 4 つの異なる展開の探究アプローチを体験するとともに、「ラーニングサイクル」モデルの理解を通して、「科学をどう伝えるか」の考えを深める。 3. 「科学を伝える」という視点から、理科授業を再考する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00～11:50 「科学とは何か」についての考えを深める。 (科学とはどのような営みか、科学的と非科学的の違い、科学的な態度とはどのようなものか等)について、講義、受講者同士のディスカッションを行う。 午後：13:00～15:00 「科学をどう伝えるか」についての考えを深める 4 つの異なる展開の探究アプローチ (A. 自由に調べてみよう B. 手順にそって調べてみよう、C. 知識を活用して調べてみよう、D. 資料を読んで調べてみよう) の体験、「ラーニングサイクル」モデルの理解を通して、「科学をどう伝えるか」の考えを深める。 15:00～15:50 「科学を伝える」という視点から、理科授業を再考する 科学のとらえ方、伝え方の知見をふまえた上で、受講者同士のディスカッションを通して、理科授業を再考する。 16:00～16:40 試験(資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	- 自作の配布資料 - 説明のための自作のパワーポイント資料(これについても、印刷物を配布した)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・受講者からのよい評価を得ることができた。 ・受講者同士のディスカッションの時間を十分に確保できた。余裕をもって展開できた。 2) 運営(活用機材、会場、補助者等) ・4 つの異なる展開の探究アプローチ(午後実施)をおこなうため、毎年、受講者 6～8 名に対して 1 名の実験補助者(学生、運営スタッフ 1 名を含む)が必要であった。今回、実験補助者が 2 名いたので、スムーズに運営できた。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	関 俊一	記入年月日	2017 年 6 月 27 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：10 名 (教室等)	講習会場	美術棟 3F 絵画教室
講習名	図工・美術教育のための素材演習/アクリル表現のバリエーション		
講習の目標	1. 児童や生徒が興味を抱き新鮮な感覚で楽しく取り組む事でできる教材や表現課題を考えて行く。 2. 受講者の表現のバリエーションを増やす事を目的とし、アクリル絵の具とメディウムを使用した実習を通し、アクリル樹脂の特徴と効果を理解する。 3. 今後、実際の授業でどのように画面作りや造形に反映させられるかを考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～ガイダンス 9:30～絵の具について 10:00～メディウムについて 11:20～ジオラマ制作(粘土によるモデリング) 午後 13:00 ジオラマ制作(彩色) 16:00～16:40 履修認定試験(講評・ディスプレイ)		
活用した資料・データ等	ターナー色彩(株) 絵の具について(プリント) アクリルガッシュペンフレット ゴールデン色見本 過去の参考作品		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・絵の具の分類についての解説を行い、基本的な部分を説明した。 ・アクリル絵の具やメディウムのサンプルの制作を通し、特徴や表現の可能性など新たな発見を得られていたようである。 ・ジオラマ制作では、粘土による造形とアクリル塗装によるリアリティーを追求し、アクリル絵の具の立体作品への応用を実習を通して体感した。 実際の授業にどのように反映させられるかを個々に考えていた。 ・他の受講生の作品を見る事でさらに発想や表現の工夫など、充実した内容になった。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・はじめに受講者に自己紹介をさせた事、大きな机を囲む座席にした事で自然に意見交換をしながら制作できるように図らった。 ・画材、素材の準備を細部まで検討し気遣う事で受講者が快適に制作できたと思う。 ・4 年生のアシスタントは受講生への気配りと解説が適切だった。 3) その他 ・受講者から、表現のバリエーションの多様性と課題への応用について参考になったとの感想をいただいた。受講生同士の意見交換も大変成果があったと思われる。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	乗 本 秀 樹	記入年月日	2017 年 7 月 3 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高家庭科教員 人数：6人	講習会場 (教室等)	206講義室
講習名	消費者信用を中心とする消費者教育に自信を持つために		
講習の目標	消費者信用の基礎的な計算を実地に体験すること。その体験ないし実感をふまえて、消費者教育における消費者信用の取り扱いについて展望できるようになること。		
授業概要 (大まかな流れ)	オリエンテーション9:00-9:20 高校教科書における消費者信用計算主題の確認9:20-10:20 基本的な計算法の説明・演習10:30-11:50 応用的な計算法の説明・演習13:00-14:20 「計算ができなければいけない」を含む全般について質疑応答14:30-15:50		
活用した資料・データ等	科学研究費補助金により作成した教材(乗本・大蔵・関根・色川『家庭経済教育における計算の内容の充実に関する研究』、平成23年)から抜粋して本講習用テキストを作成し、用いた。		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 受講者の関心が強く、積極的に質問が出された。 今回の計算経緯をふまえて消費者信用教育を展望する試験において、全員がたいへん意欲的に解答していた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) とくに問題はありませんでした。 3) その他 とくにありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	中西良文	記入年月日	2017 年 7 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 6 月 24 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高教諭 人数：32名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎1号館2F PBL 演習室1
講習名	学習モチベーションの心理学		
講習の目標	「(学びに対する)やる気・モチベーション」についての心理学的知見を理解するとともに、これらの知見を実際に使えるようにする。		
授業概要 (大まかな流れ)	グルーピング：担当学年別・アイスブレーキング 内発的動機づけ・自律的動機づけについて 有能感・無力感について 課題価値について		
活用した資料・データ等	内発的動機づけに関する逸話 セリグマンによる学習性無力感実験の詳細 「好み選択」課題		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) モチベーション(動機づけ)という、学校現場で関心のあると考えられるテーマを扱ったため、積極的に聞いていただくことができたように感じられた。また、それらの知見をどのように取り入れるかについてもある程度扱うことができたのではないかと考えている。しかし、昨年同様、最後の共有のパートでは時間的に慌ただしかったため、その部分については改良が必要であると考えた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 補助員の方に適宜サポートをいただいたため、スムーズに講習を進められました。大変感謝しております。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	川向 洋之 肥田野 久二男	記入年月日	2017 年 7 月 9 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中・高（数学担当）教諭 人数：2	講習会場 （教室等）	PBL 42 教室
講習名	解析学を楽しむ ―― 級数、積分のひろがり ――		
講習の目標	級数、積分といったテーマを通じて解析学の基礎に触れ、自らの解析学の知識を振り返り・再構成するとともに数学の新しい発見を目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	9:00～12:00 無限級数のほなし。（有限和では起こり得ない現象を紹介した） テスト 13:00～16:40 リーマン積分の定義の説明、リーマン積分不可能な関数の例 大さが分からない集合、望ましい「測量器」とルベーグ式の 積分の定義、テスト		
活用した資料・データ等	講習用プリント、プロジェクター、コンピュータ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 専門性にのみ陥らないように配慮しながら、2名の講師によって、解析学の問題・現象を様々な角度から考察し、なおかつ、丁寧に説明するよう留意した。更に、中学・高等学校の通常の数学の授業ではなされないであろうアプローチの方法も紹介するなど新しい発見がなされるよう工夫した。また、豊富に例を取り上げる・コンピュータを適宜活用するなど工夫したため、退屈にならない講習にできた。試験問題も講習内容に即した適当な問題を作成することができた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 出欠の管理などで補助者が手際よく動いてくれたため、すべて円滑に運営できた。 3) その他 2名の講師が、各々3時間ずつ、異なる話題を提供するというスタイルは、受講者からいろいろな課題に触れ興味も広がる等の点で評価が高かった。また、受講者が学生時代に学んだ内容であるが、新しく異なる視点から数学に触れ楽しむことができて有意義であったとか、数学の面白さを再発見した、講師の先生の熱意が感じられた、等の良い評価も得られた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	栗原行人	記入年月日	2017 年 7 月 6 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中高校理科担当 人数：8	講習会場 （教室等）	教育学部1号館地学第一実験室、 津市美里町
講習名	三重県の岩石と地層		
講習の目標	三重県内で観察できる主な岩石が鑑定でき、地質の概略を理解すること		
授業概要 （大まかな流れ）	午前 9:00-10:50 岩石分類の基礎と三重県の地質の説明 11:00-11:50 標本観察 午後 12:45-15:40 野外巡検（津市美里町） 16:00-16:40 認定試験（実技）・受講者評価		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料（プリント配布） 岩石・化石標本（閲覧） 紹介した参考図書類（閲覧）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・午前は講義と岩石・化石標本の観察を行い、午後はバスでの野外巡検を実施した。今年度も津市美里町の長野川で地層と化石の観察を行った。受講者が少なかつたためにすべての受講者が化石をとることができ満足したようだった。実技試験では、午前中に観察した岩石の鑑定を行った。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） バスの手配などありがとうございました。 3) その他 2年連続で受講者が少なかつたので来年度以降、タイトル・内容を検討したい。		

担当講師	魚住明生	記入年月日	2017年7月6日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年7月1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教諭 人数：2名	講習会場 (教室等)	I-201
講習名	ものづくりコンテストを取り入れた協同学習の構築		
講習の目標	・授業における協同学習とものづくりコンテストの意義を説明できる。 ・ものづくり教育で行われているコンテストを数例挙げられる。 ・ものづくりコンテストを取り入れた協同学習で、育成することが期待される能力と態度を挙げられる。 ・ものづくりコンテストを取り入れた協同学習での留意点を説明できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～9:10 オリエンテーション 9:10～10:00 授業における協同学習の意義 10:10～11:00 ものづくり教育におけるコンテストの意義 11:10～12:00 ものづくりコンテストの実際-タワーコンテストへ向けての構想- 13:00～15:00 ものづくりコンテストの実際-タワーコンテストへ向けての設計・製作と実施- 15:10～15:50 ものづくりコンテストを取り入れた協同学習の検討 16:00～16:40 試験		
活用した資料・データ等	全日本中学校技術・家庭科研究会 Web ページ 発明協会 Web ページ 日本産業技術教育学会 Web ページ 等		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者人数が少ないため、協同学習の演習を行う予定でしたが、一部省略しました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 材料等、事前に準備していただき助かりました。 3) その他 受講を希望される方が少ないので、研修の内容や方法を検討したいと思います。		

担当講師	奥田 真澄	記入年月日	2017年7月6日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年7月1日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数 5人	講習会場 (教室等)	彫刻教室
講習名	美術教育の為に素材演習/石膏レリーフ制作		
講習の目標	1. 美術教育における、レリーフ制作の可能性を実制作を通して考察する 2. 物と空間の関係を認識することや、表現における意外性の大切さを学ぶ 3. 水粘土と石膏の基本的な扱い方を知る 4. レリーフ作品の特質について理解する 2. 石膏を素材に用いたレリーフ制作を学年に合わせ、どのように変化させて、活用出来るのかを考える		
授業概要 (大まかな流れ)	1. スライドレクチャー (9:00～10:00) 2. デッサンによるエスキース制作 (10:00～10:30) 3. 水粘土を練り、作る形が入る大きさの塊を作る (10:30～11:00) 4. 水粘土に作りたい形の穴を掘り込みながら作る。11:00～14:30 [11:50～13:00 休憩] 5. 出来た空間に水で溶いた石膏を流し込む。(14:30～15:00) 6. 周りの粘土を外す。(15:00～16:00) 7. 作品講評会 (16:00～16:40) 8. 受講者評価 (16:40～17:00)		
活用した資料・データ等	・レリーフ作品に関するパワーポイント資料 ・レリーフ制作に関するテキスト資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・受講生の意見を聞きながら、一方通行の授業にならない様に講習を進めることを心がけた。また、本講習で得たものを教育現場でどの様に活用することが出来るのかを話し合い、受講生全体で美術教育について考えることが出来たと思います。 ・受講生は、暑い中大変熱心に取り組んでおり、興味を持てる課題設定を行えたと感じている。 ・快適な制作環境を心がけ、集中して制作に取り組んでももらえたように感じる。 ・実技の講習は事前準備が大変ですが、受講後のアンケートにおいて非常に満足したとの回答を多数頂き、今後も積極的に行いたいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・私の講習は実技 (彫刻制作) のため実習設備の事前準備が多くありますが、教務チームや補助員の方々のサポートが良く、講習を円滑に進めることが出来ました。 3) その他 ・受講生のすべてが現職教員の方で、教育現場における美術教育に対する熱心さに感銘しました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松浦 均・中西良文	記入年月日	2017 年 7 月 6 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：60	講習会場 (教室等)	301 教室
講習名	子どものコミュニケーション能力を育てる		
講習の目標	子どものコミュニケーション能力向上のため、ソーシャルスキルトレーニングの考え方をベースに、いくつかの具体的ワークを紹介し実際にやってもらいながら、学校現場で授業として取り入れる方法を考えてもらう。1 日中、4 人のグループ活動を行いながら、考えを深めていく。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-10:30 講習の説明、ソーシャルスキルトレーニングの考え方について聞く・話す、頼む・断るの実践ワーク、ロールプレイ等 10:40-11:50 社会的ジレンマゲーム 午後 13:00-14:30 非言語的コミュニケーションに関する実践ワーク 14:40-15:50 担当学年を想定しての授業案作成 16:00-16:40 試験		
活用した資料・データ等	・コミュニケーション実践活動を説明した資料 ・パワーポイント資料 ・頼む・断るゲーム ・社会的ジレンマゲーム ・わくわく二十面相 ・授業案作成のヒントとなる資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 社会的スキル、コミュニケーションのことがよくわかった 具体的な実践的な活動が楽しかった。面白かった 子どものコミュニケーションの特性がわかった 授業で使える事案をたくさん知ることができた 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) グループ活動でよかった 知らない人との情報交換ができた ロールプレイ等が面白かった 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	和田 崇	記入年月日	2017 年 7 月 12 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校、高等学校の国語科担任教諭 人数：12 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 302 号教室
講習名	中学・高校の現代文定番教材を読みなおす		
講習の目標	1. 世代間で解釈の差異が生じやすい定番教材を取り上げ、文学研究の方法論を援用した解釈やアプローチを紹介することで、定番教材の意義を再考する。 2. 講師の一方的な解釈の提示にとどまるのではなく、受講者と講師の双方が自身の教材観や授業法を相対化し、各々の教材に対する認識を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	1 眼目 (09:00~09:40)：講習の概要 2 眼目 (09:40~10:50)：鲁迅(竹内好訳)「故郷」① 講義 3 眼目 (11:00~12:10)：鲁迅(竹内好訳)「故郷」② 演習 4 眼目 (13:20~14:30)：中島敦「山月記」① 講義 5 眼目 (14:40~15:50)：中島敦「山月記」② 演習 6 眼目 (16:00~16:40)：履修認定試験／受講者評価 (終了後)		
活用した資料・データ等	・中学校および高等学校国語教科書の文学教材一覧 (自作) ・鲁迅「故郷」教科書掲載史 (自作) ・鲁迅「故郷」翻訳一覧 (自作) ・鲁迅(竹内好訳)「故郷」(『現代の国語 3』三省堂) ・鲁迅(藤井省三訳)「故郷」(『故郷／阿Q正伝』光文社古典新訳文庫) ・中島敦「山月記」教科書掲載史(『教科書掲載作品 13000』日外アソシエーツ) ・中島敦「山月記」(『高等学校現代文 日』第一学習社)の抜粋 ・李景亮「入虎伝」(『国訳漢文大成文学部第十二巻』国民文庫刊行会)の抜粋 ・佐藤春夫「親友が別になつてゐた話」(『佐藤春夫全集第 31 巻』臨川書店)の抜粋		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 午前に中学校の教材、午後に高校の教材を取り挙げ、それぞれ講師による解説を中心とした講義編と、受講者による作業・ディスカッションを中心とした演習編に分けて行った。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 書画カメラが起動しなかった。使用予定であった最終の 5 眼目まで確認を急った自分も悪いが、普段教室に配置されていない装置については、事前に補助の学生にレクチャーしておいていただけるとありがたい。 3) その他 教科専門でしかも若手教員である自分が、現場で 10 年以上のキャリアを積んでおられる先生方に「講習」することに毎年ジレンマを抱く。最近の研究動向にもとづいた「知識」を提供することはできるが、「実践」的なノウハウを提供することは難しい。だが、受講者のほとんどは後者を求めて講習を受けに来る。アンケートの結果で明らかになったように、講習自体はためになったが授業実践で使えるかどうかは別の話で、「講習は面白かったが教材研究をする時間がなく反映できない」という趣旨の回答があった。講師の側でも、講習内容の記述を具体化するなどして対策はとりたいが、たとえば、「知識」「実践」などのカテゴリーが事前にしていると、受講者もより自分に合った講習を選択できるのではないか。とは言っても、これは文部科学省のシンステムの問題で、開設校での対応は難しいですね。最後に、準備をしてくださった職員の皆様、委員の皆様、ありがとうございます。		

(次ページに続く)

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	上山 浩	記入年月日	2017 年 7 月 13 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高・特設教員 人数：9	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 S-201 教室
講習名	映像メディア表現 (図工・美術科)		
講習の目標	映像メディア表現の特徴的な教材としての 3DCG の基本概念を理解し、実際に基本的な表現技術を獲得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	09:00 ガイダンス 10 分 09:10 基礎理論の講義 20 分 ・ 3DCG の基本理解 (資料映像) ・ 学生作品・生徒作品の鑑賞 09:30 基本実習 1 (立体配置と動画の概念) 50 分 ・ モデリングウインドウの理解 ・ 基本形オブジェクトの配置・移動・回転 10:20 基本実習 2 (立体配置と動画概念) 60 分 練習課題【色ガラス回転】 ・ オブジェクト配置 ・ アニメーション設定の基本、レンダリング設定 11:20 休憩 10 分 11:30 基本実習 3 (立体形成) 30 分 ・ 平面と押出・旋回 ・ 球体等からの変形 (拡大・縮小、自由変形) ・ 幾何学形体の組み合わせ (積み木、演算) 12:00 昼食 60 分 13:00 基本実習 4 60 分 練習課題【歩く金属体】 ・ 間接動作の設定 (回転原点移動、オブジェクトリンク) ・ アニメーションパレット操作 14:00 休憩 10 分 14:10 自由制作 120 分 16:10 休憩 10 分 16:20 鑑賞会 20 分 16:40 受講者事後評価		
活用した資料・データ等	3DCG アプリケーションソフトウェア (フリー)、オリジナル資料、3DCG マニュアル		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 特になし 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 建物入り口の解錠が遅れた。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	西村秀夫	記入年月日	2017 年 7 月 18 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高等学校の 英語科担当教諭 16 名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館3階 遠隔授業室
講習名	中学校英語教科書を英語学の立場から検討する		
講習の目標	現行の中学校英語教科書（3 学年分）を何種類か取り上げ、言語材料の配列、新出単語の導入、文法や音声に関する解説などについて、「英語学」の観点から検討する。		
授業概要 （大まかな流れ）	1. イントロダクション（趣旨説明・教科書を検討する視点）（9:00-10:40） 2. 課題 1：現行教科書の検討（個人作業）（10:50-12:10） 3. 課題 2：現行教科書の検討（グループ作業）（13:10-15:50 途中休憩 計 20 分） 4. 履修認定試験：個人作業・グループ作業に基づいたまとめ（16:00-16:40） 計 360 分		
活用した資料・データ等	・現行中学校英語教科書（全 6 社 3 学年分）+1 つ前の代の中学校英語教科書（全 6 社 3 学年分） ・学習指導要領解説（中学校 外国語編）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・受講者は主として中学校の教員であったが、強い問題意識を持った高等学校教員も数名参加し、中学校、高等学校双方の立場から活発に意見交換を行うことができた。また、小学校で英語を担当した経験を持つ人からも現状に即した意見や感想が出され、想定以上の成果を挙げることができた。 ・「履修認定試験」の解答は、受講者それぞれの経験に裏打ちされたものが多く、講習を開いた者には大きな収穫であった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特になし。 3) その他 特になし。		

(次ページに続く)

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 7 月 17 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 50 人	講習会場 （教室等）	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	学校・学級・家族の思い出をまとめるフォトストーリーの制作		
講習の目標	・フォトストーリーとは何か、フォトストーリーの基本的な制作方法を理解する。 ・学習者が学んだことや経験したことをまとめ、発信する手法としてフォトストーリーができるようになる。		
授業概要 （大まかな流れ）	・フォトストーリーとは何かを理解するため、Web サイト「デジタルストーリーテリングの世界」にアクセスし、作品例や制作方法紹介ビデオを見る。 ・フォトストーリーの作り方の説明を聞き、サンプル画像を使い、Windowsムービーメーカーで画像を流し込み、デジタル画面切り替え効果をつける。 ・コンピュータにマイクプロフォンを接続し、Windows サウンドレコーダーで声を録音し、ムービーメーカーでもそのファイルを活用する。 ・フォトストーリー制作のためのシナリオを作成する。そのために、画像を収集したり、音声録音をする。 ・午前午後とも、制作状況を交流するため、Moodle を用いる。 ・作品制作は、1 日での講習時間では難しいので、7 月 20 日までに完成した人は、Moodle の Web フォーラムにアップすることを推奨した。 ・ Web サイト「デジタルストーリーテリングの世界」 http://havel.edu.mie.u.ac.jp/~dst/ ・フォトストーリー制作用マニュアル 須曾野研究室編		
活用した資料・データ等	1) 内容（試験等を含む） ・講習参加者のアンケートに「楽しみにしていた講習でした。夢中で作成し、もっと時間がほしいかったです。」「興味をもって楽しく講習を受けることができました。先生の話し方や説明もとてもよかったです。仕事でもプライベートでもこれから活用していきたいです。」「今まで撮りっぱなしの写真がいっぱいあるので、この機会にフォトムービーにしていきたいと思います。」「子どもたちにも学習の中でフォトムービーを作成させたい。きつと子どもたちの方が豊かな作品を作れそうに思う。」という感想があった。今回の講習では、デジタル機器操作に不安、という参加者がやや多かったが、夢中になってとり組む人が多かった。 ・午後の講習では黙々と作品作りにとり組む受講者が多かったのが印象的であった。 ・講習終了後も、コンピュータ室を使える時間の範囲内で最後まで熱心にとり組んでいる参加者が多く、やりがいを感じた。		
講習に関する感想	2) 運営（活用機材、会場、補助者等） ・補助者が 2 人であったが、マイクの準備や全体のサポートをよく頑張ってくれました。 3) その他 ・定員の 50 人で、100%の人が参加して下さり、大変やりがいがあった。次年度も同じ講習を担当したい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	園部友里恵	記入年月日	2017 年 7 月 11 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼～高、特支教諭 人数：14 人	講習会場 （教室等）	教職支援センター 視聴覚室
講習名	演劇的手法を活用した授業づくり		
講習の目標	・演劇的手法の代表的なものを体験し、それぞれの特徴を検討する。 ・演劇的手法をとり入れた教科の授業を協働で作成し、実施する。 ・演劇的手法の授業への効果的な活用する方法について考察する。		
授業概要 （大まかな流れ）	演劇的手法とは、架空の世界を生み出しその中で身体を動かしながらになってふるまうことを通して学習を促進する手法である。本講習では、代表的な演劇的手法を体験し、教科の授業場面における活用について学習カリキュラムを協働で作成、実施することとでその可能性を検討する。		
活用した資料・データ等	・渡部淳ほか編（2010）『学びを変えるドラマの手法』旬報社 ・小林由利子ほか（2010）『ドラマ教育入門』図書文化社 ・高尾隆（2006）『インプロ教育』フィルムアート社 ・教科書（教職支援センター 2 階に置かれているものを活用）		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・本講習は全面的に身体活動・言語活動を伴うグループ活動で構成されていますが、受講者の皆様に積極的に参加いただき、体験・模擬授業を通じた振り返りについても全体で共有しながら深めていくことができました。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・参加者のグループ活動を促す上でも名札は必須でした。ご用意くださりありがとうございました。 ・教職支援センターで開催したことにより、設置されている教科書、ホワイトボード（机に置けるサイズのもの）を活用することができました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	古関春隆	記入年月日	2017 年 8 月 18 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高校の教諭 人数：4	講習会場 (教室等)	教育学部1号館PBL42 教室
講習名	何乗すると1になるか？何回繰り返すと元に戻るか？		
講習の目標	整数の剰余類や置換を題材にして、群論的な考え方の初歩に親しむ。		
授業概要 (大まかな流れ)	整数の剰余類の導入、簡単な応用、既約剰余類の導入、位数の導入、ラグランジュの定理、既約剰余類の位数、置換、シャッフル、シャッフルの位数		
活用した資料・データ等	自分のノート		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) やや難しかった。特に中学校の先生には難しすぎたかも知れない。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	望木 郁代	記入年月日	2017 年 7 月 12 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 8 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：50 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 3 号館 1331 教室
講習名	学校でのストレス・マネジメント		
講習の目標	認知行動療法の初歩を理解し、その技法を習得することで、先生ご自身、そして児童・生徒のこころの支援としての実践的ストレス・マネジメントの取り組みができるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50 ストレス・感情・行動・認知についての概略と理解 途中 10 分休憩 13:00-14:50 認知行動療法の紹介と実践 15:00-16:50 学校でのストレス・マネジメントの実践 16:00-16:40 認定試験 (資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	認知行動療法に用いるアセスメントのための記入表 ソーシャル・サポート、ストレス・コーピング、認知の誤り、教師の関わりなどの文献 TEG II 原因帰属、アサーション・トレーニングのワーク教材		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 事前アンケートでいただいた質問にお答えできるよう、先生方のご要望になるだけ沿った内容で、即実践として使えるものを提供するように努めました。まずは、ストレスや感情など、心理教育に必要な知識についてじっくり理解を深めました。そのあとで、認知行動療法の初歩を習得し、その技法を活かした学校での実践方法を紹介しながら、各学校でストレス・マネジメントが実践できるようアセスメントやワークに取り組みました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室はゆったりと余裕がある広さで、ワークで移動や作業をするには適度でした。クレーターのカードがなかったことで、その後困ったことになりました。クレーターが切れたとき教室の一番後ろがスイッチだったので、その都度受講の先生にお願いすることになり、補助の学生さんが必要だと感じました。 3) その他 先生方は非常に熱心に授業やワークに取り組んでくださいました。ワークを含んだ講習が無事最後まで成立しましたのも、先生方のご協力あってのことだと感謝しています。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	松本 昭彦	記入年月日	2017 年 7 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学・高校教員 人数：23人	講習会場 (教室等)	401教室
講習名	枕草子を読む		
講習の目標	枕草子について、中学・高校の教科書の教材を中心に、古典文学を読み、考えることの面白さが伝えること。		
授業概要 (大まかな流れ)	枕草子について、中学・高校の教科書の教材を中心に、古典文学を読み、考えることの面白さが伝わるような「深い読み」を目指し、時代背景や人物像を含めて考察・解説した。「春はあけぼの」「海月の骨」「翁丸」「すさまじきもの」の章段をとりあげた。		
活用した資料・データ等	新編日本古典文学全集 大日本史料 枕草子解環		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 翁丸の段 (第7段) は、最後の時間だったことや本文が長かったこともあり、あまり反応がなかった。他の章段にした方がよいかもしれない。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特に問題なし。 昼食を出してほしい。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	機野 巧	記入年月日	2017 年 8 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：9	講習会場 (教室等)	302
講習名	人文地理学と地誌学をめぐる近年の動向		
講習の目標	人文地理学と地誌学をめぐる近年の動向を、古典的なものから最新トピックスについて言及し、とくに日本とオーストラリアで展開する地誌学的現象の諸相を理解すること		
授業概要 (大まかな流れ)	環境認知、地図について考える、都市・農村問題、オーストラリア地誌		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 初の講習であったため、時間配分について再検討する必要があると感じた 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特になし 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	荻原 彰	記入年月日	2017 年 7 月 26 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	中学校・高等学校・小学校教諭 22人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館
講習名	自然災害と日本の風土		
講習の目標	・災害に結びつく自然事象（地震、気象、火山）について、事象がおこる仕組みを理解する ・これらの自然事象が日本の風土や文化に与える影響について理解する ・伝承的な治水文化を理解する ・津波と気象災害について被害を避ける方法を知る ・人間の営みが自然災害を助長している事例を森林の過剰利用と温暖化について知る		
授業概要 (大まかな流れ)	I 地震 (断層) 災害と日本の風土・文化 II 火山災害と日本の風土・文化 III 気象災害 (温暖化も含む) と日本の風土・文化 試験 (持ち込み不可)		
活用した資料・データ等	航空写真、CG 等地形をわかりやすく示す画像 地図 月別降水量 方丈記等の文学作品 伝説		
感想	1) 内容 (試験等を含) 参加者は熱心であった 地形立体模型と家のモデルはたいへん喜んでくれた 講習内容が多すぎた 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 特にありません。更新講習の担当の先生方、事務の皆さんありがとうございました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	南 学	記入年月日	2017 年 7 月 22 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：19人	講習会場 (教室等)	多目的ホール
講習名	はじめてのゲーミング		
講習の目標	本講では、児童 (生徒) 主導型の授業形式であるゲーミングについて、はじめて触れる教員を対象に紹介していきます。ゲーミングはあらかじめ設計した世界のなかで児童 (生徒) が主体的に行動することで、その世界に横たわるルールやしぐみを感じ取りながら学んでいく方法です。受け身の授業よりも意欲が高まり、深く理解させやすい利点があります。なるべく実際にゲーミングをしながら、その可能性をすることを目標とします。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. ゲーミングとは 2. ゲーミングの利点 3. ゲーミング実践 4. ゲーミングの適用可能性		
活用した資料・データ等	・パワーポイント資料 ・トランプなどゲーム教材 ・ゲームのルールや目的に関する資料 ・ゲームの振り返り用紙		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含) ・分科会において昨年と多少ゲームの入れ替えをおこなった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・資料が多く、事前の準備はたいへんであったが、当日は適切にサポートしてもらい、助かった。 ・机が重く、移動がたいへんであった。 3) その他 ・今回の内容をぜひ現場で活用してもらえるところもうれしいです。 ・昨年までとちがいが、著しく受講希望者が減りました。参加されている受講者の反応はさほど変わらないため、評判などの問題ではないようにも思います。なにか考えられる原因がありましたら教えていただきたいと思います。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須賀野 仁志	記入年月日	2017 年 7 月 28 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者:全校種(幼・小・中・高校・特別支援等) 教員 24 人	講習会場 (教室等)	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	携帯タブレット端末を利用した音声付きスライドショーの作成		
講習の目標	・児童生徒らが携帯タブレット端末を用いて、どのように学習ができるかを知る。 ・携帯タブレット端末 iPad にインストールしたアプリ「ロイロノート」の扱い方やそれを用いたスライドショー制作の方法がわかるようになる。 ・学習者が学んだことや経験したことをまとめ・発信する手法として、「ロイロノート」を用いた音声スライドショーが作れるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	受講参加者同士、サポート学生との自己紹介の後、携帯用タブレット端末 iPad にまず触り、学習面でどんなことができるかを知る。 ・iPad 用アプリ「ロイロノート」の基本的な操作を学ぶ - 音声録音、画像撮影、切り替え効果、BGM の付け方等 ・「ロイロノート」を用いて、音声付きスライドショーを試作する。 ・携帯タブレット端末や「ロイロノート」を用いた先進の実践例について話を聞く。 ・「ロイロノート」を用いて、本格的に音声付きスライドショーを作る。		
活用した資料・データ等	・「ロイロノート」を用いたスライドショー制作マニュアル 須賀野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・携帯タブレット端末 iPad や iPad 用「ロイロノート」は、これまででタブレット端末に全く触ったことがない人で使いやすく、感覚的に操作できるので、講習時間 6 時間の間に、多くの受講者は、スライドショー作品を制作することができた。 ・講習参加者のアンケートに「即、実践に役立つ内容だったので、楽しく受講することができました。」「教育現場で私でも使えそうです。アイデアを考えて使いたいと思います。」「初めて使うアプリだったので、不安もありましたが、夢中になって取り組みことができました。」「1 番受けてみたい講習だったので、とても嬉しく楽しみにして来しました。実際にやってみて、こんなに簡単にスライドショーが作れると知り驚きました。」というコメントがありました。携帯タブレットの活用やスライドショー制作を普及させる活動は今後も続けていきたい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・大学の総合情報処理センターのコンピュータやインターネットが使える、何も問題なく、講習できよかった。 ・受講参加者との交流を行う Moodle は、一昨年度まで学外からもアクセスするたため、三重大学 Moodle が使えませんが、昨年からの受講者が使うアカウントを 6 週間有効とさせていただいたので、三重大学 Moodle で講習後も活用でき本当によかったです。Moodle の事前準備の時間も少なくなりました。 3) その他 ・iPad を準備するのは、今回 24 台と多く大変でした。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	益川 優子	記入年月日	2017 年 7 月 21 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者: 幼・小・中・高教諭 人数: 20	講習会場 (教室等)	教育学部 403 教室
講習名	教育の諸相と児童・生徒理解		
講習の目標	教育心理学の理論に基づいて、教育の意義と重要性について考察し、教育の諸相を心理学的に理解する。また、現代の教育実践上の諸問題に適切に対処していくための教員の基本姿勢や方略について考究する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～10:30 教育の諸相・事例検討 10:30～11:50 教育の意義と教育心理学の理論 午後 13:00～14:30 児童・生徒理解の意義 14:30～15:50 児童・生徒理解の基礎演習 16:03～16:43 テスト (持ち込み可)		
活用した資料・データ等	提供事例 青年の人間関係居場所データ (2011 年日本青年心理学会第 19 回大会発表資料、益川) 中学生・高校生の求める理想の教師像データ (2016 日本カウンセリング学会第 49 回大会発表資料、益川)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・現代の中・高校生や大学生における最新の研究データなども活用し、児童・生徒理解という意味においては机上の空論にならず、現実的な論理を展開することができたと思います。 ・パワーポイントをを用いた講義を行いました。わかりやすい図や資料を加えました。大切な事項や自分の意見を書き込むことができれば、講義を聞きながら理論や方途等を現場で活用し、実際の受講者の先生方には、講義を聞きながら理論や方途等を現場に活用することを想定しながらポイントや要点を資料に書き込んでいただけたようにしました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・講習中、グループでの話し合いやロールプレイなどを行ったのですが、会場は十分な大きさでしたが、電気のスイッチが教室の一番後ろにあったため、パワーポイントを提示するたびに受講者につけたり消したりをお願いせねばならなかった点が残念でした。 3) その他 ・今年も若手者が教育の意義や教育心理学の基礎理論などを、現職の先生方にお話することは大変失礼かと思いますが講習を行ったのですが、「先生から教えて頂いたことを現場で活用します」「選択してよかった」「大変有意義な時間であった」等の言葉を頂戴いたしました。また、研究者という立場から、現代の青年がどのような心理でいるのかをお話させていただいたのですが、現職の先生方にとって有意義な知見であったとお言葉をたくさん頂戴し、大学という教育機関に身を置いている自分が、今後も教育原理や教育心理といった学問をより深く探究すると同時に、研究調査を重ね、現場の先生方とは違った角度から児童・生徒、青年という人間を理解していく、研究者という立場からの知見を教育現場に寄与していきたいという思いを改めて抱きました。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	余 健	記入年月日	2017 年 8 月 3 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・特支 人数：20 人	講習会場 (教室等)	教育学部専門 1 号館 401
講習名	学習者(国語教育・日本語教育)の初期教育における文字表記の問題点について		
講習の目標	国語教育、日本語教育の初期教育段階における学習者に共通する文字表記の諸問題の中から、①「撥音(ン)・促音(ー)・長音(ー)」と②「直音と拗音」に焦点をあてる。①、②の表記時において、初学者が、つまづくポイントについて具体的に、取り上げ、音声学・音韻論の基本的な知見を援用しつつ、わかりやすく、その解決策を考え、指導案を検討する。		
授業概要 (大まかな流れ)	(講習のスケジュール) 午前：1 コマ 9:00-10:20 本講習の目的等・基礎事項の確認(学習者の課題①) 2 コマ 10:30-11:50 基礎事項の確認(音素・モーラ・音節)② 午後：3 コマ 13:00-14:20 指導法の確認① 4 コマ 14:30-15:50 指導法の確認② 試験：16:00-16:40 (ノート・配布資料等持ち込み可)		
活用した資料・データ等	説明用レジュメ・比国出身中学生による日本語作文の事例・日本人幼児による作文の事例・聞かえ度に関する資料・フィリップにルーツを持つ中学生の日本語の発音と認識における諸問題(松永千明氏の卒業論文の一部)・多層指導モデル(MIMO)に関する資料・小学生国語科動画用 動画でわかる！特殊音節指導の工夫(海津亜希子氏による動画教材)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 例年より、音声学に関する説明内容を絞り込み講習に臨んだ。その取り組みは、ある程度、実を結んだように思われるが、表記上の問題点が、まずもって発音に起因することに関する説明が足りず、授業の根本的な意図が上手く伝わらなかった受講生の方がいた点は、反省点として次年度に生かしたい。また、来年度に向けて、音声学的な基本的な説明を更にコンパクトに、且つ体感的な内容にし、受講生間の交流の時間を増やせるよう努めたい。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	宮岡邦任	記入年月日	2017 年 7 月 29 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教員、高校地歴教員 人数：11 名	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 302 教室、野外
講習名	自然地理学の基礎		
講習の目標	小学校社会科、中学校地理の学習において地形図からの情報を読み取る力を養うことは極めて重要である。本講習では、教科書や資料においてよく見られる典型的な地形を扱い、地形図作業を通して地域の自然環境と人間生活との相互関係についての理解の仕方を考える。また、図作業を行った地域に赴き、現地見学を通し理解を深める。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：教室での授業(学校現場における地理教育に関する今日的課題の提供、自然地理学の基本的事項についての整理、大学周辺にみられる自然環境とその変化についての説明と地形図作業) 午後：作業図面と資料を持って、バスで午前中の授業で扱った地理景観についての現地見学 筆記試験(現地で地理景観を確認し、講義で行ったことと作業図面との比較から考えられることの確認を目的とした質問)		
活用した資料・データ等	国土地理院発行の地形図、津市発行の洪水および地震に関するハザードマップ自作の資料集		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 当該分野における現代的課題を的確に捉えた内容を扱えていると考えている。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) バスの手配など、ありがとうございました。 今年もバスの運転手が見学地点の直ぐ近くまでバスを近づけてくれたので、移動の時間短縮ができ、大変良かったです。 この数年、同じ運転手さんに出動頂いておりまして、コースなども覚えて頂いており、大変助かります。 3) その他 現地を歩くことを午後の見学に入れている本講義は、熱中症などのリスクを抱えた状態で実施しています。 できれば気温が下がってきて、雨の心配のあまりない秋に講習日を設定したいのですが、候補日が減ってしまっており、なかなかうまくいかない状況です。 梅雨入り前や10月以降の講義日を増やして頂けるとありがたいです。 また、必修、必修選択の授業が増えたいでしょうか？選択科目が日曜日に設定されるようになってきておりますが、1日フルに授業を行った後で疲労が残り、翌日からの業務に少なからず影響がありました。 この点も踏まえて、講義日の日程を検討頂けるとありがたいです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	露峰茂明	記入年月日	2017 年 7 月 23 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習○	講習開設日	2017 年 7 月 16 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中高教諭 人数：3	講習会場 (教室等)	教育学部 402
講習名	整数と無限小数		
講習の目標	初等整数論のさまざまな計算法と定理を思い出したり学習したりする。 無限小数への応用を提示する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-10:20 余り付き割り算、互除法 午前：10:30-11:50 一次合同式 午後：13:00-14:30 オイラーの定理、応用 午後：14:40-15:50 無限小数 午後：16:00-16:40 試験（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	配布したプリント		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 熱心に聞いていただいた先生方に感謝したい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 昨年ホワイトボードであったが、今年は広めの黒板であったのでやりやすかった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	岡田博明	記入年月日	2017 年 9 月 4 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習○	講習開設日	2017 年 7 月 25 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：10	講習会場 (教室等)	デザイン教室
講習名	シンボルマークデザイン/コンピュータを使用したデザイン表現		
講習の目標	コンピュータを使用したデザインワークであるが、「見る」だけでなく「使う」ことを考えた美術としてのデザインの理解と教授法の習得		
授業概要 (大まかな流れ)	午前中：マークや標識の意味、歴史の解説 自分のマークを考える 午後：作成したマークを CG ソフトによってブラッシュアップしシールやステッカーを制作する。		
活用した資料・データ等	自作パワーポイント、自作資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者は楽しんで授業を受けてくれた模様。 また、例年になく課題作品のレベルは高く、理解も高かったと思える 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ステッカー製作機が1台では不足していたと感じる、待ち時間が長くなった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	重松良祐	記入年月日	2017 年 7 月 30 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭および養護教諭 人数：18	講習会場 (教室等)	教育学部 304
講習名	運動意欲を高める行動科学の手法		
講習の目標	行動変容に関するさまざまな手法を理解する。そして、子どもや保護者、他教員に 対して行動変容を働きかけられるようになることを目指す。		
授業概要 (大まかな 流れ)	午前：1 コマ 9:00-10:20 不活動性のもたらす影響について 2 コマ 10:30-11:50 行動変容の理論の理解 午後：1 コマ 13:00-14:20 行動変容の理解を深めるためのグループワーク 2 コマ 14:30-15:50 グループワークの発表、まとめ 試験：16:00-16:40 (持ち込み不可)		
活用した資料・データ等	・身体活動と健康に関する最新情報の提供 ・行動科学を活かした身体活動・運動支援 (2006.09 大修館書店)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・さまざまな校種からの参加があったため、問題を共有しやすいよう、なるべく同じ校種でペアやグループを形成するように努めた。 ・グループワークを用いることは、授業内容を知識として定着させるために有意義なことのように思われる。 ・試験は講習課題に沿って回答できる内容であり、かつ、グループワークでの内容を反映できるものであった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) ・機材は用いなかった。 ・事務方がいらいしたこととで細やかな対応をしていただいた。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	奥村晴彦	記入年月日	2017 年 7 月 25 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 [選択講習]	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：8	講習会場 (教室等)	総情センター第4端末室
講習名	統計学入門		
講習の目標	統計学の基本を、オーブソースの統計ソフト「R」を使って学ぶ。		
授業概要 (大まかな 流れ)	統計グラフの描き方、平均・標準偏差の求め方、統計的仮説検定、p 値、信頼区間、 2 項検定、フィッシャーの正確検定、中心極限定理、正規分布、t 検定、相関係数、 主成分分析など		
活用した資料・データ等	私のサイト http://oku.edu.mie-u.ac.jp/~okumura/stat/		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 内容が難しいと思われたのか、人数は少なかったが、県外 (遠方) からの参加者も 2 人おられ、たいへん熱心に受講されていた 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室 (第4 端末室) のエアコンの効きが悪いようであった (もっと温度設定を下げ るべきだったかもしれない)。教室備え付けのスリッパの悪臭も気になった。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	磯部 由香	記入年月日	2017 年 7 月 25 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中・高教諭、養護教諭 人数：30 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 PB4 教室
講習名	学校における食育の推進		
講習の目標	子どもたちの食生活の現状を捉えることから課題を見出し、健全で豊かな食生活を 実現するために必要な学校における食育の在り方と効果的な進め方について理解 する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9：00－10：00 食育の重要性と食育推進体制についての講義 10：30－11：10 これまでの実践の整理と交流 10：10－15：50 食育の6つの目標を理解するための演習と講義。 具体的な実践事例の紹介。		
活用した資料・データ等	・食に関する調査データ ・食生活指針、食事バランスガイド ・食に関する指導の手引		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・昨年度と大幅に構成を変更し、食育の6つの目標を演習と解説から理解してもらい、具体的な実践事例を紹介するという流れにした。単なる実践事例の紹介の羅列にならないと思う。 ・構成を変えたために、時間配分がうまくいかなかった。 ・感想の評価はおおむね高く、ぜひ食育を進めていきたい、実践していきたい、という感想も多くあったので、目的はおおむね果たせたと思う。 ・試験のポイントを講義中に伝えたが、こちらの意図した内容をすべて含む記述は少なかった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特になし。 3) その他 今年度も、高等学校教諭が受講していたので、おそらく満足してもらえなかったと思われる。次年度は講習のタイトルに「小学校」と入れて限定したい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	守田 庸一	記入年月日	2017 年 8 月 9 日
講習の区分	必修講習・選択講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校教諭 人数：31 名	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部 1 号館 401 教室
講習名	これからの読解力を育てる小学校国語科の授業		
講習の目標	小学校の国語科におけるこれまでの授業実践及び先行研究の成果をふまえつつ、思考力・判断力・表現力、活用力の育成を視野に入れながら、これからの読解力を育てられる授業のあり方について具体的に考察することができる。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-11:50 説明文の授業について 午後 13:00-15:50 物語文の授業について 16:00-16:40 テスト (ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・教科書教材 ・PISA (OECD生徒の学習到達度調査) 関連資料 ・国語科教育に関する資料 (学習指導要領及びその解説、「読むこと」に関わる先行研究等)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 国語科に関する高い問題意識を有する受講者も多く、積極的な姿勢での受講が得られたという印象を抱いています。国語科 (とりわけ読むことの学習指導) の本質の理解を促せるよう理論的な知見の提供を中心に内容を構成し、その解説において具体的な教材を取り上げたり実践例を紹介したりしました。講義が中心となつたので、受講者間での交流をより実頭できるよう、講習の内容あるいは方法を検討したいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 過不足なく事前の準備と当日の運営をしていただき、問題なく講習を終えることができました。教員免許更新講習システムの操作についてもご教示下さり、助かりました。ありがとうございました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	伊藤信成	記入年月日	2017 年 8 月 22 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中学校教諭 人数：9 名	講習会場 (教室等)	地学実験室
講習名	デジタル・アナログを使った天文教育		
講習の目標	天体の分野は、夜間観測が難しいため、授業でも既存の画像や映像を用いる場面が多くなりがちで苦手とする教員も多い。一方で、デジタル機器の進歩により以前に比べ比較的容易に教材化ができるようになった。本講習では教育現場での IoT 導入を念頭に、天文分野でのデジタルコンテンツの可能性について講義と実習の両面から検討を行う。		
授業概要 (大まかな流れ)	・最近の天文学研究の紹介：冥王星探査、太陽系外惑星探査 ・デジタル機器を用いた天文教育 ・天文シミュレーションソフトの紹介と操作体験 ・画像処理ソフトの紹介と操作体験 ・アナログ機器用いた天文教育 ・望遠鏡の操作 ・望遠鏡を用いた太陽黒点観測		
活用した資料・データ等	・天体シミュレーションソフト：Mitaka ・画像処理ソフト：ImageJ ・デジタルカメラで撮影した星座写真（伊藤撮影） ・簡易式望遠鏡スベカ		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・簡易式望遠鏡スベカ（研究費から支出）を作成し、それを用いた実習を行った。受講者には好評であった。 ・今回は認定試験で筆記と機器操作の 2 種を行った。機器操作を試験に取り入れたことは、より実践的な実習とする面で良い面もあったが、試験に利用できる機器数を確保することが少々大変であり、今後改善が必要である。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・実習当日は曇天であり、屋外実習を行うことができなかった。講習開催日は月齢などの天体現象とは無関係に設定されているため、候補日がほとんどない状況である。 3) その他 ・今年度は一部 iPad を利用したが受講生には好評であった。一方で、それ以外のデジタルデバイスでは自前で用意する必要があり、特にノートパソコンについては 1 人 1 台での実習を希望する声があった。受講人数分の PC を自前で揃えるのは難しく、講習人数を増やす際のネックとなっている。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	三谷義英	記入年月日	2017 年 8 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教員 人数：47 名出席	講習会場 (教室等)	三重大教育学部
講習名	学校保健 児童生徒の心臓性突然死		
講習の目標	児童生徒の心臓性突然死の基本的知識の習得と救急対応の重要性の理解、BLS 講習受講の動機付け		
授業概要 (大まかな流れ)	児童生徒の心臓性突然死の臨床的特徴、実例、AED を用いた蘇生の実践的な知識と地域社会、学校での意義		
活用した資料・データ等	スライド、プリント、引用文献		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 特になし 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 温度調節が不安定。マイクの音質、プロジェクターが小さい 3) その他 もし 100 名講義室の方向性がある場合、2 の検討が必要。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	菅 秀	記入年月日	2017 年 8 月 1 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：	講習会場 (教室等)	
講習名	学校での感染症予防と対応		
講習の目標	小児でよくみられる感染症の鑑別、感染予防、感染拡大予防に関する知識を習得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9 時 00 分から 10 時 20 分まで、パワーポイントスライドを用いて、講義を行った。		
活用した資料・データ等	パワーポイントスライドおよび印刷資料。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 皆さん、熱心に聴講されていました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特に問題なし。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	長尾 みづほ	記入年月日	2017 年 8 月 1 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：	講習会場 (教室等)	
講習名	アレルギー疾患		
講習の目標	アレルギー疾患、特に食物アレルギーは、近年有病率の増加していることや、アナフィラキシーを起こす重症児が就学年齢以降も少なからず存在することが指摘されている。文部科学省からも食物アレルギーの対応について研修資料やエビデントラーナーなどの資料が配布されており、教育現場でも対応が要求されている。特にアレルギー症状が誘発されたときの対応について、より具体的に説明し、資料としては、各学校でも活用されやすいように文部科学省が作成したものを活用するようにした。また、一般的に必要なとされる食物アレルギーの知識について、病因と病態、保護者や医療機関との連携づくりなどについて要点を説明した。		
授業概要 (大まかな流れ)	13:00-14:20 講習 文部科学省が配布した食物アレルギーの病態、特殊な食物アレルギー、疫学などの説明 診断方法や、誘発症状について 症状出現時の初期対応、アナフィラキシー時の対応、特にエビデントについて 児童生徒が食物アレルギーを学習するためのツールの紹介		
活用した資料・データ等	プロジェクトを用いてスライドと資料を使用した。 エビデントの説明については使用方法は知っていても、エビデントラーナーを用いながらどういった状態のときに何に注意してどういった体制で使用するかを踏まえておこなった。 学校での対応については、学校や保護者からよく受ける質問事項について例をあげながら講義の中で説明した。 子どもへの学習資料などの案内も行った。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ときどき質問はないか尋ねたが、そのときには無く、講義後に個別に声をかけられた。次の講義の準備もあり、個別の質問であっても全員に対して返答したほうが役立つことも多いためやや残念であった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・エアコンが途中で切れてしまい、暑くなってから気がついた。 3) その他 ・事前に関心事項についてアンケート内容をしることができたので、準備がしやすかった。 どのような問題が正答率が高いのかわからないため、何が難しかったか正答率を教えて欲しい		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山川 紀子	記入年月日	2017 年 8 月 9 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：	講習会場 (教室等)	
講習名	学校保健：学校で問題となる発達障害・精神神経的問題		
講習の目標	小児にみられる主な発達障害や精神神経的問題を理解し、それらに対する適切な対応の仕方を知る		
授業概要 (大まかな流れ)	パワーポイントを用いて講義を行った		
活用した資料・データ等	パワーポイントスライドおよび印刷資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) みなさん熱心に聴講されていました。 毎年のことですが、聴講される先生方が幼稚園・保育園から高校まで幅広く、発達障害の特徴や対応については年齢に応じた具体的な話をする時間が足らずに申し訳なく思っています。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) これも毎年のことですが、エアコンのオンオフがうまくいかず、困りました。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	蓮尾直美・鈴木 聡	記入年月日	2017 年 8 月 16 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小・中・高・養 護教諭 人数：26名	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部1号館302
講習名	学校・学級における生徒指導・被虐待児問題を巡る教師の役割再考—		
講習の目標	○学校・学級内外での生徒指導に関わる教師役割を問直す ①社会学の目 (ミクロ・マクロの視点) で生徒指導上の課題を捉えることにより、急激な社会変化に伴い生じる被虐待児とその家族の抱える問題や社会背景等への理解を深め、今後めざす教師役割の方向性並びに指導上のポイントを会得する。 ②児童相談所の立場から、意外に知られていない児童虐待対応の実情について、最新の相談状況や関係法律、関係機関との連携等を解説して学校や教師に役立つ知見を提示する。 ③生徒指導における被虐待児の対応を巡り保護者への対応に際し遂行すべき困難事例について、校種の異なる教師によりグループワークで取り上げ、関係機関との連携や保護者対応に資する学校組織チームとして教師の役割を遂行する重要性を共有する。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 午前の部：被虐待児対応を巡る生徒指導場面での課題を検討する上で、相手の内面に接近して理解するミクロな視点とその社会構造や背景を把握するマクロ視点で統合的に見る社会学的視座とその具体的事例について講述した。 2. 午後の部：県児童相談センター長鈴木講師による一時間余の講義、質疑応答等により児童相談所の考え方、実際の事例に基づく対応例などを解説した。 3. 被虐待の疑われる生徒を巡る指導事例を班討論後、全体発表を行った。校種の異なる教師によるグループワークを通して、関係機関との連携法や保護者への対応法について具体的に学習する機会を提供した。		
活用した資料・データ等	配布資料：Oパワーポイント紙媒体 (蓮尾担当分) <出典>「学級の社会学」(蓮尾他編著 ナカニシヤ出版 平成 25 年 第6章：鈴木講師との共執) をはじめ永年の調査研究に基づく文献 並びに新聞報道等資料。 Oパワーポイント紙媒体 (鈴木講師担当分) 児童相談所業務の中で経験した事例やその対応、業務統計などによる、写真やグラフなども含むプレゼンテーション資料。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ①一般社会に通じる視座としての「社会学の目」は、学校や教師の役割を捉え直す枠組みとなる。その際に、教師・生徒関係をはじめ保護者との関係の性質をミクロとマクロの両視点、すなわち彼らを取り巻く社会背景等を手がかりに生徒や保護者との関係を質的・客観的に把握する必要性を理解する受講生は少なかった。②地域関係機関や家族との連携では「被虐待児」をめぐる学校の組織的対応が学校内外の生徒指導上の課題である「いじめ」や非行等の対応と深く結びつく点の認識が今回の講習では一層深まった。これらは主に試験答案を通して得られた。③被虐待児に関する講義、並びにグループ・ワークでの討論では、児童相談所の活動が通告から一時保護、その後の地域での見守りに至るまで学校との連携は大変重要であり、今回の講習のような機会に学校等と一緒に考えていきたいと考える。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 会場やP C等の機材はよく設置されて十分に機能した。空調の寒気調整を求める受講生が一部みられた。他面で空調が効かず暑いとの訴えもきかれた。 補助員は、講習の運営を十分に支え、適切に対応された。 3) その他 とくになし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	服部純子	記入年月日	2017 年 8 月 18 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校・高校教諭 人数：13 名	講習会場 (教室等)	教養教育 2 号館第 5 端末室
講習名	音声の「見える化」を取り入れた英語学習		
講習の目標	「文字を見ればわかるのに、音声だけだと何と言っているのかわからない」という英語学習でよく耳にする悩みに向き合うため、最新の音声研究に欠かせないパソコンを用いた音声の「見える化」を体験し、音声指導の際のワンポイント・アドバイスに活用できる知識を身につけることを目標とする。		
授業概要 (大まかな流れ)	パソコンを使ったことば遊び 音声分析ソフトウェアの基本的な使い方の説明 実習 英語音声学 (調音音声学および音響音声学) のエッセンスの説明		
活用した資料・データ等	自作の配付資料 録音済みの音声資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 最新の研究動向として音の「見える化」を可能にするソフトウェアを用いた分析に主眼を置き、英語音声学のエッセンスについての説明は受講者の方々にとって冗長になることを避けて補足的に行いませんでした。生徒に教えるための工夫としてもっと知りたいという声を次年度以降の講習に反映したいと思います。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 前日に補助員 2 名と使用予定のパソコン各台について人文学部より持参したヘッドセットをセッティングし、音量調整、音声分析ソフトウェアの動作確認を行ってあったので、当日は問題なく実習を進めることができました。 飲食禁止の端末室以外に昼食時の控え室および筆記試験会場として最寄の普通教室を用意していただけたので、教室間の移動がスムーズに行えました。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	林 朝子	記入年月日	2017 年 8 月 10 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中教諭 人数：32	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 202・PBL 7
講習名	書写指導の内容及び実技		
講習の目標	書写指導の内容理解と毛筆実技の基礎力の向上		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 書写の歴史と位置付け、書写指導の内容 2. 文字の筆写と書写 3. 毛筆実技 4. 毛筆実技＋作品制作		
活用した資料・データ等	小中学校の書写教科書 その他、書写書道関連図書 作品制作用として“うちわ”		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 人的に書写や毛筆に強い関心を持っている人以外は、書写に関する意識は低い傾向にあると感じた。講習をきっかけに書写の授業に対する意識が高まり、学校現場の書写教育の充実にも少しでもつながることを期待したい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) PBL 7 は椅子が古く、高さの調節ができないため、書きにくいとのコメントがあった。 3) その他 受講生のアンケートにも改善要望があったが、講義の時間が長くなってしまい、実技の時間が予定より短くなってしまったことは反省点である。来年度以降は時間配分に注意したい。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	内田秀昭	記入年月日	2017 年 8 月 17 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学教諭、高校教諭 人数：4	講習会場 (教室等)	教育学部教職支援センター 1F 第4教育端末室
講習名	パソコンを使った経済データ学習入門		
講習の目標	この講習の目的は、経済データを使って、日々の生活で必要不可欠な経済の基礎知識について学習し、新聞やニュースで昨今よく耳にする経済問題についての考察を深めることである。正確な知識の習得に加えて、授業の中で生徒にわかりやすく説明し、興味をもたせるための手法についても併せて講義する。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前： 9:00-11:50 ミクロ経済データを使った分析と実習 午後： 13:00-15:50 マクロ経済データを使った分析と実習及び自由課題 16:00-16:40 テスト(ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	経済データのExcel ファイル		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) ・経済データをパソコンで確認しながら講義し、受講生によるデータの加工や分析などを入れることで受講生の関心を維持することができたと感じています。 ・少人数であったため、参加者の皆さんとコミュニケーションを図りながら楽しく講義をすることができました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・パソコンが使える適切な会場を用意していただいたので、問題なく講習を終えることができました。 3) その他 ・今年は Excel を普段から使っている受講者が多かったので、操作の説明にはあまり時間を取られず、経済学の話にも十分時間を割いて講義することができた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	國仲寛人	記入年月日	2017 年 8 月 17 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中教諭 人数：4人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館物理第1実験室
講習名	理科の授業に役立つコンピュータシミュレーション		
講習の目標	無料で使える科学教育用のインタラクティブ・シミュレータ PhET を、小学校理科、中学校理科(第一分野)の授業に役立てる方法を紹介し、数値実験を体験する。その後、PhET を活用した授業やワークシートを各自で考え、2学期以降の理科の授業に役立てる。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. PhET の概要についての解説(操作、保存方法など) 2. 理科の授業に役立つシミュレーションの紹介 3. 各自授業案やワークシート教材などの作成 4. 試験		
活用した資料・データ等	スライド、ワークシート、シミュレーション		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 講義では自作のワークシート案を提示したが、授業案まで提示できると参加者が PhET を活用した自分の授業をイメージしやすくなると思うので、今後導入を検討したい。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特になし。 3) その他 少人数の講義だったため、一人一人の相談にも応じることができ、パソコンのトラブルにもすぐに対応できてよかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	八木 規夫	記入年月日	2017 年 8 月 17 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼・小教諭 人数：23	講習会場 (教室等)	教養教育2号館281番教室 及び第1体育館
講習名	幼児・児童の体力・運動能力の向上と発育発達		
講習の目標	子ども（特に幼児期）の体力・運動能力の向上と発育発達との関連について考える		
授業概要 （大まかな流れ）	午前：子ども（特に幼児期）の体力・運動能力の向上と発育発達との関連について、運動生理学やバイオメカニクスの観点から学習する。幼稚園の園庭環境と幼児の運動遊びについての紹介。基本的な運動動作の発達に関するデータの紹介。 午後（前半）：簡単な実技研修で、昔遊びにおける身体操作の難しさと面白さを体験する。 午後（後半）：身体運動の簡単なメカニズムを運動生理学とバイオメカニクスの観点から学習する。 試験：3問		
活用した資料・データ等	子どもの体力・運動能力低下に関するデータ。 子どもの発育発達に関するデータ。 基本的な運動動作の発達（特に幼児期）に関するデータ。 身体運動科学に関する簡単な資料。		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 幼稚園及び小学校の先生が主な対象者であった。実技研修を取り入れた事によって先生方の交流が深まり、お互いに教え合いなどして良い雰囲気になったように思われた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 会場、機材とも良好であった。 補助員のおかげで講習をスムーズに行えることができた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	吉本敏子	記入年月日	2017 年 8 月 24 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 9 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中高家庭科教員 人数：10名	講習会場 (教室等)	教育学部1号館 PBL4 教室
講習名	家庭科における消費生活と環境に関する教材研究		
講習の目標	現代の消費生活の特徴を理解し、消費者教育の必要性を考える。また消費者教育の概念、内容、方法、学習指導要領における消費者教育のねらいを理解し、授業実践例や教材を参考にしながら、家庭科における消費生活と環境に関する学習の授業構想や教材の工夫ができるようになることを目指す。		
授業概要 （大まかな流れ）	1. 求められる新しい消費者の姿 2. 消費者市民社会を考える ①消費者と環境問題 ②食品ロス ③フード・マイレージと地産地消 ④フェアトレード ⑤消費者と情報 3. 学習指導要領「消費生活・環境」 4. 消費生活と環境の授業を考える		
活用した資料・データ等	・パワーポイントを印刷した資料 ・ワークシヨップ「このTシャツはどこから来るの？」の教材 ・DVD「児童労働をなくす歌」		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 本授業の目標の一つである「現代の消費生活の特徴を理解し、消費者教育の必要性を考える」を、授業の前半部分「1. 求められる新しい消費者の姿 2. 消費者市民社会を考える」で行ったが、内容が多かったために多くの時間がかかってしまった。この前半の授業の中に、授業の教材のヒントとなるものをいくつか入れることができたが、「4. 消費生活と環境の授業を考える」の部分でもう少しじっくりと授業構成等について考える時間を確保できればよかったと思う。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） PBL4 教室は日頃使用している教室であり、前日に機器的調整をしておいたの、特に問題は生じなかった。また補助の学生も受付等きちんと対応してくれた。 3) その他 特になし		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	エスクデロ ロス	カル	記入年月日	2017年 8月 19日
講習の区分	○選択講習		講習開設日	2017年 8月 19日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校の教諭 人数：17	講習会場 (教室等)	教育学部 1号館 3F room PBL 演習室	
講習名	小学校における英語教育の方法と実践			
講習の目標	To give a theoretical and practical overview on how elementary school children learn a foreign language and how Japanese elementary and junior high school teachers find better ways to teach it.			
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50 Early English education in Japan. Teacher's feeling about English. Language Development, Comfort Zone, Children centered classroom Learning styles, Teaching techniques and materials. 13:00-16:00 Phonics, activities and game, Classroom English, Textbooks. 16:00-16:40 HRT and ALI, Lesson Planning theory and group discussion. ・Overhead Projector, Camera, Screen, PC, Textbooks and cd roms. ・Teaching, groups teaching realia, flashcards, board games, songs, maps, activities.			
活用した資料・データ等				
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) Teachers were able to learn basic language-teaching techniques and theories as well as practice Classroom activities and basic lesson planning. 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) The classroom was neat and ready to teach. The camera and overhead projector were ready. My assistant Ms. Sakamoto was very helpful from beginning to end, taking attendance and helping when asked. 3) その他 The only thing on the set up was didn't find a HDMI cable to connect my PC to the projector. I had my own cable so the lesson went smooth.			

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2017年 8月 18日
講習の区分	選択科目	講習開設日	2017年 8月 9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：保育士、幼小中高特支教諭・養護教諭 人数：9人	講習会場 (教室等)	教養教育206
講習名	性(sexuality)を学ぶとは何をすることか？—小学校を中心に—		
講習の目標	①性は自然なもの、人間にとって良きものであるという認識を共有する。 ②性教育に関する情報をできるだけ多く提供する。 ③伝達中心の講義的授業ではなく、交流中心の演習的授業にする。 ④各受講者やその職場の現実やそこで考えていることを交流する。 ⑤右派勢力の性教育バッシングもある中、講習で得た情報の扱いには慎重を期す。		
授業概要 (大まかな流れ)	1. 各受講者の勤務校での性教育の現状と課題 2. 小学校学習指導要領の性に関する記述の変遷と問題点 3. 小学校での性交を含む生命誕生の学習の試み 4. 小学校理科・保健教科書における性に関する学習内容 5. 性教育の教材・教具 (※4・5は基体みに自由参観) 6. 小学校性教育の課題①生命誕生をどこから、いつから？ 7. 小学校性教育の課題②男女共生と男女別学習 (※資料紹介のみ) 8. 小学校性教育の課題③教師と子どもたちの privacy の取り扱い 9. 小学校・中学校全体を見渡した性教育プラン例 (※資料紹介のみ) 10. LGBT に関わるディスカッション 11. 総括討論と全体のまとめ		
活用した資料・データ等	①パワーポイントスライドのハンドアウト ②佐藤・「生命誕生の授業」第3次・第4次実践 ③佐藤・2009年1月28日附小5年C組授業記録 ④佐藤・「生命誕生の授業」第5次・第6次・第7次実践 ⑤佐藤・小学校学習指導要領理科5学年「ヒトの発生・誕生」に関する記述の変遷 ⑥新村正博「性交を語る」抜粋 (→web上の提示のみ) ⑦佐藤・思春期の性教育における男女別学習と男女合同学習の意味—日本とスウェーデンの実践事例にもついて— ⑧性教育における教授内容と privacy の関係		
講習に対する感想	1) 内容 (試験等を含む) 例年の傾向だが、冒頭の職場での性教育に関する交流では多様な課題が出されるのに、その後の講義の後の質疑では活発な意見が出てこない。しかし、今年度は内容を絞り込んで時間を確保したこともあり、少しずつだが意見が出た。 2) 運営 (活用機材、会場、補助者等) 6年目。ホームページに資料を置き、一斉メールで事前の閲覧を呼びかけ、当日はiPadを全員に貸与して講習中にも閲覧できるようにした。また事前に日頃職場で性教育に関し話題になっていたことの情報提供を求めたところ、1名から問題提起があった。 会場は、コの字型の座席配置を作ったが、教室内に資料展示スペースを設けるのにやや狭小であった。 3) その他 デスとは疑問。私は講習の最初にテスト問題を提示し、その通りの問題で実施する。「正解」ではなく受講者各自の考え方の提示を要求し、かつ価値観を点数評価しないことを明言するが、自分にそういう条件を課すので、採点はとてもやりにくい。試験の廃止を望む。感想レポートで十分だと思う。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	エスグデゴ・ロベルト・カルロス	記入年月日	2017年 8月 19日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017年 8月 9日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小学校・中学校の教諭 人数：17人	講習会場 (教室等)	教育学部1号館3階 PBL演習室
講習名	小学校における英語教育の方法と実践		
講習の目標	小学生はいかにして外国語を学ぶか及び日本の小中学校教師などのようにして外国語を教えるより良い方法を見出したらよいのかについての理論的・実践的概観を提供する		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50 ・日本における早期英語教育 ・英語に対する教師の感覚 ・言語発達・快適ゾーン・子供中心の教室 ・学習スタイル・教授テクニック・教材 13:00-16:00 ・フォニックス・活動とゲーム・教室英語・教科書 16:00-16:40 ・ホームルーム教師とALT・授業計画の理論・グループディスカッション OHP・カメラ・スクリーン・パソコン・教科書と CD-Rom・補助教材・実物教材・フラッシュカード・ボードゲーム・歌・地図・活動用プリント・インタラクティブゲーム		
活用した資料・データ等			
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生は、基礎的な言語教授の技術と理論を学び、同時に教室での活動と基礎的な授業作りの練習を行うことができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 教室はきれいで教えるのに適していた。カメラと OHP も準備されていた。補助員は、出席をとったり、必要などときに手伝ってくれたりして、最初から最後までとても助けになった。 3) その他 パソコンとプロジェクトターを接続する HDMI ケーブルが見つからなかったことがセットアップのときに唯一困った。私自身のケーブルを持っていたので講習はうまくいった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	森俊一	記入年月日	2017年 8月 27日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017年 8月 18日
主な受講対象者と人数	受講対象者：高校・中学教諭 他 人数：10名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎1号館 206 講義室
講習名	財政の役割について		
講習の目標	政府の財政活動をテーマに取り上げ、そこに含まれている諸問題を検討することにより、論理的にまたある程度の学問的裏付けをもって現代社会の問題を考えることの大切さを認識する。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00-11:50: 財政とは何かを説明し、我が国財政の現状を概観したあと、財政の第一の役割として公共財の提供について論じ、再分配政策に関連して課税の超過負担について解説した。 13:00-15:50: 午前に引き続き財政の役割である所得の再分配とその問題点、また経済の安定化と財政政策の有効性について論じ、あわせて課税の問題を取り上げて論じた。 16:00-16:55: 履修認定試験、受講者評価書記入		
活用した資料・データ等	我が国財政の現状については財務省のホーム・ページにより、理論的な問題については財政学のこれまでの講義ノートを参考にして、講習用に資料を作成し、プリントして配布した。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 現代社会の問題を考えるという目標に則して、財政理論上の基本的な問題を取りあげ、財政学、経済学を学んだ経験のない人にも十分理解できるように工夫して丁寧な解説に努めた。ただ、課税のあり方については、予定していた論点のすべてを取り上げる時間的余裕がなかった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助員の適切な支援もあり講習環境は快適であった。 3) その他 特にない。		

No. 1
教員免許状更新講習・講師ふりかえり

担当講師	田中伸明	記入年月日	2017年 9月6日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017年 8月18日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校教諭 定員（受講）：30（10）人	講習会場 （教室等）	上浜キャンパス教養教育校舎 2号館1F 181番教室
講習名	中学校数学科教材研究		
講習の目標	中学校数学科における4領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」から具 体的な単元を取り上げ、授業で使用できる手作り教具を作成します。さらに作成し た教具を用い、生徒の活動を引き出すための実践について考えます。		
授業概要 （大まかな 流れ）	午前：9:00-10:20	「数あてゲーム」のしくみと「資料の活用」に関する教材 研究	
	10:30-11:50	「べきタイル」を活用した数学的活動と「数と式」の教材 研究	
活用した資 料・データ等	午後：13:00-14:20	「三平方の定理」の証明と「図形」の教材研究	
	14:10-15:50	「ブラックボックス」の作成と「関数」の教材研究	
講習に関す る感想	16:00-16:40	テスト（ノート・資料持ち込み可）	
	16:40-16:50	評価書記入、諸連絡等	
講習に関す る感想	・スクリーン、プロジェクタ、パワーポイント資料 ・プリント資料 ・数学科教科書 ・自主作成教具ほか		
	1) 内容（試験等を含む） ・子供たちの数概念、図形概念を獲得させる上で、教具を用いた数学的活動を引き出 す授業について考えた。 ・優れた教具を用い授業に活動を入れることで、その目的がよりよく達成できること を、先生方に理解してもらえたのではないかなと思う。		
講習に関す る感想	2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・教具作りの材料として、段ボール箱2杯くらいの紙や木、工具を使います。また、 配付資料も多いため、研究室から近い教育学部1号館での実施を強く希望しました。 しかし、叶えられませんでした。実際の所、教育学部の1号館402、403教室 は、終日空いていたので、とても納得がいきません。 ・また、講習当日の朝の移動時に、にわか雨にみまわれ、台車で運んだ紙材が雨に 濡れて、講習に支障をきたしました。運の悪いことに、午後の開始時も材料を運び ましたが、その際にもにわか雨が降ってきてきました。私の平生の行いが悪いから、天 が罰を与えたのだと理解していますが、教育学部1号館で実施できなかったことが 残念でなりません。次年度も同様のテーマの講習を行う予定です。教具作りを行う ことは変わらないので、開講教室のご配慮を頂きたいと存じます。決して私のワガマ マで教室を要望したのではないことをご承知ください。		
	3) その他 ・何らのトラブルも見聞きすることがありませんでした。事務スタッフ、更新講習委 員のみさんに、心より感謝いたします。		

No. 1
教員免許状更新講習・講師ふりかえり

担当講師	松本金矢	記入年月日	2017年 8月 22日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017年 8月 18日
主な受講対象者と人数	受講対象者・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員 人数 : 6	講習会場 (教室等)	T-201 教室
講習名	最適設計を取り入れたものづくり教材		
講習の目標	最適設計を取り入れたものづくりについて理解するとともに、関連する教材を利用し、授業に役立てることができる。		
授業概要 (大まかな流れ)	技術・ものづくり教育の必要性について考える情報を提供した。最適設計の基本的な考え方や方法について講義し、具体的な演示教材を提示した。最適設計の概念だけではものづくりができないという実設計例を示し、ものづくりでは臨時的な判断が必要であることを説明した。最後にもものづくりに関わる、エネルギー問題・環境問題を実践的・体験的に学ぶための教材を提案し、実際に体験した。最後に、受講者で講習内容について振り返り、意見交換を行った。		
活用した資料・データ等	技術・ものづくり教育の必要性 (PP, 資料)、最適設計を取り入れたものづくり教材 (PP, 資料)、遺伝的アルゴリズムを用いた最適設計に関する教材の開発 (論文)、GA による最適設計 (プログラム、実験装置)、複合材料の製造現場と最適化 (PP, 資料)、環境問題を考える実験 (PP, 資料)、熱工学実験 (PP, 資料、実験装置)、中学校技術・家庭科におけるエネルギー変換に関する教材の提案 (論文)		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 準備したものが、全て予定通りに進めることができ、受講者にも十分理解されたようである。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 技術棟でできたため、教材等の準備や実演がうまくできた。 3) その他 受講者が少なかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	須曾野 仁志	記入年月日	2017 年 8 月 30 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 O選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全校種（幼・小・中・高校・特別支援等）教員 26 人	講習会場 （教室等）	総合情報処理センター第 4 端末室
講習名	アクティブラーニングにつながるプレゼンテーションの技		
講習の目標	・よりよいプレゼンテーションとはどのようなものかを知り、児童生徒らがプレゼンテーションツールを用いて発表する上での留意点や指導について理解する。 ・児童生徒の立場となり「私のオススメの場所」についてプレゼンテーションを行い、グループ内でプレゼンテーションの技やノウハウを学ぶ。		
授業概要 （大まかな流れ）	・これまでのプレゼンテーション経験は？ ・プレゼンテーションの歴史、プレゼンテーションが重要となった背景 ・プレゼンテーションの現場で ・「私が考えるよりよいプレゼンテーションとは」 3 s カードを使って ・プレゼンテーションでの知性・能力 多重性理論など ・プレゼンテーション集習「私のオススメの場所」 ・アクティブラーニングとプレゼンテーション		
活用した資料・データ等	資料 須曾野研究室編		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・受講参加者の多くは、学校現場でプレゼンテーションしたり、児童生徒の発表活動を支援する立場であるが、これまででプレゼンテーションの方法や技術について学んでこなかった人が多いため、本講習は有意義なものとなったようである。 ・9 人程度のグループとなり、3 つの場所に分かれてプレゼンテーション実習を行ったことが参加者には好意的に受け入れられてよかった ・講習参加者のアンケートに「今の時代、プレゼン能力が大切になってきました。とてもよい勉強になりました。3 s カード現場でも生かしたいと思います。」「どちらかと言えば、実習中心の講習で良かったです。もう少し自分自身パワーポイントに慣れておくべきでした。」「受講者の立場になってわかりやすく工夫されていました。」というコメントがありました。この講習内容やプレゼンテーション技法を普及させる活動は今後も続けていきたい。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） ・大学の総合情報処理センターのコンピュータやインターネットが使え、何も問題なく、講習でよかった。 ・受講前の連絡が数日前に行う予定でしたが、前日にメールしたため、受講から「もっと早く連絡がほしい」とアンケートに書かれていたのは反省点です。 ・受講参加者との交流を行う Moodle は、一昨年まで学外からもアクセスするため、三重大学 Moodle が使えませんでした。が、昨年から受講者が使うアカウントを 6 週間有効としていただいたので、三重大学 Moodle で講習後も活用でき本当によかったです。Moodle の事前準備の時間も少なくなりました。 3) その他 ・募集定員 50 人半分の講習でした。もう少し参加者が多いとよかったです。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	丸山一男	記入年月日	2017 年 8 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭など多種 人数：99	講習会場 （教室等）	医学部臨床第 2 講義室
講習名	心肺蘇生・窒息・熱中症・溺水・インフルエンザ		
講習の目標	酸素を脳へ供給する 5 つの条件を想起し、その 5 つが 1 次救命処置とリンクしていることを理解する。気道異物が発生する仕組みを理解し、予防対策を知る。熱中症を 3 種類に分け、発生の仕組みと対策について実践できるようにする。着衣泳の目的を知り、指図に生かす。インフルエンザウイルスの感染の仕組みを理解し、予防対策に役立てる。		
授業概要 （大まかな流れ）	対話形式で、酸素を脳に運ぶための条件を挙げてもらい、実例を説明した。救急蘇生法の手順と手技をマネキンを使い、実技で示した。気道異物の除去法である、ハイムリック法の理論を解説し、成人および乳児のマネキンで手技を行った。熱中症の対策として、水塩分補給のみでは、不十分であることを説明し、冷却の重要性を解説した。人の比重が、0.98 であることから、必ず浮けることを説明した。		
活用した資料・データ等	国内での水難事故発生についての行政統計。 マネキン（成人、小児、乳児） 体外式自動除細動器（AED） 新型インフルエンザ予防マニュアル ACLS プロバイダーマニュアル		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） ・受講生の感想を見ると、ニーズにお応えできた内容であった。救急の考えかたとして、「予防が第一」と認識できた受講生が多かった。試験の正答率は高かった。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 機材は適切に準備され、使用できた。 会場の空調については、受講者から調整してほしいとの要望が出た 学生補助員は 2 名であったが、受講人数が 99 名なので、職員 2 名と合わせ、計 4 名で運用したが、今後この人数で運用することにより、時間厳守の運営が可能になると考える。 3) その他 講義では、マイクを回し、講師の質問に答えてもらい、時には受講生同志の話し合いの時間も入れて、対話形式を取り入れた。心肺蘇生・AED の実践では、受講者とともに蘇生術を行った。テーマ、学校、保育園、幼稚園でのみならず、日常生活、野外活動で起こりうる出来事について、実例をあげ、その発生理論を共に考え、対策を心から知れることを目標とした。受講生自身やご家族の生活にも役立つ内容を心がけた。寝ている受講生が皆無であったことから、受講生の関心の高さがうかがわれた。また、今回の内容を取り入れ、「今後、自身の授業構成が変わる」と述べられた先生方が少なからずみえ、ありがたいことと感じた。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	太城 康良	記入年月日	2017 年 8 月 29 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 18 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：10 名	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教養教育校舎 1 号館 2F PBL 演習室 1
講習名	アクティビ・ラーニング TBL (Team-based Learning) 体験		
講習の目標	TBL (Team-based Learning) は、医学教育では PBL と並んで教育現場に導入されつつある反転学習・グループ学習の要素を含んだアクティビ・ラーニング形式の授業の 1 つである。本講習では午前中、受講者は生徒として事前学習の上、スクラッチカードを用いた医学・生物学の TBL の授業を体験し、午後はその体験を元に自分の教科に応じた授業の計画を立て、プレゼンや意見交換し、今後の授業で生かせるようにすることを目的とする。		
授業概要 (大まかな流れ)	【講習の 2, 3 週間前】 反転学習の資料をメール添付で配信 受講者は案内文 (出題予告) を読み、テキストをまと持込可用紙 (カンペ) を作成 【当日】 8:30～9:00 受付 9:00～9:30 ガイダンス・参加者自己紹介 9:30～10:30 TBL 体験 個人試験 15 分間 グループで解答 約 20 分間 問題解説 約 15 分間 (休憩) 10:40～12:00 TBL の事例紹介・補足説明 (昼食) 13:00～13:30 個人作業 TBL 授業の計画を立てる 13:30～14:00 グループワーク 違う科目で互いの授業計画をレビューする 14:00～14:40 グループワーク 同じ科目で互いの授業計画をレビューする 14:40～14:50 個人作業 コメントを受けて修正する (休憩) 15:00～16:30 プレゼンテーション 新しい TBL 授業を提案する 発表 5 分、質疑応答 2 分 ×10 名 16:30～16:50 総括 16:50～17:00 アンケート記入・解散		
活用した資料・データ等	授業計画のテンプレート (記載例付き) ブラカード (英字 a～e を A 4 用紙に印字しラミネートし自作) スクラッチカード (A 4 厚紙に選択問題の解答用紙を印字し、シール貼付で自作)		

講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む)
	昨年度が 2 回目の更新講習の担当で昨年度よりは緊張せず臨めました。 昨年度は授業を 2 種類体験して頂いたのですが今年度はそれを分割して別の講習として開講しました。今回は TBL を中心とし、事前学習の案内を講習実施の 2, 3 週間前にすることで、よりリアルな反転学習の授業体験が実現しました。 先生方の専門・希望する教科を事前調査し、午前の授業体験は、実際のクラスのようには教科混成チーム、午後のグループワークでは、当初、同教科で議論が深まるようにし、教科毎にグループで 1 つ授業計画を立ててもらう予定でしたが、参加者が少なく、かつ、文系の受講者が多く適切なグループ分けが困難で、個人作業として各自 1 つの授業計画を立てるよう変更しました。個人作業の締め切りを早め、プレゼンの前に同教科・異教科で意見交換できるようにしたのは良かったと思います。グループ作りを想定して 24 名の定員でしたが、個人作業&意見交換を重視して 12 名の定員が適切と思いました。
	2) 運営 (活用機材、会場、補助員等)
	参加者が 10 名と少なく、今年度は補助員なしで十分でした。
	3) その他
	2 回目の更新講習としては、成功の自己評価ですが、改善点にも気づきました。 事前学習課題の教科書資料の pdf ファイルの容量が大きく送信方法が課題です。授業計画に必要な普段お使いの教科書・副教材・プリントの特参を呼びかけるべきでした。 受講者・担当者の双方により刺激となるよう、次回も担当させて頂けるならば、より工夫してみたいです。

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	秋元ひろと	記入年月日	2017 年 8 月 27 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 (小・中・高) 人数：6 人	講習会場 (教室等)	教養 105
講習名	論理トレーニング		
講習の目標	論理を、狭義の数学的な記号論理学が扱う論証の妥当性よりは広く、換言、例示、補足、理由・帰結などの、文と文の接続関係と捉え、日本語の文章を読んでそれらの関係を適切に把握するトレーニング、それらの関係を適切に表現して日本語の文章を書くトレーニングをする。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-10:20 接続関係と接続表現 (解説) 10:30-11:50 接続関係と接続表現 (練習問題) 午後 13:00-14:20 論証と論証図 (解説と練習問題) 14:30-15:50 論証の評価 (解説と練習問題) 試験 16:00-16:40 試験 (資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	講義内容の資料 練習問題資料		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講生は少なかったが、積極的に質問するなど熱心であり、ディスカッションもすることができた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 特に問題はなかった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	山根 栄次	記入年月日	2017 年 8 月 26 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭 人数：17 名	講習会場 (教室等)	教養教育 1 号館 PBL 演習室 1
講習名	社会科・公民科の授業における新聞活用 (NIE)		
講習の目標	社会科及び公民科の授業において新聞を活用する意義とその諸方法を知り、その内の 2 つの方法を体験する。		
授業概要 (大まかな流れ)	パワーポイントスライドを用いて社会科及び公民科の授業において新聞を活用する意義とその諸方法を講義した。「株式学習ゲーム」についての解説をし、受講者にそのゲームを体験させ、レポートを書かせた。「新聞切り抜き作品」制作についての解説をし、受講者に、実際に「新聞切り抜き作品」を制作させ、その作品をプレゼンテーションさせた。		
活用した資料・データ等	講師自作の講義用パワーポイント資料とそれを印刷した資料。 講習日当日の各紙朝刊新聞 日本証券業協会・東京証券取引所「株式学習ゲーム・ガイドブック」、 「株式学習ゲーム・売買対象企業一覧」 中日新聞ホームページの「新聞切り抜き作品」のページ		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 予定通りに講習ができた。 「新聞切り抜き作品」を作成する材料である新聞を持っていくことを忘れていた受講者が 1 名いた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 機材や印刷物、材料が適切に用意されていた。 会場に対して適切な受講人数であった。 補助員がよくやってくれた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	平山大輔	記入年月日	2017 年 8 月 30 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小・中学校教諭 人数：19 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1 号館 305 教室 およびキャンパス全域
講習名	身近な植物観察と学校におけるその実践方法		
講習の目標	理科における自然観察体験の重要性が指摘されていることを背景として、この講習では、野外の植物を対象とした観察を行い、身近な自然についての理解を深めると同時に、学校でのその効果的な実施方法について、具体的な実践事例にもとづき理解を深めることを目的とした。		
授業概要 (大まかな流れ)	09:00-09:50 講習の概略、観察の際のポイントの説明 10:00-12:00 三重大学キャンパス内の植物の観察 13:00-13:30 学校での効果的な実践方法の紹介 13:40-14:30 標本用の植物の採集 14:40-15:50 ラミネート標本の作製、シリカゲル標本の作製 16:00-16:40 試験、16:40-17:00 事後評価 ・三重大学における自分自身の実践事例および授業教材 ・平山大輔 (2014) 色や形を残す植物標本づくり、世界通信 教材学習ニュース No. 2128 (1) 世界通信社 2014 年 7 月 5 日発行。 ・高木ほか (2007) 野草カード：だれでも野草の名前がわかる教材―校庭の野草を対象とした実践と検討、日本理科教育学会全国大会発表論文集 5: p.144.		
活用した資料・データ等	1) 内容 (試験等を含む) これまでと同様に、事前アンケートの回答には、授業の中で自然 (植物) 観察をどのような視点で行えばよいか知りたいといった声が多く、学校での効果的な自然観察の方法を知りたいという思いをもってこの講習を選択した受講者が多かったと感じた。小中学校の校庭で共通してみられるような樹木や生物現象を題材とした実習形式で行い、小中学校の理科での学習のねらいに合致した実践方法の紹介に努めたことで、受講者のニーズにある程度応えることができたのではないかとと思う。 2) 運営 (活用教材、会場、補助員等) 運営に携わられた教諭員の方々には細やかな配慮をいただき、円滑に講習を実施することができた。また、講習補助員にも、非常に熱心に補助して頂いた。 3) その他 昨年感じたことと同様だが、受講者の方々から各学校現場での自然観察授業の現状や実践事例などについて興味深いお話を伺うこともでき、この教員免許状更新講習を担当することは、私自身にとっても非常に得るところが大きいと改めて認識した。		
講習に関する感想			

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	森川 孝太郎	記入年月日	2017 年 8 月 25 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の音楽担当教員 人数：24 人	講習会場 (教室等)	教育学部音楽棟 合唱室、アンサンブル室、音楽教育演習室等
講習名	音楽のしくみと表現		
講習の目標	1. 楽曲構造を読み解き、演奏表現の可能性を探る力 2. さまざまな視点から音楽に触れることにより、その音楽が持つ可能性を柔軟に捉える力 以上の 2 つの力を体得することを目標とする。併せて、楽曲の基礎的な構造を把握しつつ、想像力を働かせてグループで協力して編曲し、グループとしての演奏表現をつくり上げ発表することを目標とする。		
授業概要 (大まかな流れ)	【午前】 1. 小学校及び中学校歌唱教材とシューマンの「子供の情景」から 2 曲を楽曲分析し、楽曲構造と演奏表現の関連性を考察する。 2. ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」の冒頭部分及び終止部分などを楽曲分析することにより、音楽の構成法の多様な価値観に触れ、動機の展開技法、強弱法、楽器法による音色の可能性等を紹介する。また、ミュージック・コンクレートなどの現代音楽やケチャなどの民族音楽を紹介し、教材との関連性について考察を行った 【午後】 3. グループに分かれ、提示された楽曲について討論する。 4. グループで提示された課題曲を器楽合奏に編曲し、演奏練習をする。1 回目 5. グループで提示された課題曲を器楽合奏に編曲し、演奏練習をする。2 回目 6. 各グループで演奏発表し、各グループの編曲・演奏等に基づき、講師・受講生で討論する。 【試験】 各々が所属したグループでの 討論・編曲・練習の過程を振り返ってもらい、個別に記述する。		
活用した資料・データ等	R. Schumann 「Kinderszenen」から 4 曲 C. Debussy 「Prelude a l' apres-midi d' un faune」の冒頭部分及び終止部分 バリ島のケチャの一部 ミュージック・コンクレートによる作品の音源数点 小学校共通歌唱教材 「春の小川」「こいのぼり」「虫のこえ」「もみじ」 中学校共通歌唱教材 「夏の思い出」「荒城の月」「赤とんぼ」		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 免許状更新講習では毎年同ような内容を取り扱っているが、多くは、現代音楽や民族音楽をヒントにした教材や音楽のとは方々について、受講者にうまく伝わらないことが反省点である。今年度も伝えきれないと感じる場面が見られた。6 時間で行うことは限られているが、この反省点について、改善できるような講習の構成や流れを継続的に考えていきたい。受講者の方々が現場に戻った際、長い目で見たとき、現代音楽や民族音楽の情報がヒントになってくれるようならば、うれしい。 2) 運営 (活用教材、会場、補助員等) 普段の授業で使い慣れている教材 (楽器等) や場所であったので特に問題は起こらなかった。しかし、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、打楽器などをもう少し揃えた方が、授業運営は、よりはかきやすくなることだろう。今年度は、本部スタッフ及び講習当日の補助員には本当によく対応して頂いた。スタッフや補助員の働きに負けないような講習を目指していきたい。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	増田智恵	記入年月日	2017 年 9 月 5 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 ✓選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：主に中学校・高等学校の家庭科 人数：2人	講習会場 (教室等)	PBL4
講習名	3次元着装シミュレーションによる衣服設計と選択		
講習の目標	1. 新しい衣生活教育の実践としてITを利用した教育としての衣服設計・選択情報の提供とそのための知識を提供し、活用すること。 2. 衣生活の中で家族と共に個人対応型の衣服管理を実現する方法の一例の提案。 3. 直接人体形状計測から個別対応のパターン自動作成の実践と、パソコン内での仮想着装シミュレーションによるデザイン設計を実践すること、衣服購入・管理など衣服情報を体系的に捉える教育方法の実践。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～12:00 (途中休息10分) これからの新しい衣生活の方向とそれに伴う IT を利用した被服教育について、教員が習得すべき情報の提案。 13:00～15:00 (個々に機器の空き時間に休息10分時間) 2人の個々に対応するパソコンなどの機器はないため、3次元人体計測、パターン設計、着想シミュレーションによるデザインを個々に対応したパソコンを用いて、体験学習を行った。 ・個別対応衣服パターンの自動作成を実践した。 ・パソコンを利用して仮想着想シミュレーションによる衣服デザインの試みを行った。 15:00～16:00・基本の衣服設計について (途中休息10分) ・衣服設計用人体計測方法の実践 16:03～16:43 デザイン作成した資料持ち込み可) ・主に中高の先生で少人数のため、非常に講義と実習が進めやすかった。 ・衣服に関する知識や情報はお待ちで 講義の内容など熱心であった。しかし、現場での要求についてはほとり先生から具体的にあったため多少の対応はできたと熱心ではない。 ・実技の個人対応の衣服設計をパソコンにより自動設計することに非常に熱心であった。さらにデザインは専用ソフトで自由に展開していたので、普段の中学校ではまだできない新しい情報を得られ且つ体験できたと考えられる。そのためか、デザイン展開のソフトを熱心に使用され、着装シミュレーションによる個別デザイン服も完成させられた。 少人数の受講生ではあるが、ひとり一台のパソコンとソフトはないため、実習に時間がとられた傾向もあった。補助の学生も丁寧に説明をしていたのでその点は助かった。 1) 運営 (活用機材、会場、補助員等) ・プロジェクタの使い 方に関するパワーポイント資料 ・実物大衣服パターン作成のための人体計測機器、オリジナルパターン作成ソフトと大型パターン自動作成プリンタ ・衣服デザイン用の仮想着想シミュレーションソフト ・衣服パターン作成と着装シミュレーションソフト使用に学生を補助員とした。 2) その他 少人数で個々に感想をいいたとき、現場の実状も得ることが出来ました。ただし、被服実習の部屋がないためパターン作成と着装シミュレーションによるデザイン設計に時間がかった。やや不足した説明内容がでた。 3) 内容 (試験等を含む) 試験については、講義内容や実習も踏まえた充実した回答であり、やはり個人的な意欲や経験、また環境が反映していた。 テキストについては事前購入に購入こられた方もありましたが、手持ちをお貸ししたかたにちにした。 4) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 3次元人体計測をして、実際に個別対応のパターン設計までを経験していただくため、パターン作成システム操作は学生補助で対応しているが、3次元人体計測用の2時間だけの専門の補助員が依頼できたら希望する。 5) その他		
講習に関する感想			

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	佐藤 年明	記入年月日	2017 年 9 月 4 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼小中高特支教諭 人数：12	講習会場 (教室等)	教養教育1号館206
講習名	ディベート入門		
講習の目標	ディベートとは、論理的思考を鍛えるためのゲームである。定められた論題について肯定側もしくは否定側の立場に立って自説の正しさを主張し相手を論破する。審判がいずれの主張に説得力があるか、勝敗を判定する。学校教育の世界では、賛否に分かれての討論＝ディベートという認識があるが、ディベートとは明確なルールに従って勝敗を争うゲームである。しかし勝利することだけが重要なのではなく、試合を準備し、対戦し、総括する作業を通して論理的思考が鍛えられる。このことを、実際に経験して実感してほしい。 まず3人一組となり、シンプルな論題について用意された資料でリサーチを行なった上、3人が肯定側・否定側・審判を順に担当して3試合を行なう (マイクロ・ディベート)。これによりディベートの基本構造を体験できるであろう (11:00 頃まで)。 続いて3名のチームを組み、別の課題でチーム対応ディベートを行なう。3名はそれぞれ①立論+相手側からの質疑への対応、②相手側は論への質疑、③反駁を分担する。論題「学校は、いじめを行なった児童・生徒を退学させるべき」は事前発表し、リサーチを指示した。午前中に肯定側と否定側立論を文章化する。メリット及びデメリットは2点ずつとする。午後は作成した2つの立論を「仮想敵」として、質疑及び反駁を準備する。 審判は両者のいづれかが論破されればメリット/デメリットは崩されたものとみなす。そして審判は肯定側/否定側のメリット/デメリットが立論及び相手側質疑・自分割に相手側の反駁を経てなお成立しているのかどうか、両側が成立している場合どちらが欠きしのかを判定する。 チーム対抗ディベート試合は、できれば1つのチームが複数回 (肯定側・否定側を交替して) 試合を行なうことが望ましいが、時間の都合で1試合ずつとした。 最後に、マイクロ・ディベートとチーム対抗ディベートを含めて振り返りを行なった。		
活用した資料・データ等	ディベートの進め方については、西部直樹『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力をつける』(あさ出版 2009) をテキスト指定し、事前購入を求めた。 論題に関する資料は各自の責任でリサーチするよう指示し、さらに当日 iPad を貸与して補足リサーチを認めた。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 6時間かけても、ディベートの基本を経験を通じて確実に修得してもらうには時間が足りなかった。「ディベート入門Ⅰ/Ⅱ」にわけてⅡ講座行なうべきという意見もいただいており、来年度に向けて検討したい。12名の受講生のうち・高・特支教員は事前・当日の生活のハードさを指摘しつつも満足が高く、小学校ではハードルの高さに対する不満が多かった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 12人の受講生に使用してもらうには部屋のみ・椅子の数が多すぎ、端に寄せてスペースを作ったが狭かった。後から思えば余分な机・椅子を廊下に出せばよかった。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	下村 勉	記入年月日	2017 年 9 月 5 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教員 人数：20	講習会場 (教室等)	教職支援センター1F 第4教育端末室
講習名	楽しく思考力・表現力を養うスクラッチプログラミング		
講習の目標	1. 自分のアイデアをプログラムで表現してみ 2. 学校現場でどのような活用が考えられるか、思考力・表現力育成につながるかを考える。 3. グループで作品を共有・交流する楽しさや有効性を実感する。		
授業概要 (大まかな流れ)	児童生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成する手段として、プログラミングが注目されている。新たなプログラミング環境「スクラッチ」は、マウス操作で命令の「ブロック」を組み合わせて、キャラクターなどを自分の意図したように動かす。操作が簡単かつ奥が深いので、子どもから大人まで楽しみながら使うことが可能である。写真・イラスト・音声を用いたデジタル教材も開発できるが、児童生徒に促わせると思考力・創造力の育成や主体的学習・協働学習につながる。演習は個人が基本であるが、1グループ4人で互いに作品作りを支援する（協働学習）。 (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動（自己紹介、課題作業） (3) 13:00-14:20 課題作業つき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有(グループと全体) (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	<講義資料(配布資料)> ・「楽しく思考力・表現力を養うScratch(スクラッチ)プログラミング」 ・Scratch作成の流れ ・Moodleの活用 <Moodle上に準備したデータ> ・ガイダンス(講習の内容、Moodleの活用、スケジュール) ・課題の説明(プログラミング課題、Scratchの作品例、Scratch作成アドバイス) ・グループ支援学習(グループ構成、座席表、グループの広場) ・「成果の発表と交流」フォーラム <参考資料> ・小学生のためのスクラッチ・マニュアル		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・Scratchによるプログラミングは、ほとんど初めての人が多かったが、楽しく取り組んでもらった。小学校でのプログラミング必修化で、学習意欲が感じられた。 ・試行錯誤を繰り返し、問題解決の達成感を感じてもらえた。 ・個人作業をグループで互いに助け合う「グループ支援学習」を取り入れたが、その有用性を感じてもらえた。 プログラム作品・試験結果および受講生の感想から、1日で行う講習としては、質の高いものが実施できたのではないかと考えている。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・情報端末室でPCとネット環境、Moodle、プレゼン機器などICTをフルに使った講習であり、全般的にうまく運営できた。 ・グループ支援学習を行うときには、一声指導を前提とした現在の機の配置やPC機材は必ずしも適切ではない。受講者からもグループワークでモニターが邪魔だったとの指摘もあった。 ・補助員は、私の元指導生であったので、講習内容にも詳しく、受講者の研修を補助することができた。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	太城 康良	記入年月日	2017 年 8 月 29 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 23 日
主な受講対象者と人数	受講対象者： 人数：9名	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教養教育校舎1号館3F PBL 演習室2
講習名	アクティブ・ラーニング クリッカー&ブラカード体験		
講習の目標	クリッカー(無線回答機)やブラカードはアクティブ・ラーニングを促進するツールの1つです。本講習では午前中、受講者は生徒としてクリッカーやブラカードを用いた医学・生物学の授業を体験します。午後はその体験を元に自分の教科に応じた授業の計画を立て、プレゼンや意見交換し、今後の授業で生かせるようにすることを目的とする。		
授業概要 (大まかな流れ)	8:40～9:00 受付 9:00～9:20 ガイダンス 9:20～10:30 クリッカー・ブラカード体験(講義編)(休憩) 10:40～11:10 クリッカー・ブラカード体験(演習編) 個人試験 5分間 グループで解答 約15分間 問題解説 約10分間 11:10～11:30 体験授業の総括 11:30～12:00 演習 クリッカーの投票スライドを作る(昼食) 13:00～14:00 個人作業 授業を立案する 14:00～14:40 グループワーク 違う・同じ科目で授業計画をレビューする 14:40～14:50 個人作業 コメントを受けて修正する(休憩) 15:00～16:30 プレゼンテーション 新しい授業を提案する 発表8分、質疑応答2分 ×9名 16:30～16:45 総括 16:45～17:00 アンケート記入・解散		
活用した資料・データ等	授業計画のテンプレート(記載例付き) クリッカー(keepad社 9個) ブラカード(英字a～eをA4用紙に印字しラミネートし自作) スクラッチカード(A4厚紙に選択問題の解答用紙を印字し、シール貼付で自作)		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	市川俊輔	記入年月日	2017 年 8 月 31 日
講習の区分	選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：小中学校教諭 人数：19 人	講習会場 (教室等)	化学学生第 1 実験室
講習名	小中学校の化学実験		
講習の目標	小学校・中学校での理科教育の充実化のために、小中学校向け実験を実践し習得する。		
授業概要 (大まかな流れ)	色の変わる実験 (交通信号反応、塩化アンモニウムの結晶、酢酸ナトリウムの結晶、イソプロパノールの塩析、ルミノール反応) 教科書に沿った実験 (結晶が溶けるようすの観察、様々な pH 条件下における紫キャベツ抽出液の色の変化、ペットボトルの噴水、水の温まり方の可視化、水蒸気の回収、蒸留による植物アロマ成分の抽出) 理科シミュレーションソフトの体験		
活用した資料・データ等	小中学校教科書 インターネット 理科シミュレーションソフト PhET		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者の先生方には興味を持って受講いただけました。アンケート結果によると、満足度は高いようでした。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 補助員の学生にアルバイト代を支給いただけで大変ありがたかったです。iPad を複数台お借りできて大変助かりました。 生物資源学部の学生 (?) が前日に手伝いに来てくれたが、このことを知らなかったもので、うまく活用できませんでした。 3) その他		

講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む)
	昨年度が 2 回目の更新講習の担当で昨年度よりは緊張せず臨めました。 昨年度は授業を 2 種類体験して頂いたのですが今年度はそれを分割して別の講習として開講しました。今回はクリッカー・ブラカードを中心とし、TBL スクラッチの要素を軽減することでタイトな内容を緩和しました。 先生方の専門・希望する教科を事前調査し、午前の授業体験は、実際のクラスのように教科混成チーム、午後のグループワークでは、当初、同教科で議論が深まるようにし、教科毎にグループで 1 つ授業計画を立ててもらう予定でしたが、参加者が少なく、かつ、文系の受講者が多く適切なグループ分けが困難で、個人作業として各自 1 つの授業計画を立てるよう変更しました。個人作業の締め切りを早め、プレゼンの前に同教科・異教科で意見交換できるようにしたのは良かったと思います。グループ作りを想定して 24 名の定員でしたが、個人作業&意見交換を重視して 12 名の定員が適切と思いました。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 参加者が 9 名と少なく、今年度は補助員なしで十分でした。 3) その他 改善点として、授業計画に必要な普段お使いの教科書・副教材・プリントの持参を呼びかけるべきでした。 受講者・担当者の双方により刺激となるよう、次回も担当させて頂けるならば、より工夫してみたいです。

担当講師	岡野 昇	記入年月日	2017 年 8 月 31 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校教諭 人数：29 名	講習会場 (教室等)	イベントホール
講習名	「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン		
講習の目標	運動実践を通して身体で感じる気づきを手がかりとしながら、いつの間にかそういうもののだと思ひ込んで取り組んでいる自らの体育授業についての問題（性）を浮き彫りにしていきます。あわせて、「学びの共同体」の理念に基づいた（例えば、「真正な学び」「学びの三位一体論」「協同的学び」「ジャンプの課題」など）小学校体育の授業デザインについて学ぶ。		
授業概要 (大まかな流れ)	講習①：9:00-10:20 体育教育の基礎（ワークシヨップと解説） 講習②：10:30-11:50 運動学習の基礎（ワークシヨップと解説） 講習③：13:00-14:20 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した体育授業（講話と各領域の実技） 講習④：14:30-15:50 小学校体育授業のデザインとカリキュラムマネジメント（各領域の実技と解説） 試験：16:00-16:40		
活用した資料・データ等	□岡野昇「主体的・対話的で深い学び」を体育で実現するために 2017.4 体育科教育 大修館書店 65(4) 38-41 □岡野昇・佐藤学 体育における「学びの共同体」の実践と探究 2015.4 大修館書店 □岡野昇 学びのこよみ～小学校体育学習第 1・2 学年版～ 2017.3 □岡野昇 学びのこよみ～小学校体育学習第 3・4 学年版～ 2017.3 □岡野昇 学びのこよみ～小学校体育学習第 5・6 学年版～ 2017.3		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者評価書（4 点満点）の集計結果は、以下の通りである。 I-1…3.90、I-2…3.93、I-3…4.00、I-4…3.97、I-5…3.93、I-6…4.00 II-1…3.97、II-2…3.83、II-3…3.93、II-4…3.93、II-5…3.97、III-1…3.93 I・II・III の平均…3.94、I・II の平均…3.94 29 名中 24 名（82.8%）が 4 点満点（Ⅲ含まず） ・昨年とは質問項目が変更されているので単純には比較できないが、I・II・III の平均が 0.1、I・II の平均が 0.06、4 点満点の割合が 6.2 とすべてにわたって上回った。また、I-6 の総合的な評価も全員が満点と回答している。これらのことから概ね受講者からは評価を得ているものと思われる。 運営（活用機材、会場、補助員等） ・Ⅲについても、昨年の 4 項目から 1 項目に設問が変更されているので単純には比較できないが、平均ポイントは上がっている。これは、昨年の会場の設備（夏場の体育実技にはエアコンが必要）の不備を改善するために、会場の変更（第一体育館からイベントホールへ）を行ったことが要因として考えられる。自由記述でも、9 名からエアコン設置会場を評価する声があった。 ・ただし、更衣室・トイレがないため対応に苦慮した。また、実技準備物の搬入・搬出にも時間を要した。 2) その他 特になし。		

担当講師	中西康雅	記入年月日	2017 年 9 月 1 1 日
講習の区分	○選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：中学校技術科 人数：4	講習会場 (教室等)	技術棟 2 階 T201 室
講習名	ものづくりにおける設計学習の現状とこれから		
講習の目標	ブリッジコンテストを題材としてコンピュータを活用した強度設計、そして製作、強度評価という実習を手がかりとして、現代のものづくりにおいて情報技術が果たしている意義と課題について理解し、説明できるようになる。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前： ● 現代のものづくりにおいて情報技術が果たしている役割について、近年のシミュレーション技術の発達から現状までを概説した。 ● ブリッジコンテストのシミュレーションソフトウェアを使用し、中学校での授業を対象とした演習を実施した。 午後： ● シミュレーション結果をもとに実際に製作したブリッジの強度評価を行い、精度検証と実践時の課題について検討した。 ● 中学校の技術科の授業を対象に、情報技術に關係する授業の現状について意見交換し、ものづくりとの関わりについての学習展開についてグループワークなどを通じて検討した。 ● また技術科の教育内容において、設計学習の目標と方法について考究した。		
活用した資料・データ等	・書籍「技術科の授業をつくる」 ・授業者の自作資料 ・学習指導要領および解説 ・日本産業技術学会誌		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 設計という知識を活用して取り組む工程に関する学習において、体験的に学習する 1 つの手がかりを実習を交えて提供できたと考ええる。 一方で、設計について総論的に説明する必要もあると感じた。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特にありません。 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	西出りつ子 見玉豊彦	記入年月日	2017 年 9 月 1 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2016 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：30 名	講習会場 (教室等)	教養教育校舎 1 号館
講習名	メンタルヘルズ問題をもつ子どもの理解と対応		
講習の目標	1) メンタルヘルズ問題をもつ子どもに気づく視点と望ましい関わり方を理解する 2) 子どもがメンタルヘルズ問題をもつ原因は多様であり、表面上の現象に惑わされず問題の本質を見極めることが重要であると理解する。 3) 問題の本質を見極めるには様々な情報の収集と統合したアセスメントが必要であり、これにより子どもの心の理解につながることを再認識する 4) 対応方法を多角的に考える重要性と、自らが対応すべきことと組織的に考えて対応すべきことを区別する必要性を理解し、今後の教育活動の中で活用する意識をもつ。		
授業概要 (大まかな流れ)	9:00～12:00 講義「メンタルヘルズと子どもの成長発達、グループワーク(I)(2) 13:00～15:45 講義「子どものメンタルヘルズの問題と関わり方」、講義「学校におけるメンタルヘルズを集団と組織の視点で考える」、ロールプレイ、グループワーク(3) 16:00～16:40 履修認定試験(講義配付資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・講義で使ったパワーポイントの配付資料 ・人口動態調査結果、自殺対策に関する世論調査結果 ・政府統計(不登校児童生徒数の推移・指導結果) ・三重県児童福祉統計(児童虐待相談の概略) ・講習参加者のグループワークの結果(模造紙・付箋・マジックペン)		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・昨年に引き続き、子どもの精神疾患の説明と、こころの問題に対する具体的な対応についての内容を充実させた。さらに事前アンケートの要望に合わせて内容を追加した。感想からも、「役に立った」との意見が多く見られた。 ・昨年好評だったグループワークに加え、今年度はロールプレイによる演習も行った。具体的な事例を提示して面談のロールプレイを行った後、グループで振り返りを行った。実際に対応した経緯を全員の前で語ってくれた受講者もあり、他校の教員の意見が参考になった。これからの生徒の対応に活かしたい等、参加者からの評価は高かった。 ・今年度のグループワークの事例設定も、子どもの病的な側面だけに着目するのではなく、発達段階や社会的な背景も視野に入れた考察ができるように配慮し、漠然と情報収集や対応を考えるのではなく、根拠をもって誰が何にどのように取り組むのかを考えられるよう、課題を提示した。 ・事例の「気になるところ」に気づく力を育てるために、個人で考えてからグループで考え、さらに全体で考える形をとった。また、様々な意見を引き出すよう心掛けた。 ・グループワークに関しては、積極的に意見交換が行われ、「他教諭の意見が参考になった」など好評であった。 ・試験後に講義配付資料を持ち込み可とした。講義内容がよく反映された解答が多く、グループワークで出た意見を参考にした回答も見られた。		
運営(活用機材、会場、補助員等)	・最初の机の配置が少し窮屈だったため、講習前に配置を変えてもらった。事前の十分な確認が必要である。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	石黒光茂	記入年月日	2017 年 8 月 31 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 8 月 29 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：7 人 人数：7	講習会場 (教室等)	第 5 教育端末室
講習名	ビジュアル言語で始めるはじめてのプログラミング		
講習の目標	・プログラムの基礎(ステートメント、条件文、繰り返し、変数)の意味を理解でき、説明できる ・プログラムを完成させるまでの概要(設計、コーディング、テスト、デバッグ)を体験し把握する ・自分で考えたアイデアを形にすることができる(一部分)		
授業概要 (大まかな流れ)	・午前：プログラミング教育の意味→小学校プログラミング必修化について→Scratch 以外の子どもの向けのプログラム言語→Scratch について、基本的な動かし方→プログラムの基礎→Scratch の独自機能について→演習 ・午後：どんな授業に使えるのか→作品作成(演習)→課題作品作成(実技試験。資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	・用意したパワーポイント資料 ・動画：Mitch Resnick: ミッチェル・レズニック「子供達にプログラミングを教えよう」 TED Talk		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) 前半の基礎的な講義は反応が薄かったが、後半の自分で作るものを考え、自身の工夫で教材となるプログラムを作っていく部分に関しては興味を持って取り組んでもらったように感じます。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	加納 岳拓	記入年月日	2017年10月4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年10月1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：幼稚園・小学校教諭 人数：29	講習会場 (教室等)	第一体育館
講習名	子どもが夢中になる小学校体育授業		
講習の目標	子どもの体力低下や運動の二極化などの課題が散在している現在、体育授業の役割は大きい。課題に対して、対処療法的な方法（指導方法の改善・トレーニング）によって解決に向かおうとするのではなく、体育の内容を「学び」の視点から問い直し、子どもが夢中になって参加できる体育授業について考える。また、学習の基盤としての体育の在り方について考える		
授業概要 (大まかな流れ)	午前：9:00-10:20 対人における関係づくり 10:30-11:50 対集団における関係づくり 午後：13:00-14:20 対モノにおける関係づくり 14:30-15:50 対身体における関係づくり 16:00-16:40 認定試験		
活用した資料・データ等	実技を中心としながら、実技の意味の講話を補助員が板書し、体育館壁面に掲示した。掲示は認定試験の資料とした。		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 受講者の身体的な負担を考え、静的な運動領域・内容と動的な運動領域・内容を午前と午後バランスよく割り振ったことによって、全ての内容について、実技を伴った身体による学びと講話による意味づけをできた。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 実技に伴って、用具の準備や片付け、また講話の板書等を行うために、補助員1名がいたことでスムーズに運営をすることができた。試験については簡易でもの机・椅子を準備して実施するようにしたい 3) その他		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	平島 円	記入年月日	2017年10月4日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017年10月1日
主な受講対象者と人数	受講対象者：養護、幼、小、中、高 人数：30人	講習会場 (教室等)	三重大学教育学部1号館 (304教室、家政教育実験室)
講習名	おいしく食べるとは？		
講習の目標	1. 普段何気なく食べている食べ物「おいしさ」とは何かを考える。 2. おいしさに関わる要因について分析する。 3. 調理することの意義やおいしさを作り出す方法について考える。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00-9:45 おいしさとはなにかグループディスカッション 9:45-10:35 味と味覚について 10:45-12:00 おいしさに影響する物理的要因や食べる環境について 午後 13:10-14:20 食品の色に関する実験 14:30-15:10 実験のまとめと理論 15:10-15:50 おいしさに影響する情報 16:00-16:40 試験 (ノート・資料持ち込み可)		
活用した資料・データ等	おいしさに影響する要因についてのパワーポイント資料 おいしさに影響する要因、味の閾値、味覚検査に関する資料 厚生労働省の食文化理解に関する資料 フードフアディズムに関する資料 その他関連図書		
講習に関する感想	1) 内容 (試験等を含む) 食べるということとはすべての人が行う行為であり、内容的にも非常に身近な題材であつたことやこの講習も数回行っているため受講生の反応を見ながら改善したいといふこと、受講者は熱心に参加してくれた。また、給食の指導方法について知りたいということから、さまざまな校種の受講者がいた。保育園・幼稚園の教諭から高等学校の教諭まで幅広い校種の受講生がいたため、これからの学校での指導に役立つ教材や授業案を直接的には提供できないが、それぞれの受講者が今後の授業に生かすことができたような題材を扱い、それぞれの授業について考えられるような講習にした。試験の解答からも講義や実験内容がきちんと理解されたことがうかがえた。しかし、一部、一部の受講生からは校種が広すぎるため、ポイントがわからないというような指摘もあつて残念だった。 2) 運営 (活用機材、会場、補助員等) 担当者もこの講習に慣れてきたことから、非常に授業がやりやすかつた。配布物や試食などの資料の配付もスムーズにできた。 本講習では3名の補助員を付けたため、講習の準備、本番、後片付けすべてスムーズに進んだ。 3) その他 特に問題はなかった。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり No. 1

担当講師	下村 智子	記入年月日	2017 年 10 月 13 日
講習の区分	必修講習・選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 10 月 1 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：教諭（小・中・高） 人数：36 名	講習会場	講習会場 （教室等）
講習名	世界の教育事情		
講習の目標	以下の 3 点を獲得・深化させ、わが国の教育に対する理解を深めること： ・ 学校教育を捉える多様な視点 ・ 世界の教育の動向に関する理解 ・ 教育に関する国際的な動向に対する理解		
授業概要 （大まかな流れ）	9:00～10:20 世界の学校の日常風景 10:30～11:50 諸外国の義務教育制度 13:00～14:20 教育の歴史的・社会的・文化的背景 14:30～15:50 資質・能力を高めるための教育に関する国際的な動向 16:00～16:40 履修認定試験（ノート・資料持ち込み可）		
活用した資料・データ等	・ 中原豊著『心の教育』学陽書房、1986 年。 ・ 二宮皓編著『こんなに面白い！世界の校則』メディアファクトリー、2011 年。 ・ 二宮皓編著『新版 世界の学校』学事出版、2014 年。 ・ OECD「図表で見る教育」（2014 年版） ・ 外務省ホームページ（世界の学校を見てみよう！） ・ カナダアルバータ州教育省作成のインクルージブ教育に関する紹介ビデオ（Diversity in Alberta Schools- A Journey to Inclusion） ・ 下村がカナダやベトナムでの学校訪問時に撮影した写真		
講習に関する感想	1）内容（試験等を含む） ・ 講義形式を中心としながらも、ビデオや写真などの資料を活用したり、グループでの意見交換の時間帯を設け、グループ内での意見共有やそれら教室全体でも共有することにより、単なる一方通行の授業にはならないよう、工夫を行いました。 ・ グループの活動においては、4～5 人のグループ編成を行い、画用紙を付箋を用いたアイデアの発想と整理を行いました。できあがった画用紙は、教室の壁に貼って休憩中に閲覧できるようにしたり、講習の中で意見をとり上げたりして、全体での共有する工夫を行いました。 ・ 近年話題になっている内容ができるだけ取り上げました。具体的な実践事例の紹介を中心に行いましたが、一方で、多様な教値的データを示すことができた ら、より充実した内容にすることができると思いました。 2）運営（活用機材、会場、補助員等） ・ プロジェクタを使用させていただきました。会場の準備等、ありがとうございました。 3）その他 ・ 学期中にもかかわらず、とても熱心に講習に参加していただき、また、豊富な教育経験から積極的な意見を出していただき、とても有難く思いました。		

7 特別な配慮を有する受講者への対応について

障害のある受講者への対応について

教育学部特別支援教育 栗田季佳

教員免許状更新講習は、免許を必要とする全ての教員を対象とした制度である。ただし、講習や研修の機会も含め、社会にある多くのシステムや体制は、基本的に多数派に合わせて構成されている。中には、既存のあり方では他の者と同様に提供されたものを得られない人がいる。障害のある人は、用いる言語や手段が異なるために、個別の必要性に応じた変更・調整がなければ、その機会から排除されてしまう。

障害のある者が他の者と比べて障害を理由に不利益を被ることのないよう、2016年4月から障害者差別解消法が施行された。障害者差別解消法の土台となっている、障害者権利条約には、以下のような文言（一部抜粋）がある。

第二十四条 教育

1 締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する。

第二十一条 表現及び意見の自由並びに情報の利用の機会

締約国は、障害者が、第二条に定めるあらゆる形態の意思疎通であって自ら選択するものにより、表現及び意見の自由（他の者との平等を基礎として情報及び考えを求め、受け、及び伝える自由を含む。）についての権利を行使することができることを確保するための全ての適当な措置をとる。

(a) 障害者に対し、様々な種類の障害に相応した利用しやすい様式及び機器により、適時に、かつ、追加の費用を伴わず、一般公衆向けの情報を提供すること。

(b) 公的な活動において、手話、点字、補助的及び代替的な意思疎通並びに障害者が自ら選択する他の全ての利用しやすい意思疎通の手段、形態及び様式を用いることを受け入れ、及び容易にすること。

本講習においても、これらの理念と規定にのっとり、障害のある教員が他の教員と同様に受講機会が得られるよう、受講生への対応を行った。具体的に行われたことは、手話通訳の配置、映像資料への字幕、車椅子利用者の方が利用可能な教室配当などであった。

対応の上で考慮したことは以下の点である。①障害に応じた支援が必ずしも個人のニーズと一致しないことから受講生の希望を第一とすること。②事前の準備は完全ではないため、講習日に受講生の意見を聞きながら適宜調整を行うこと。③受講生と担当講師の双方に負担のないような調整を工夫すること。④他の受講生との平等性。

①②のような相互作用の過程が、受講生と担当講師、双方にとって快適な講習機会となるものとする。③については、昨年度の反省において、事前資料提出の期日が講習日の1ヶ月ほど前に設定されており、担当講師によっては負荷となりうるという意見が出ていた。そのため今年度は、受講生への情報保障を損なわない範囲で講師からの資料提出日の調整を行った。④については、他の受講生と同様の情報が得られるよう受講に際しての変更・調整は可能な範囲で行ったが、申し込みが他の受講生よりも早期に設定されている点が課題として挙げられる。教室配当や担当講師との連絡調整のため、早めに申込日を設定しているという運営側の事情があるが、今後検討事項であろう。

いずれにせよ、受講生の要望の聞き取りと柔軟な対応が今後も必要であるとする。

ご協力いただいた、本講習委員会の教職員のみならず、受講生の方、担当講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

8 講習風景

平成29年度講習の様子





9. 三重県教員免許状更新講習連絡協議会について

9-1 設立趣意

三重県における教員免許状更新講習の円滑な運営を図るためのみならず、教育に関わる諸機関の交流、さらには本連絡協議会を通じ三重県独自の教育問題を考える契機とすることを設立の趣意とする。

9-2 当協議会の組織大学

平成20年度に立ち上がった三重県教員免許状更新講習連絡協議会は、今年度も以下のように開催された。連絡協議会参加校は以下のとおりである。

- ・三重大学（平成20年度・平成23年度・平成26年度幹事校）
- ・皇學館大学（平成22年・平成25年度幹事校）
- ・三重短期大学
- ・鈴鹿大学短期大学部（平成21年度・平成24年度・平成28年度幹事校）
- ・高田短期大学（平成27年度幹事校）
- ・放送大学（三重学習センター）
- ・ユマニテク短期大学（第2回から参加）

9-3 平成29年度連絡協議会開催の記録

- ・第1回 平成29年5月31日（水）
議題 ・各大学の実施状況報告について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学）
 - ・連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習について（三重県教育委員会）
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）
- ・第2回 平成29年10月18日（水）
議題 ・各大学の実施状況報告について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学・ユマニテク短期大学）
 - ・連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習について（三重県教育委員会）
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）
- ・第3回 平成30年2月21日（水）
議題 ・平成30年度三重県内大学教員免許状更新講習実施計画について
（三重大学・皇學館大学・鈴鹿大学短期大学部・高田短期大学・放送大学・ユマニテク短期大学）
 - ・平成30年度連絡協議会主催講習について
 - ・今後の教員免許状更新講習のあり方について
 - ・教員免許状更新講習のあり方等について（県内各学校種等関係団体）

9-4 今年度の選択必修講習について

今年度は「連絡協議会选择必修講習」として、「【選択必修】学校に向けられる社会的「まなざし」・子どもと教職員の生命を守るための課題」と「【選択必修】アクティブラーニングにおけるＩＣＴ（情報通信技術）の活用」の２講習を開催した。

なお、２講習の実施状況、講習のシラバス、講師のふりかえりについて、次ページ以降に掲載する。

三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習について

開設期間：7月30日(日)

講習名：アクティブラーニングにおけるICT(情報通信技術)の活用

講習担当講師：高田短期大学教授 鷲尾 敦

三重大学教育学部教授 下村 勉

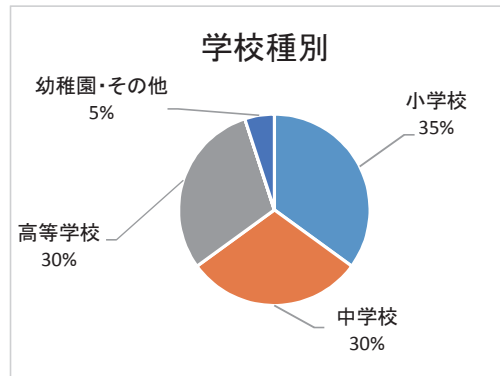
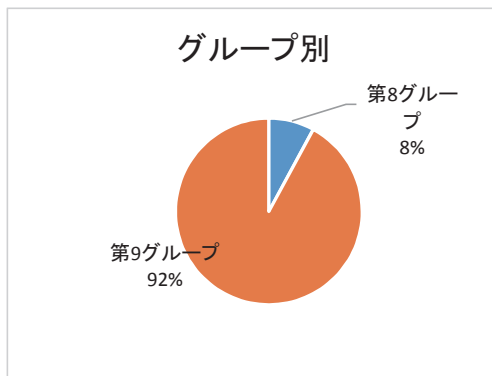
ゲストスピーカー：三重県教育委員会事務局研修推進課テーマ研修班班長 荻田 弘樹

講習内容：別紙のとおり

受講申込者：40名(定員40名)

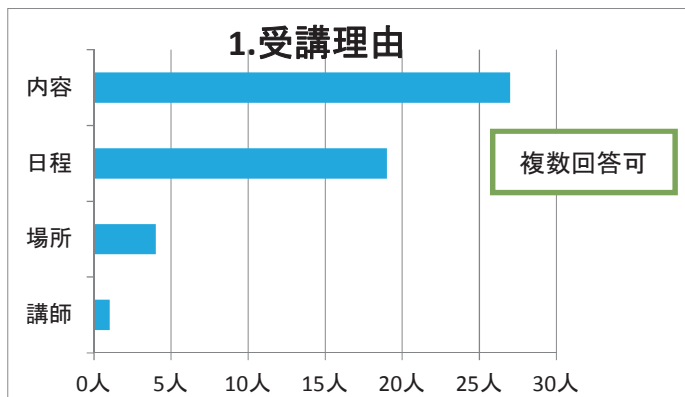
受講者：37名

＜受講状況＞ 受講者数 37人



＜講習事前アンケート＞

1. 受講理由



2. 講習について望む内容

アクティブラーニングをおこなうにあたって、情報機器をどのように利用すればよいのかに興味があります。(高等学校・教諭)

アクティブラーニングの際の動けない、発言できない生徒へのアドバイス ICTを駆使できるようになった生徒のその後(教育委員会)

外国の情報教育の現状についても、教えていただけるとありがたいです。(中学校・教諭)

通信機器を有効に使用した授業の例を教えてください。(小学校・講師)

アクティブラーニングとは、どのような方法の学びか。具体的な意味について知りたい。(教育委員会)

アクティブラーニングなどの今日的な教育にいかによりICTが活かせるか、できるだけ多く例示・実習をお願いしたい。(高等学校・教諭)

<講習事後評価状況>

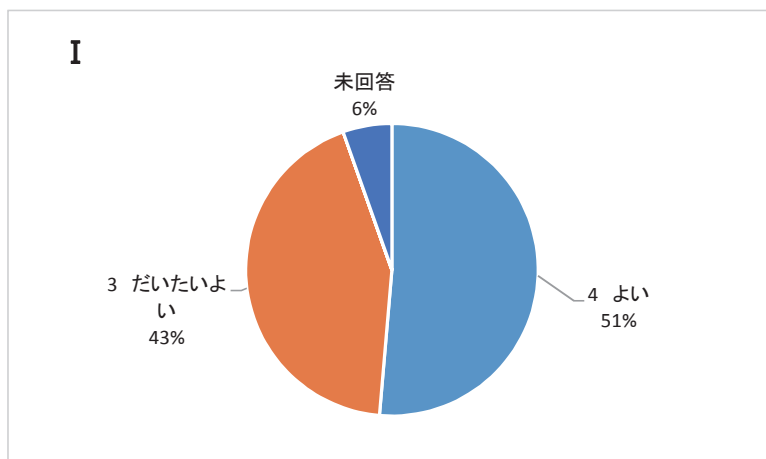
○ 評価方法は、文部科学省へ報告している以下の3項目について

Ⅰ. 講習の内容・方法についての総合的な評価

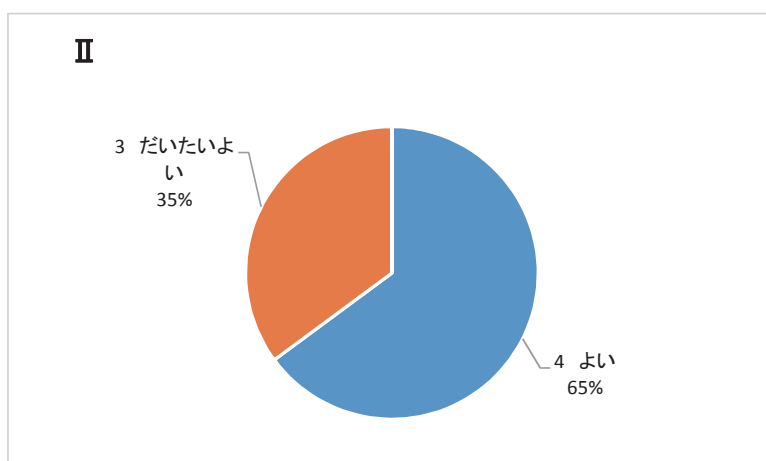
Ⅱ. 講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価

Ⅲ. 講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価

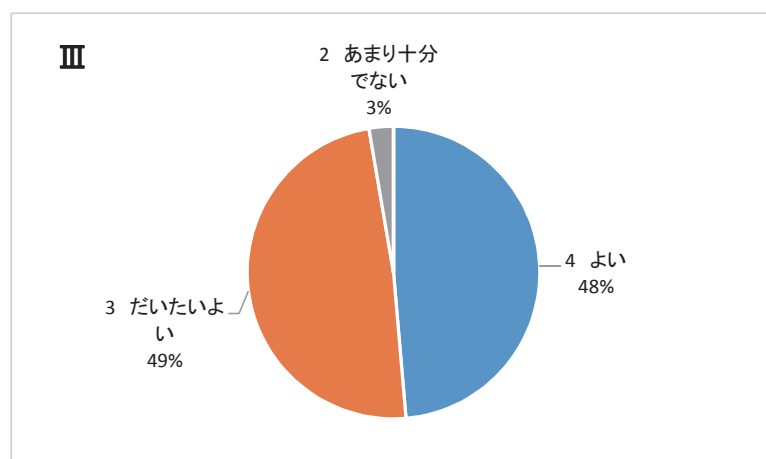
<項目Ⅰ:講習の内容・方法についての総合的な評価の内訳>



<項目Ⅱ:講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価>



<項目Ⅲ:講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価>



三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習 アクティブラーニングにおけるICT（情報通信技術）の活用

【開催日時】	平成29年7月30日（日） 9:00～17:00
【募集期間】	平成29年4月10日（月）～4月20日（木）
【募集定員】	40名（現在、三重県内の国公私立学校および幼稚園に勤務している者）
【受講料】	6,000円
【会場】	三重大学
【備考】	

【開催日時】	平成29年7月30日（日） 9:00～17:00
【担当講師】	三重大学教育学部非常勤講師 下村 勉
	高田短期大学教授 鷲尾 敦
【ゲストスピーカー】	三重県教育委員会事務局研修推進課テーマ研修班班長 荻田 弘樹
【講習内容】	「教育の情報化」の動向、ICT活用や情報教育の課題を実践的に学ぶ。簡単なデジタル作品（パワーポイント教材、フォトムービー）制作や、タブレット端末、ネットアプリなどの活用体験をし、学習支援システム（Moodle）を活用して、成果の発表・交流・共有をはかる。アクティブラーニングにおけるICTの効果的な活用法や課題（情報モラル等）を認識し、ICT活用指導力を高める。本講習は、三重県教員免許状更新講習連絡協議会と三重県教育委員会が協働して三重県内の課題についても展開する。

今後、必要とされる教育（アクティブラーニング等）において、コンピュータやネットワークなどのICT（情報通信技術）をどのように活用すべきかを、実習を交えながら考えます。具体的には、簡単なデジタル作品（パワーポイント教材、フォトムービー）制作や、タブレット端末、あるいはネットアプリを有効に活用する体験をし、学習支援システム（Moodle）を活用して、改善・共有をはかります。その経験を通して、ICTの活用方法や課題（情報モラル等）などを実感して、児童生徒がICTを活用して学習できる「ICT活用指導力」を高めることをねらいとします。なお、実習は提示したテーマから1つを選択して、個人単位で行いますが、同じテーマのグループ（4人）が互いに支援しあう協働学習形式で行います。

【試験】	筆記試験
【持参物】	・ 作品制作のための材料（紹介したい写真・資料、改善したいパワーポイント教材、など） ・ ネットアプリの活用を体験したい方は、Gmailアカウントを取得しておいてください。
【備考】	

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	下村 勉	記入年月日	2017 年 8 月 10 日
講習の区分	選択必修講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：37	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教育学部教職支援センター 1F 第4教育端末室
講習名	アクティブラーニングにおける ICT (情報通信技術) の活用		
講習の目標	アクティブラーニングにおいて、ICT を有効活用できる力量を高めることをねらい、次のように受講者の到達目標を定めた。 1) アクティブラーニングの必要性を伝えることができる。 2) ICT 活用の意義や情報モラル等の留意点を理解し、説明できる。 3) 活動をふり返り、良かった点、改善点、今後の課題を分析できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	今後、必要とされる教育(アクティブラーニング等)において、コンピュータやネットワークなどの ICT (情報通信技術) をどのように活用すべきかを、アクティブラーニング形式の実習を交えながら考える。具体的には、簡単なデジタル作品(パワーポイント教材、フォトムービー)制作や、タブレット端末、あるいはネットアプリを有効に活用する体験をし、学習支援システム(Moodle)を活用して、改善・共有をはかる。その経験を通して、ICT の活用方法や課題(情報モラル等)などを実感して、児童生徒が ICT を活用して学習できる「ICT 活用指導力」を高めることをねらう。実習は提示したテーマから1つを選択して、個人単位で行うが、同じテーマのグループ(4人)が互いに支援しあう協働学習形式で行う。 (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動(自己紹介、課題作業) (3) 13:00-14:20 課題作業つづき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有(グループと全体) (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	講義資料・参考データ ・全体ガイダンス ・アクティブラーニングと ICT の活用 ・情報活用能力の育成 ・Moodle の活用 ・4つの課題の説明、各課題ごとの作品事例および参考資料 その他、Moodle 上に受講者が作成したデジタル作品をアップロードし、閲覧・情報共有した。		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・一方的な講義ではなく、アクティブラーニング形式の講習を行うことができた。 ・講師・ゲストスピーカー・補助者が事前に打ち合わせを行い、三重大 Moodle も活用しながら準備を進めた。4つの課題を準備し、それぞれの教材・学習資料を Moodle に整備し、受講者にも事前に閲覧して課題を選択することを試みた。 ・こうした準備がアクティブラーニング型の講習を進めるうえでとても重要であり、受講者の方が当日主体的に学ぶための環境を整備できたと考える。そして、講師及び補助員は、受講者の主体的な学びを支える役割を果たすことができた。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) ・教育端末室を用いたので、ICT 機器はほとんどトラブルもなしに利用できたが、グループワークには適した環境ではない(机の配置、デスクトップ PC)。 ・受講生が多くエアコンの効きが悪かったが、昨年の教訓を生かし、隣の PC 室の間の扉を外し、そのエアコンを追加利用することで、よい環境を提供できた。 ・補助員2名とボランティア1名が課題別の実習を補助した。実習を伴う講習では、補助員の役割は重要であり、その効果も高い。 3) その他 ・事前の案内で、事前に各先生方が講習で行う課題とそのテーマを事前に考えてきていただいた。先生方に案内が事前になされたこと、Moodle によって事前に課題説明や教材を見ていただけたことが、短い講習でも高い目標達成が果たせた理由と考えている。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	鷲尾 敦	記入年月日	2017 年 8 月 1 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：37 名	講習会場 (教室等)	上浜キャンパス教育学部教職支援センター 1F 第 4 教育端末室
講習名	アクティブラーニングにおける ICT (情報通信技術) の活用		
講習の目標	1) アクティブラーニングについて ・アクティブラーニングの必要性を伝えることができる。 2) ICT 活用の意義を知る ・ICT の活用方法やそのメリットを説明できる。 ・情報モラル等、留意点について説明できる。 3) 活動のふり返し 講習をふり返し、良かった点、改善点、今後の課題を分析できる。		
授業概要 (大まかな流れ)	今後、必要とされる教育(アクティブラーニング等)において、コンピュータやネットワークなどの ICT (情報通信技術) をどのように活用すべきかを、実習を交えながら考える。具体的には、4 つの課題制作(パワーポイント教材制作、フォトムービー作品制作、タブレット(ロイロノート)作品、ネットアンケート)体験をし、学習支援システム(Moodle)を活用して、改善・共有をはかる。その経験を通して、ICT の活用方法や課題(情報モラル等)などを実感して、児童生徒が ICT を活用して学習できる「ICT 活用指導力」を高めることをねらう。実習は提示したテーマから 1 つを選択して、個人単位で行うが、同じテーマのグループ(4 人)が互いに支援しあうグループ支援学習形式で行う。 (1) 9:00-10:20 ガイダンス、講義、課題の説明など (2) 10:30-11:50 グループ活動(自己紹介、課題作業) (3) 13:00-14:20 課題作業つづき (4) 14:30-15:50 講習成果の発表と共有(グループと全体) (5) 16:00-16:40 試験 (6) 16:40- 受講者評価		
活用した資料・データ等	講義資料 ・アクティブラーニングと ICT の活用 ・ICT 機器に関する児童生徒の実態とアクティブラーニングによる授業づくり ・Moodle の活用 ・4 つの課題の説明 ・各課題ごとの作品事例 ・各課題作品制作のための参考資料		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ・下村先生との協働で、今年で 2 回目となる本講習は、昨年同様、本授業の方法そのものがアクティブラーニングであり、ICT を主体的に活用していただくために、事前の準備と打ち合わせをおおいにした。受講生は主体的に活動し、試験もしっかりと回答が記述されていた。 運営(活用機材、会場、補助員等) 準備と打ち合わせをしっかりしたおかげで当日は大きな問題もなく、多少の時間的なずれもその場その場で対応し、スムーズに運営することができた。 会場は、B 教室のエアコンの効きが昨年と同様悪く、A クラスとの境界を開放し、A クラスのエアコンを動かすことで適温にすることができた。 ・4 つの課題があることもあり、運営スタッフは複数名必要である。一人ひとりの補助員がきびきびと動き、先生方の質問にも対応し、わからないところはすぐに講師に伝えるなど活躍が見事であった。 ・マイクから雑音を拾うのか、スピーカーに大きな雑音が聞こえ、途中マイクを使えない時があった。 2) その他 課題制作は、事前に課題内容を読み、課題制作に必要な写真素材やテーマの準備など必要でしたが、多くの先生方がしっかりと準備され、当日の短い時間の中で、すばらしい作品を制作されたのには、関心しました。		

三重県教員免許状更新講習連絡協議会选择必修講習について

開設期間：7月30日(日)

講習名：学校に向けられる社会的「まなざし」・子どもと教職員の生命を守るための課題

講習担当講師：高田短期大学子ども学科講師 寶来 敬章

鈴鹿大学短期大学部教授 川又 俊則

ゲストスピーカー：三重県教育委員会事務局小中学校教育課小中学校教育班 中西 公明

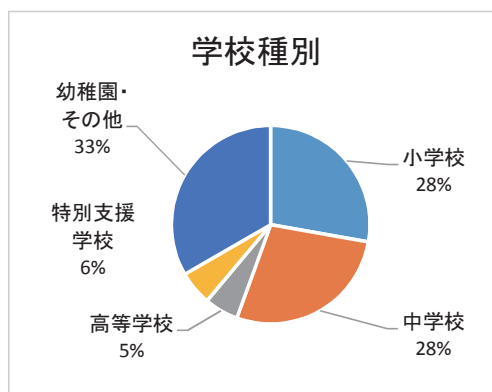
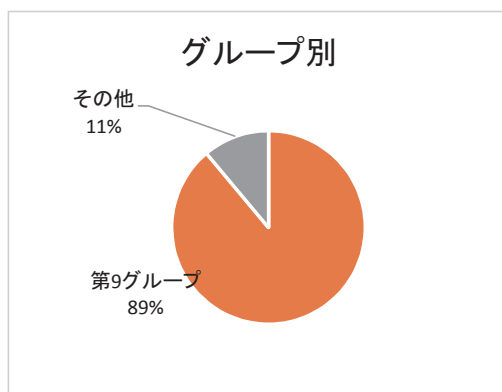
三重県教育委員会事務局生徒指導課生徒指導班課長補佐兼班長 山田 喜久

講習内容：別紙のとおり

受講申込者：18名(定員40名)

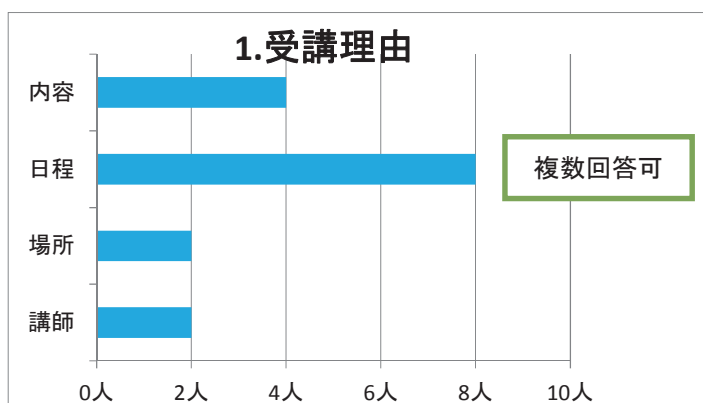
受講者：18名

＜受講状況＞ 受講者数 18人



＜講習事前アンケート＞

1. 受講理由



2. 講習について望む内容

幼稚園や保育園よりも、子どもの命を預かっているという意識が薄く感じる小学校。幼稚園教諭や保育士を育てる立場の講師さんから見た、小学校に足りないものを聞きたい。(小学校・講師)

障害のある子どもへの支援の仕方、関わり方について(小学校・教育支援員)

近年、学校に要求されることが尋常とは思えない量になっている。学校が果たす責任は、いったいなんなんだろうかと思い悩んでいる。精選できないものだろうか。(小学校・教諭)

全く知識の無い分野なので、現場で役立つ内容をしっかりと学びたい(高等学校・講師)

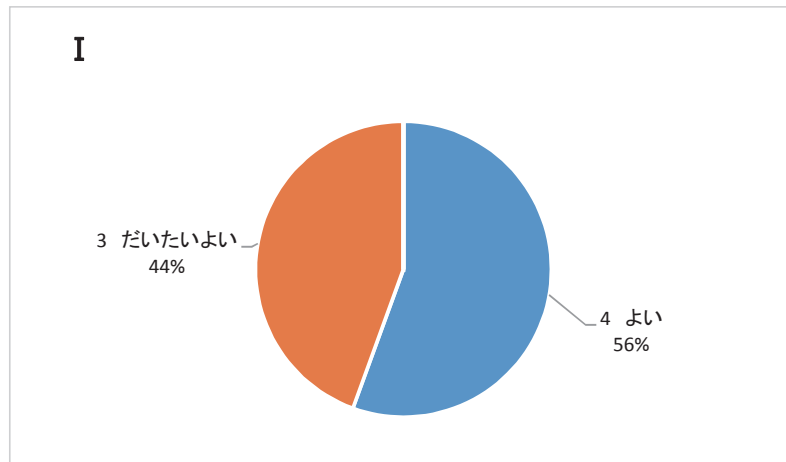
学校に対する社会の考え方の変化を知りたい。(小学校・教諭)

<講習事後評価状況>

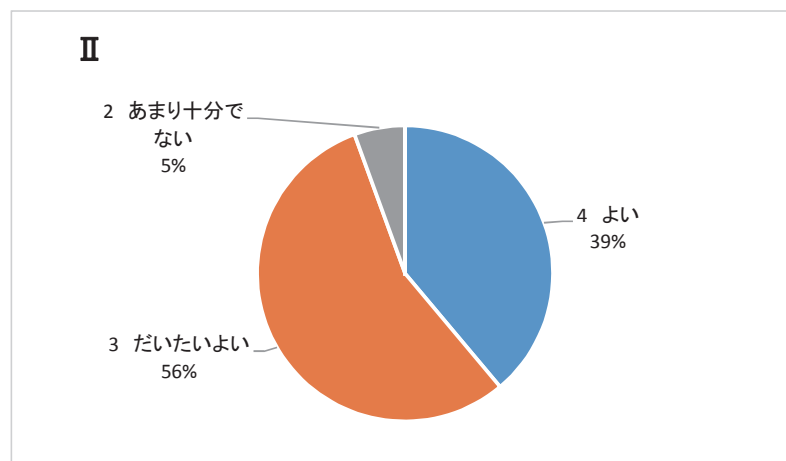
○ 評価方法は、文部科学省へ報告している以下の3項目について

- I. 講習の内容・方法についての総合的な評価
- II. 講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価
- III. 講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価

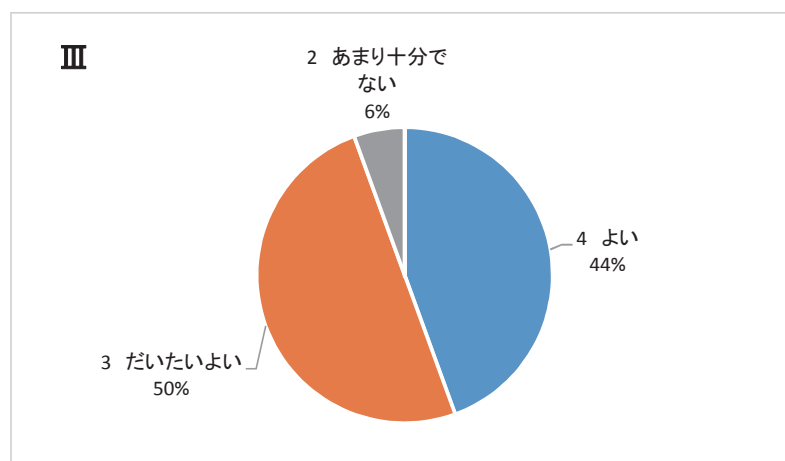
<項目 I : 講習の内容・方法についての総合的な評価の内訳>



<項目 II : 講習を受講した受講者の最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価>



<項目 III : 講習の運営面(受講者数、会場、連絡等)についての評価>



三重県教員免許状更新講習連絡協議会選択必修講習
学校に向けられる社会的「まなざし」・子どもと教職員の生命を守るための課題

【開催日時】	平成29年7月30日(日) 9:00～17:00
【募集期間】	平成29年4月10日(月)～4月20日(木)
【募集定員】	40名(現在、三重県内の国公立学校および幼稚園に勤務している者)
【受講料】	6,000円
【会場】	三重大学
【備考】	

【開催日時】	平成29年7月30日(日) 9:00～12:20	【開催日時】	平成29年7月30日(日) 13:20～17:00
【担当講師】	高田短期大学子ども学科講師 寶来 敬章	【担当講師】	鈴鹿大学子ども教育学部教授 川又 俊則
【ゲストスピーカー】	三重県教育委員会事務局小中学校教育課小中学校教育班 中西 公明	【ゲストスピーカー】	三重県教育委員会事務局生徒指導課生徒指導班課長補佐兼班長 山田 喜久
【講習内容】	本講習は、子どもや教師をめぐる現状や課題から、学校に向けられる「まなざし」について検討することを目的としている。具体的に求められる児童生徒の学力、指導・支援する教師の指導力などについて議論する予定である。	【講習内容】	「学校における危機管理上の課題」として、生徒指導上の諸問題として「いじめ」性の多様性」の現状を確認し、先駆的な取り組みを見る。また、柔道の事故や組み体操に代表されるような校内事故の現状を確認し、それぞれの対応を具体例を通じて考える。危機管理は幅広いテーマがあるが、本講習では「生命を守る」という観点から具体的な問題を受講生一人ひとりが考える講習にしたい。
【試験】	筆記試験	【試験】	筆記試験
【持参物】		【持参物】	
【備考】		【備考】	【確認事項】LGBTの関連書籍、内田良『柔道事故』などを一読してから受講されることを望む。

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	寶來 敬章	記入年月日	2017 年 8 月 9 日
講習の区分	必修講習・ <u>選択必修講習</u> 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主な受講対象者と人数	受講対象者：全教員 人数：18 人	講習会場 (教室等)	教育学部校舎 1 号館 2 階 201 教室
講習名	学校に向けられる社会的「まなざし」		
講習の目標	①学校や子どもを取り巻く環境について理解すること。 ②教師に向けられる社会的「まなざし」や現代の教員に求められる専門性について理解する事。		
授業概要 (大まかな流れ)	午前 9:00～10:30 寶來担当 現代社会の特徴とその中で生きる子どもや家族、教育改革の変遷 多様化する現代教師の役割 アクティブ・ラーニングについての特徴や課題 幼児教育から高等教育機関への「接続」についての考え方や取組 10:40～11:50 中西公明先生担当（三重県教育委員会） 学習指導要領等について 12:00～12:20 認定試験		
活用した資料・データ等	パワーポイント資料		
講習に関する感想	1) 内容（試験等を含む） 受講者の数が少なかったため、もう少しディスカッション等を積極的に取り入れた講習内容とすべきだったかと思う。 2) 運営（活用機材、会場、補助員等） 特にありません。 3) その他 特にありません。		

教員免許状更新講習・講師ふりかえり

No. 1

担当講師	川又 俊則	記入年月日	2017 年 8 月 6 日
講習の区分	必修講習 ・○選択必修講習 選択講習	講習開設日	2017 年 7 月 30 日
主 な 受 講 対 象者と人数	受講対象者：全教諭 人数：18 人	講習会場 (教室等)	教育学部 1 号館 201
講 習 名	子どもと教職員の生命を守るための課題		
講習の目標	「学校における危機管理上の課題」として、生徒指導上の諸問題として「いじめ」「性の多様性」の現況を確認し、先駆的な取り組みを見る。また、柔道事故や組体操に代表されるような校内事故の現況を確認し、それぞれの対応について、具体例を通じて考える。危機管理は幅広いテーマがあるが、本講習では「生命を守る」という観点から具体的な問題を受講生一人ひとりが考える講習にする。		
授業概要 (大まかな 流れ)	午後 13:20～16:10 1. 校内事故の現況 (1) 柔道事故や部活動 (2) 組立体操とその他 2. 生命を守る (1) 傾聴とは何か (2) 児童虐待と学校からの通知 3. 生徒指導上の諸問題 (1) 「いじめ」の現況と対応 (2) LGBT から SOGI へ 16:20～16:40 テスト(ノート・資料もちこみ可)		
活用した資料・データ等	配布資料(パワーポイントで提示したスライド) 三重県教育委員会事務局生徒指導課 生徒指導班課長補佐兼班長 山田喜久氏 によるゲストトーク(児童虐待について、いじめについて) 学校での児童虐待気づきリスト(三重県教育委員会作成) 1 枚		
講習に関する感想	1) 内容(試験等を含む) ゲストスピーカーの山田先生は、打ち合わせどおり、適切なご発言をしていただき、講習を深めていただきました。受講生の方々も、クリッカーなどで積極的に反応していただき、講習が滞りなく、目標どおりに進めることができました。ありがとうございます。 2) 運営(活用機材、会場、補助員等) 事前準備から、当日まで、順調に行えました。ありがとうございます。 3) その他 冷茶の準備などご配慮ありがとうございました。		

Ⅲ 成果と課題

1 企画部会委員の立場から

企画部会委員の立場から

三重大学教育学部学校教育講座 佐藤 年明

免許状更新講習初年度より講習開講を担当してきたが、運営の側に立つのは今年度が初めての経験であった。

企画部会委員であるが、会議に出席すること以外に更新講習の「企画」に関わって自分自身が動いたことと言えば、来年度選択必修講習について、所属する学校教育講座の先生方に依頼を行ない、開講計画の回収を行なったことくらいである。予想される受講者増に対応して開講数や一講座あたりの受講受け入れ数を増やす必要があったが、皆さん積極的に対応していただいたので大きな支障なく仕事を終えることができ、感謝している。

これ以外に更新講習実施委員会の共通の仕事として更新講習当日の運営スタッフを2日間担当した。3日程度の担当を求められていたが、自分自身の講習を3日開講しており、これは平均以上の開講日数ではないかと思われるので、勝手ながらスタッフ担当は2日にしていただいた。なお、来年度は選択必修・選択合わせて4日間開講する。

スタッフとしての仕事は朝の開講前の会場案内と講習終了時の試験答案・受講者評価書の受領であり、講習開講時間帯は仕事がなく研究室に待機していた。

朝の会場案内は丁寧に行なったつもりであるが、困ったのは更新講習以外の当日開催行事の参加者からも案内を求められたことである。もちろんそうした他の行事についてもそれぞれ案内スタッフが配置されているはずだが、来学する人からすれば誰がどの案内担当かは見た目わからないので、次々に尋ねに来られる。その都度近くにおられるそれらしき担当者を指してそちらへ回ってもらった。

運営スタッフ担当後の実施委員会でその件を発言してわかったのは、例えばある土曜日に三重大学全学で開催されている各種行事について一括して把握している学内部署は存在しないということ。困ったことである。更新講習開催日の更新講習以外の開催行事について、何とか可能な限り事前把握してほしい。でないと、我々更新講習運営スタッフが更新講習参加者には可能な限り丁寧・親切に対応したとしても、例えば他学部で開催される資格試験等のために来学した人がその行事の担当者ではなく我々更新講習スタッフに情報を求めてきたときに適切に対応できない。我々の業務外と言ってしまえばそれまでだが、そうしたお役所的対応では三重大学の評判を落とすことになりかねない。

どこにお願いしたらよいのかよくわからないのだが、ともかくも一考を要する課題だと思う。

企画部会委員の立場から

三重大学教育学部理科教育講座 栗原行人

今年度（2017 年度）より 2 度目の教員免許状更新講習委員会の委員となった。ここでは前回（2011 年度）担当時との相違点や印象を中心に記したい。

まず、講習の開設期間と数を比較すると、2011 年度には 7 月上旬～11 月下旬の 20 日間で必修講習 8、選択講習 116 の計 124 講習が実施されたのに対し、今年度には 6 月上旬～10 月上旬の 14 日間で必修講習 10、選択必修講習 24、選択講習 105 の計 139 講習が実施された。これは講習開設期間と日数は短縮しているものの講習数は増加したこと、つまり、1 日に多くの講習を実施するようになったことがわかる。このことにより、講習開催のためのスタッフの担当日数は以前よりも減少したといえるだろう。今年度の各教員スタッフの担当日数は 3～2 日であった。2011 年度の状況については記録がなく数字で示すことができないがこれよりは多かったはずである。

今年度での講習開催スタッフとして私が行った主な業務は校舎入口付近での教室案内（8 時～9 時 30 分）であった。これは 2011 年度には担当していなかったように思うが、1 日に多くの講習が開催される関係上、教室が複数の校舎にまたがることが多く、その結果、目指す教室の場所がわからないという受講者はかなり見受けられた。教室案内は今後も引き続き行う必要があるだろう。

私自身が担当している講習についてもここで比較をしてみたい。選択講習「三重県の岩石と地層」というタイトルで、実験室での講義と標本観察・野外での地層の観察（バス移動を含む）という内容で 2011 年度から今年度まで行ってきた。2011 年度と今年度を比較すると充足率が 100%から 44%へと大幅に低下した。この低い充足率は 2016 年度から 2 年続いていることから、来年度以降は、タイトル・内容を大幅に変更して充足率の改善に努めたいと考えている。

来年度（2018 年度）には例年よりも約 1.7 倍の受講対象者が予想され、6 月上旬～10 月下旬の 18 日間で必修講習 15、選択必修講習 28、選択講習 127 が予定されている。このほか、東紀州地域での講習開設も新たに予定されている。そのため、講習開催のためのスタッフの仕事量は増加すると考えられるが、企画部会委員として、更新講習委員会の先生方や事務の方々とともに円滑な運営を目指していきたい。

最後に、本委員会の企画・運営に関わる業務を実質的に支えてくださっている事務の方々に深く感謝いたします。

企画部会委員の立場から

三重大学教育学部技術・ものづくり教育講座 中西 康雅

平成 28 年度の教員免許状更新講習から、新たに「選択必修領域」が設けられた。本稿では、今年度 2 年目を迎えた「選択必修領域」の講習について述べることにしたい。

まず、「選択必修領域」の講習が加わったことにより、教員免許状更新講習の領域は「必修領域」、「選択必修領域」、「選択領域」の 3 領域となった。昨年度から加えられたこの選択必修領域は、たとえば「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」や「英語教育」「学校、家庭並びに地域の連携及び協働」といった現代的な教育課題に対応するために新設された内容と、それまで必修領域の講習として位置付けられていた内容からなる。また、受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講するよう設定されている。

まず昨年度の実績と比較したい。選択必修領域が設定された初年度である平成 28 年度は、選択必修領域の講習として 25 講習が開設され、定員は 905 名、受講申し込み者が 597 名あり、申し込み率は 66%であった。これに対し今年度は、24 の講習が開設され、定員 850 名に対し 635 名の受講申し込みがあり、申込率は約 75%と昨年度を上回った。結果として開設講習数や定員は減少したものの、受講者数と申し込み率はともに向上した。また、選択必修領域として位置づけられている 12 のテーマ内容のほとんどを網羅して講習を開設できた。このことは、各講師の協力と今年度開設する講習を企画した昨年度の教員免許状更新講習の委員の努力によるところが大きいと思われる。このような結果から、今年度の企画内容が充実しており、初年度課題として挙げられた申し込み率が改善されたと考えられる。

一方で、課題としては受講者数の充足率が 50%に満たないものが 7 講習あるが、これをどのように捉えるか今後分析し、継続して調査する必要があるだろう。選択必修領域はその設定趣旨が現代的な教育課題の講習とされているため、受講者の興味関心が偏っているのか、もしくは講習の内容に課題にあるのかを詳細に分析する必要があると考える。ただし、現状では 12 あるテーマ内容のほとんどを網羅した講習を開講できていることは、受講者に対する履修選択の幅を広げることとなっており、これは初年度からの継続した成果といえるであろうし、今後も継続したほうが好いであろう。

さて、次年度のテーマ内容に「教科横断的な視点からの教育活動の改善を支える教育課程の編成、実施、評価及び改善の一連の取組」「学習指導要領等に基づき育成すべき資質及び能力を育むための習得、活用及び探究の学習過程を見通した指導法の工夫及び改善」の 2 つが加えられることになった。また、次年度は受講者数も増えることが予想されているため、受講者定員を増やす必要がある。これに対し、今年度の委員会では、新しい 2 つの内容に応じた講習を準備したとともに、受講者の定員も 1100 名となるよう増やすことが出来た。これらは担当講師の皆様のご理解のもと、開催できていることが大きいと考える。教員免許状更新講習の関係者の皆様に感謝申し上げる次第である。

2 運営部会委員の立場から

学部担当の教員免許状更新講習事業を振り返って

三重大学人文学部 服部範子

2017 年度人文学部担当の教員免許状更新講習は、森俊一氏（名誉教授）による「財政の役割について」、荒井茂夫氏（名誉教授）による「中国語会話入門」、藤本久司氏（元人文学部准教授）による「異文化間コミュニケーションのギャップ」、服部範子（人文学部）による「音声の見える化を取り入れた英語学習」であった。

各講習の「教員免許状更新講習受講者評価書」によれば、「Ⅰ. 本講習の内容・方法について」の項目、「Ⅱ. 本講習の成果について」の項目、および「Ⅲ. 本講習の運営面（受講者数、会場、連絡等）についての評価」において、4つの講習のほぼ全ての受講生が「よい（十分満足した・十分成果を得られた）」または「だいたいよい（満足した・成果を得られた）」と評価している。概ね好評であったことが上記のアンケート結果から明らかである。以下では、各講習の自由記述欄に基づいて、各講習を簡単に振り返ることとしたい。

森俊一氏「財政の役割について」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。難しい経済理論もさまざまな例解による説明がわかりやすく、理解を深めることができたという感想が多く見られた。少人数クラスということもあり、担当講師が受講者に細やかな目配りをし、理解度を確認しながら進めることができたようである。中・高生にどのように教えるかのヒントをさらに知りたいという声と共に、密度の濃い内容は自分にとっても有意義な受講であったという声が多かった。

荒井茂夫氏「中国語会話入門」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。中国語を初めて学ぶ受講者と既習の受講生の双方とも講習の内容に対して高い満足度を示している。とくに文法と発音の説明のわかりやすさ、そして中国語を学ぶことで文化についても学べることを実体験に基づいて話された講師の話が印象的であったことを挙げている回答が多かった。テキストを今後、自学自習用に大切に使いたいという声も多かった。

藤本久司氏による「異文化間コミュニケーションのギャップ」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。外国籍の園児、児童が増える中での異文化間コミュニケーションは、受講者にとって身近なテーマであり、多くの具体的な事例で説明がなされたことに対して大変参考になったという回答が多かった。学校現場で経験する事例やアドバイスを受講生同士で共有できる時間があればさらによかったという回答もいくつか見られた。

報告者本人による「音声の見える化を取り入れた英語学習」における自由記述欄への回答の傾向は、次の通りである。ソフトウェアを用いた音声分析について、生徒に直接かえすよりも自分の英語力アップのためにとってもよかった、講習内容は知っているのと知らないのでは指導する際大きな差が出ると思うといった内容の回答が複数あった。

以上のように、各講習の自由記述欄を見ても、4つの講習が概ね好評であったことが明らかである。次年度以降も人文学部として責任をもって講習の事業に関わっていきたい。

運営委員の立場から

三重大学医学系研究科 西出りつ子

平成 29 年度の医学部は、昨年度と同じ講師による健康に関する 4 講習を提供した。全て、全教員を対象とし、麻酔・呼吸循環管理を専門とする医師がわかりやすく説明する「熱中症・溺水・救急蘇生・窒息・インフルエンザ」、日常的に子どもたちの診療を行う小児科医 4 名が発達障害・アレルギー疾患対応・感染症・突然死に関する内容の「学校保健」、受講者が自身のメンタルを見つめ直す機会ともなる臨床心理士による「学校でのストレス・マネジメント」、そして校種の異なる受講者グループと看護系講師がともに考える「メンタルヘルス問題を抱える子どもの理解と対応」であった。講師の方々には、今年度もこの場をお借りしてお礼申し上げたい。講習の準備から成績採点入力まで過酷な講習をお引き受けいただき、本当にありがとうございました。

集団教育の場における「健康」を考えると、2 つの視点が必要となる。「児童・生徒と教職員の現在の健康」と「児童・生徒の将来の健康」である。どちらも、子どもたち同士、教職員同士、児童・生徒と教職員間、これらの相互関係が健康状態に影響し合い、また家族と地域社会も重要な存在となる。WHO 憲章の健康の定義には、その要素として身体的・精神的・社会的の 3 つが明記されている。子どもたちの現在の「安全と身体的・精神的・社会的健康」を守ることと、「健康に生活する力」を伸ばすこと、これらは集団教育を行う場であるからこそ重要度が高いと言える。

情報システムが発達し続ける現代では、子どもたちと直接やり取りする先生方のご苦労は増すばかりであろうと推察する。しかし、受講者の方々は明るく前向きであった。突然の「これをしてください」という演習の説明にも、協力してすぐ取り掛かる、話し声に混じってあちこちから笑い声がする、講習講師の私たちも「さすが教師！」と感心した次第である。先生方にとってこの講習が教育現場を離れて気分転換となる場であったためか、教師を志向する方に前向きな人材が多いためか、理由は定かではないが、今年も講師としてよい経験をさせていただいたと感謝している。

特に、ロールプレイ演習の発表が印象深かった。提示した学校の場面は、教師が精神的健康レベルの低下した思春期の生徒と会話する内容であった。あるグループの全体への説明役の受講者が、やり取りから多くを学んだと興奮気味に感想を述べられた。そこで、みんなの前で再演していただいた。生徒役の受講者はなりきっていてその生徒の心の動きがわかるようであった上に、教師役の受講者は経験を積んだベテランの味を出して対応され、二人の駆け引きは感動的であった。自然と大きな拍手が起こり、会場全体に子どもに寄り添うことの重要性和教師のすばらしさを実感する時間が流れた。この場面は貴重な体験であり、目前の問題への対応と将来の希望に向けて、前向きに協力しながら健康的に歩んでいくことが重要と再認識する講習であったと改めて思う。

来年度からの受講者人数の増加に備え、三重大学も様々な対策を検討してきた。医学部の講習では、定員を増やす形の対応となる。1 講習あたりの人数増加は、講師の目が届かないところが出る危険性が高まる。受講される先生方には、私たち講師とともに作り上げる講習であると認識していただきたい。そして、ひとつひとつが関係者にとって有意義な講習になることを願っている。

学部担当の教員免許状更新講習を振り返って

三重大学工学研究科 小林 正

平成 29 年度、工学部は 4 講習を担当した。担当学科は、分子素材工学科、電気電子工学科、機械工学科、情報工学科であった。結果は以下のとおりである。

(1) 分子素材工学科 講習名：抗体や核酸上の情報について

不開講

(2) 電気電子工学科 講習名：コンピュータのしくみ

不開講

(3) 機械工学科 講習名：流れのシミュレーションとその応用

平成 29 年 8 月 18 日(金) 定員 10 受講申込者数 1 当日欠席数 0 履修認定者 1

(4) 情報工学科 講習名：ビジュアル言語で始めるはじめてのプログラミング

平成 29 年 8 月 29 日(火) 定員 20 受講申込者数 7 当日欠席数 0 履修認定者 6

1. (1)と(2)は受講申込者が無く、不開講となった。

この問題に対して工学部の教務委員会で議論を行った。講習計画の立案に際しては、

○実習等の事情がなければ、定員を 20～30 名以上で設定して頂きたい。

○ある程度の受講者数を確保できるような講習内容にして頂きたい。

具体的には授業ですぐに利用できる知識が望ましい。

との要望を伝えた。この要望は、各学科の教務委員を通じて来年度の担当学科に伝えられ、講習計画の立案の際に考慮される。

選択講習の内容を考える上での切り口として、(a)『授業ですぐに利用できる知識』、(b)『現在の授業では使わないが、将来、授業で利用できる知識』、(c)『現在も将来も授業で直接利用できる訳ではないが、教養として役に立つ知識』が考えられる。今後、工学部の講習内容は、(c)から(a)や(b)にシフトしていきたい。

2. (4)の『ビジュアル言語で始めるはじめてのプログラミング』において、不認定者が 1 名あった。

講習内容は、プログラミング言語『スクラッチ』を用いた実習で、試験の方法は実技であった。

講習内容に関するアンケート結果は「プログラミング教育が重要視される中、今回『スクラッチ』に関して一日じっくりと学べて良かった。」「授業で役立てる事ができました。」などで、講習方法に関するアンケート結果も「指導は丁寧で、分かりやすかったですと思います。」「丁寧に教えていただき、ありがとうございました。」と問題がなかったと思われる。

ただし、「日程の都合上、自分の一番不得意な分野の受講となりました。選択の自由がないシステム(インターネット)なので自分の取りたい講座が一瞬でうまってしまう残ったのが今回の講座でした。申し分ありませんが、このシステムはどうかと思います」とのコメントがあった。この問題は以前から指摘されているが、各講習の定員を可能な限り増やす方向でしか解決しないのではないかと考えられる。

生物資源学部が担当した「選択講習」をふりかえる

三重大学生物資源学研究科 成岡 市

Ⅲ. 成果と課題

2 運営部会委員の立場から

(1) 開講された4講習

①「生物多様性」総ざらえ～概念・保全から外来生物問題まで～

講師：准教授 淀 太我 定員 20、受講者 17(充足率 85%)

開講：2017/6/10 (土曜) 成績評価方法：筆記

②理科実験－物資の熱的性質(硬貨からゆで卵)

講師：教授 田中昌善 定員 20、受講者 11(充足率 55%)

開講：2017/6/18 (日曜) 成績評価方法：その他(レポートの評価)

③3次元CADによるものづくり体験実習

講師：助教 山下光司 定員 20、受講者 9(充足率 45%)

開講：2017/6/24 (土曜) 成績評価方法：その他(CAD製図成果品の評価)

④環境教育のための森林、木材の話

講師：教授 石川智明 定員 20、受講者 17(充足率 85%)

開講：2017/8/18 (金曜) 成績評価方法：筆記

(2) 成果概要

昨年に引き続き、1講習の講師数を1名にした。定員に対する受講者の充足率は55%～85%であり、「講義＋野外調査(三重大学内)、実験、豊富なスライド写真の紹介、講習資料の事前配布」などの工夫が受講者に高評価の傾向にあった。

成績評価方法は、筆記式およびその他(レポート、成果品)であり、前年度が筆記試験だけであったのに対して多彩な評価がなされた。受講者による評価(代表値)は4と概ね好評であった。

担当講師は、生物資源学部の4学科から各1教員が選出された。いずれも農学(自然科学系)分野の専門をもつ教員であった。

(3) 今後改善すべき事項

1) 1講習あたりの講師数、講習の特徴

教授・准教授・助教、60歳～40歳台、自然科学分野の講習などが実施され、加えて受講者の評価(自由記述内容を含む)が好評であったことから考えると、「講師数1名、職階・年齢層に幅を持た

せる、講習内容は生物資源学部で取り扱う内容で良好」の条件で高評価を受けていることがいえる。

特筆すべきは、「講師の専門性を活かした内容、新規性のある内容、受講者の職場経験が活きる内容が用意された」ことに対して高い評価を受けている。

2) 定員に対する受講者の充足率について

講習課題によって受講者の充足率の増減が発生する可能性はある。講習の定員をいずれも 20 名としたことで、母数が少なくなったことが充足率に影響を与えたともいえる。

受講生の自由記述をみる限り、生物資源学部における教育・研究の特徴を一層強化することが受講者の好奇心を高揚させ得ると理解することができる。

3) 成績評価の方法について

今年度は、「筆記式、レポート、成果品」の成績評価が実施された。少人数の講習であったため、これらの評価方法によって受講者の理解度を把握することは可能と思われる。

4) 総合的改善について

生物資源学部の講師の人選は、学部長の委任を受けた「教職課程・学芸員養成課程運営委員会」が担当した。この委員会による情報共有あるいは改善検討の仕組みにより、教員免許状更新講習の組織的な対応に効果があると考ええる。

運営部会委員の立場から

三重大学教養教育機構 古関春隆

2017 年度、教養教育機構では、5 名の教員が以下の 6 個の教員免許状更新講習を担当した。

- ・ 6 月 24 日、富樫健二、子どもの運動と健康（選択）
- ・ 7 月 8 日、瀬戸美奈子、不登校の理解と対応（選択必修）
- ・ 7 月 8 日、古関春隆、何乗すると 1 になるか？何回繰り返すと元に戻るか？（選択）
- ・ 8 月 18 日、太城康良、アクティブ・ラーニング TBL（選択）
- ・ 8 月 23 日、太城康良、アクティブ・ラーニング クリッカー&プラカード体験（選択）
- ・ 10 月 1 日、下村智子、世界の教育事情（選択）

各講習について、受講者評価書に書かれた感想の中から印象的なものを紹介する。

子どもの運動と健康 受講者数 20 名

「グループワークでは他の先生方の現場での状況を把握できとても参考になりました。」

「分かりやすく説明してくださったので、とても勉強になりました。職場でも他の職員に伝達していきたいと思います。」

不登校の理解と対応 受講者数 39 名

「カウンセリングの技法や子どもの問題への対応法など、学びたかったことを楽しく学べました。ありがとうございました。」

「「不登校」や「問題行動のある子の保護者への対応」など、具体的な事例を本にロールプレイングなどを通して勉強できたので良かったです。保護者対応などは難しく、苦手分野でもあるので勉強させていただき良かったです。」

何乗すると 1 になるか？何回繰り返すと元に戻るか？ 受講者数 4 名

「トランプをシャッフルすると何回かくり返すことで元の数に戻るということを学んだ。例をあげて説明していただいたのでありがたかったです。」

「大学を卒業して以来、耳にしなかった内容ばかりで興味深かった。どのように、現場にとりいれられるかは分からないが参考にしたい。」

アクティブ・ラーニング TBL 受講者数 10 名

「TBL の本質が良く理解できたし、取り入れようと思いました。大変良い勉強になりました。ありがとうございました。」

「アクティブに学習ができ、内容がよくわかりました。先生はお話も授業のすすめ方もとてもおもしろくて、教えるプロとして私たちは見習っていかなくてはいけないと思います。」

アクティブ・ラーニング クリッカー&プラカード体験 受講者数 9 名

「とても勉強になりました。クリッカーが何ものかも知りませんでしたが、これからはプラカード含め、機会があるならば積極的に使っていきたいと思いました。」

「クリッカーの活用については初めてだったので、大変参考になりました。人数が少人数であったこともあり、受講者全員のプレゼンを聞くことができて良かったです。小・中・高の先生の考え方も知ることができ、有意義な講習でした。ありがとうございました。」

世界の教育事情 受講者数 36 名

「普段働いている現場が当たり前と本能的に認識されている中で、全く新しい教育のシステムをご紹介いただき良い刺激になりました。やはり正解・不正解というものではなく、その国々の方々が何を大切にしたいと考えられてきたかというものが色濃く世界の人々の教育に反映されているものだと感じました。」

「グローバル化の現代において世界の様子がわかり、日本の教育の立ち位置を知ることができました。課題も発見できたので、また個人的にも研究してみたいと思います。ありがとうございました。」

3 講習担当講師の立場から

教員免許状更新講習（選択講習）を担当して

三重大大学教育学部音楽教育講座 小畑 真梨子

今年度、選択講習「生きたリズムのしくみ」を担当した。この講習では、学校現場で音楽を扱う（指導する）立場の方を対象に、指導内容の更なる充実を期待し行ったものである。14 名の方に受講していただいた。

講習の内容は、「音楽における拍とは何か。」ということに焦点をあて、音と音が連結されることによって形成される旋律との関係性について考え、また生み出される“拍”の感じ方は自由で良いのか等、実践や討論を経ていく過程で、「最終的な音楽表現に大きなさが生じる。」ことについて、受講者それぞれが新しい発見をすることを目指した。講習内容の構成は以下の通りである。

(1) 拍、旋律、リズムなどの指導を指導する際に受講生が大切にしていること、疑問に感じていること、指導の難しさなどを発表していただき、それぞれの捉え方について、どの程度共感ができることがあるかを細かく話し合った。そのあと、こちらから課題曲を提示し、その音楽表現のために必要な指導はどのような指示が考えられるか、実際、演奏する際の理想形はどのような演奏であるかなどを、受講生それぞれに実践して頂き発表をしあった。

(2) 拍の捉え方を視覚化するひとつの方法として、舞曲を学ぶ方法があることを提示し、また舞曲の歴史、および扱い方などを取り上げ学ぶ時間を設けた。

(3) 実際に舞曲として使用されていた舞踏ステップなどを学び、実際に踏んでみることで、また舞踏上のマナーなどを学ぶことにより、拍から拍へ進むその各瞬間に微妙な空気間や間合いが必要であることを体験してもらった。

(4) (1)～(3)を経て、改めて演奏をしてもらい、その変化をお互いに鑑賞しあい、意見をしたり驚きを伝えあったりしながら、自身の音楽における表現方法のひとつとしての理解をねらい、それぞれ新たな発見ができたことを話しあった。

受講された方は、校種・年齢も様々で、受講者同士で意見しあったり、よりよい表現の可能性を求めて切磋琢磨している様子が見られ、音楽を心から楽しんでいる姿が印象的であった。さらに受講生からは、「いままで自分は譜面からすべてが読み取れると思い込んでいたので、今日の講習の時間だけで自分の演奏の変化に驚いた」、「拍の感じ方はみんな同じだと思っていたのにこんなに違うということを知ったことで子どもたちの指導に役立てそう」、「つねに新鮮さを感じていれば音楽が生き生きすることが分かった」など音楽の本質とも捉えられる感想がいただけたことが大きな励みとなった。一方で、音源の準備や配布物などのまとめ方に改善や工夫が必要な面もあり、今後に生かしていきたいと思っている。

教員免許状更新講習（選択講習）を担当して

三重大大学教育学部保健体育講座 加納 岳拓

今年度、選択講習「子どもが夢中になる小学校体育授業」を担当した。この講習では、子どもの体力低下や運動の二極化などの課題が散在している中で、体育の内容を「学び」の視点から問い直し、子どもが夢中になって参加できる体育授業について考える。また、学習の基盤としての体育の在り方について考えることを目的としている。既に2学期が始まっている10月であったが、主な対象者であった幼稚園・小学校教員だけではなく、中学校・高校教員の方を含む29名に受講をしていただいた。講習は運動をする際の関係性に着目し、以下の4つの内容（全て実技含む）で構成している。

- （１）人との関係づくり（体づくり運動・鬼遊び・表現運動系）
- （２）集団との関係づくり（体づくり運動・鬼遊び・ボール運動系）
- （３）モノとの関係づくり（体づくり運動・ボール運動系）
- （４）身体との関係づくり（器械運動系）

（１）では、非言語による１対１の関係づくりに焦点をあて、相手の身体から発せられる情報を基に息や力、タイミングを合わせる協調（体づくり運動・表現運動系）と相手との距離感・間をはかる競争（鬼遊び）を取り上げ、身体による触れる・委ねる・察するといった行為が心や体・関係をほぐし、関係がつくられる基盤となることを学ぶことを目指した。（２）では、三者以上の関係性を持つ運動（協調・競争）について取り上げ、同時に二者以上に注意を向ける、状況に応じて注意の対象を切り替える、または集団の中で特に注意を向けるべき場所（人・空間等）を特定するといったことについて身体で学ぶことをねらいとした。（３）では、スクーターボードやＧボールといった不安定なモノの上に乗る、モノを操作することを通して、モノの特性を感じ取り状況に対応して運動をすることの大切さや、投げる・捕るといった単純な運動でも扱う道具や条件（距離・時間的な制約）を変えることで、結果として立ち現れる動きが変わることから、単一的な動き自体を外から教えるのではなく、条件によって多様な動きを引き出す指導の重要性を学ぶことを目指した。（４）では、マット運動を事例に取り上げ、学校体育で行われている指導が人の身体や運動の構造からみると不自然であることが多いために、自重や外力（重力・慣性力等）に任せたり、利用したりすることで自然な動きとなっていくことの理解をねらった。

受講された先生方は、校種・年齢も様々で１日全て実技という中でも、常に積極的に運動に参加し体感し、受講者同士でかかわっている姿が印象的である。感想では、「体育ギライの子どもたちにも同様の経験をさせてあげたい」「体育の授業の面白さ、大切さを改めて感じる事ができた」「実技となぜそれが大事なのかという理論、まさに『体でわかる』事ができた」といった実技による講習を肯定的に受け止めていただいたり、「あたり前と思っていた指導が間違っていた」「現在受け持っている児童の中にも距離勘がわかりづらく遊びの中で知らせていくという必要がある話が出ていた」と指導観の問い直しや普段接している子どもたちを浮かべながら講習に参加されたことがうかがえる感想が見られたりしたことは大変嬉しいことであった。一方で、「本日教えていただいたことの詳細などをいただけるとよい」といった授業を展開方法に向けての講習内容や資料の配布等は課題として残ったため、来年度受講者が増える中で、充実した講習となるよう改善をしていきたい。

4 受講生の立場から

更新講習を受講して

三重大学教育学部附属幼稚園 富田 美穂

6月から8月にかけて、三重大学にて更新講習を受講させていただいた。長らく現場を離れ、今年度からまた教職に携わることとなった為、多様な講習の中から改めて学びたいものや、実践に生かせるものを選び、以下を受講した。

・必修 [教育の最新事情8]

この講習では学校教育制度の歴史やインクルーシブ教育について学び、誰もが排除されない教育、環境について考えた。インクルーシブ教育の背景や共生社会の形成に向けた体制づくりなど、特別支援の事例を踏まえ、日々の教育の中での認識のあり方を考えるきっかけになった。

・選択必修 [不登校の理解と対応]

講座内容は1, カウンセリングの技法 2, 子どもの問題への対応 3, チーム・保護者との連携であった。事例をもとにグループで話し合ったりDVD視聴をし、困っている子どもが「何を求めているのか」を具体的にしていくためのプロセスを学んだ。相談者が「理解してもらった」と感じられるようにサポートしていくためのワークもあり、当事者が直面している問題に対する教師側の姿勢が大切だと再認識した。

・選択 [造形表現法の探究(対話としての表現・重ね刷り版画制作)]

この講座を受講しようと考えたのは、現場での実践に生かせると考えたこと、また、私自身が美術を得意でない為、この機会にぜひ学びたいと考えたからである。一緒に学んだ先生方は美術を専門とされている方も多く、実技の重ね刷り版画の際には多様なアイデアに驚くばかりであった。デザインや技法、子どもたちが取り組む際の支援や準備などを想定しながら進めることができ、貴重な経験になった。

・選択 [乳幼児期の社会性の発達とその支援]

近年の乳幼児を取り巻く問題について考え、長期的な目で子どもを見ていくことの大切さを改めて学んだ。また、同じような立場の先生方が多く、とても有意義な情報や意見交換ができた。事例のビデオやグループディスカッションを通じて、子どもの「個」と「集団としての育ち」について改めて深く考える機会をいただいたように思う。

・選択 [身近な植物観察と学校におけるその実践方法]

日頃からなじみのある植物の生態について、構内の植物を観察、採取しながら学んだ。わからない種名も子どもたちと一緒に調べ、日常の中で子どもたちが「楽しい」と思うような観察方法についても教えていただいた。また、標本作りにも取り組み、観察を形に残す方法も学んだ。身近な植物が日常の生活の中でどのように活用されているのかも知ることができ、とても有意義な時間であった。

更新講習を振り返り、改めて学んだことや初めて関心を寄せたもの、現場の先生方との情報交換など、とても貴重な経験をさせていただいた。この経験を活用し、今後の教育活用に生かしていきたいと思う。

教員免許状更新講習を受講して

三重大大学教育学部附属小学校 成宗 由浩

私は、以下の更新講習を受講させていただいた。その中で学んだことや考えたこと、今後生かしていきたいことを報告したい。

○【必修】教育の最新事情2

特別支援教育の在り方や、ノーマライゼーションの考え方などを時代に沿って4つに分類して教えていただいた。本当の「共生」というものを考えていかなければならないと思った。自分のクラスの子どもたちに置き換えて実践していき、自分の考え方や概念をつくりなおしていきたい。

○【選択必修】学習指導要領はどう変わっていくのか

次期学習指導要領の改訂について今までの変遷に沿って教えていただいた。本校では、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン」というテーマで研究を行っており、それに直結する内容だったので、更新講習を受けて自分の実践について振り返ることができた。

○【選択】バレーボールの指導法について

午前講義、午後実技の講習であった。午前の講義では、レセプションやティグなど技術用語が変化していることや、バレーボールなどの専門的な知識を教えていただいた。去年度、バレーボールの実践を行ったが、講義を受けさせていただいて、改めて運動世界の行きつく先をイメージして授業をすることの大切さをふり返ることができた。午後の実技では、普段体験しない「運動をする側」をさせていただき、課題に対しての思いや運動の魅力について感じることもできた。

○【選択】「学びの共同体」の理念に基づいた小学校体育の授業デザイン

講義を交えながらの実技だったので、体で感じてから頭で考えることができた。主体的・対話的で深い学びを実現するためには、体育は非言語活動であり、体育でしか学べないことを自分自身をもって授業をデザインしなければならない。また、＜触れる＞＜委ねる＞＜察する＞＜受け容れる＞という身体性の2者間の関係を教えていただき、体育授業だけでなく、普段の学校生活でも大切にしていかなければならないことを考えさせてくれる機会になった。「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業デザインを行うときに、会話を豊富にするという陥りやすい対話の捉え方や、学習論の変遷から今の「学び」をどう捉えるかなどを教えていただいた。本校での研究に直結する内容だったので、日々の自分を振り返ることができた。

○【選択】子どもが夢中になる小学校体育授業

授業をデザインするために必要な運動の本質や学習課題などを実技で教えていただいた。加納先生の授業は「子どもが夢中になる」というテーマそのもので、受講者の私たちが運動に夢中になって楽しく受けさせていただいた。こんな授業を学級の子どもたちにしたいと思った。それは、運動をできるできない、上手下手でみるのではなく、運動のおもしろさにふれることを大切にしていること。また、その運動のおもしろさの中で夢中になって、動きの質も上がっていったらいい、もっとやりたいまたやりたいと思わせること。遊ぶということの価値と学ぶという事の意味をもつこと。などを教えていただいた。授業をデザインすることは、自分の授業観や学習観の表れであり、実践を繰り返す中で構築されていくので、授業実践に取り組み、成長していきたいと思った。

教員免許更新講習を受講して

三重大大学教育学部附属中学校 石井 里枝

平成29年7月から免許更新講習を受講させていただいた。多くの講習が開設されており、また、内容についても興味深く、学ばせていただきたい内容ばかりであった。受講科目については、現在担当しているクラスでの学級経営や英語指導で今回の講習で学んだことを活かしていきたいと思い、以下の講習を選択した。

- ・必修講習 教育の最新事情6
- ・選択必修講習 必要に応じて英語の授業を英語で行う技法
- ・選択講習 はじめてのゲーミング
- ・選択講習 英語学習者の情意的要因を考える
- ・選択講習 音声の「見える化」を取り入れた英語学習

英語教育に関する講習を多く受講したので、そのなかで特に印象に残った内容と感想を以下に報告する。

＜選択必修講習 必要に応じて英語の授業を英語で行う技法＞

講習はすべて英語で行われ、英語の授業を英語で行うことの必要性、その効果、そして具体的な手法についてペアワークやグループワークを通して学んだ。校種別でのグループ討議も行い、英語を授業のどの部分で使うことが可能であり、効果的であるのかについて話し合うことができた。私自身、できる限り英語を用いて指導し、生徒が英語を使用する機会を多く設定するように意識してきたが、今回の講習で、新たな英語を用いた手法を知ることができた。クラスルームイングリッシュでは、教師の指示、生徒の発言、またディベート等の種類別の指導法が提示され、授業で活用できるものであると感じた。様々な手法を用いながら、英語を通して英語を指導することにより、生徒のスピーキングやリスニング力を向上させていけるように努めたい。

＜選択講習 英語学習者の情意的要因を考える＞

小中高における外国語教育の現状を検討して、中学校、高等学校卒業段階で期待されている英語力が身についていないということを再確認し、それを解決していくための外国語教育における動機付けについて学んだ。また、第二言語習得ということについてグループワークを通して話し合う機会を多く持つことができた。そのなかで、日本人が英語を使用する際に生じる外国語不安や日本人の話すことへの懐疑的な態度がスピーキング力に影響しているということについて、生徒側の立場から考えることができた。生徒の外国語学習に対する総合的な価値観を高めるために、教師が異文化について学ぶことを通して、生徒にその異文化体験を紹介したり、文化間の相違点や類似点などを説明したりしていきたい。講習の内容は私にとってとても興味深く、日本の文化と欧米の文化の特徴が日本の英語教育に大きく影響していることを知ることができた。今後は日本と欧米の文化の違いを考えながら、生徒の動機付けを高める教育実践を行いたい。

教員免許状更新講習を受講して

三重県立桑名西高等学校 水谷 南

教職員を勤めさせていただいて12年目となる年に三重大学での免許状更新講習を受講させていただいた。三重大学での受講のきっかけになったのは、総合大学での長年の研究と現場での実践を踏まえた、より実践できるエッセンスを学習したかったからだ。

「必修」教育の最新事情では保育・幼児教育の大転換について学習した。そこで印象的であるのが、以前と現在の家庭教育の変化である。現在の家庭における子育て機能は低下している。以前は三世帯世帯で生活される方も多くおり、子育てに関わる人も多く、特に子育ての悩みにおける相談者も身近に存在するという状況の元、親も子育てに対してさほどストレスなく生活することができていた。しかし近年は核家族での世帯が増え、育児者も仕事を持ち、また相談する人も身近にいないという状況でストレスフルになり、その状況の元で育児を行い、それが子供に対して様々な影響が出てきているという事実は衝撃的なものだった。私も現場で指導するにあたって、目線が合わない子供、笑わない子供、感情が耕されていない子供、自我が育っていない子供、などたくさんの個性を持った子供達に会うわけであるが、この個性となる要因に家庭環境は必ず関係すると強く感じた。また、小学校での学習状況についてもアンケートを参考に学習の意欲が高い学校とそうでない学校での生徒の習慣についてのデータは参考になった。学習の意欲の高い学校では毎日の学習時間について30分以上の学習習慣がついており、授業では自分たちの考えを発表する機会が多く設けてあり、小テストやドリルを用いて学習を進めていることが顕著になっていた。小手先の短期的学習では成果にはつながらず、長期的計画に基づいて習慣教育することの大切さを改めて感じる事ができた。更に「チームとしての学校」という題材で、いかに学校全体で成果を挙げていくのかというテーマも興味深いものがあつた。以前からの閉鎖された自己完結型の学校ではなく、より多種多様な生徒やニーズに対応していくため、専門機関との連携を行うことにより、教員は生徒指導と教育指導に専念できる環境をいかに作っていくのかということだ。教育指導においてもいかに上手く生徒の思考を引き出すことができるか。どのようにしたら自立する生徒の育成に効果的かを長期的に考えて実行していく仕組みは興味深いものであつた。

「選択必修」学校におけるキャリア教育と起業家教育では、近年学習を将来の夢の実現に向けてという方向で授業の計画が言われているが、講座ではより具体的にワーク形式で生徒達に思考できる仕組みが紹介されており、実際に生徒達に実践された報告も学習することができ、有益であつた。

「選択」解析学を楽しむ一級数、積分の広がりーでは数学Ⅲの知識をベースにした、より深みのある学習を進めることで、より高校数学を俯瞰して理解することができ、生徒達に指導に役立つことが講座を受講させていただき感じる事ができた。また同じ「選択」世界の教育事情では、日本以外の様々な教育方法を学習することができ、私が普段から実践してきた教育方法に加えて、更に広い枠組みで思考できる良き機会となった。

以上の価値ある学習を三重大学から学ぶことができ、有益であつた。現場で実践し、自分の未来に希望をもち、目標を実現できる生徒の育成を実現していきたいと考える。

教員免許更新講習を受講して

三重大学教育学部附属特別支援学校 吉川 記代

今年度6月から10月にかけて三重大学で開設された教員免許更新講習を受講した。三重大学での受講を決めた理由としては、講座数も多く、内容也多岐にわたっており、今の自分にとって必要と思える講座を選択することができるからであった。今年度より附属特別支援学校に勤務することになり、初めて特別支援教育に携わることになった私にとって、今回の教員免許更新講習では、受講講座は自分の専門性を高めるだけでなく、教員としての幅を広げるためにとても有意義なものであり、再度学ぶことの大切さを痛感することができた。

以下に受講講座の内容や感想を簡潔に記述する。

◇【必修】教育の最新事情1

この講座は3人の講師によるもので、内容は①世界の学校から学ぶ我が国の教育と課題②教員としての子ども観・教育観③障がいの重い子どもたちの理解と支援、に分かれていた。どのテーマも、近年の教育課題として重要であるので、一つ一つもっと時間をかけて学びたかった。

◇【選択必修】三重県の特別支援教育の課題

三重県の病弱教育の現状やその受け皿など、教育現場だけでなく医療機関や行政機関の課題についても知ることが出来た。特別支援に携わる者として、教師として自分の専門性を高めていくこと、目の前の子どもたちを大切にしていくことを心がけていきたい。また、支援を必要とする子どもたちが十分な支援や教育を受けることが出来ていない現状を知り、自分も含め誰かが声を上げ続けていくことが大切であると感じた。

◇【選択】「体づくり運動」について

柔軟性・巧緻性・持久力など多様な動きをつくる運動や体力を高める運動を実習した。長時間実習するということで体力的には大変であったが、新聞紙・ジムボールを使った体操など、少しの工夫で身近にある物を体づくり運動に活用できることが分かった。単に運動するだけでなく、運動を楽しむ、気持ちよさを体験することの大切さも再確認することが出来た。

◇【選択】学校・学級・家族の思い出をまとめるフォトストーリーの制作

Windowsのムービーメーカーを使用し、学校・家族・趣味などの思い出を写真や絵などでフォトストーリーを作る講座であった。受講者はそれぞれ事前に用意した写真を取り込み、文字やイラストだけでなく音声も録音しながら、各々の思い出を作品に仕上げていった。最後にはお互いの作品を視聴し合い、感想を送り合うなどの交流もできた。欧米では、写真と語りで自分の事を伝えるデジタルストーリーテリングが盛んであると言われている。語ることで自分自身の振り返りもできるので、今後子どもたちに行事や年度の節目に活用していきたいと思った。

◇【選択】おいしく食べるとは？

食事における「おいしさ」に関わる要因を、調理実験等を通して考えるという内容であった。特別支援学校では、味覚の過敏性が顕著な生徒も多く、給食をしっかりと食べることができるかというのも大きな課題である。栄養素や味覚について学んで行く中で、食べることの生理的意義だけでなく、精神的意義についても考えることが出来る良い機会となった。

5 講習補助員の立場から

免許状更新講習事業報告書

教育学部 特別支援教育コース

向井 友香

教員免許状更新講習の補助員を行っての感想

私は初めて教員免許状更新の補助員として参加しました。私が行ったことは受付や資料の配布でした。教員免許状更新講習の補助員の業務内容などが細かく書かれた資料を事前に配布されており、当日の受付の場面でもその資料を何度か活用しました。特に自分の担当した教員免許状更新以外の講習の教室が掲載されている資料は本当にあってよかったです。「この授業はどの教室でやっているのか。」と尋ねられた時に、この資料があったおかげで、落ち着いて対応ができたからです。この資料で前日に内容などを確認できたこともよかったです。しかし、イメージはできても、受付の実際の対応はイメージ通りにいかないことが多かったです。最初は落ち着いて対応できましたが、受付が始まって15分くらい経ち、受講者が列をつくって並びはじめると、「早くしなくては」という焦りを感じ、写真票をもらい忘れるという失敗をしてしまいました。一つ一つの行動を早く確実に言い、もっと落ち着いて対応すべきだったと反省しています。

また、受付の時に受験票が届いておらず、名簿にも名前のない受講者がいらっしゃって、どうすべきか私も戸惑ってしまいました。受講者の方も何人か待たせてしまったので、もっと早く本部に連絡して確認すべきだったと思います。どんな場面でも柔軟な対応ができるような場面を想定しておくべきだったように感じます。何かを尋ねられたりする場面では、敬語やマナーが失礼に当たって、相手に不快な思いを与えたのではないかと対応を終えた後に不安になりました。口頭のみで簡単に説明してしまうこともあり、自分が受講者の立場ならどんな対応をしてくれたら嬉しいのかという気持ちを大切にしていって、受講者の立場に立った対応をもう少し考えるべきだったことも反省点の一つです。

参加してよかったことは、2つあります。1つ目は、実際の教員免許状更新の様子を見させていただいて、教員免許状更新の雰囲気をつかめたことです。もう一つは、先生方が熱心にお話を聞く姿に、刺激をもらえたことです。私自身、大学の授業でも子どもと関わる場面があります。講習で真摯に子どもと向き合う先生方の様子を見て、ただ子どもと関わるのではなく、本当に子どものことを考えた向き合い方を私も考えて、これから大学の授業においてもいかしていきたいと思います。

受講者の反応を見て感じたこと

講義内容は、座学だけでなく、映像を見たり、グループワークの活動があり、集中力が途切れることなく、最後まで真剣に講義を受けている受講者が多かったように感じます。グループワークでは、初対面であっても、すぐに打ち解け、グループワークを積極的に行っていました。先生方が教師生活の中で困ったことなどを交えながら、お話をされているのが印象的でした。先生方の年齢や校種が様々であり、それぞれの学校が違う先生方が集まる場だからこそ、気軽に教育での悩みを話すことができたように感じます。このような場が必要であり、教員免許状更新の講習では、先生方が気軽に相談できる場としても大切なように思いました。また、話し合いの中で、先生方一人一人が子どもたちにとって居心地の良いより良い教室をつくろうという熱意が伝わってきました。私もこのような姿勢を大切に子どもたちとこれから向き合っていきたいです。

教員免許状更新講習 事業報告書

教育研究科 教職実践高度化専攻教育実践力開発コース

西田 郁美

教員免許状更新講習の補助員として参加させていただきました。私も将来には教師として働くので、実際に現場で働いている教員の方が、教員免許状更新講習を受けているのを見て、自分も将来このように教員免許状更新講習を受けるのだなと知ることができ、良い機会となりました。

教員免許状更新講習の補助員として参加しての感想

私は選択必修の講習に補助員として参加しました。講習の間に、私が大学で学んでいる授業のことや、研究している学修テーマについてすこしお話をしました。受講者の教員の皆さんは、真剣に聞いてくださっていたので、ありがたいなと思いました。

講習が始まる前に、受講証と写真証の確認は、一度に多くの方が受付をすると、手間取って大変でした。私のほかにもう一人補助員がいたので、その子と役割分担しながら、業務を行いました。役割分担し、協力することは大切だなと改めて感じました。

この講習では、受講者全員が 3S カードを用いて、「今行きたい、もしくは気になっている博物館・美術館」を紹介し合う活動がありました。私もその活動に参加させていただきました。3S カードは相手に伝わりやすいように、大きな文字で端的に書き、イラストなどを入れて書きました。まず自分の 3S カードを個人で作成する時間のあとに、5～6 人のグループに分かれて、3S カードでの意見交流を行いました。私は、「三鷹の森 ジブリ美術館」を取り上げました。私の参加したグループには、私を含めて 4 人も「三鷹の森 ジブリ美術館」を取り上げていました。同じ美術館を取り上げていても、話す内容は全く異なっていて楽しく意見交流をすることができました。教員の方は、経験も豊富な方が多く、色々な話を聞くことができました。また教員の方々は話をするのが上手なので、楽しく聞かせていただきましたし、私もこんな風に話せるようになろうと思いました。

受講者の反応を見て感じたこと

受講者の方は、校種、年齢がさまざまでした。そのため、休み時間などに話しかけていただいたときに、色々なお話を聞くことができました。受講者同士でお話されているときも、他校種、他年齢同士の交流を新鮮に感じ、楽しんでいるようでした。席が隣になった縁で意気投合し、講習が終わった後の休み時間にも、一緒に談笑している姿も見られました。

3S カードを用いた交流があると、その人の好きなことやものなどが垣間見えるので、会話が弾むきっかけになるなと思いました。教育現場で、子ども同士の交流にも十分に應用できるように感じました。また 3S カードは、端的に話す内容が書かれているので、話すのが苦手な人は書いたことをもとに話せばよいので、話すのが苦手な人への配慮にもなっているように思います。カードにイラストを描けば、その人の個性も出すことができるので、いいなと思いました。

最後のアンケートや感想を書くときにも紙いっぱいを書いている方が多く、真剣に講習を受講されていたのだと感じました。教育現場でも生かしたいと話をしている方も見えたので、教育に対する熱意を感じました。私も教育に対して、より一層真剣に向き合おうと思いました。

はじめての免許状更新講習

教育学部 4 年 宇佐美 隆汰

1. 反省

今回、補助員を担当させて頂き、主には講習における雑務全般を担当しました。教員免許状更新講習について、補助員をさせて頂く前は、「めんどくさそう」という考えしかありませんでしたが、実際に参加してみて、「とても勉強になる」という考えに変わりました。自分が実際に教員になった際には、更新講習を受けさせて頂いているという意識を持ってしっかり更新講習を受けていこうと思いました。私は、仕事として何をしたということはほとんどないので、運営上での反省は特にありません。ただ、積極的に質問をしてくださった教員の方に対して、あまり良い返答ができず、自分の不勉強を痛感したので、残り少ない大学生活の中で、少しでも専門分野に係る学びを深めたいと考えました。

2. 学んだこと

講習は、普段教える立場にある受講生の方が、講義の受けてとなって学ぶという貴重な機会であることに気づきました。更新講習を受ける中で、面白い工夫された講習に出会えば、教育実践の肥やしにして、自分の実践につなげることができると考えました。受講生の方は、校種が様々であり、理科が専門でない小学校教員の方もいらっしゃいましたが、積極的に質問をしたり、一生懸命に学んだりしてらっしゃる姿が印象的でした。子どもに主体的に、意欲的に、深く学びなさいというならば、教員がまずそうあるべきだ。そんなことを受講生の方の姿勢から教えて頂いた気がしました。

3. 講習の感想

積極的に学んでらっしゃる姿がとても印象的でした。先ほども書きましたが、子どもが主体的に学ぶには、まず教師自身が主体的に学ぶ意識をもつことを教えて頂いた気がします。

私が言えることではないのかもしれませんが、一部には、免許状更新講習をどのように捉えているのかとても疑問に思う人もいました。せっかくの時間なのに少しもったいないなと思いました。少しでも、有意義な時間を過ごしていくためにも、受講生の意識改革はもちろんですが、免許状更新講習を行う側も、講習の意味を理解し、その意義を周知していくことが必要なのではないかと思いました。今回の講習の内容の中には、実際に野外に出て地層を観察するというプログラムが含まれていました。地層の観察は、学習指導要領上、必修とはなっていますが、時間や土地柄の制約もあり、実施率が低く、教員の方で、地層を観察した経験をしたことがある人も少ないです。今回のように、教員にとってあまりしたことがない機会を提供していくということは、教員免許状更新講習の貴重な1つの役割なのではないかと考えました。

教員免許状更新講習補助員の立場から

教育学部 音楽教育コース 2年

加藤 みづほ

・ 補助員をしての運営上の感想

私が行ったことは、事前準備と当日の受付、担当の先生の補助、資料配布が主でした。今回初めて補助員に参加しましたが、事前に教員免許状更新講習補助員のための説明会があったので、自分の仕事を理解し、スムーズに行動できたと思います。また補助員のために、動きや役割など書いてある資料があるので、それを見て確認することができました。

当日 1 人受験票を忘れた方がいらっしゃって受験票の再発行の説明をしたことが印象に残っています。

・ 免許更新講習に対して気付いたこと

今までは、教師になるまでが学びの期間だと思っていましたが補助員の立場でこの講習に参加してみて教師になることがゴールではなく始まりなのだと気づきました。自分も教師になったら講習を受けたりし、学ぶことを続けていきたいと思いました。更新講習の受講へきた方は、現職の先生もいれば講師をしている方、休職をしている方など様々な人がいました。普段教員に立っていてもこのような機会があるのは良いことだと感じました。なかなかできない教わる立場になりいろいろと学ぶことができると思いました。また、講習に来る受講者は、お仕事の休みの日を使って受講しているのでその点に関しては大変だと思いました。

・ 受講者の反応を見て感じたこと

先生の授業を全て見させていただいたわけではありませんが、講義だけでなく、実際に道具を使って工夫されていました。免許更新講習は1日かけて行われるため受講者の集中力を持続させることは難しいと思いますが、途切れさせない工夫があったと思いました。また、受講者同士で声を掛け合い、楽しく参加している場面もありました。中には、ノートいっぱいメモをとっている方もいて、積極的な方が多く、学ぶという意識が高いと感じました。休み時間に受講に来ている先生とお話する機会がありました。普段知ることのできない教師の良さや大変なことなどを知ることができ貴重な時間となりました。

6 事務の立場から

学務部教務課長 室屋 守男

平成 29 年度三重大学教員免許状更新講習は、6 月 10 日（土）から 10 月 1 日（日）の間で 15 日程を開催し、計 139 講習（受講者数延べ 3,102 人）が無事終了いたしました。

今年度も台風等の悪天候による休講措置をとることなく予定通りに更新講習を開催することができました。受講者の皆様、担当講師の先生方、そして講習運営にご尽力いただいた教員免許状更新講習実施委員会の先生方、学務部の皆様、多くの関係者の皆様のお力添えがなければ、無事終了もかなわなかったのではないかと考えております。ここに厚く御礼申し上げます。

さて、更新講習は来年度で 10 年目となり、旧免許状所持者の場合は第 9・10 グループが受講対象となります。第 10 グループは制度設計上、他のグループよりも受講対象の幅が広がっており、県内での受講対象者は今年度と比べて 1,500 人以上増加する見込みです。本学では、受講対象者の増加に向けて定員数を今年度 4,159 人から 5,870 人の約 1.4 倍に、講習数を 139 講習から 185 講習の約 1.3 倍にする予定で対応を進めております。

また、来年度より新免許状所持者の受講が本格的に始まります。新免許状の大きな特徴は、免許状毎に有効期間満了日が定められているところです。旧免許状のように生年月日で修了確認期限が振り分けられるわけでないため、一人一人が責任を持って確認していただく必要があります。そのため、本学では新免許状所持者の有効期間満了日を把握するため来年度より申し込みの際にご提出いただく書類を変更いたしました。受講者の皆様にはお手数をお掛けしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

そして、新たな取り組みとして「東紀州サテライト」を活用した更新講習の開設を予定しています。本学では地域創生を目的として県内に 4 つの地域拠点サテライトを設置しており、その中の東紀州サテライト教育学舎において、更新講習の多くを担当する教育学部が教育支援を行っていることから、来年度は東紀州地域でも更新講習を開設することになりました。高等教育機関のない東紀州地域の教員の方々が少しでも更新講習を受講しやすくなるよう、講習日程や講習内容を工夫して準備を進めているところです。また、東紀州サテライトの更新講習は東紀州地域以外の方も受講することが可能ですので、興味のある方はぜひ受講していただければ幸いです。

最後に来年度は、第 1 クールの最終年度を迎え、受講者数が大幅に増えることや新免許状所持者への対応がある中で新たな試みとして東紀州サテライトでの更新講習がスタートする節目の年となります。一体何人の方が本学にお越しくくださるのか、定員数を増やしたがいざ蓋を開けてみたら申し込みが少なかった、東紀州サテライトの更新講習が無事に行えるのかという様々な不安はありますが、一人でも多くの受講者が本学の更新講習を受講してよかったと思っていただけるよう努力してまいりますので、今後ともご協力の程、重ねてお願い申し上げます。

おわりに ―お互い学び続ける講習に―

三重大学教育学部教員免許状更新講習委員会委員長 須曾野 仁志

2009 年から始まった三重大学教員免許状更新講習は、本年度で 9 年目の講習が無事終わりました。講習に関わりご協力いただいた皆様のおかげです。ありがとうございました。

私（須曾野）は 1 年に数多くの更新講習を担当し、毎年 400～500 人の受講者の方々と一緒に学ばせていただいています。この 9 年間、「三重大学で講習を受けて本当によかった。」「1 日大学生に戻れて嬉しかった。」「教室ですぐ使える 3 s カードや大福帳などが使えてよかった。」「学んだことをぜひ現場で生かしたい。」という皆様からの感想が、更新講習の仕事をする大きなエネルギーになりました。

学校現場での教員の多忙や超過勤務の問題は大きな社会問題であり、そんな中で教員免許の更新の年になり、体に鞭打って 5 日間の講習に参加している方々が多くなっています。また、三重県内では、地元の大学ではなく、e ラーニングや通信での更新講習に参加する率も高くなっていると聞きました。そんな中で、私たち講習を企画・運営・担当する側として大切なことは、学校現場で取り組むべきことや新しい課題を更新講習の内容として取り入れたり、学校現場や講習参加者の方々の立場から講習方法を改善することだと考えます。

授業や教育・保育活動を担当する教員が学習者の側になると、日頃の授業や仕事で参考になることが多いと思います。私自身も放送大学での学生を 14 年間これまで続けてきました。放送授業を受けたり、面接授業に出かけると、「一方通行の授業でおもしろくない」「試験は難しすぎる」と感じたり、講師の生き方やこだわりにつれ、学ぶことがたくさんあり、自分の授業や講習の改善に役立っています。

次年度は、第 10 グループの更新講習参加者の大幅増が予想され、三重大学では約 1.4 倍の受講講習者を受け入れられるよう準備を進めました。また、東紀州地域（熊野市、尾鷲市、御浜町）での講習も開講する予定です。遠隔教育や e ラーニングの専門家である私が言うのもおかしい話ですが、「更新講習は、ネットやパソコンで受けるより、講師と Face to Face で、受講参加者同士が交流できる講習がよい。」とコメントしてもらえよう、全学で講習の内容や方法をよりよいものにするよう努力を積み重ねたいと考えています。

「教える人が学ぶ人、学ぶ人が教える人」が情報化時代の学ぶ姿だと思います。私たち更新講習講師も受講者の方々と共に学び続ける姿勢を大事にしていきたいです。

平成29年度 三重大学教員免許状更新講習事業報告書
ー現職教員の資質向上をめざしてー

編 集 三重大学教員免許状更新講習実施委員会企画部会
富樫 健二、小畑 真梨子、加納 岳拓、栗田 季佳、栗原 行人、
佐藤 年明、須曾野 仁志、中西 康雅、宮地 信弘

表紙デザイン カゲムシャ

発 行 三重大学教員免許状更新講習実施委員会

発行日 平成30年3月

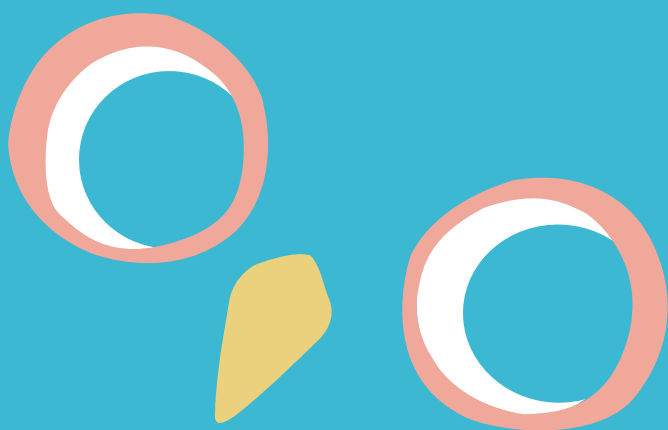
〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

三重大学学務部教務チーム教員免許状更新講習担当

E-mail : kyomu-m@ab.mie-u.ac.jp

URL : <http://www.mie-u.ac.jp/certificate/>



三重大学教員免許状
更新講習実施委員会

